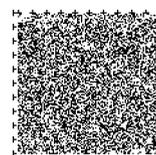
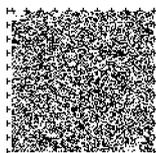


武蔵村山市第五次障害者計画・
第六期障害福祉計画・
第二期障害児福祉計画
策定のための市民意識調査報告書

令和2年3月

武蔵村山市





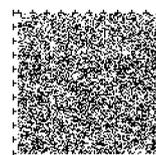
目 次

第1章 調査の概要

1 調査目的.....	3
2 調査の設計.....	3
3 回収結果.....	3
4 報告書の表記について.....	3

第2章 障害者（18歳以上）の調査結果

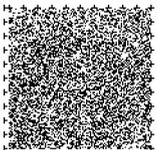
1 回答者の属性.....	7
2 生活について.....	17
3 健康・医療・リハビリテーションについて.....	31
4 介助の状況について.....	38
5 日中の過ごし方について.....	45
6 将来の過ごし方について.....	53
7 外出や活動などについて.....	61
8 コミュニティ（地域）について.....	70
9 防災対策について.....	78
10 障害者の権利擁護について.....	83
11 情報提供や普段の相談について.....	95
12 障害者施策全般について.....	106
13 自由回答.....	114



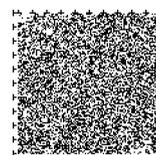
第3章 障害児（18歳未満）の調査結果

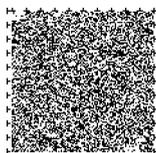
1	回答者の属性.....	121
2	生活について.....	125
3	健康・医療・リハビリテーションについて.....	134
4	介助の状況について.....	141
5	日中の過ごし方について.....	150
6	将来の過ごし方について.....	155
7	外出や活動などについて.....	160
8	防災対策について.....	164
9	障害者の権利擁護について.....	167
10	障害者施策全般について.....	173
11	自由回答.....	176

◆ 調査票



第1章 調査の概要





1 調査目的

本調査は、本市における障害のある方の暮らしをより良いものとするをめざし、「障害者計画」「障害福祉計画」「障害児福祉計画」を策定し、各種障害福祉施策を推進するための基礎資料として、市民意識等を把握することを目的に実施したものです。

2 調査の設計

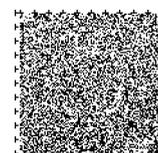
- (1) 調査地域 武蔵村山市の全域
- (2) 調査対象 市内在住の身体障害者手帳・愛の手帳（療育手帳）・精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者、難病（特定疾病）患者
- (3) 配布数 18歳以上：750人 18歳未満：250人
- (4) 調査時期 令和元年12月20日（金）から令和2年1月10日（金）まで
- (5) 調査方法 郵送による配付・回収

3 回収結果

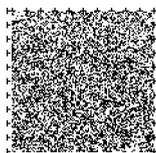
種類	配布数	有効回答数	有効回答率
18歳以上	750通	319件	42.5%
18歳未満	250通	90件	36.0%

4 報告書の表記について

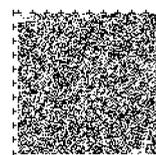
- (1) 調査結果の比率はすべて百分比（％）で表しており、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出しています。なお、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- (2) 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- (3) グラフ中の「n」(net)とは、その質問への回答者数を表します。クロス集計割合は、無回答を除いた回答人数(有効回答数)を分母として算出しているため、有効回答数(n)は異なることがあります。例えば性別の場合、性別を回答していない人がいるため、男性と女性の合計が「全体」になりません。年齢や他の設問間クロス集計においても同様です。
- (4) 質問の選択肢は意味を損なわない程度に省略した表現を用いていることがあります。
- (5) 標本数(n)が10未満の項目についてはコメントをしません。

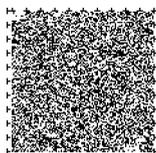


- (6) 18歳以上の障害者の年代別クロス集計において、年代を若年層の「10代～30代」、介護保険の第2号被保険者である「40代～64歳」、第1号被保険者である「65歳以上」に区分して、集計を行いました。
- (7) 音声コード（SPコード）の内容は文字数の制限もあり、実際の報告書と記載ページが異なることがあります。また、記述回答や自由回答は一部抜粋となっています。



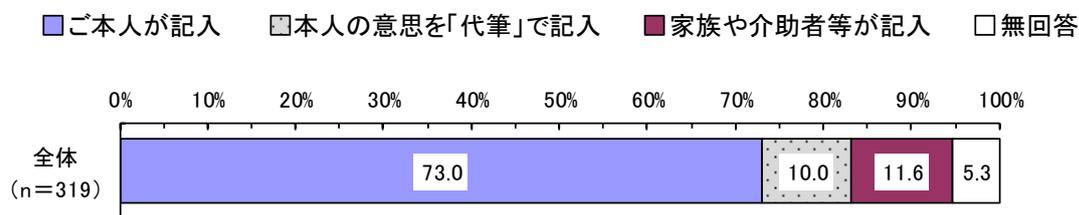
第2章 障害者（18歳以上）の調査結果





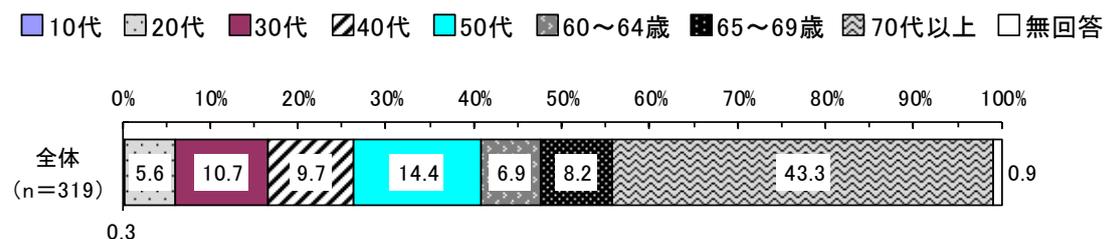
1 回答者の属性

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。(1つに○)

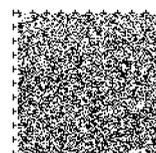


アンケートの回答者は、「ご本人が記入」が 73.0%と最も高く、次いで「家族や介助者等が記入」が 11.6%、「本人の意思を「代筆」で記入」が 10.0%で続いています。

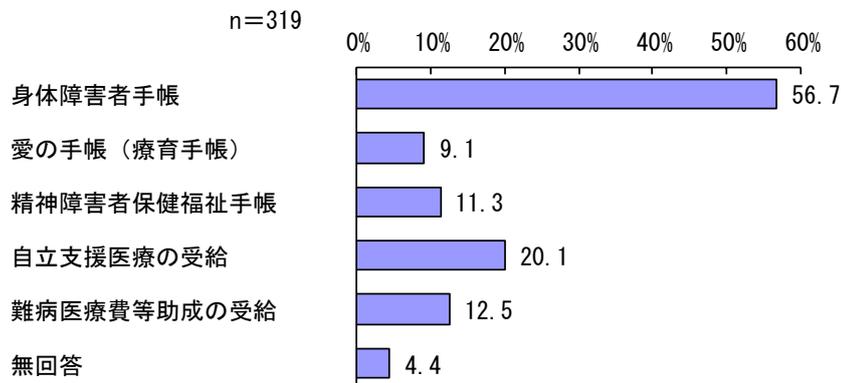
問2 あなたは、何歳ですか。(1つに○)【令和元年12月1日現在】



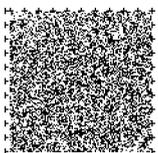
回答者の年代は、「70代以上」が 43.3%と最も高く、次いで「50代」が 14.4%、「30代」が 10.7%で続いています。それ以外の年代はいずれも 10%を切っており、「10代」は 0.3%と 1%を切っています。



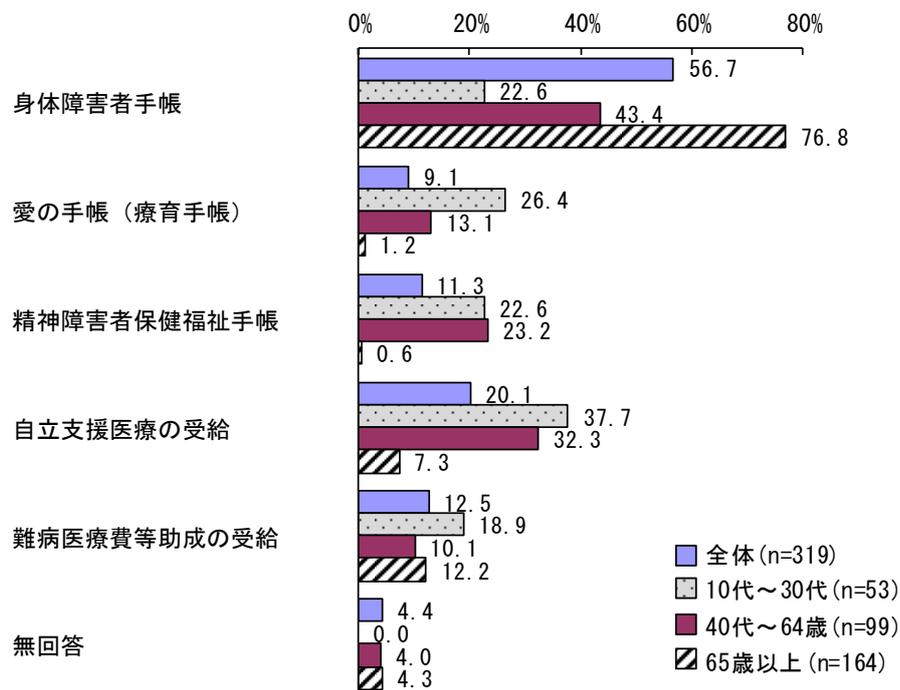
問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費等の助成を受けていたりしますか。
(あてはまるものすべてに○)



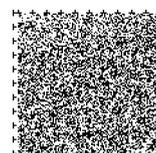
障害者手帳の所持状況や医療費等の助成状況は、「身体障害者手帳」が 56.7%、「愛の手帳 (療育手帳)」が 9.1%、「精神障害者保健福祉手帳」が 11.3%、「自立支援医療の受給」が 20.1%、「難病医療費等助成の受給」が 12.5%となっています。



【年代別】

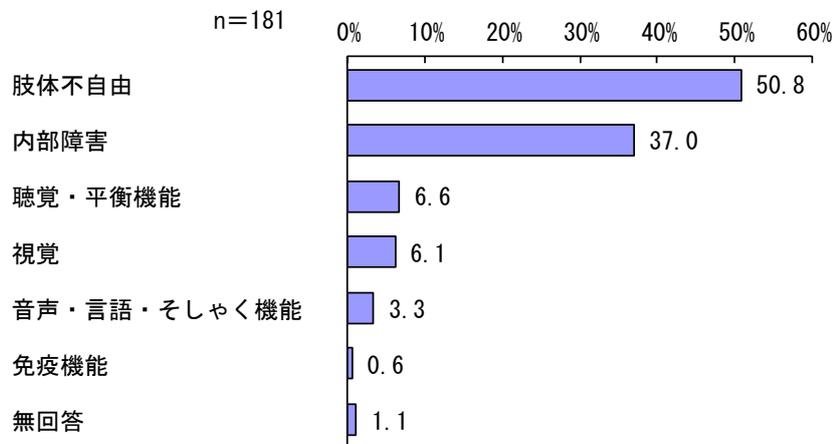


年代別に見ると、「身体障害者手帳」所持者数は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、特に65歳以上では76.8%となっています。反対に「愛の手帳（療育手帳）」所持者数は年代が下がるにつれて低くなる傾向にあります。また、10代から64歳まででは「精神障害者保健福祉手帳」所持者数が2割台、「自立支援医療の受給」数が3割台となっています。

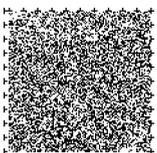


身体障害者手帳を所持している方にお伺いします。

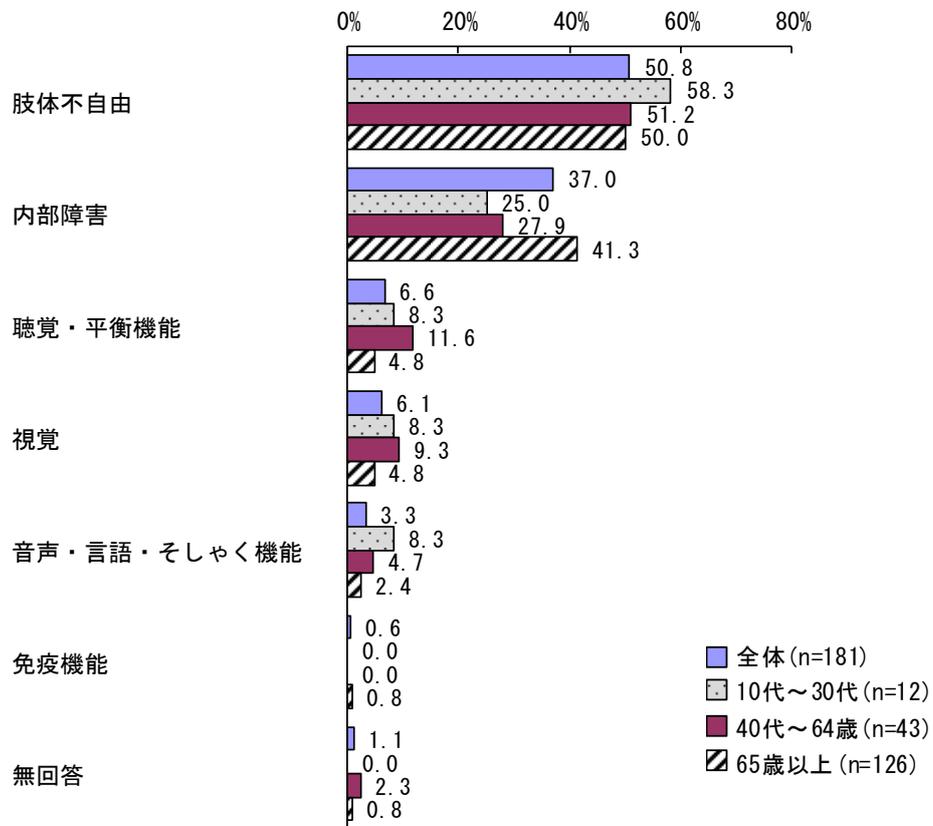
問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。(あてはまるものすべてに○)



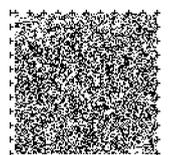
身体障害者手帳を取るきっかけとなった障害は、「肢体不自由」が 50.8%で最も高く、次いで「内部障害」が 37.0%となっています。それ以外の障害はいずれも 10%を切っています。



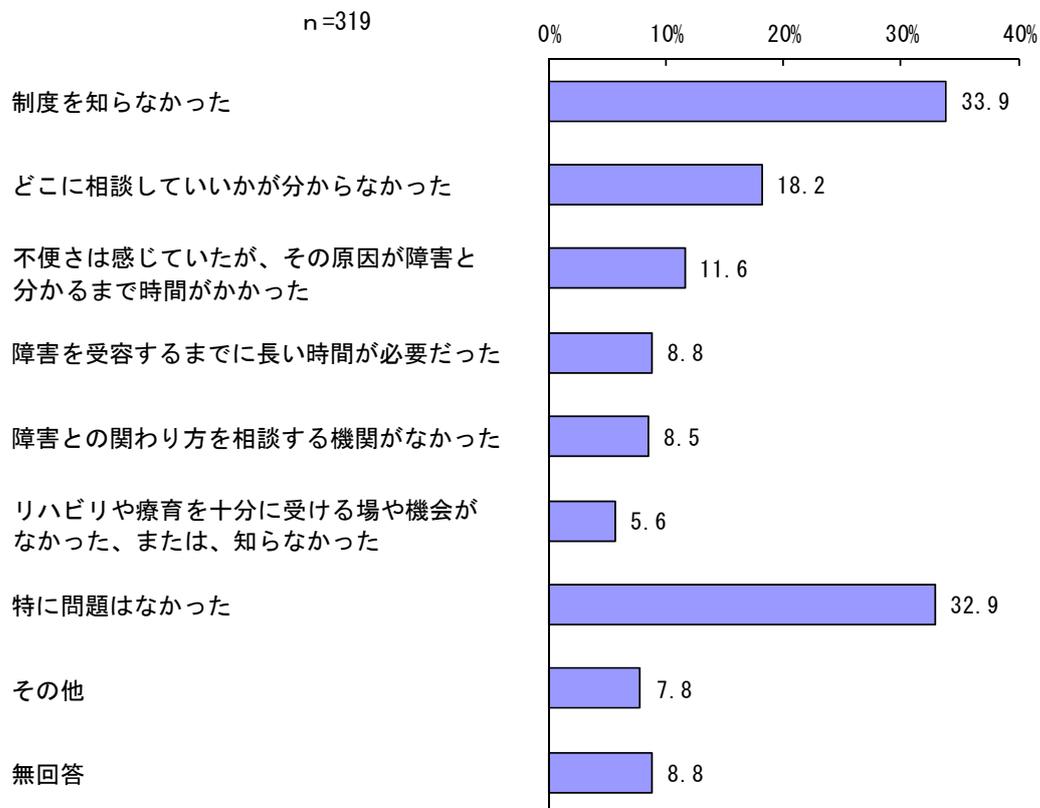
【年代別】



年代別に見ると、「肢体不自由」はいずれの年代も50%を超えています。「内部障害」は10代から64歳まででは20%台に対し、65歳以上では41.3%となっています。



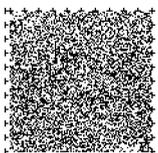
問5 障害者手帳や医療費等の助成を受けるまでにどのような問題がありましたか。(あてはまるものすべてに○)



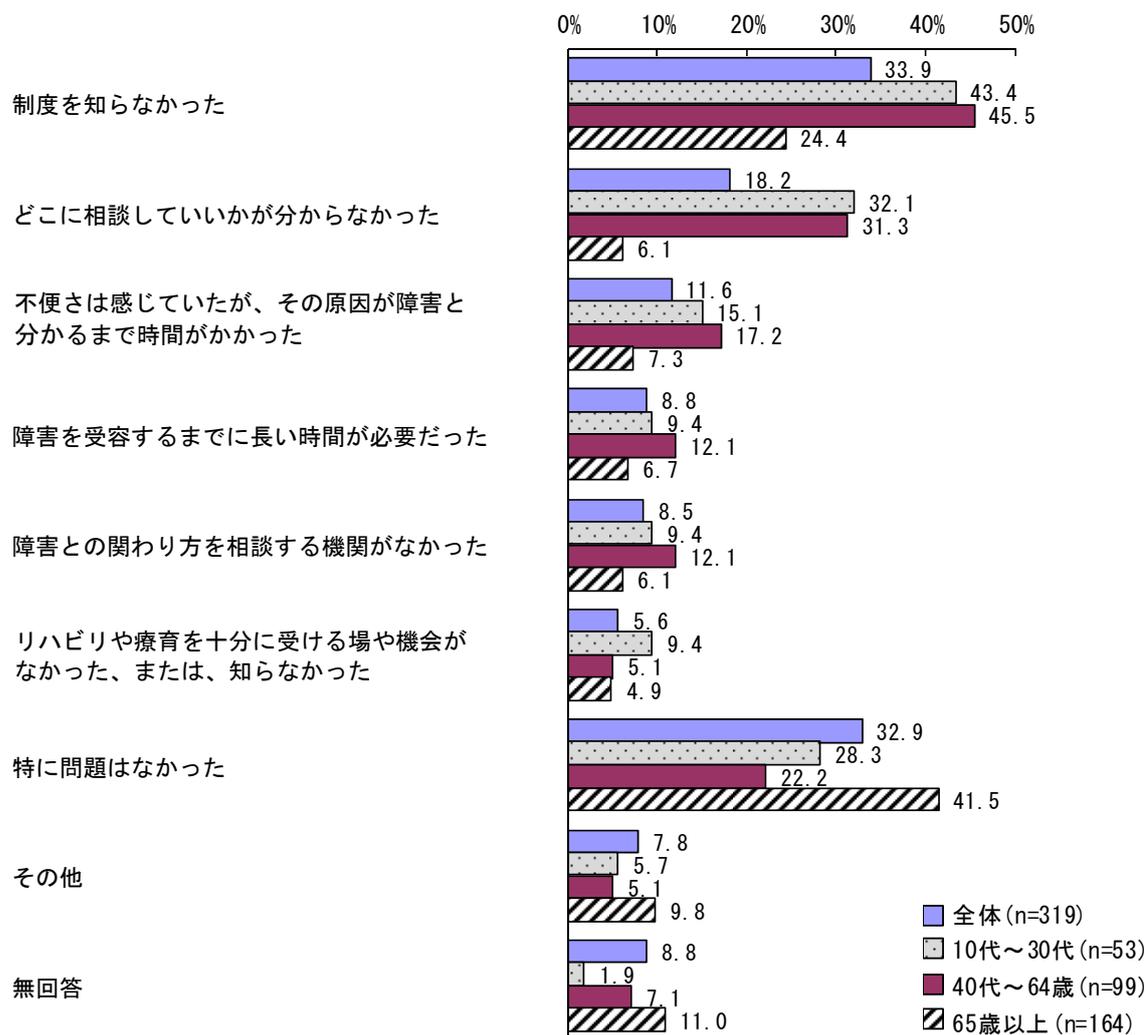
手帳取得や医療費等の助成を受けるまでの問題は、「制度を知らなかった」が 33.9%と3割を超えて最も高く、次いで「どこに相談していいかが分からなかった」が 18.2%、「不便さは感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった」が 11.6%と続いています。

一方、「特に問題はなかった」は 32.9%となっています。

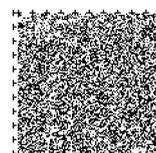
また、「その他」では、「ケースワーカーに教えてもらった」、「病院の先生より教えてもらった」、「市役所に相談したら福祉課のことをおしえてくれた」といった回答がありました。



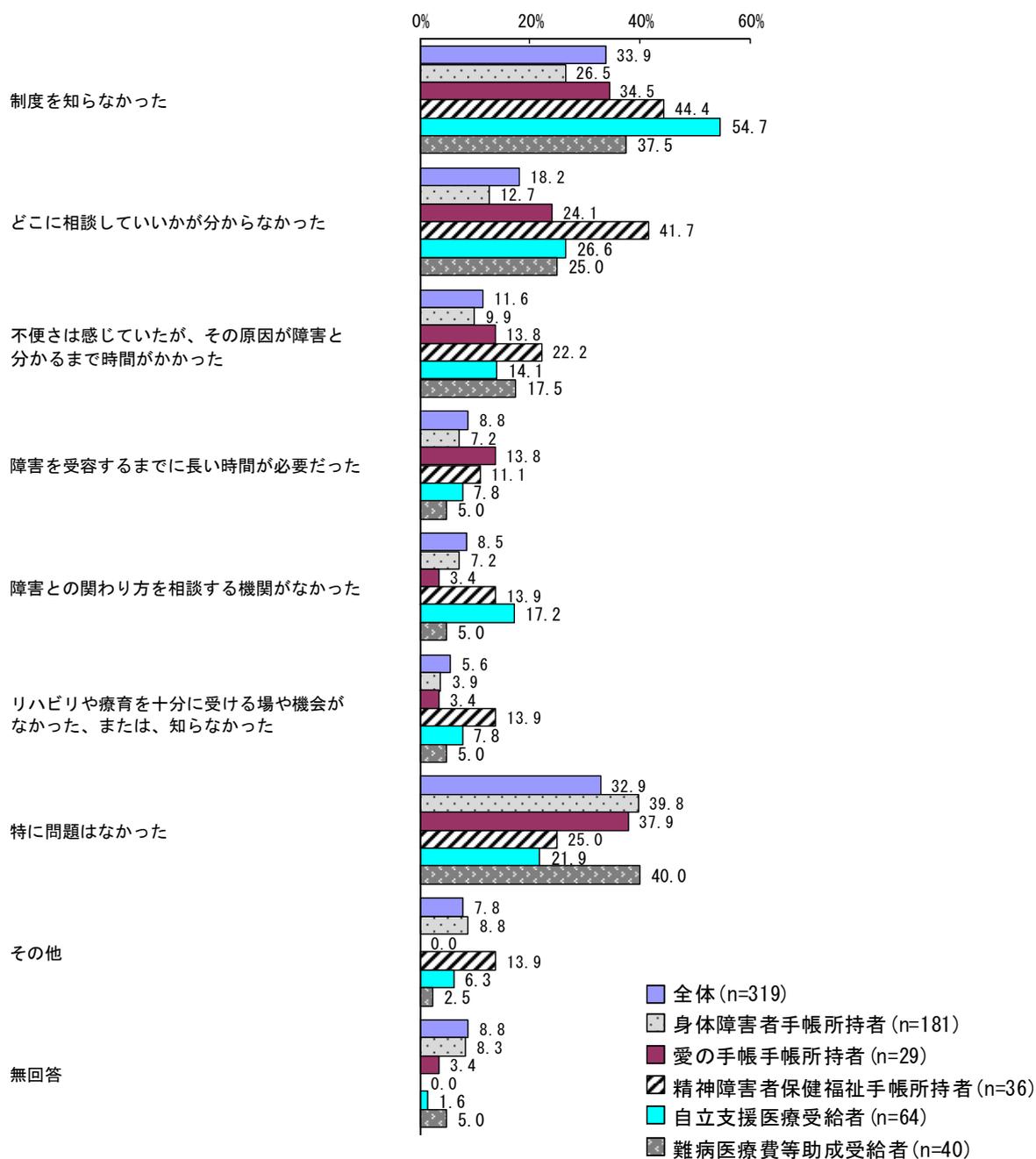
【年代別】



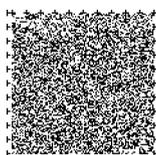
年代別に見ると、10代から64歳まででは、「制度を知らなかった」が40%台、「どこに相談していいかが分からなかった」が30%台と高くなっています。65歳以上では「特に問題はなかった」が41.5%となっています。



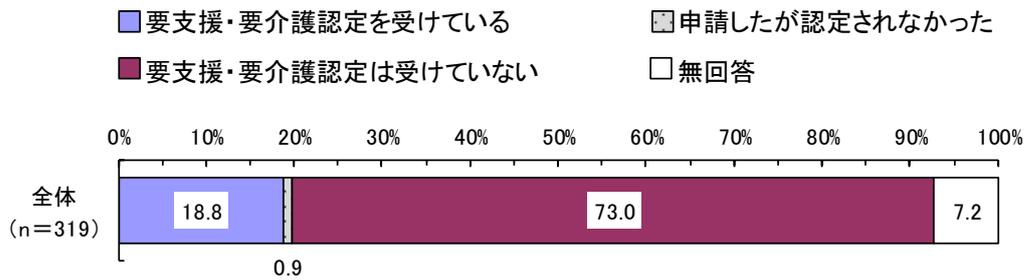
【障害別】



障害別に見ると、「制度を知らなかった」は自立支援医療受給者で 54.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で 44.4%と高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「どこに相談していいかが分からなかった」が 41.7%と他の障害よりも高くなっています。

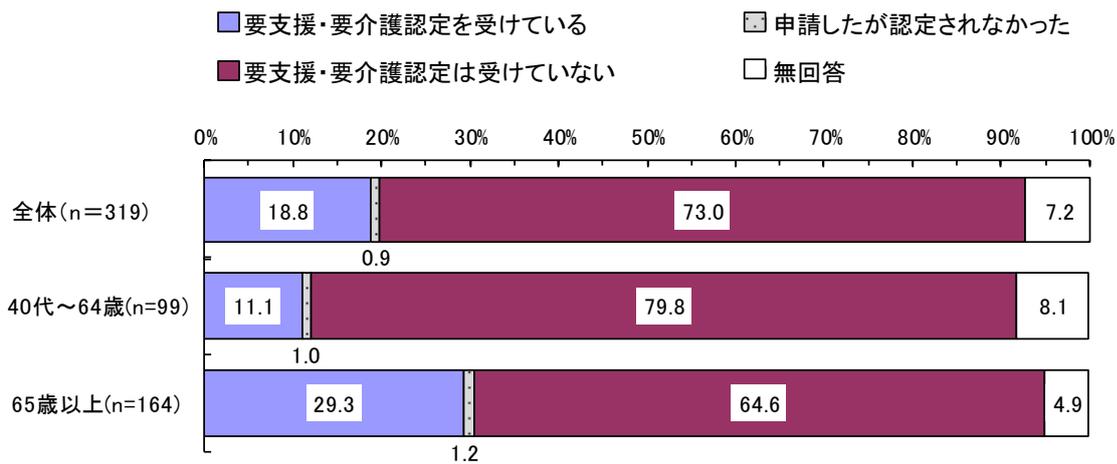


問6 あなたは、介護保険制度の要支援・要介護認定を受けていますか。(1つに○)

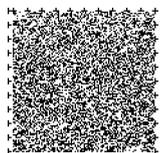


介護保険制度の要支援・要介護認定を受けているかについては、「要支援・要介護認定を受けている」が18.8%、「要支援・要介護認定は受けていない」が73.0%となっています。また、「申請したが認定されなかった」は0.9%となっています。

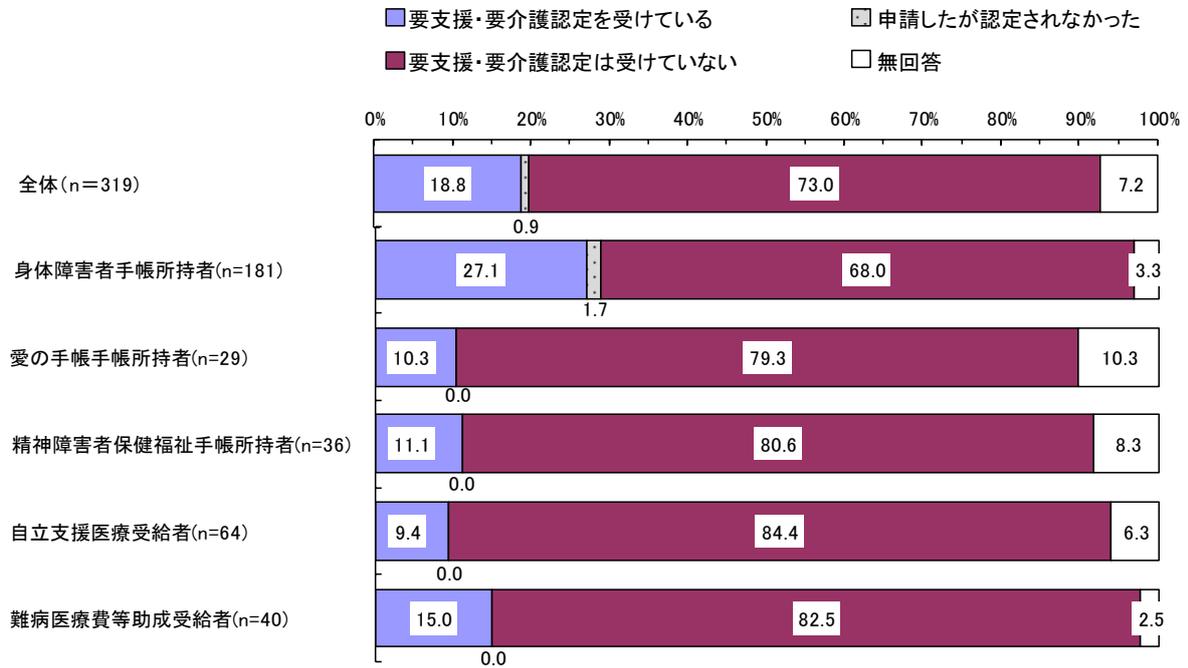
【年代別】



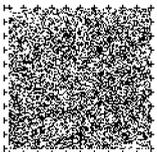
年代別に見ると、「要支援・要介護認定を受けている」は、40代から64歳までで11.1%、65歳以上で29.3%となっています。



【障害別】

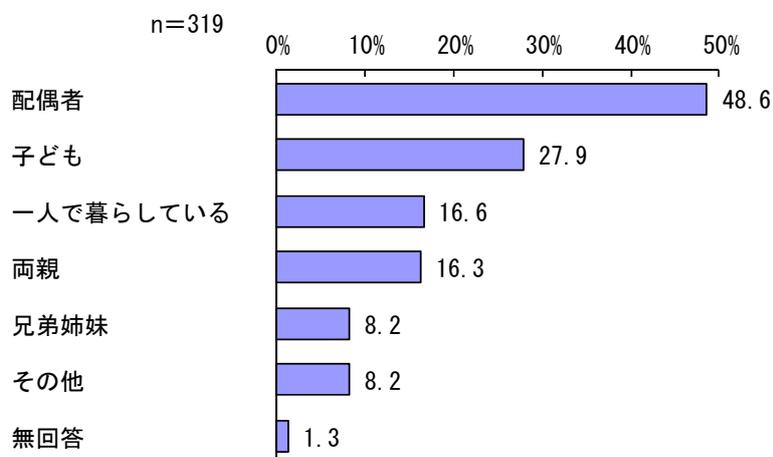


障害別に見ると、「要支援・要介護認定を受けている」は、身体障害者手帳所持者が 27.1% と他の障害よりも高く、次いで難病医療費等助成受給者が 15.0%、それ以外が 10%前後となっています。



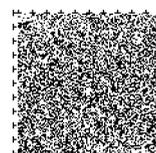
2 生活について

問7 あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

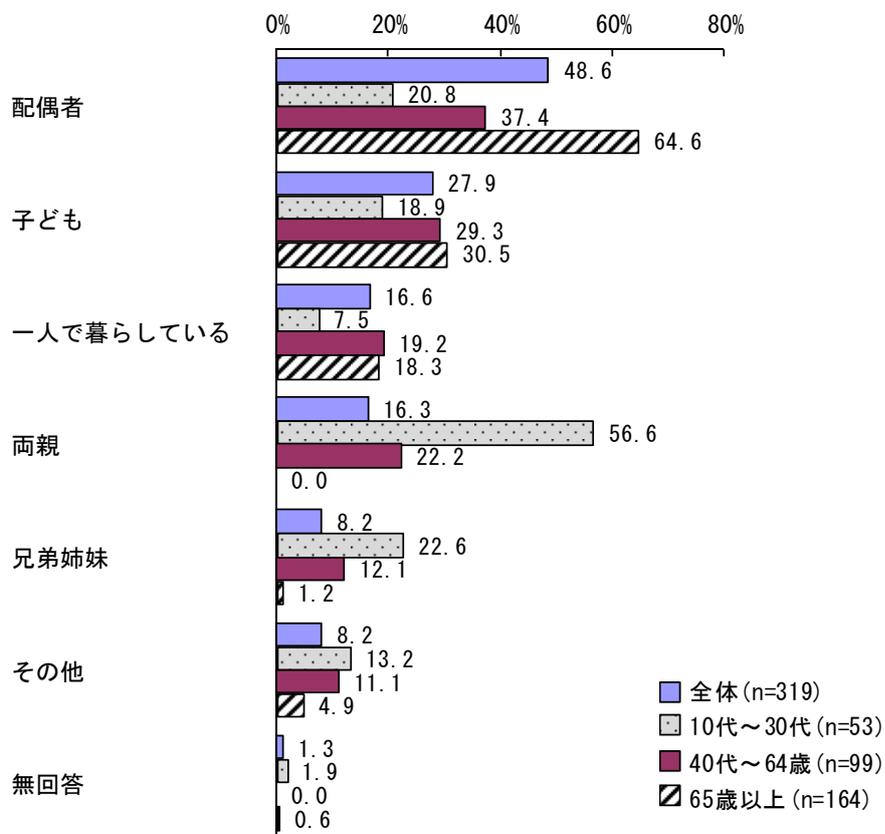


同居人については、「配偶者」が48.6%と最も高く、次いで、「子ども」が27.9%、「一人で暮らしている」が16.6%、「両親」が16.3%と続いています。

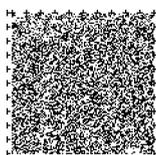
また、「その他」では、「祖母」、「娘婿・孫2人」、「特養老人ホーム」といった回答がありました。



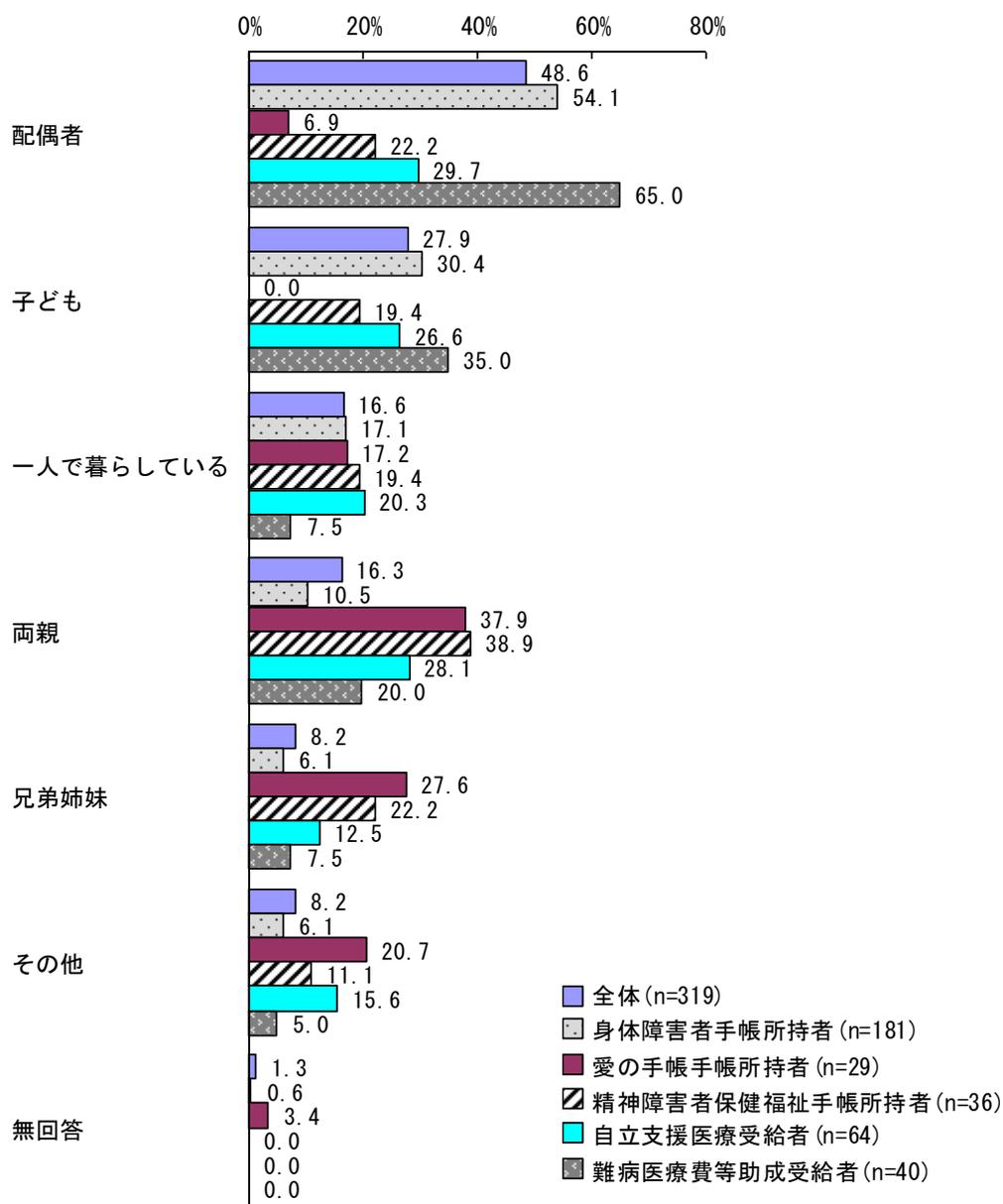
【年代別】



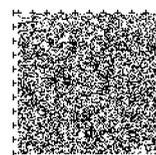
年代別に見ると、「配偶者」と「子ども」は年代が上がるにつれて高くなり、「両親」と「兄弟姉妹」は年代が上がるにつれて低くなる傾向にあります。また、「一人で暮らしている」は40代以上で20%近くとなっています。



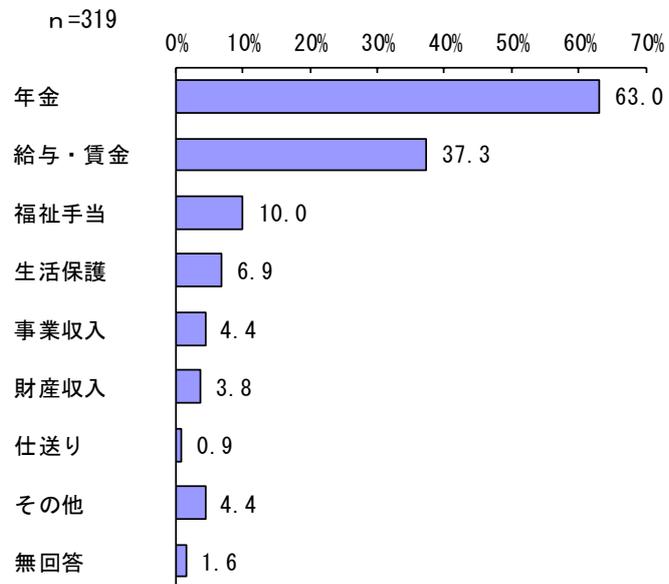
【障害別】



障害別に見ると、身体障害者手帳所持者と難病医療費等助成受給者は、「配偶者」と「子ども」が他の障害よりも高く、愛の手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者は「両親」が4割近くで、他の障害よりも高くなっています。

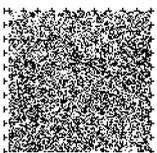


問8 あなたの世帯の主な収入源はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

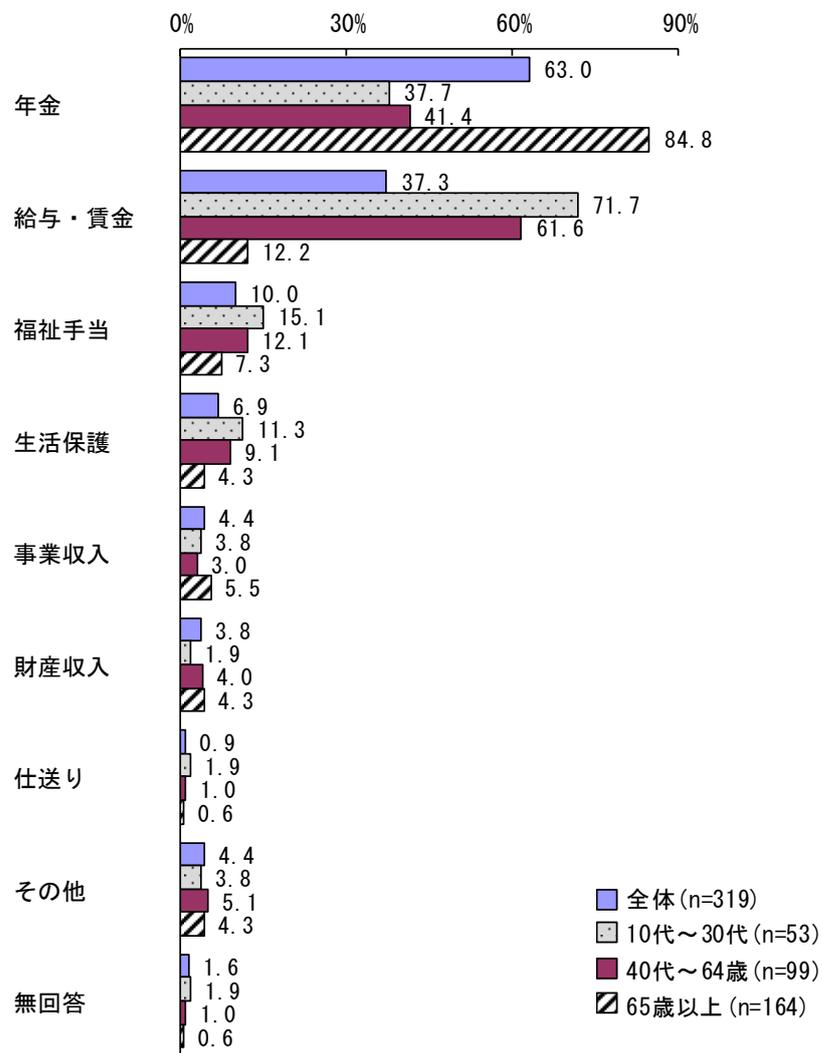


世帯の主な収入源は、「年金」が63.0%と最も高く、次いで、「給与・賃金」が37.3%、「福祉手当」が10.0%と続いています。

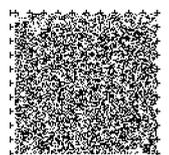
また、「その他」では、「妹からの援助」、「配偶者のパート収入」といった回答がありました。



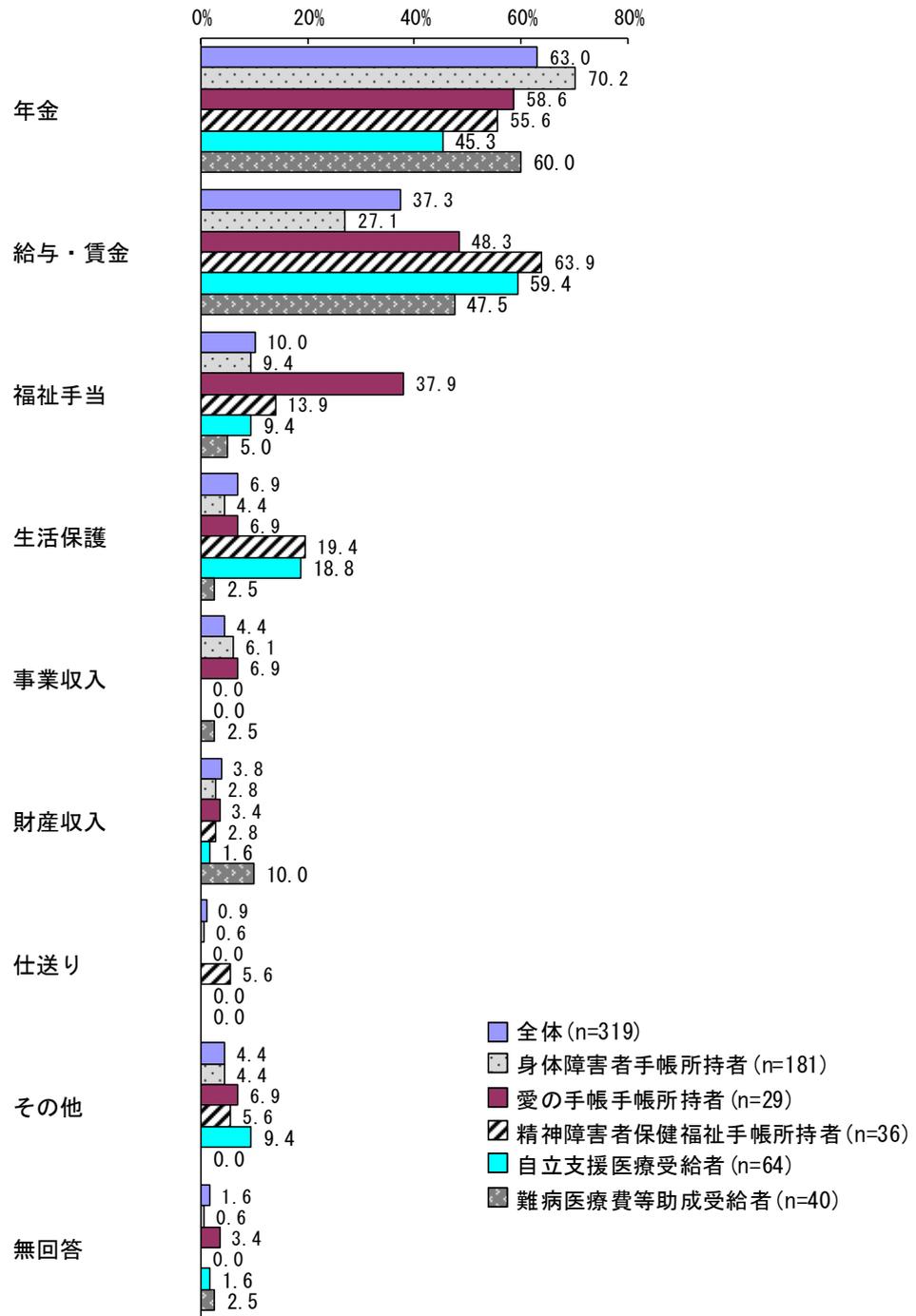
【年代別】



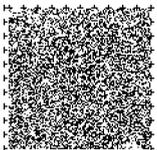
年代別に見ると、「給与・賃金」は10代から30代まででは71.7%、40代から64歳まででは61.6%と高く、65歳以上では、「年金」が84.8%と最も高くなっています。



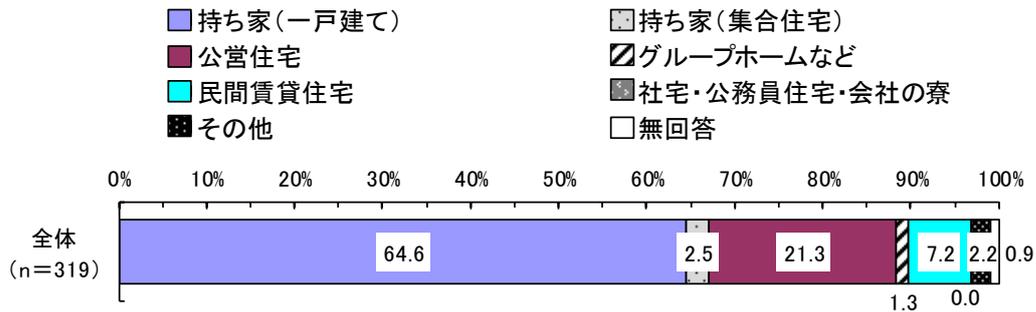
【障害別】



障害別に見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では、「給与・賃金」が最も高く、それ以外の障害では「年金」が最も高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では「生活保護」が2割近くで高くなっています。

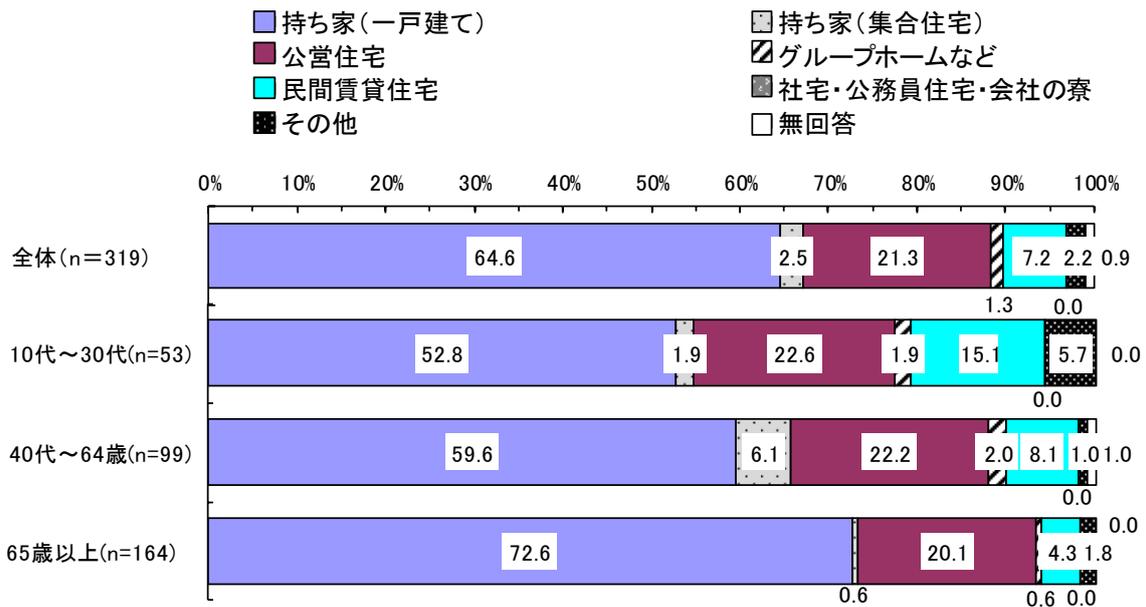


問9 あなたの現在のお住まい（生活の場）はどこですか。（1つに○）
 病院に入院中の方は、入院する前のお住まいについてお答えください。

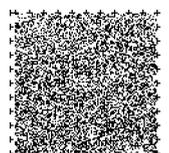


現在の生活の場は、「持ち家（一戸建て）」が 64.6%と最も高く、次いで、「公営住宅」が 21.3%、「民間賃貸住宅」が 7.2%となっています。
 また、「その他」では、「サービス付高齢者住宅」、「特別養護老人ホーム」といった回答がありました。

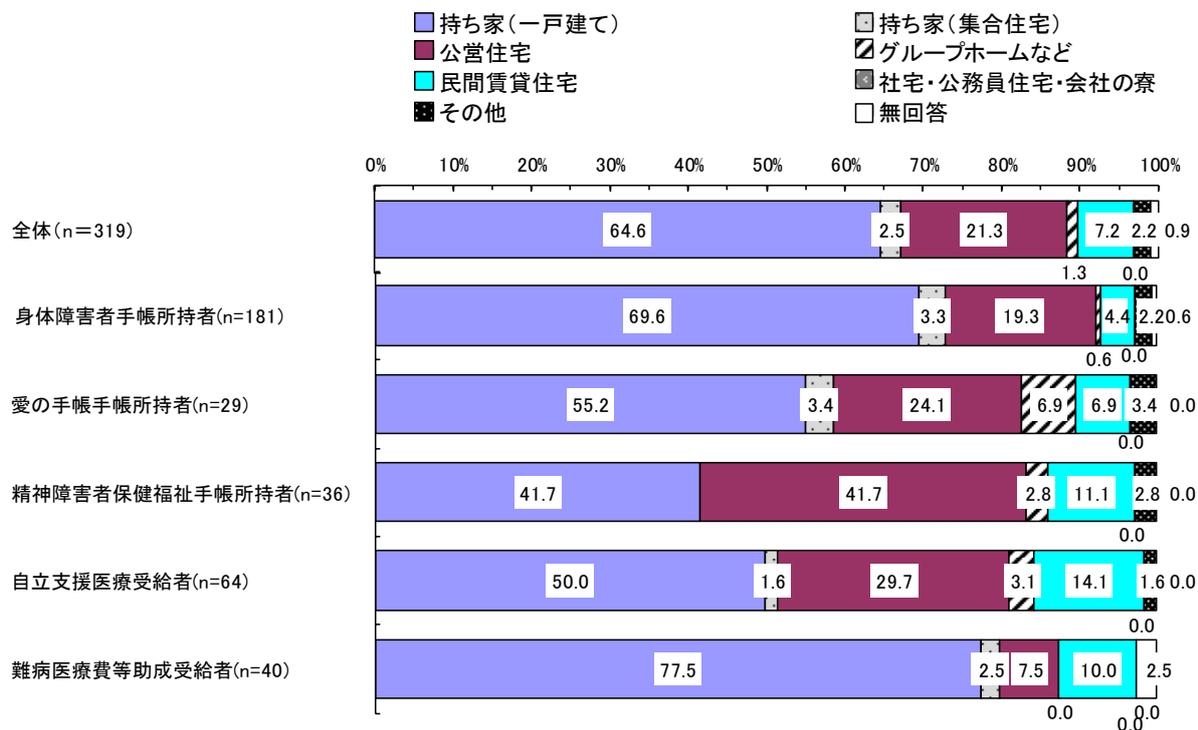
【年代別】



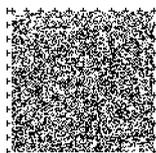
年代別に見ると、「持ち家（一戸建て）」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、65歳以上では 72.6%となっています。



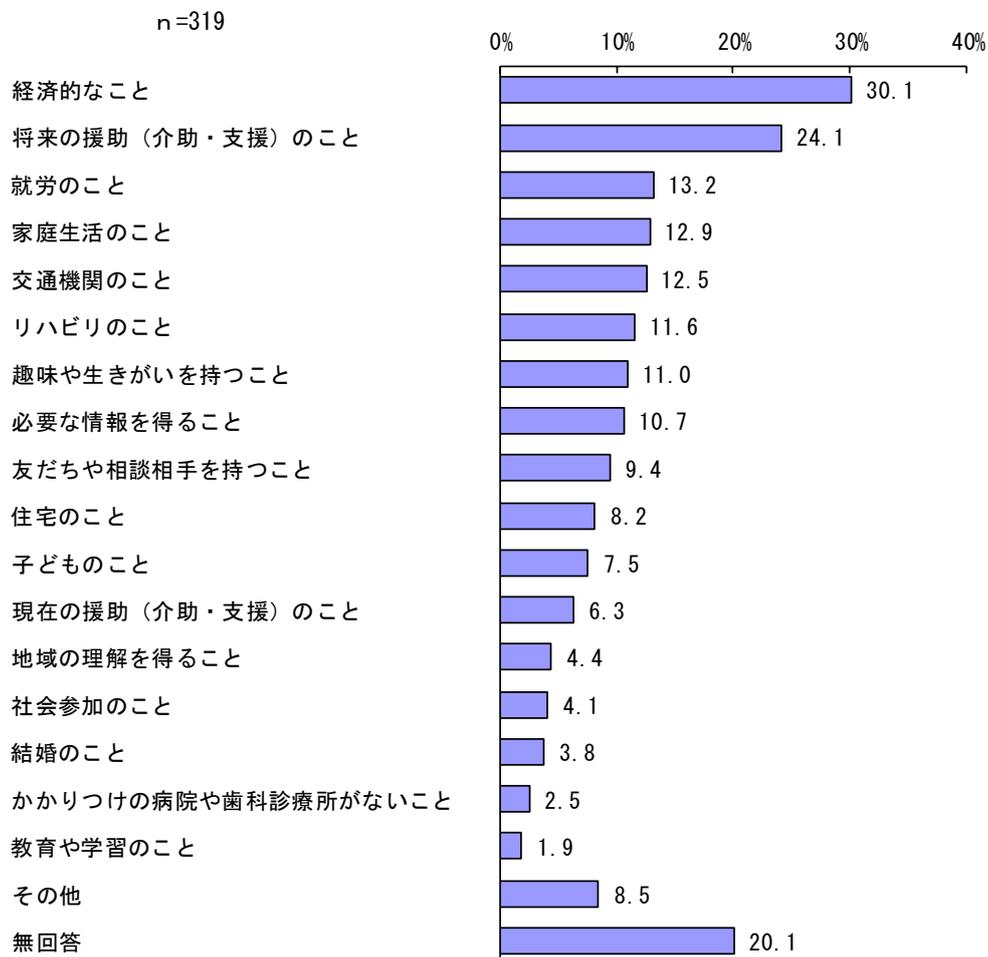
【障害別】



障害別に見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者は「持ち家（一戸建て）」が、他の障害よりも低く、「公営住宅」と同じ割合となっています。また、愛の手帳所持者では「グループホームなど」が6.9%と他の障害よりもやや高くなっています。

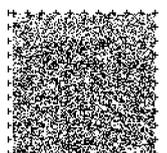


問 10 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

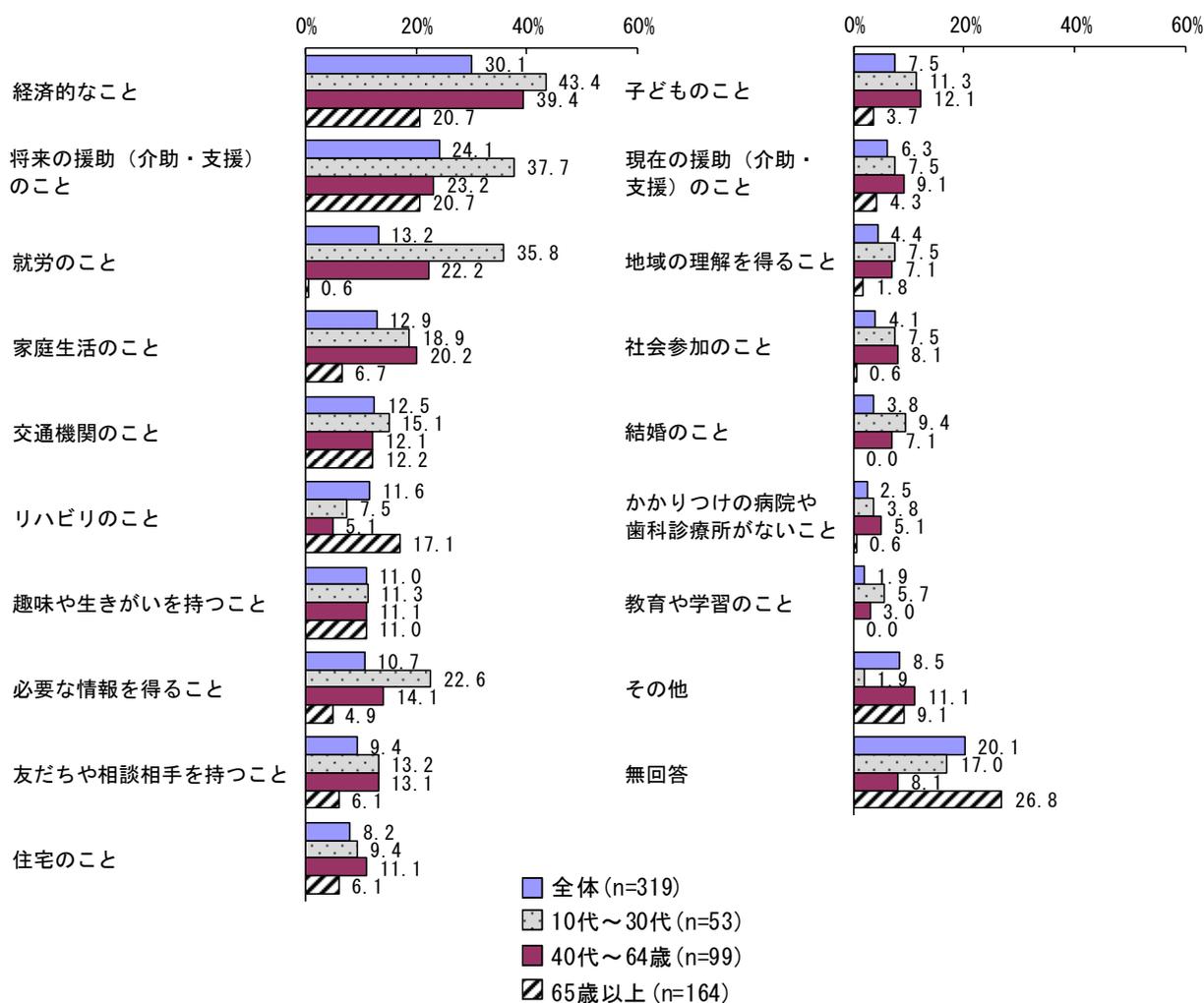


現在の生活での困りごとでは、「経済的なこと」が 30.1%と最も高く、次いで「将来の援助(介助・支援)のこと」が 24.1%、「就労のこと」が 13.2%と続いています。

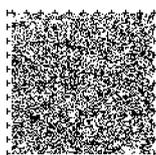
また、「その他」では、「手話がない所でのコミュニケーション」、「体調」、「かかりつけの病院が遠い」といった回答がありました。



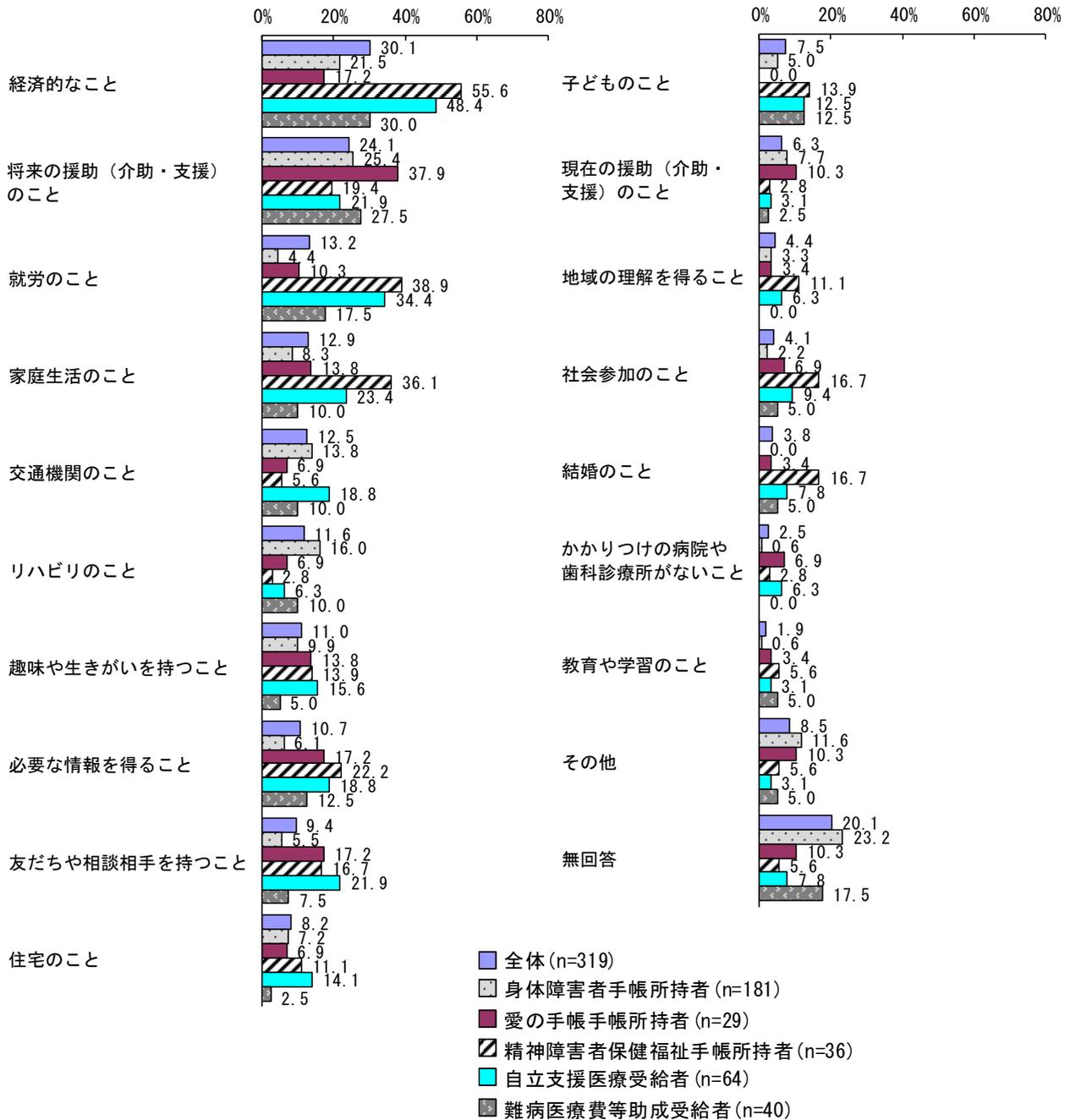
【年代別】



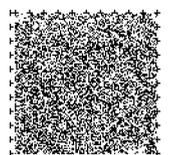
年代別に見ると、「経済的なこと」、「将来の援助（介助・支援）のこと」はいずれの年代も高くなっています。10代から64歳まででは、「就労のこと」が2割を超えて高くなっています。65歳以上では、「リハビリのこと」が17.1%と他の年代よりも高く、10代から30代まででは「必要な情報を得ること」が22.6%と他の年代よりも高くなっています。



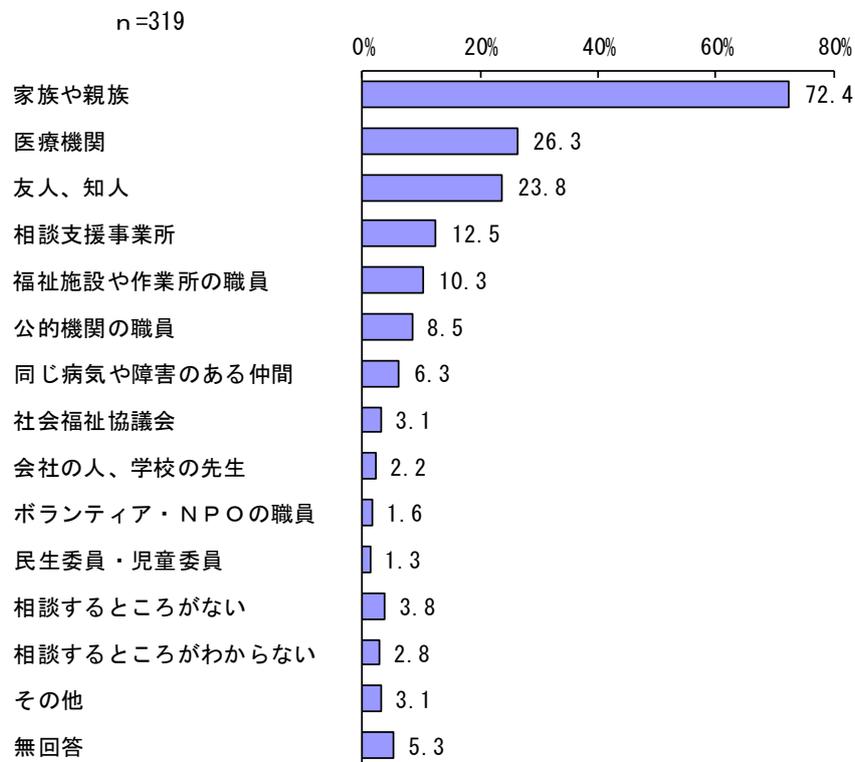
【障害別】



障害別に見ると、身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者では、「将来の援助（介助・支援）のこと」が最も高く、それ以外の障害では、「経済的なこと」が最も高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「家庭生活のこと」が、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では、「就労のこと」が3割を超えて他の障害よりも高くなっています。

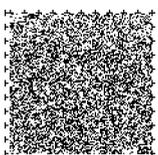


問 11 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

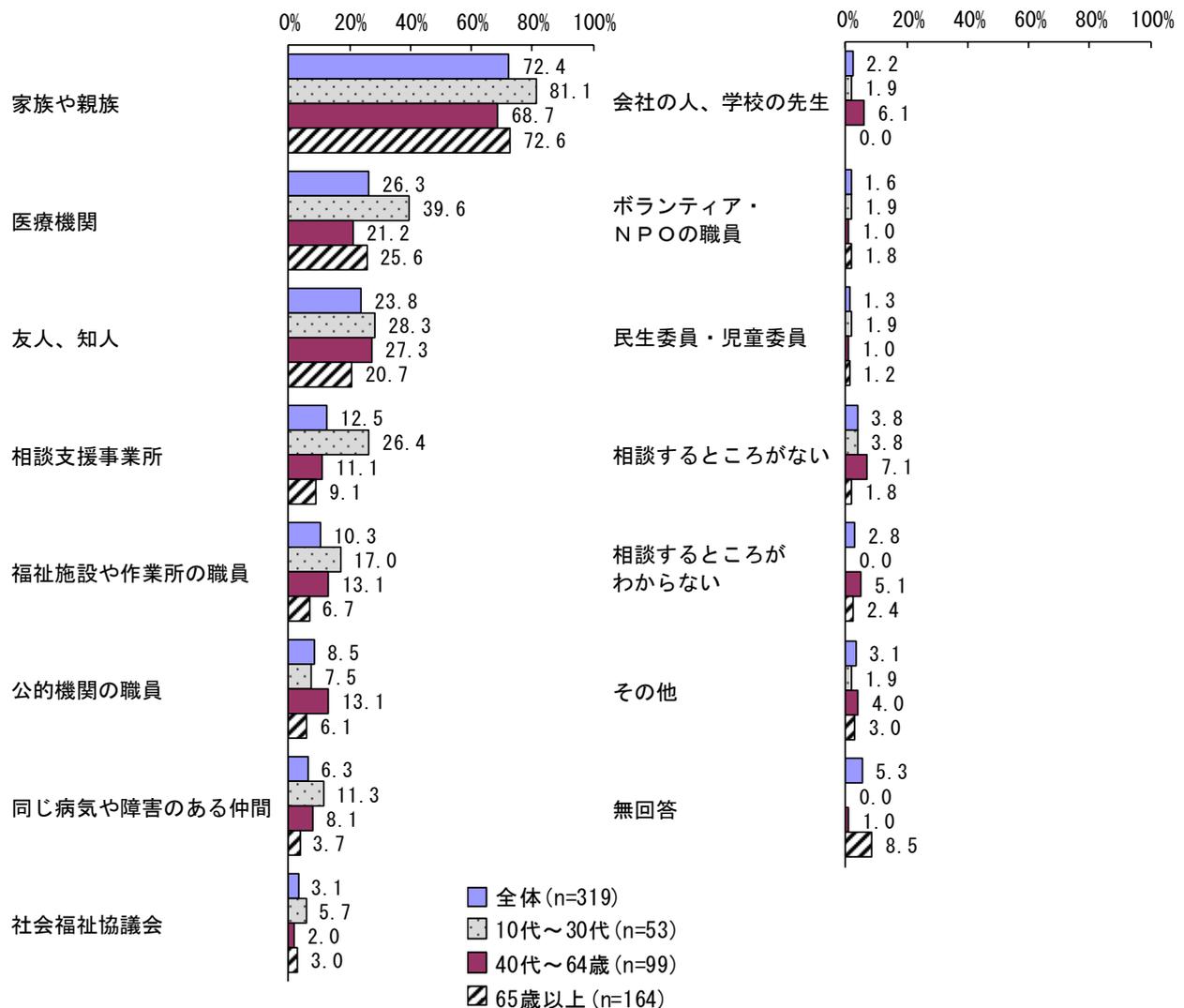


困りごとの際の相談相手では、「家族や親族」が 72.4%と最も高く、次いで「医療機関」が 26.3%、「友人、知人」が 23.8%で続いています。

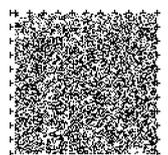
また、「その他」では、「手話サークル」、「インターネット掲示板」、「臨床心理士」といった回答がありました。



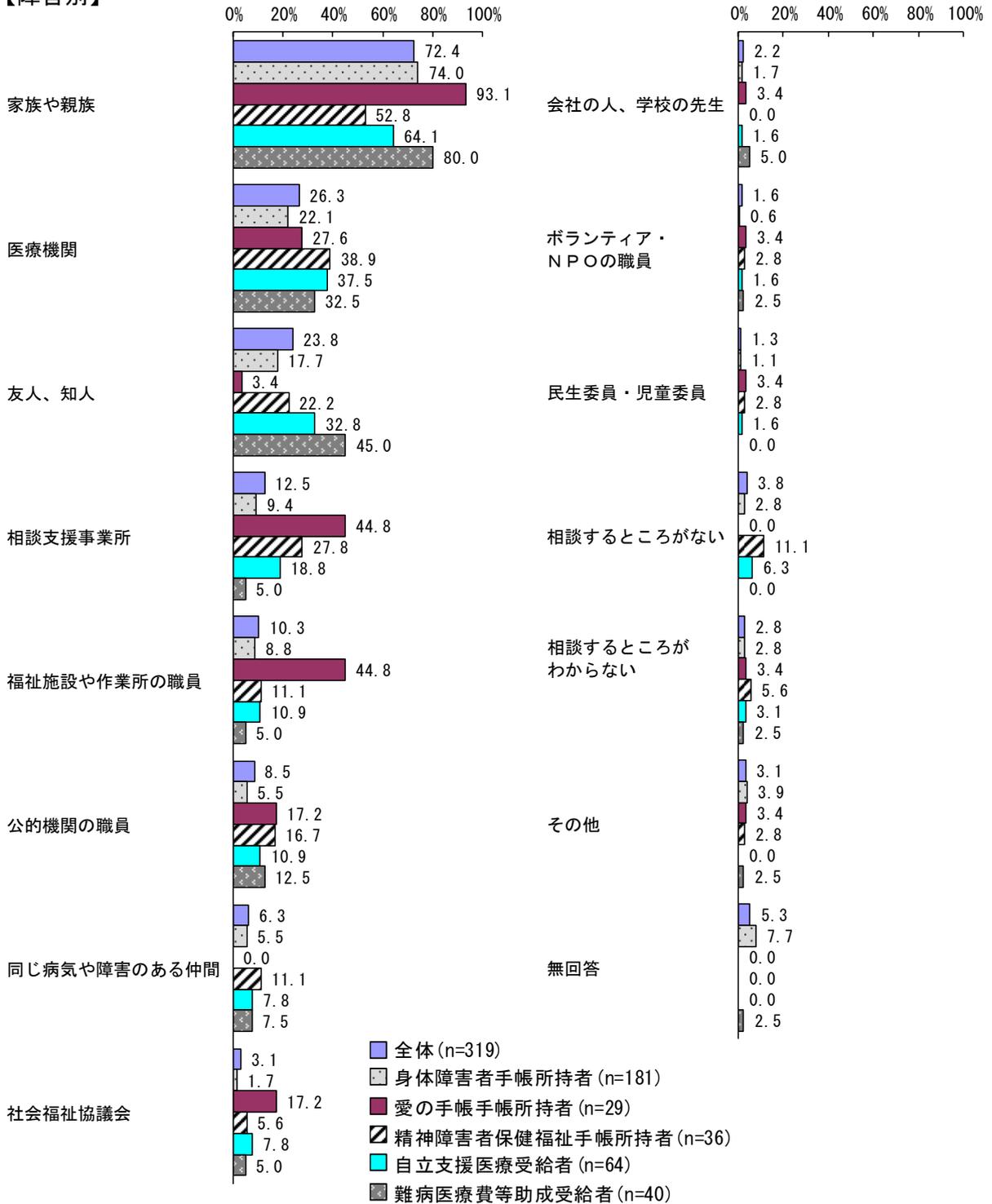
【年代別】



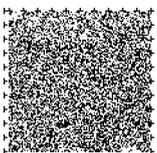
年代別に見ると、「家族や親族」、「医療機関」、「友人、知人」はいずれの年代も高くなっています。10代から30代まででは「相談支援事業所」が26.4%と他の年代よりも突出して高くなっています。



【障害別】

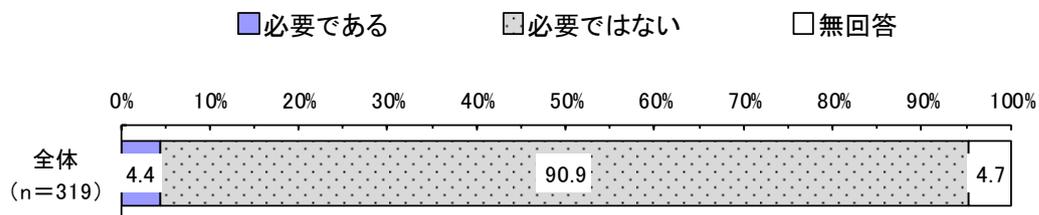


障害別に見ると、「家族や親族」、「医療機関」はいずれの障害も高くなっていますが、「友人、知人」は愛の手帳所持者が 3.4%と他の障害に比べ低く、反対に「福祉施設や作業所の職員」と「相談支援事業所」がともに 44.8%と他の障害よりも高くなっています。



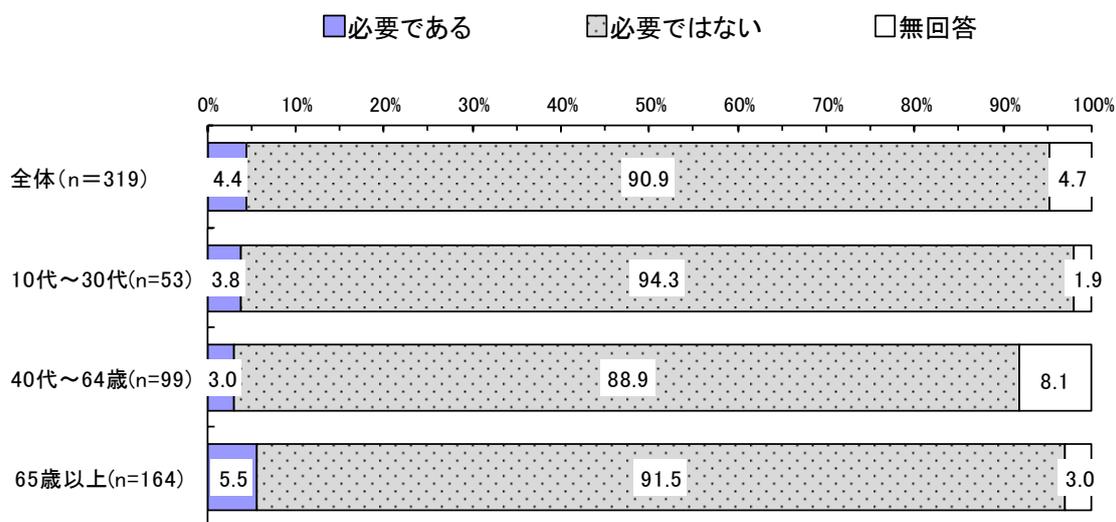
3 健康・医療・リハビリテーションについて

問 12 あなたは、普段の生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器等の医療的ケアが必要ですか。(1つに○)

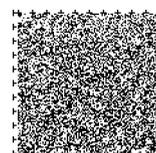


医療的ケアの必要の有無は、「必要である」が 4.4%、「必要ではない」が 90.9%となっています。

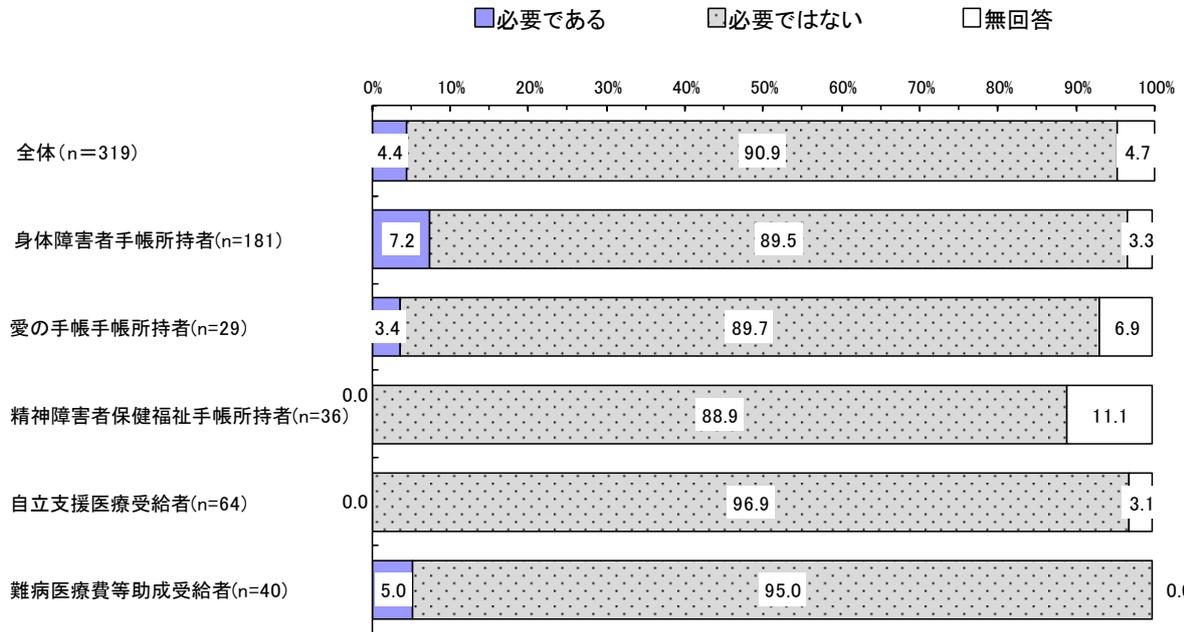
【年代別】



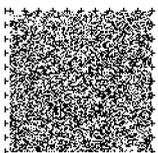
年代別に見ると、「必要である」は 65 歳以上が 5.5%と、他の年代よりもやや高くなっています。



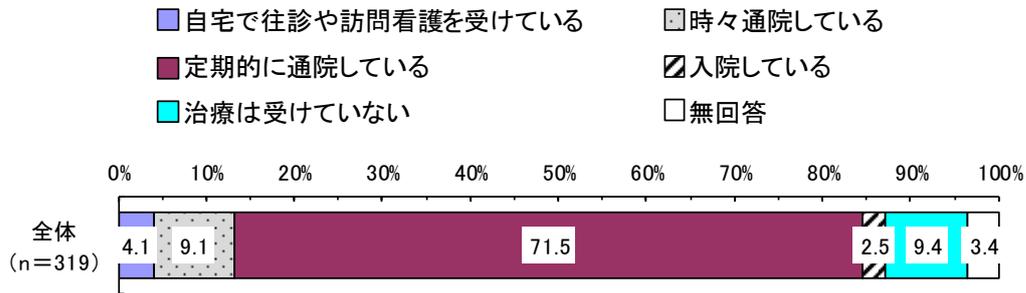
【障害別】



障害別に見ると、「必要である」は、身体障害者手帳所持者が 7.2%、愛の手帳所持者が 3.4%、難病医療費等助成受給者が 5.0%となっています。

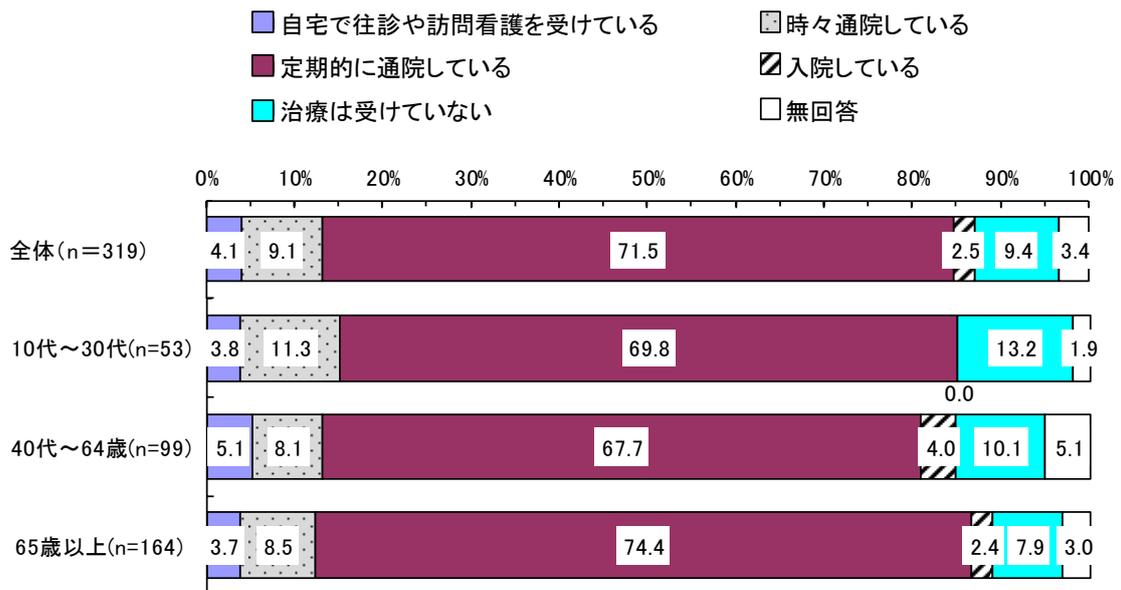


問 13 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

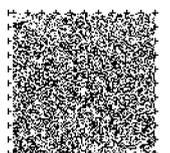


現在の医療状況では、「定期的に通院している」が 71.5%と最も高く、次いで「治療は受けていない」が 9.4%、「時々通院している」が 9.1%と続いています。

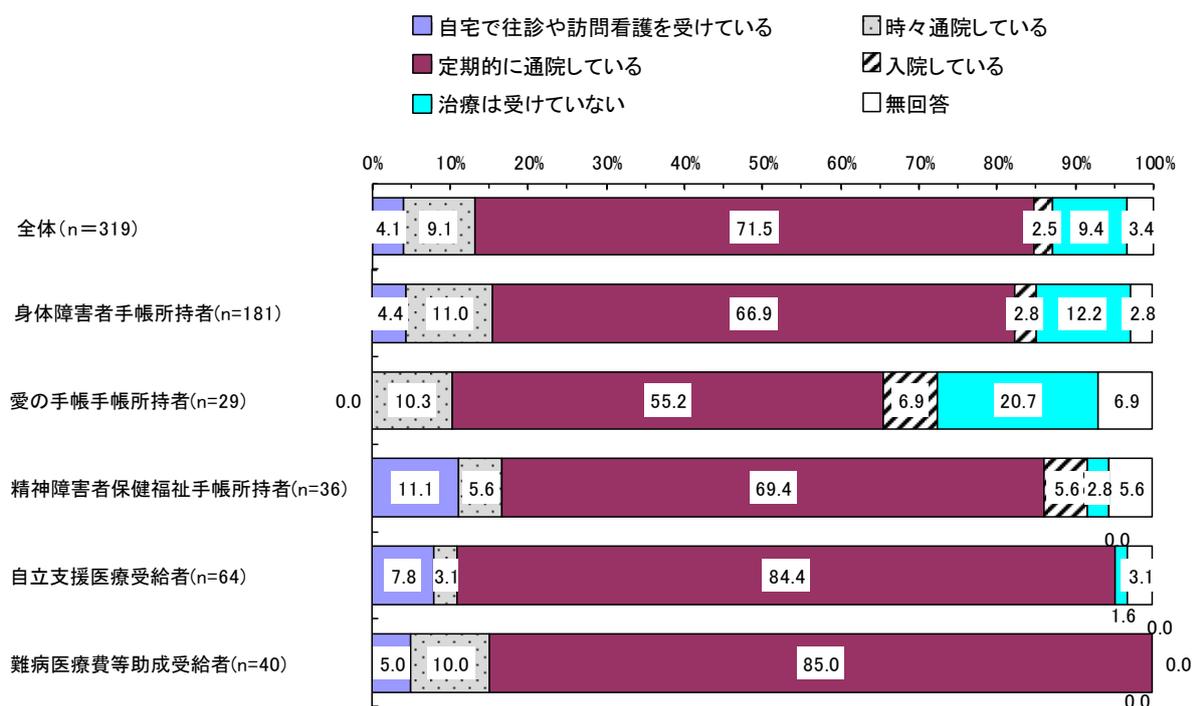
【年代別】



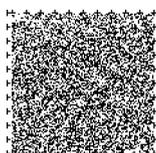
年代別に見ると、40代から64歳までで「自宅へ往診や訪問看護を受けている」が 5.1%、「入院している」が 4.0%と他の年代よりもやや高くなっています。



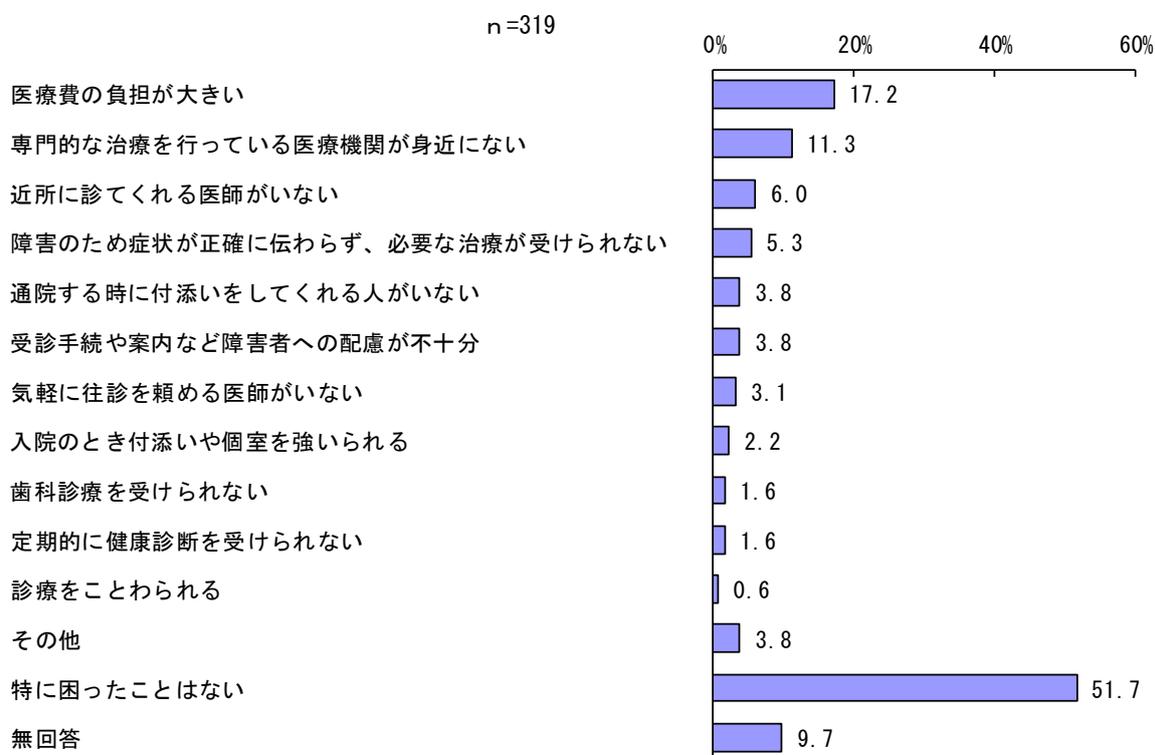
【障害別】



障害別に見ると、「自宅で往診や訪問看護を受けている」は、精神障害者保健福祉手帳所持者で11.1%、自立支援医療受給者で7.8%と他の障害よりも高くなっています。また、「入院している」は、愛の手帳所持者で6.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で5.6%と他の障害よりもやや高くなっています。



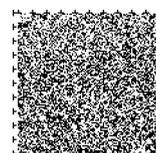
問 14 健康管理や医療について困ったり不便に思ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



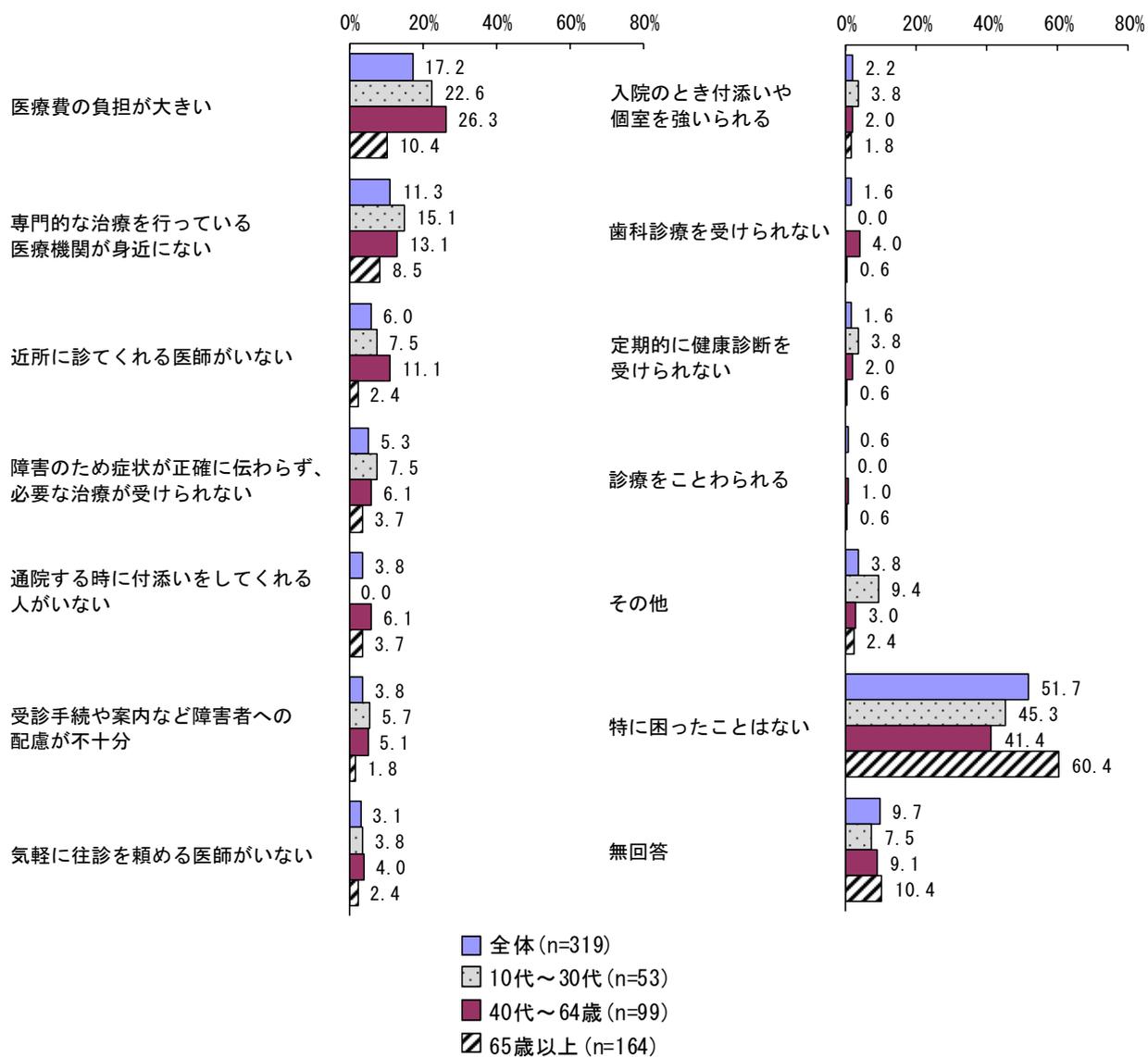
健康管理や医療についての困りごとでは、「医療費の負担が大きい」が17.2%と最も高く、次いで「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」が11.3%となっており、それ以外の項目はいずれも10%を切っています。

一方、「特に困ったことはない」は51.7%となっています。

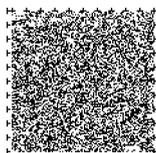
また、「その他」では、「同居人の理解・障害を話せない空気」、「通院が大変」、「手のふるえが治らない」といった回答がありました。



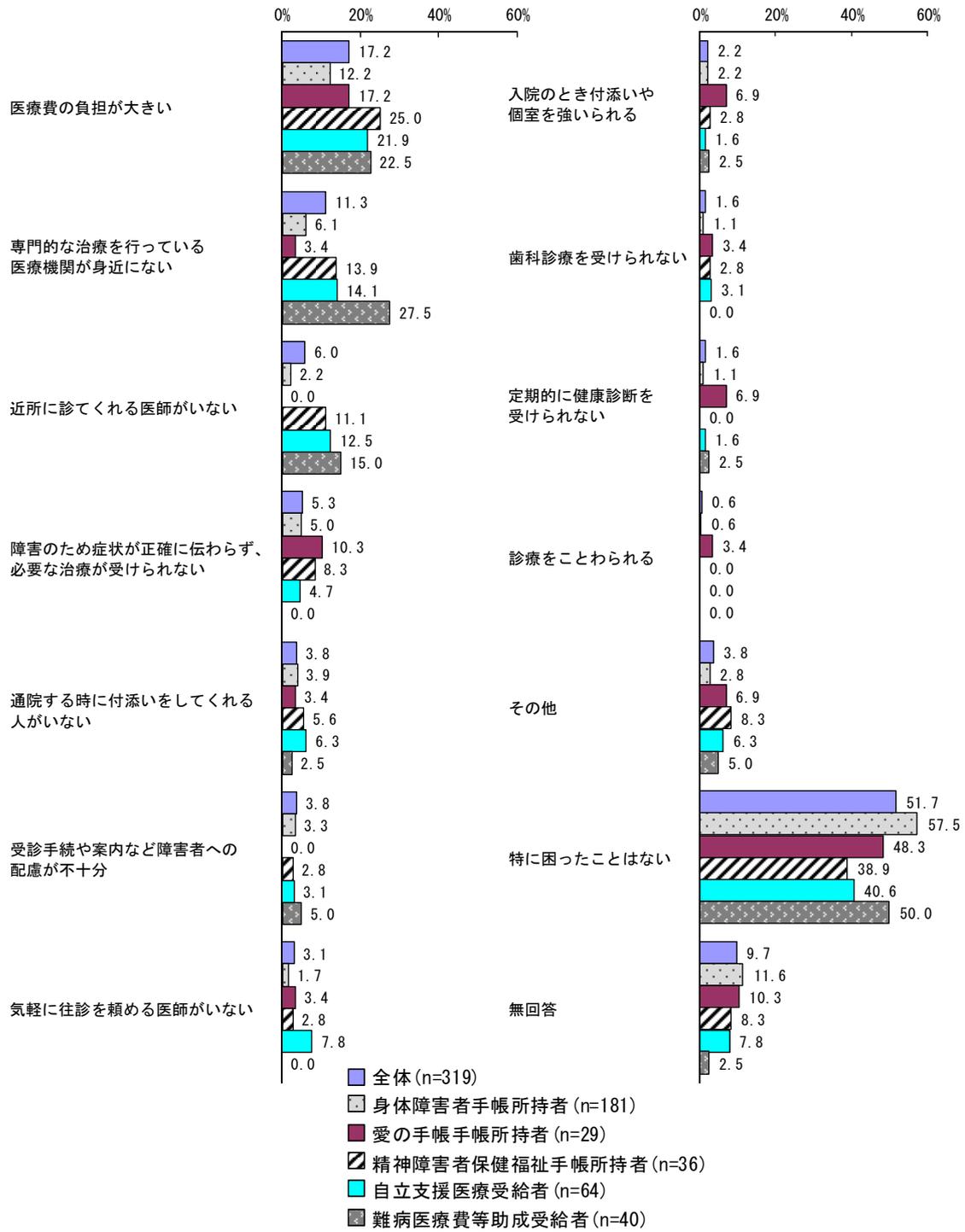
【年代別】



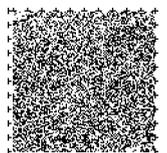
年代別に見ると、「医療費の負担が大きい」は10代から64歳にかけて2割を超えて高く、65歳以上と比較し2倍以上を占めています。



【障害別】

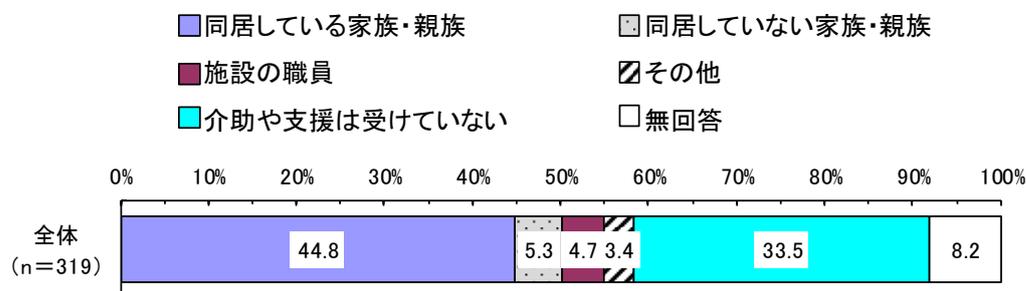


障害別に見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者、難病医療費等助成受給者は、「近所に診てくれる医師がいない」や「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」といった身近に医療機関や医師がいない困りごとが他の障害に比べて高くなっています。



4 介助の状況について

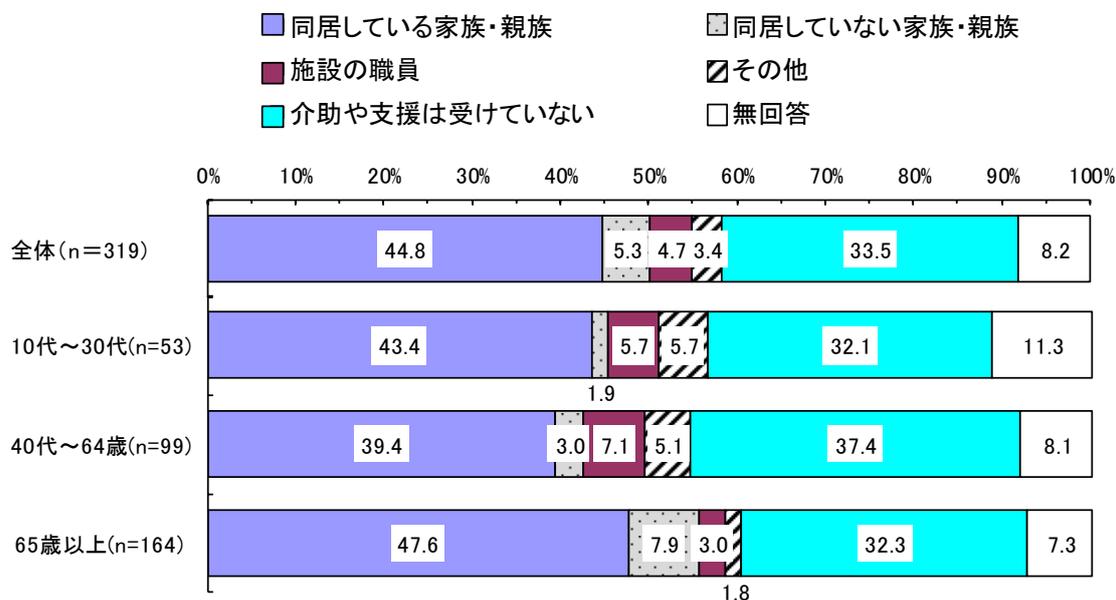
問 15 ふだん、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。(1つに○)



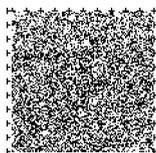
主な介助・支援者では、「同居している家族・親族」が44.8%と最も高く、「同居していない家族・親族」の5.3%と合わせると家族・親族で5割を占めています。一方、「介助や支援は受けていない」は33.5%となっています。

また、「その他」では、「市役所関係」、「ケアマネジャー」といった回答がありました。

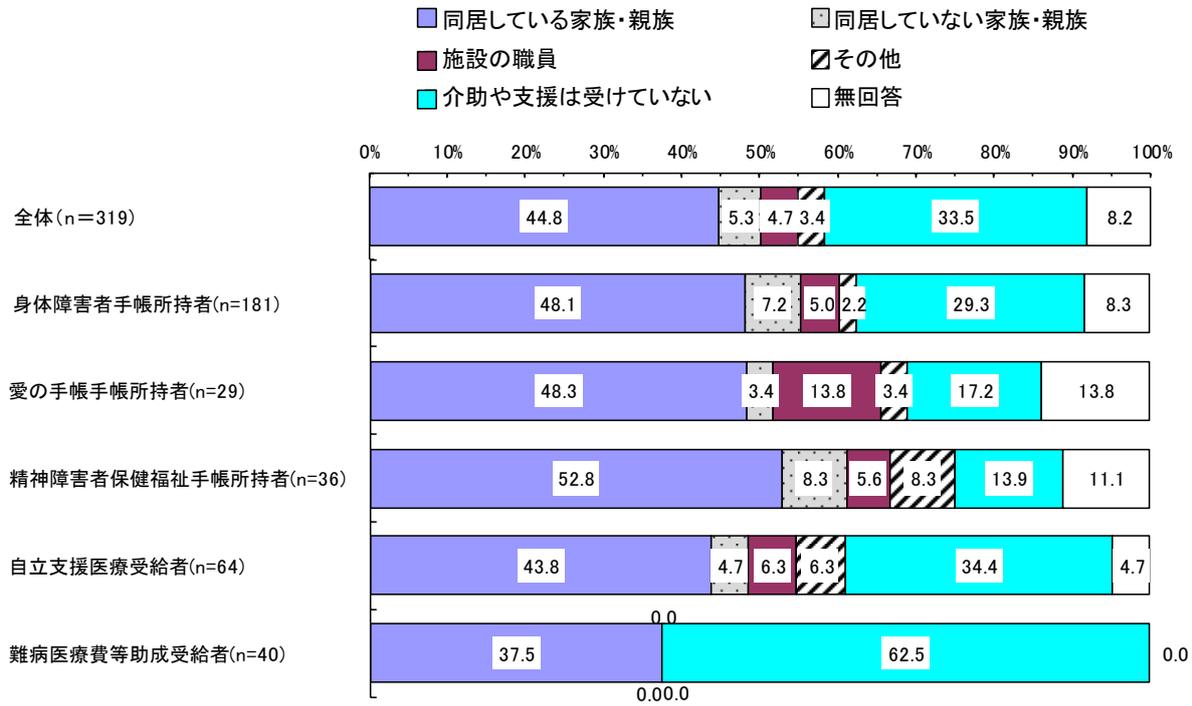
【年代別】



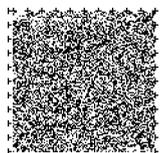
年代別に見ると、65歳以上では「同居していない家族・親族」が7.9%と他の年代に比べやや高く、反対に「施設の職員」はやや低くなっています。



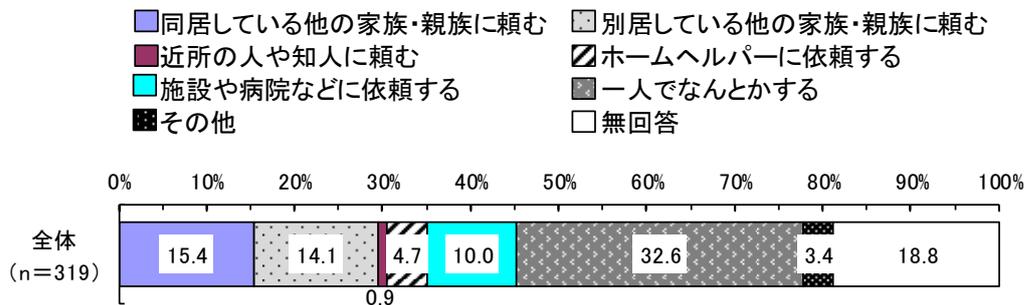
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者は「施設の職員」が13.8%と他の障害よりも高くなっています。

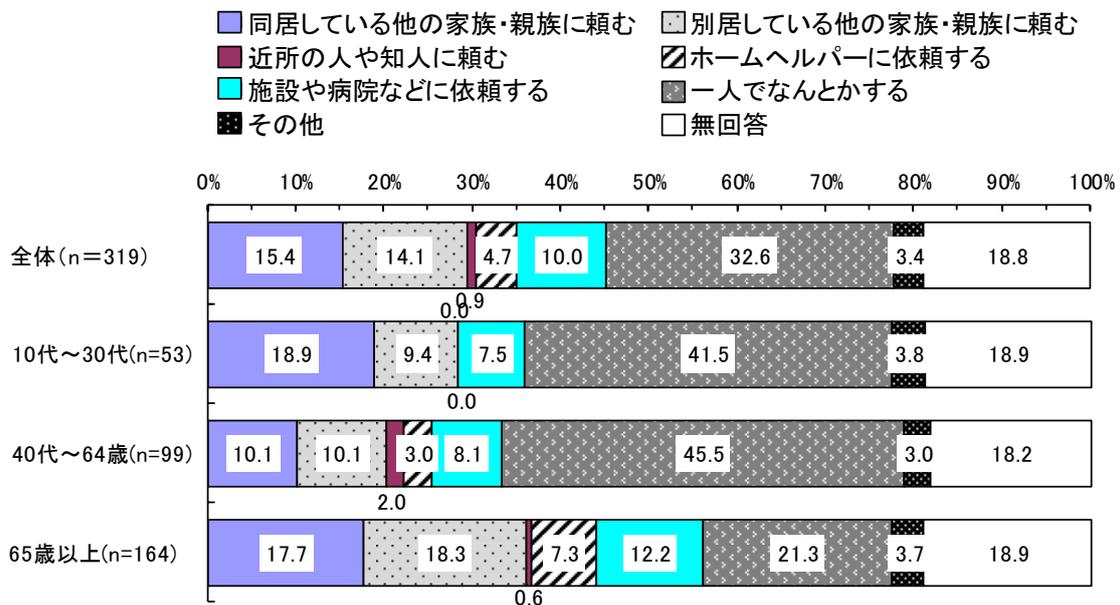


問 16 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

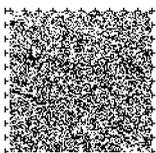


主な介助・支援者が介助・支援できないときの対応では、「一人でなんとかする」が32.6%と最も高く、次いで「同居している他の家族・親族に頼む」が15.4%、「別居している他の家族・親族に頼む」が14.1%、「施設や病院などに依頼する」が10.0%と続いています。また、「その他」では、「ショートステイに頼む」といった回答がありました。

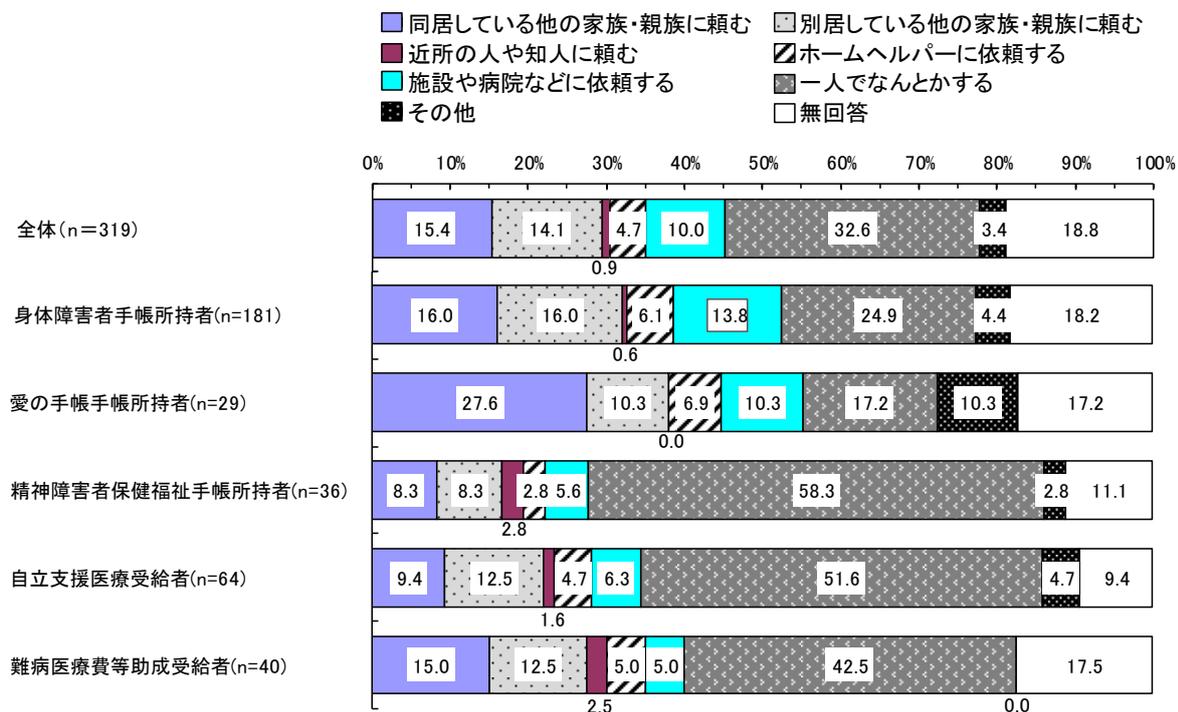
【年代別】



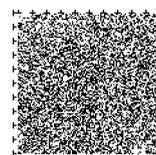
年代別に見ると、10代から64歳まででは「一人でなんとかする」が4割を超えて高くなっています。65歳以上では「別居している他の家族・親族に頼む」が18.3%、「ホームヘルパーに依頼する」が7.3%と他の年代よりも高くなっています。



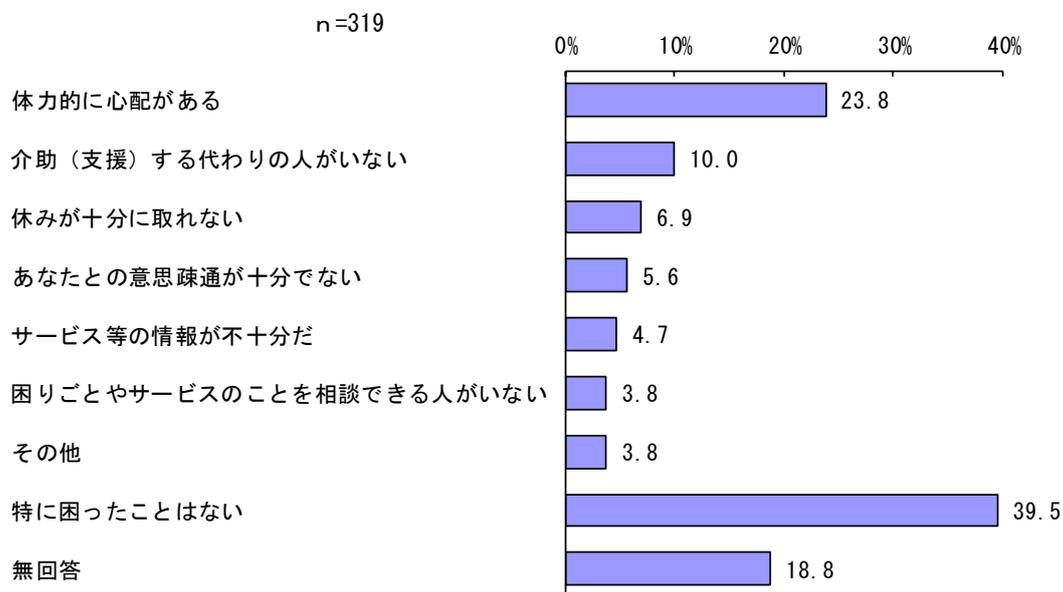
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者では、「同居している他の家族・親族に頼む」が27.6%と他の障害よりも高くなっています。また、身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者では「一人でなんとかする」割合が他の障害よりも低くなっています。



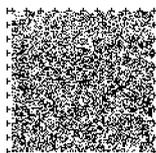
問 17 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）



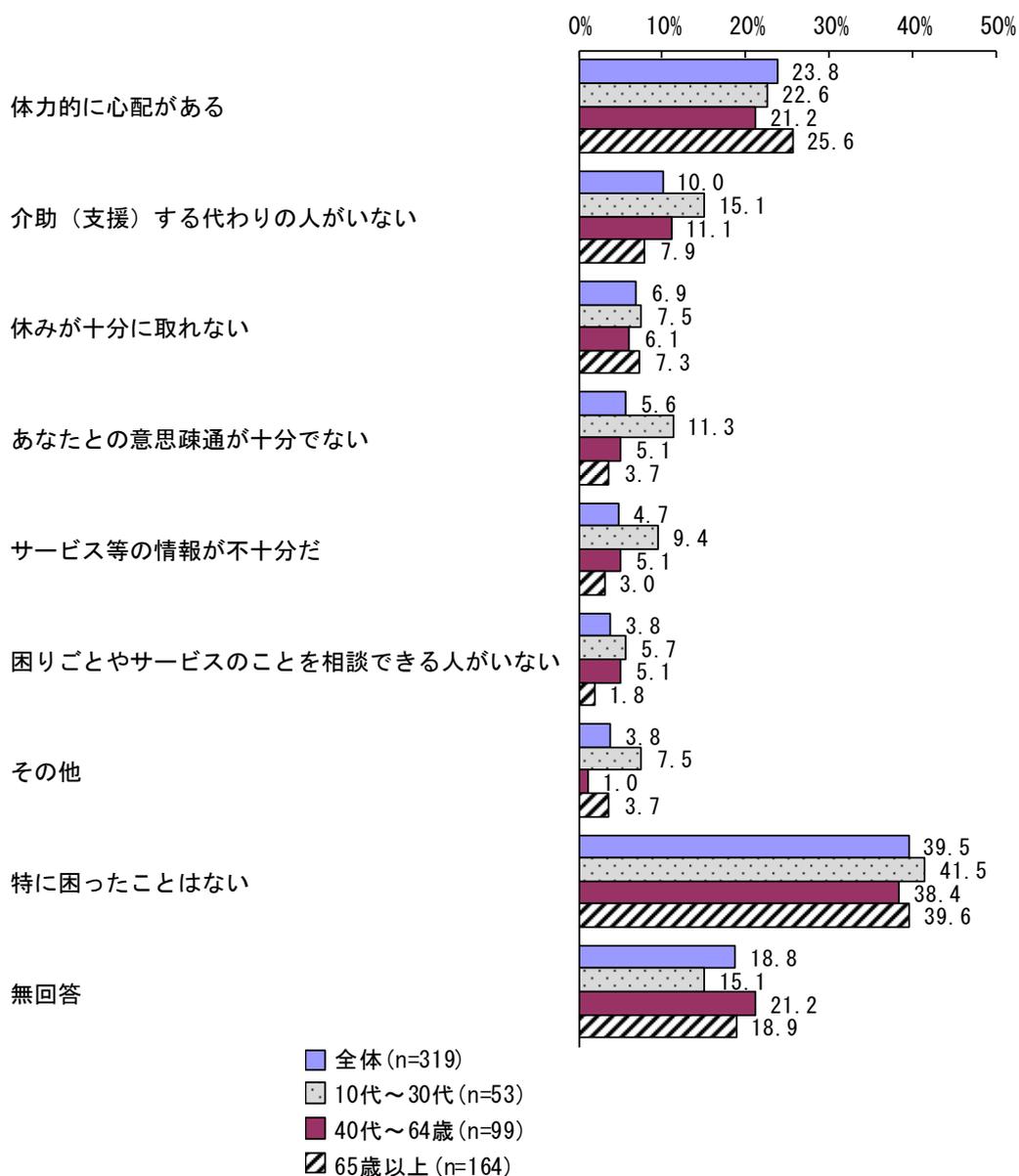
介助・支援者の困りごとでは、「体力的に心配がある」が 23.8%と最も高く、次いで「介助（支援）する代わりに人がいない」が 10.0%と続いており、それ以外の項目はいずれも 10%を切っています。

一方、「特に困ったことはない」は 39.5%となっています。

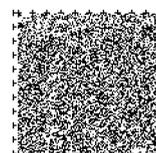
また、「その他」では、「支援する家族が忙しい」、「土、日は相談できない」、「入浴介助で困っている」といった回答がありました。



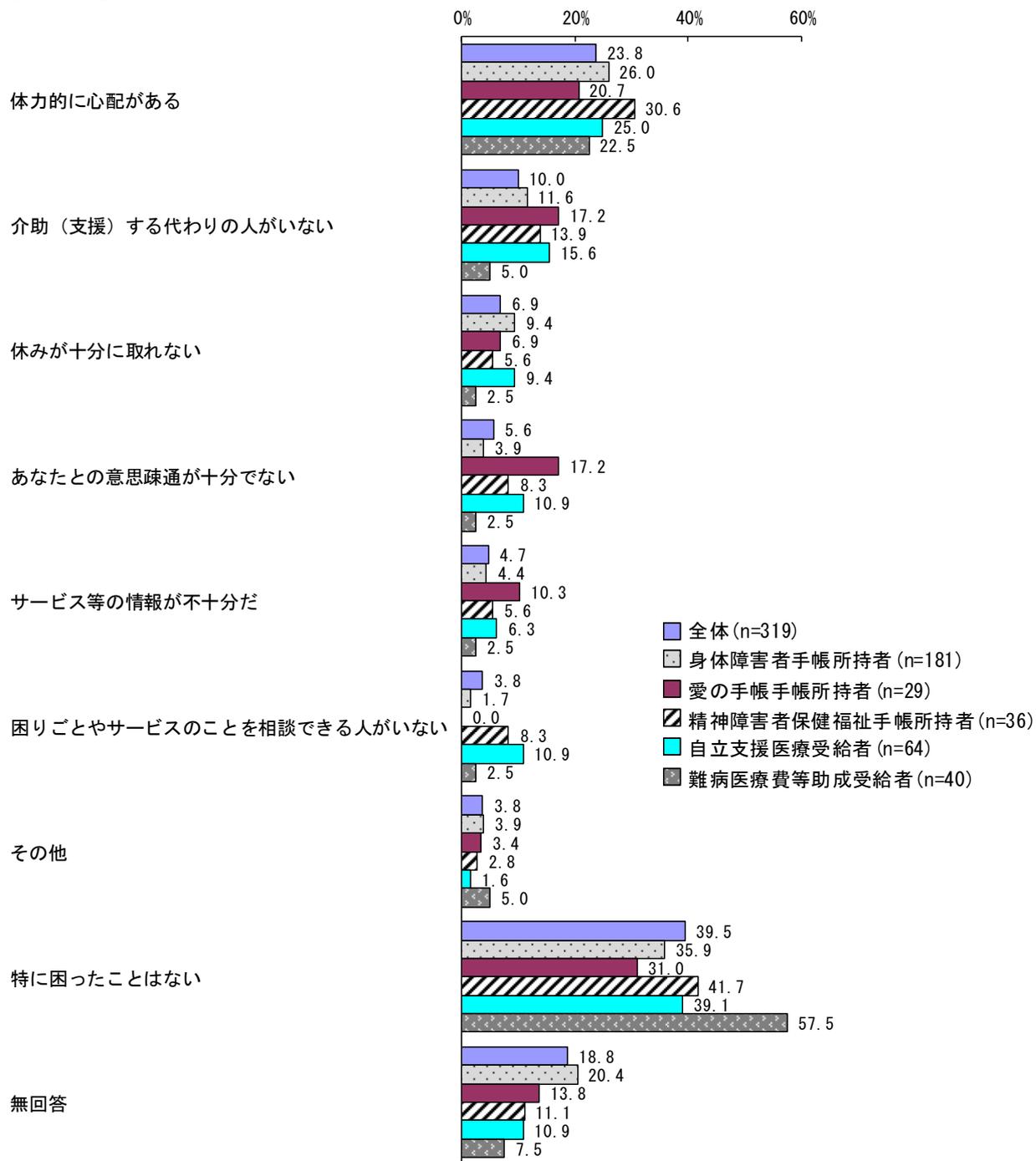
【年代別】



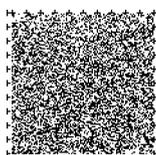
年代別に見ると、「体力的に心配がある」はいずれの年代でも2割を超えて高くなっています。また、10代から30代まででは「あなたとの意思疎通が十分でない」が11.3%と他の年代よりも高くなっています。



【障害別】



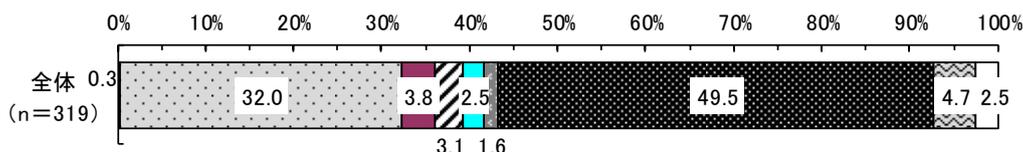
障害別に見ると、「体力的に心配がある」はいずれの障害でも2割を超えて高くなっています。また、愛の手帳所持者では「あなたとの意思疎通が十分でない」、「サービス等の情報が不十分だ」、「介助（支援）する代わり的人がい」が他の障害よりも高くなっています。



5 日中の過ごし方について

問 18 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（何を）して過ごしていますか。（1つに〇）

- 学校に通っている(大学や専門学校等)
- 働いている(福祉的就労の場も含む)
- 施設等で、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている
- 日中一時支援・地域活動支援センターを利用している
- 施設に入所している
- 病院に入院している
- 主に自宅にいる(働いていない)
- その他
- 無回答

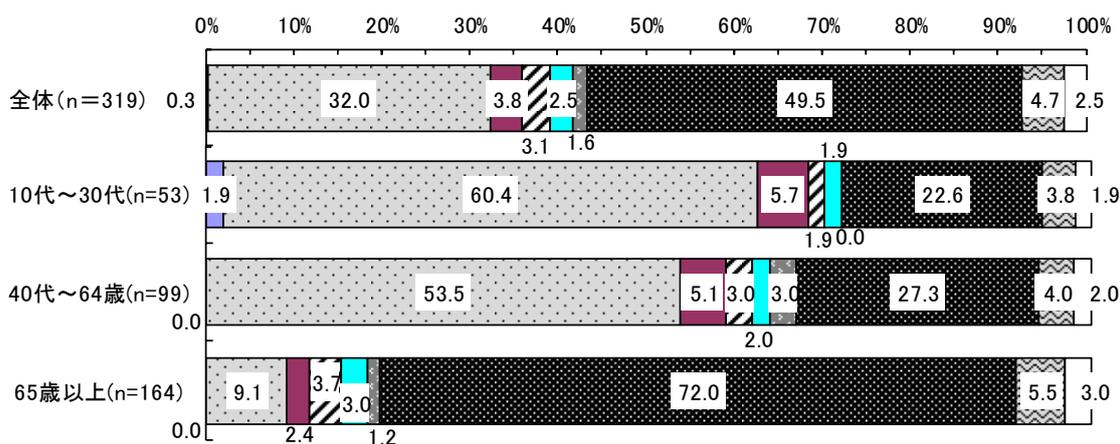


平日の日中の過ごし方では、「主に自宅にいる（働いていない）」が49.5%と最も高く、次いで「働いている（福祉的就労の場も含む）」が32.0%となっています。

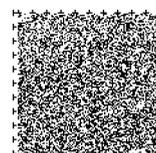
また、「その他」では、「介護をしている」、「ボランティア」、「透析を受けている」といった回答がありました。

【年代別】

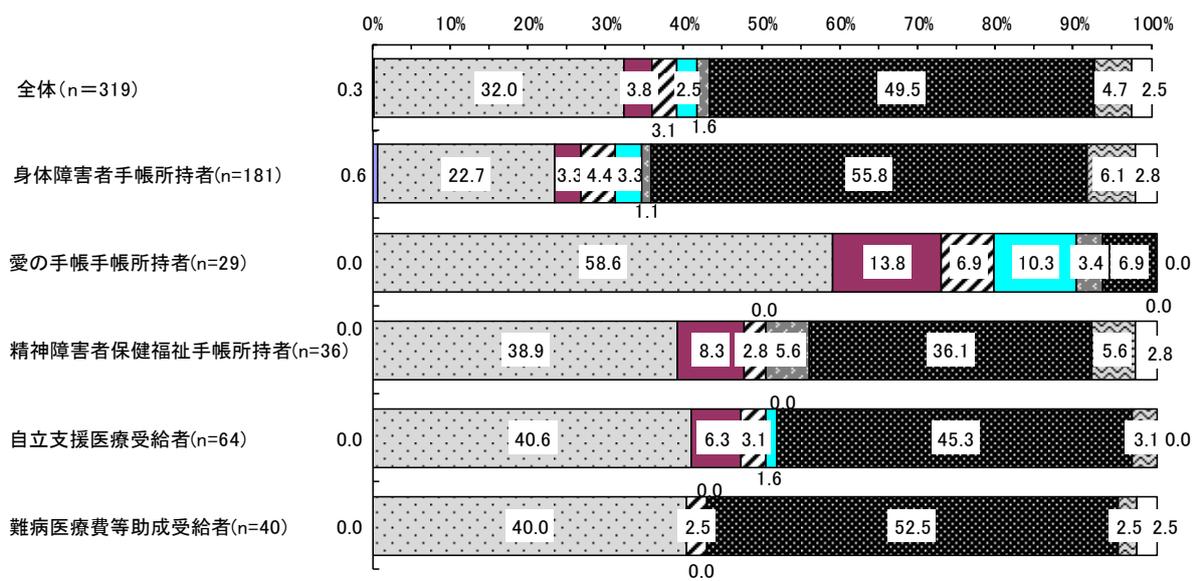
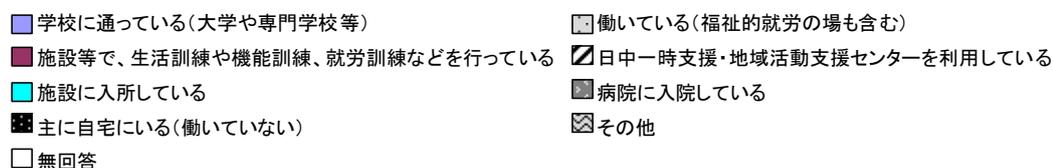
- 学校に通っている(大学や専門学校等)
- 働いている(福祉的就労の場も含む)
- 施設等で、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている
- 日中一時支援・地域活動支援センターを利用している
- 施設に入所している
- 病院に入院している
- 主に自宅にいる(働いていない)
- その他
- 無回答



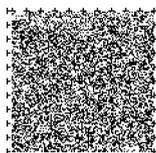
年代別に見ると、10代から64歳まででは「働いている（福祉的就労の場も含む）」が5割を超えています。



【障害別】

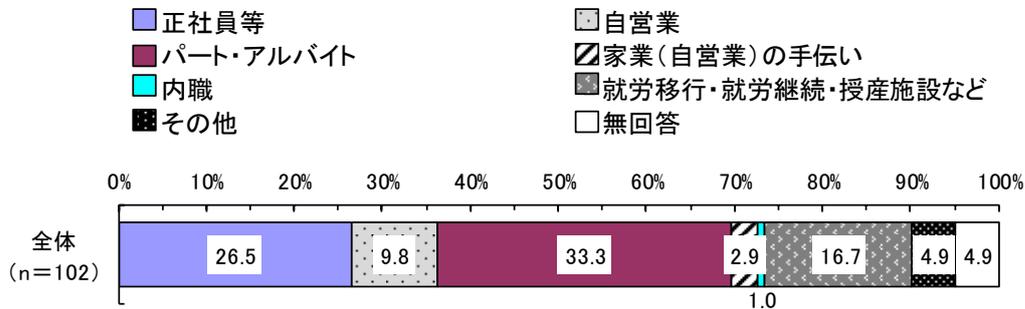


障害別に見ると、愛の手帳所持者では「主に自宅にいる（働いていない）」以外のいずれの項目も他の障害より高くなっています。



問 18 で「働いている（福祉的就労の場も含む）」と答えた方におうかがいします。

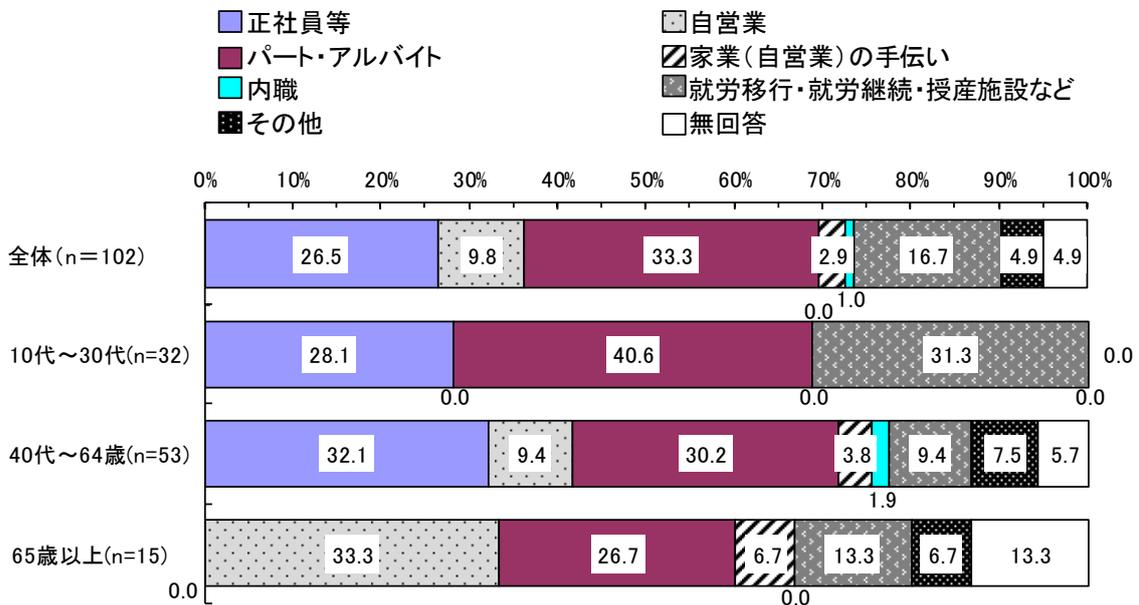
問 19 あなたは、どのような働き方をしていますか。（1つに○）



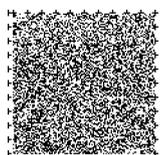
働いている方の働き方では、「パート・アルバイト」が 33.3%と最も高く、次いで「正社員等」が 26.5%、「就労移行・就労継続・授産施設など」が 16.7%と続いています。

また、「その他」では、「契約社員」、「派遣社員短期」といった回答がありました。

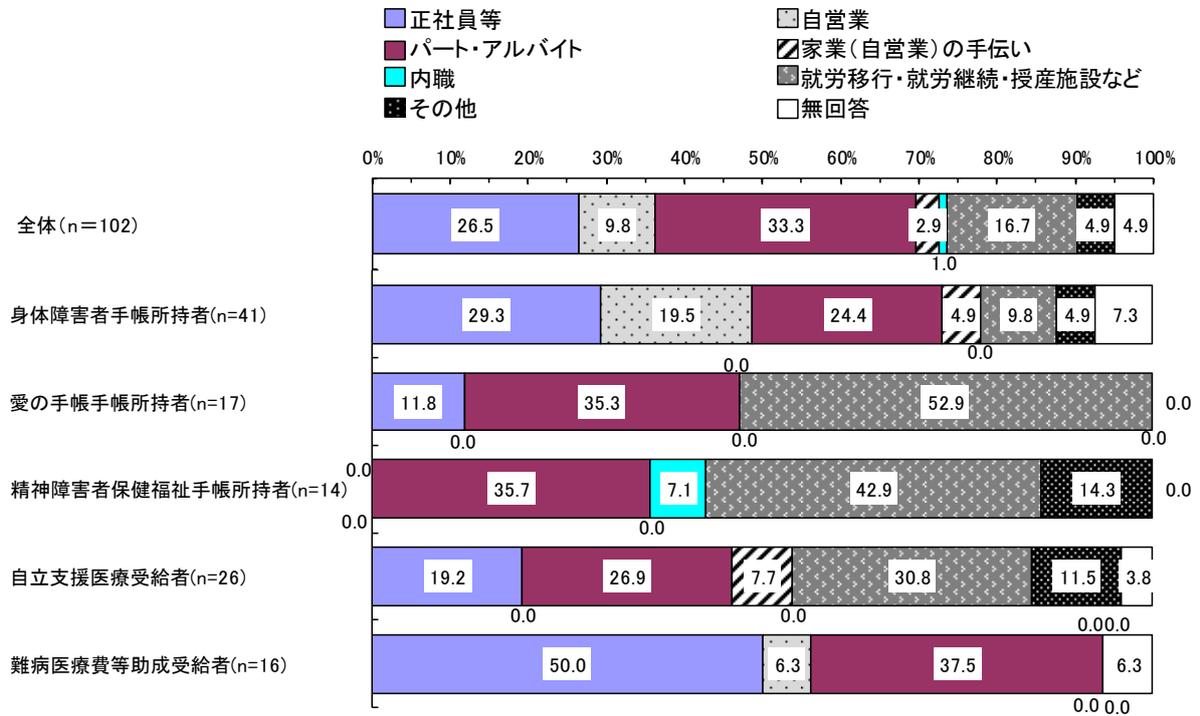
【年代別】



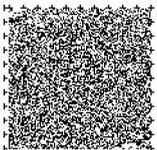
年代別に見ると、10代から30代まででは「就労移行・就労継続・授産施設など」が 31.3%と高くなっています。



【障害別】

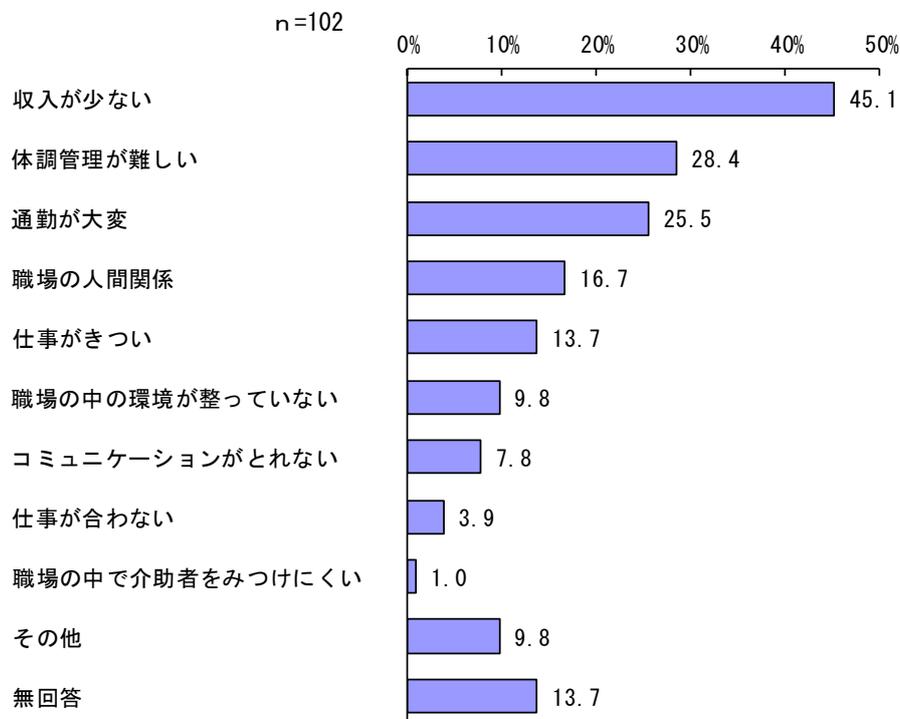


障害別に見ると、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者では「就労移行・就労継続・授産施設など」の割合が最も高くなっています。



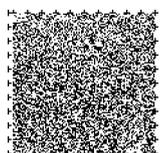
問 18 で「働いている（福祉的就労の場も含む）」と答えた方におうかがいします。

問 20 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

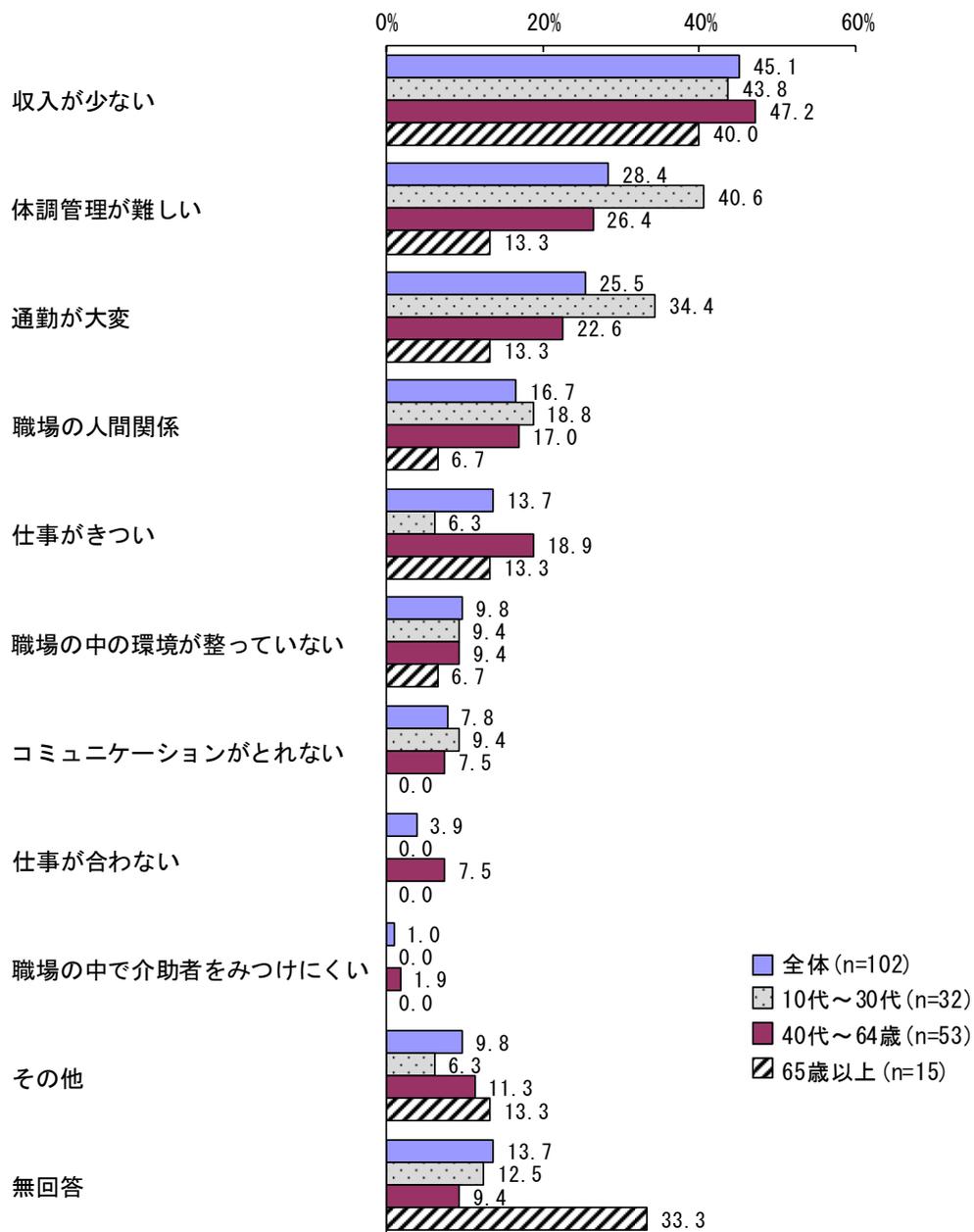


仕事をする上での困りごとでは、「収入が少ない」が 45.1%と最も高く、次いで「体調管理が難しい」が 28.4%、「通勤が大変」が 25.5%と続いています。

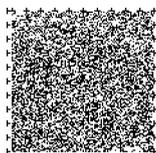
また、「その他」では、「目が悪いので出来ない仕事もある」、「長時間同じ姿勢での作業なので疲れやすい」、「文字を書く必要がある場合は困る」といった回答がありました。



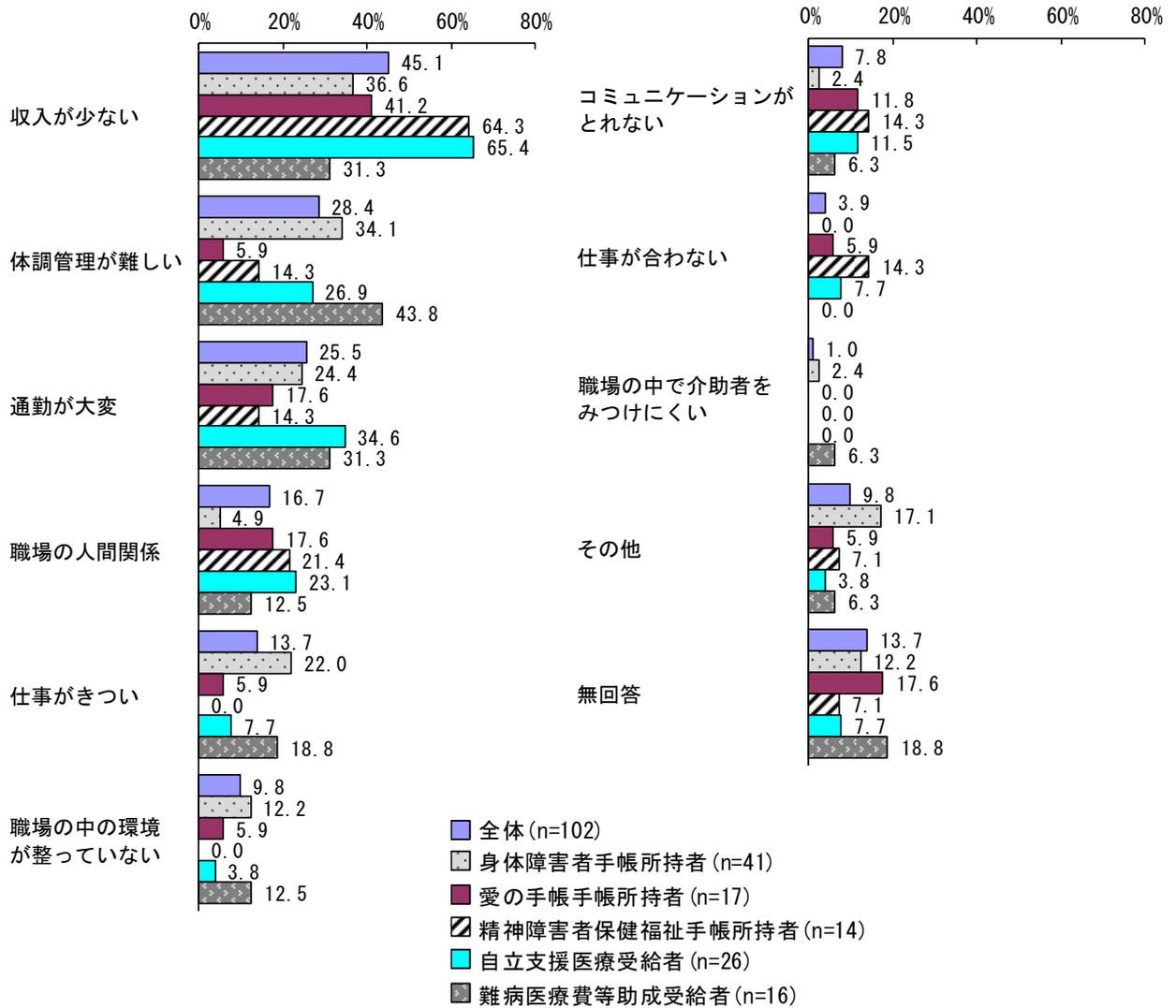
【年代別】



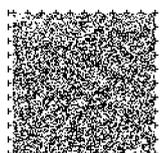
年代別に見ると、いずれの年代も「収入が少ない」が4割を超えて最も高くなっています。また、10代から30代まででは「体調管理が難しい」が40.6%と他の年代よりも突出して高くなっています。



【障害別】

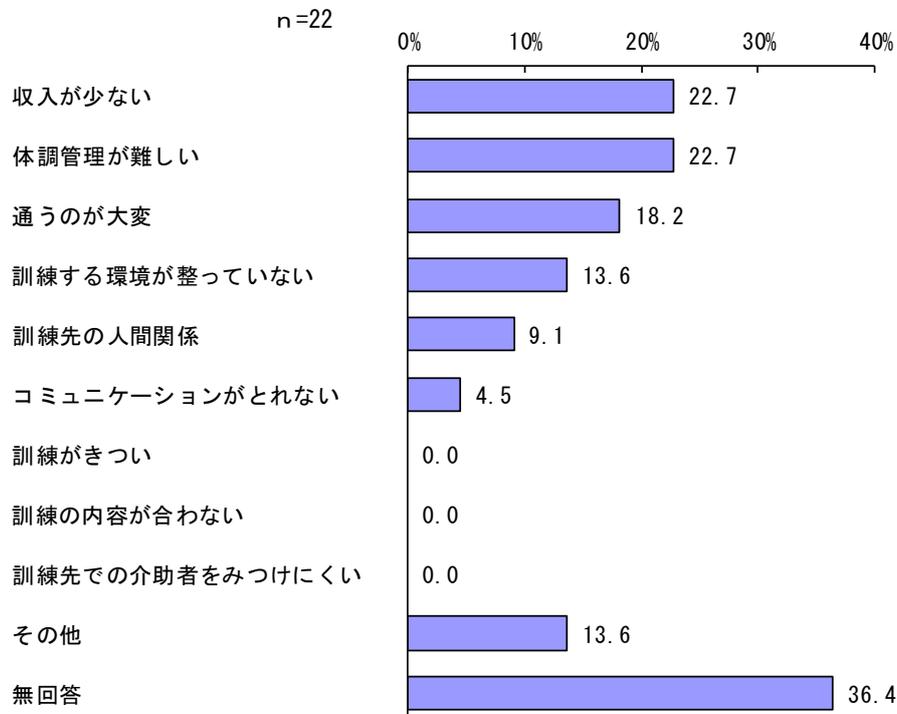


障害別に見ると、難病医療費等助成受給者以外のいずれの障害も「収入が少ない」が最も高く、特に精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では6割を超えています。難病医療費等助成受給者では「体調管理が難しい」が43.8%と高くなっています。



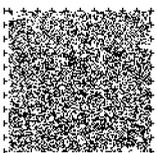
問 18 で「施設等で、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている」「日中一時支援・地域活動支援センターを利用している」と答えた方におうかがいします。

問 21 支援を受ける上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)



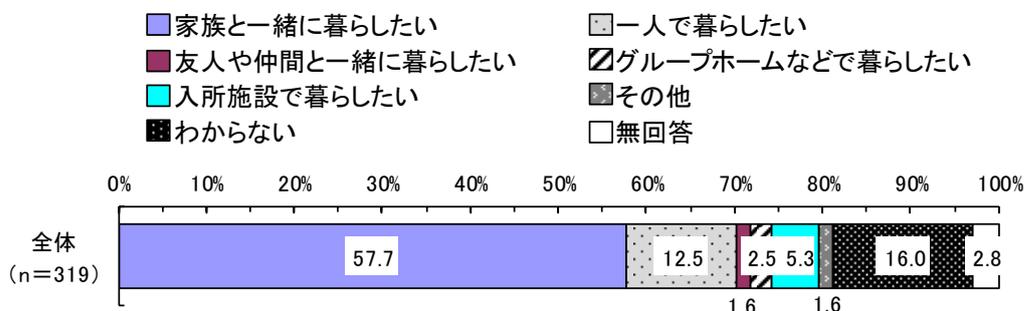
訓練施設や日中一時支援・地域活動支援センターで支援を受ける上での困りごとでは、「収入が少ない」と「体調管理が難しい」がともに 22.7%で最も高く、次いで「通うのが大変」が 18.2%、「訓練する環境が整っていない」が 13.6%と続いています。

また、「その他」では、「利用料がかかるので、毎日通うとなるとけっこう出費がかさむ」といった回答がありました。



6 将来の過ごし方について

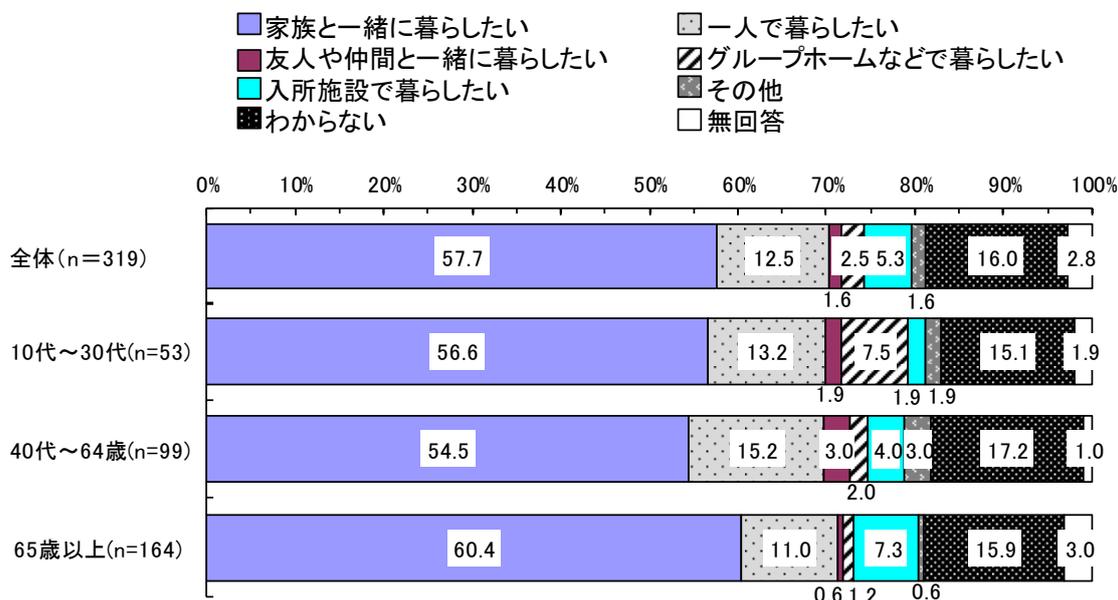
問 22 あなたは、将来（おおよそ5年後）どこで暮らしたいですか。



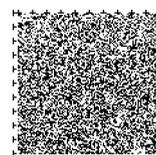
将来の過ごし方の希望では、「家族と一緒に暮らしたい」が57.7%と最も高く、次いで「一人で暮らしたい」が12.5%、「入所施設で暮らしたい」が5.3%となっています。一方、「わからない」は16.0%となっています。

また、「その他」では、「今の都営住宅で結婚したい」、「親と一緒にが一番ですが年々高齢になり不安」といった回答がありました。

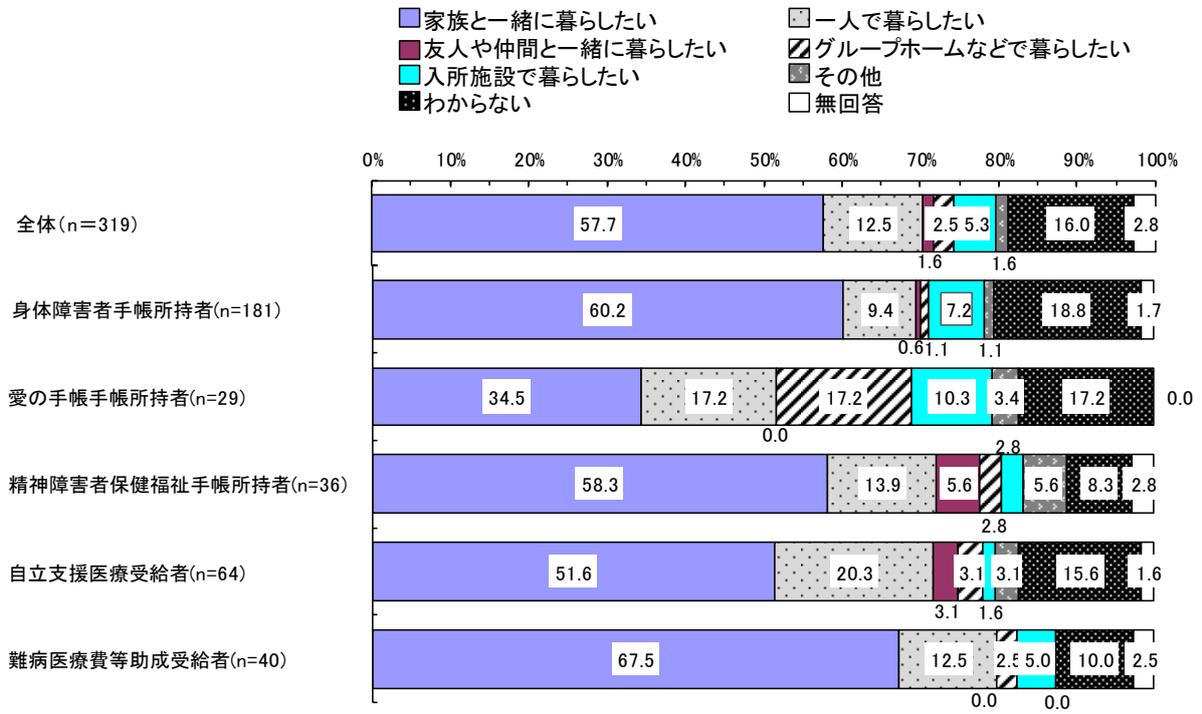
【年代別】



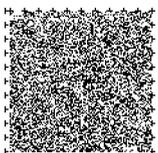
年代別に見ると、いずれの年代も「家族と一緒に暮らしたい」が5割を超えて最も高くなっています。また、10代から30代まででは「グループホームなどで暮らしたい」が7.5%と他の年代よりも高くなっています。



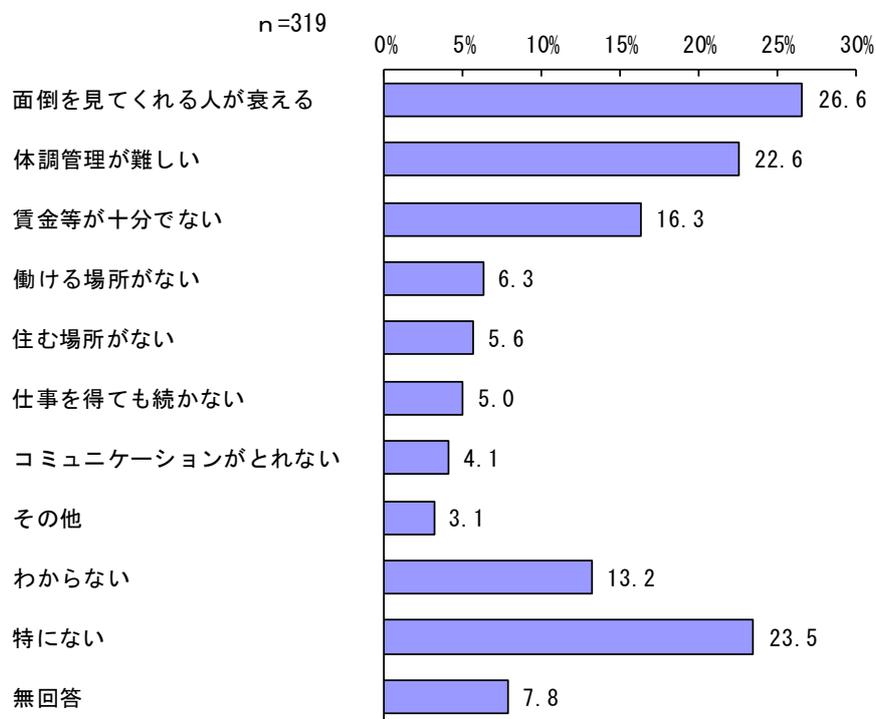
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者では「グループホームなどで暮らしたい」が17.2%と他の障害よりも突出して高くなっています。



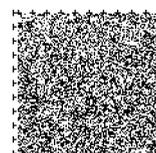
問 23 問 22 の回答を実現させるためにどのようなことが課題と感じますか。(あてはまるものすべてに○)



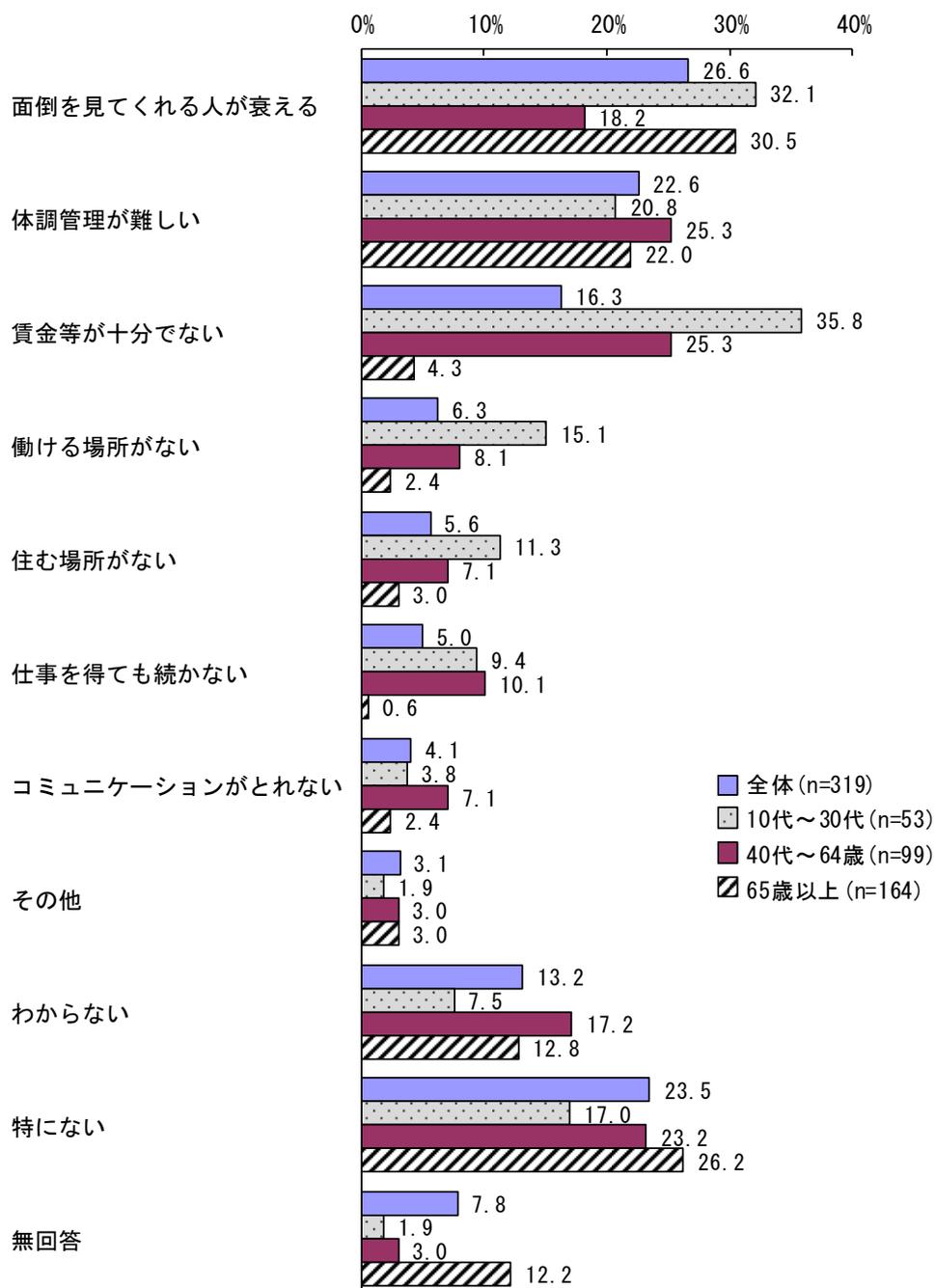
将来の過ごし方の希望に対する課題では、「面倒を見てくれる人が衰える」が 26.6%と最も高く、次いで「体調管理が難しい」が 22.6%、「賃金等が十分でない」が 16.3%と続いており、それ以外の項目はいずれも 1 割を切っています。

一方、「わからない」が 13.2%、「特にない」が 23.5%となっています。

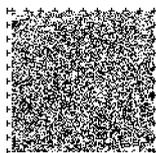
また、「その他」では、「今住んでいる近くに居たい」、「医療費、家の税金などを減らす」、「家賃が障害者雇用の賃金では厳しい」といった回答がありました。



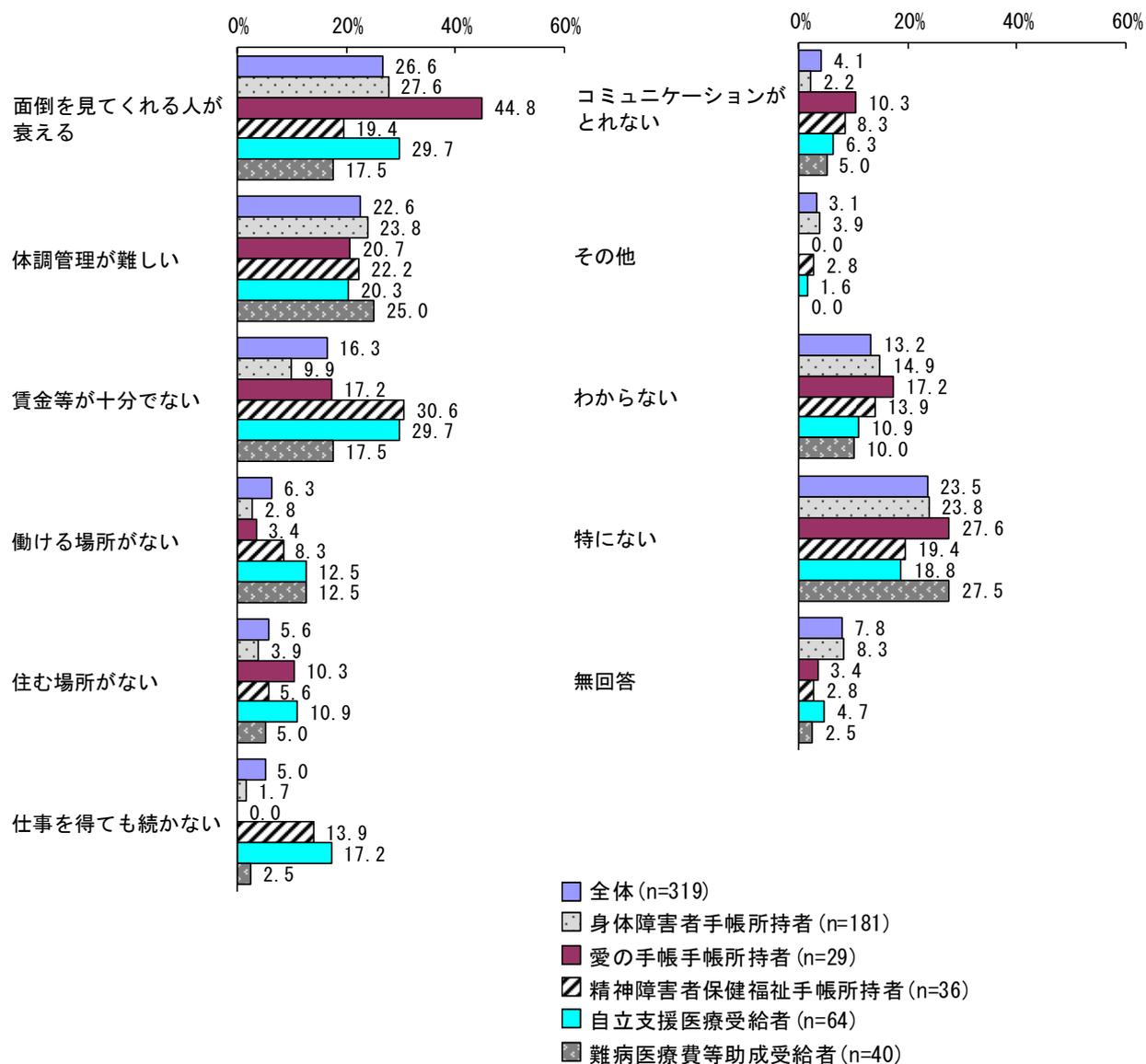
【年代別】



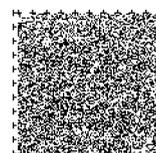
年代別に見ると、10代から64歳まででは「賃金等が十分でない」が最も高くなっています。また、10代から30代までと65歳以上では、「面倒を見てくれる人が衰える」が3割を超えて高くなっています。



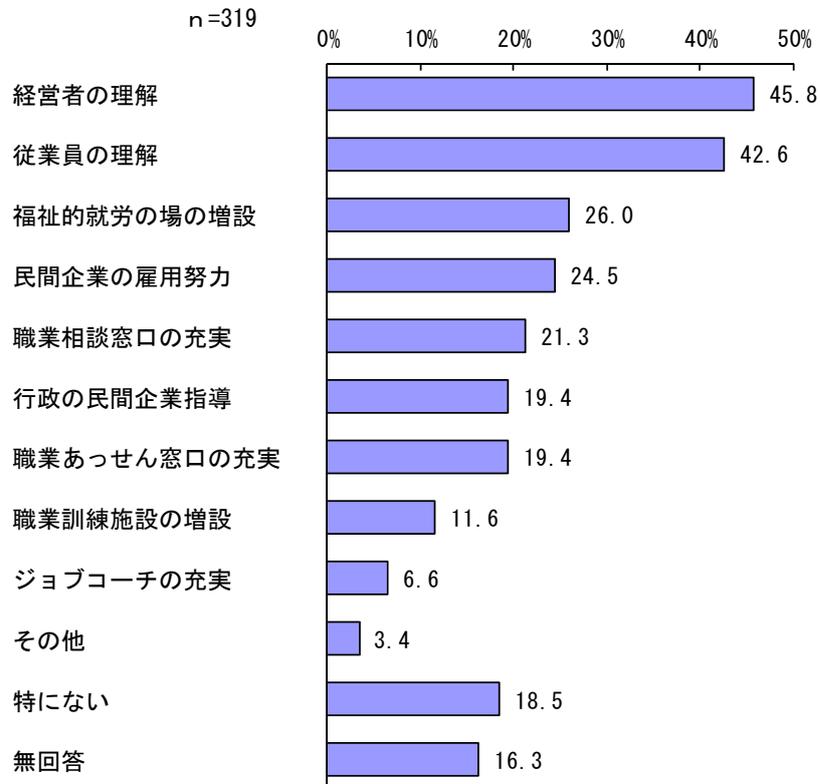
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者では「面倒を見てくれる人が衰える」が44.8%と他の障害よりも突出して高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では「賃金等が十分でない」が3割前後で高くなっています。

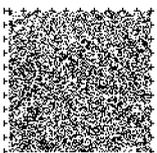


問 24 障害者の就業を促進するために、どのようなことが必要と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

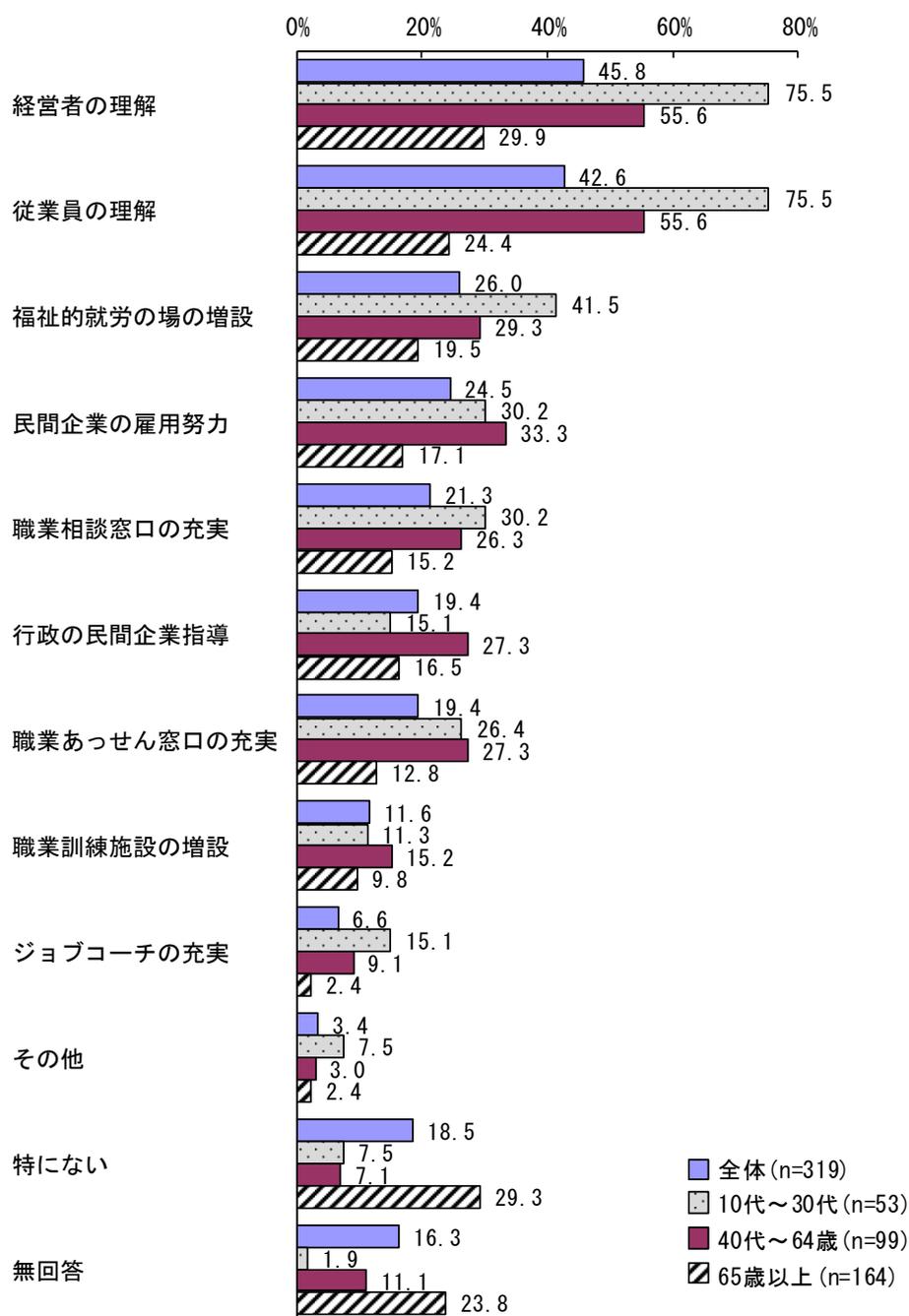


障害者の就業促進のため必要なことでは、「経営者の理解」が45.8%、「従業員の理解」が42.6%と働く場にいる人の理解が4割を超えて高く、次いで「福祉的就労の場の増設」が26.0%、「民間企業の雇用努力」が24.5%と続いています。

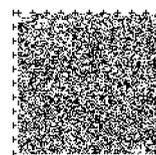
また、「その他」では、「民間企業に行政が指導」、「社会的理解」、「インフラの整備や障害者に向けた街づくり」といった回答がありました。



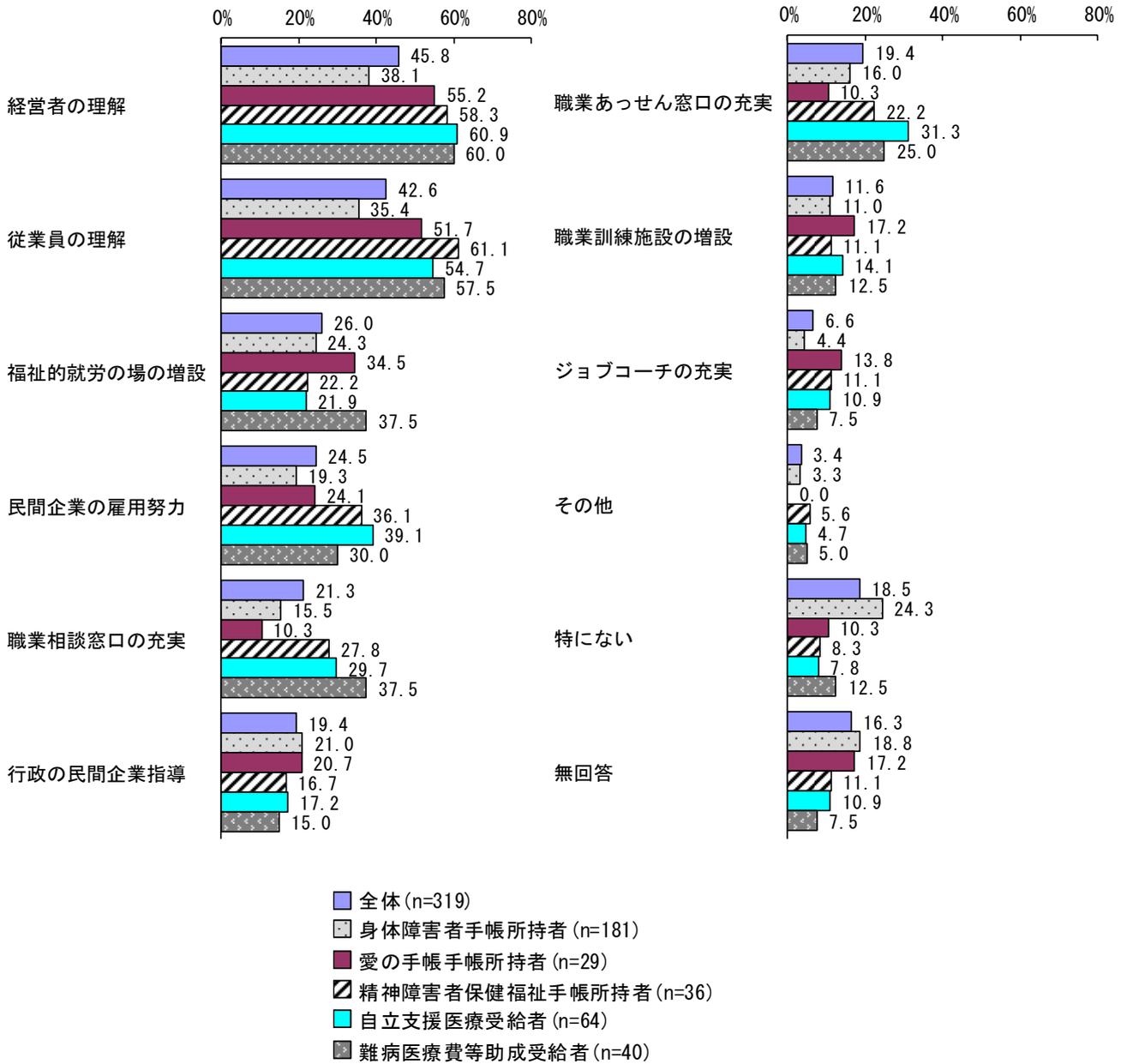
【年代別】



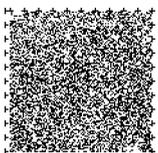
年代別に見ると、いずれの年代も「経営者の理解」と「従業員の理解」が高く、10代から30代まででは75.5%、40代から64歳まででは55.6%となっています。また、10代から30代まででは「福祉的就労の場の増設」が41.5%と他の年代よりも高くなっています。



【障害別】

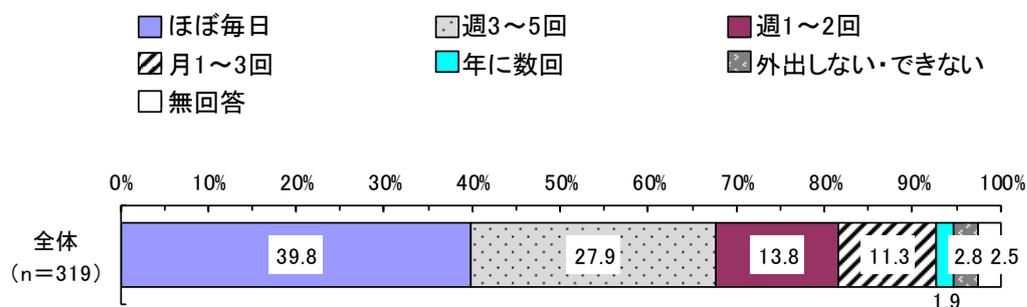


障害別に見ると、いずれの障害も「経営者の理解」と「従業員の理解」が高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者、難病医療費等助成受給者では、「民間企業の雇用努力」が3割を超えて高くなっています。



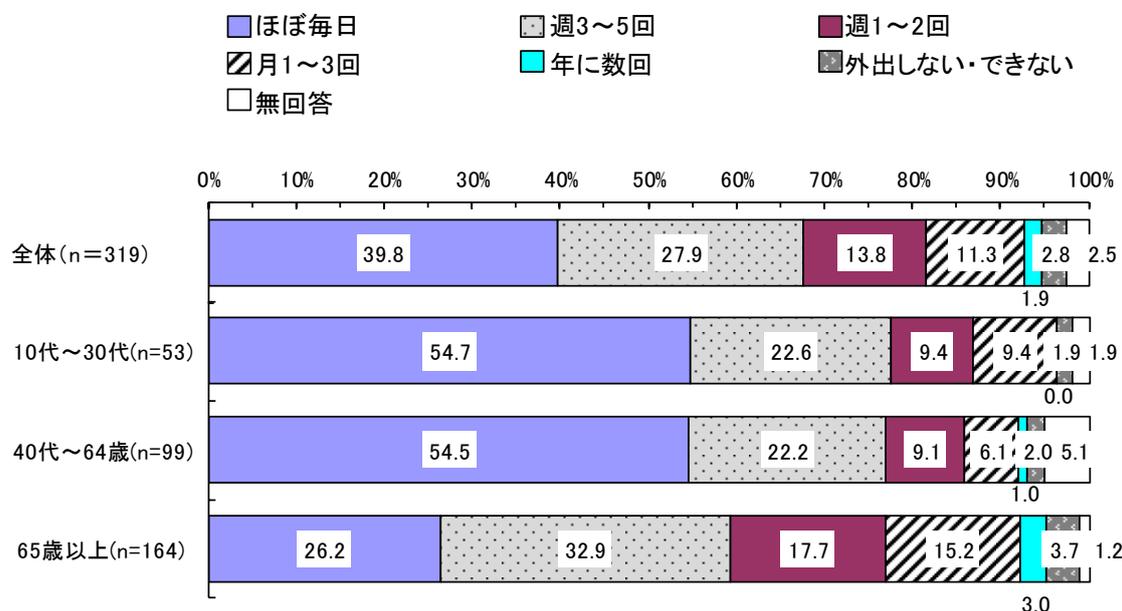
7 外出や活動などについて

問 25 あなたの外出する回数は、およそどのくらいですか。職場や学校への通勤・通学、病院への通院も回数に数えてください。(1つに○)

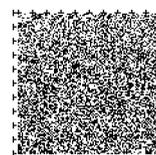


外出の頻度では、「ほぼ毎日」が39.8%と最も高く、次いで「週3~5回」が27.9%、「週1~2回」が13.8%となっています。

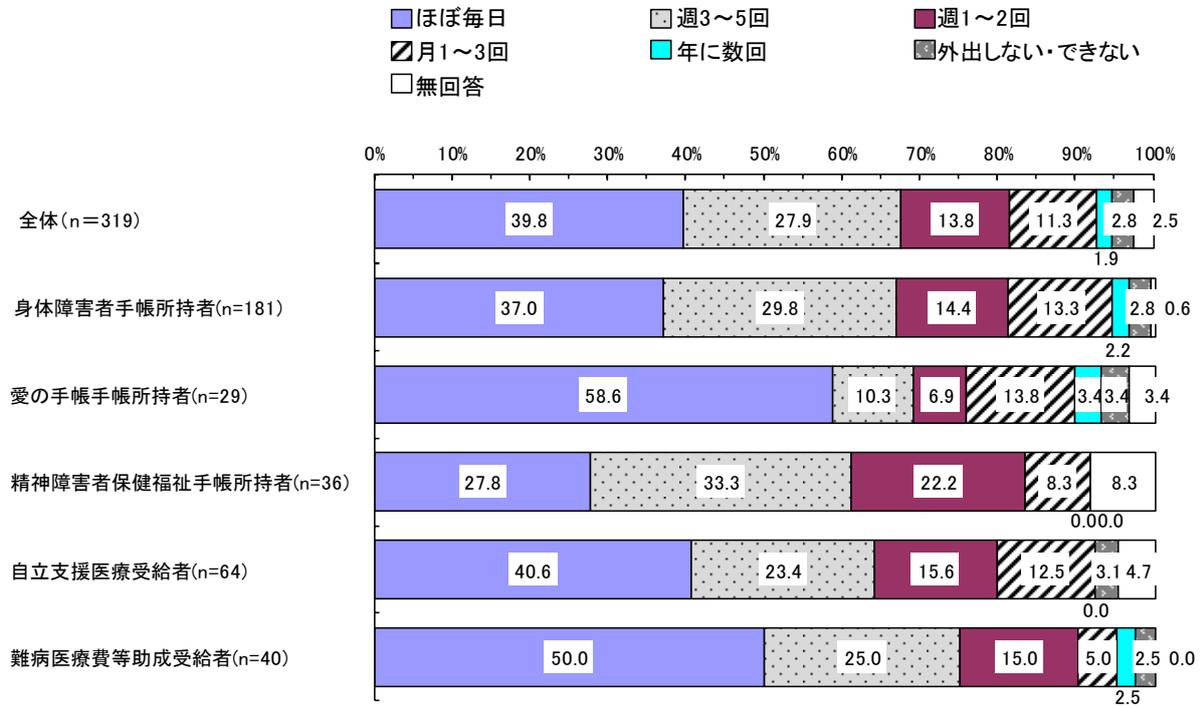
【年代別】



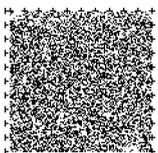
年代別に見ると、10代から64歳までに比べ、65歳以上では「ほぼ毎日」外出する割合が半分以下となっています。



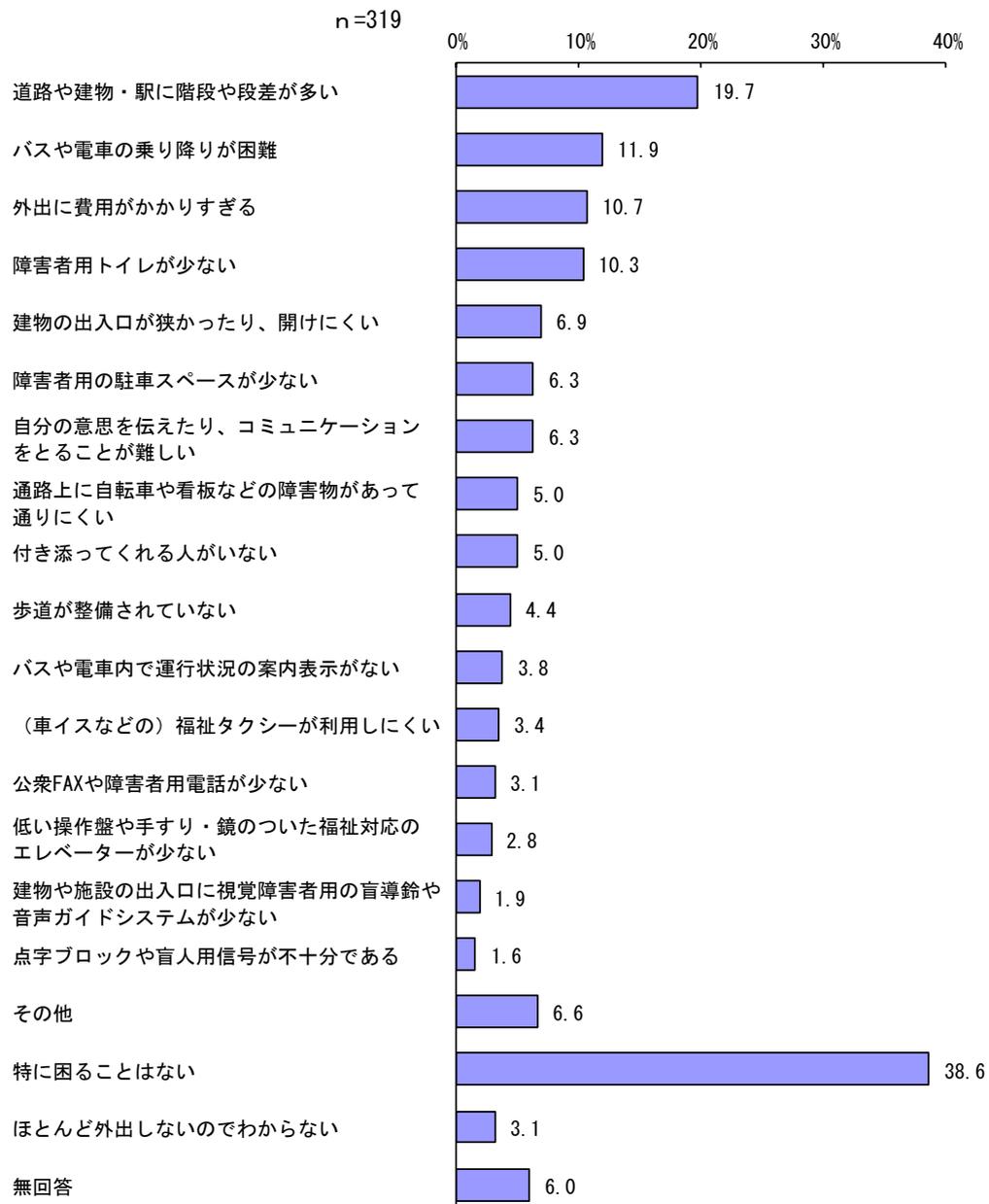
【障害別】



障害別に見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「ほぼ毎日」が27.8%と他の障害よりも低くなっています。



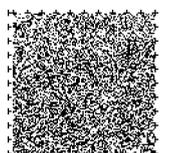
問 26 外出する時に、不便に感じることや困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



外出の際の困りごとでは、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」が 19.7%と最も高く、次いで「バスや電車の乗り降りが困難」が 11.9%、「外出に費用がかかりすぎる」が 10.7%、「障害者用トイレが少ない」が 10.3%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は 38.6%となっています。

また、「その他」では、「電車で立つ事が多い」、「温泉など入浴の手すりがなさすぎる」、「自転車内の範囲しか外出できない」といった回答がありました。

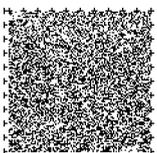


【歩道が整備されていない具体的な場所】

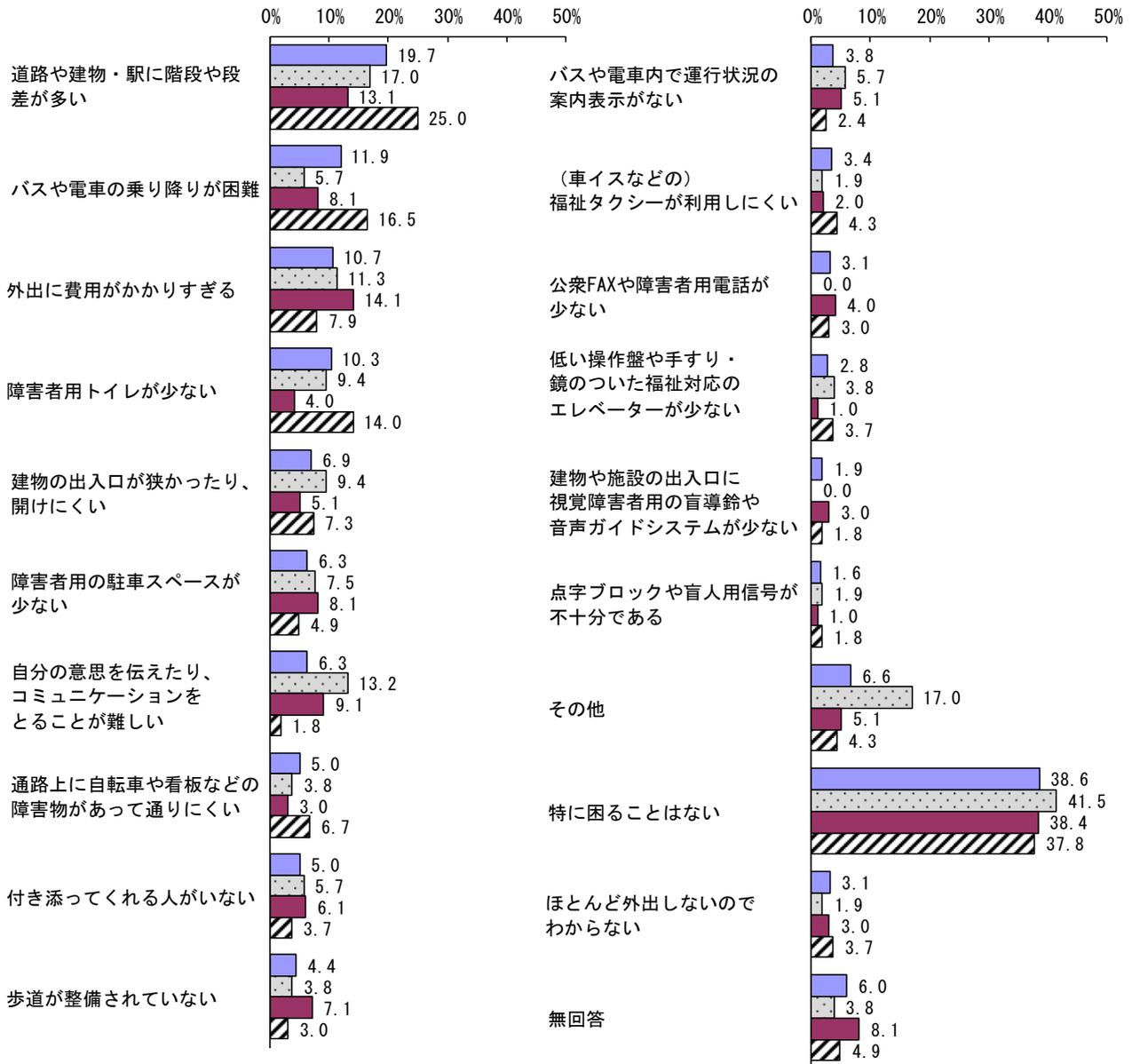
- ・村山団地周辺～桜街道駅
- ・伊奈平の歩道はせまく自転車では通りにくい。
- ・急にせまくなったり段差が出来たり。

【障害者用の駐車スペースが少ない具体的な場所】

- ・あらゆる場所。案内人がいない場所では障害者でない車が利用されていると感じることがよくある。
- ・スーパーなど。
- ・イオン武蔵村山。
- ・駅の近く。

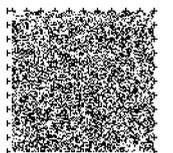


【年代別】

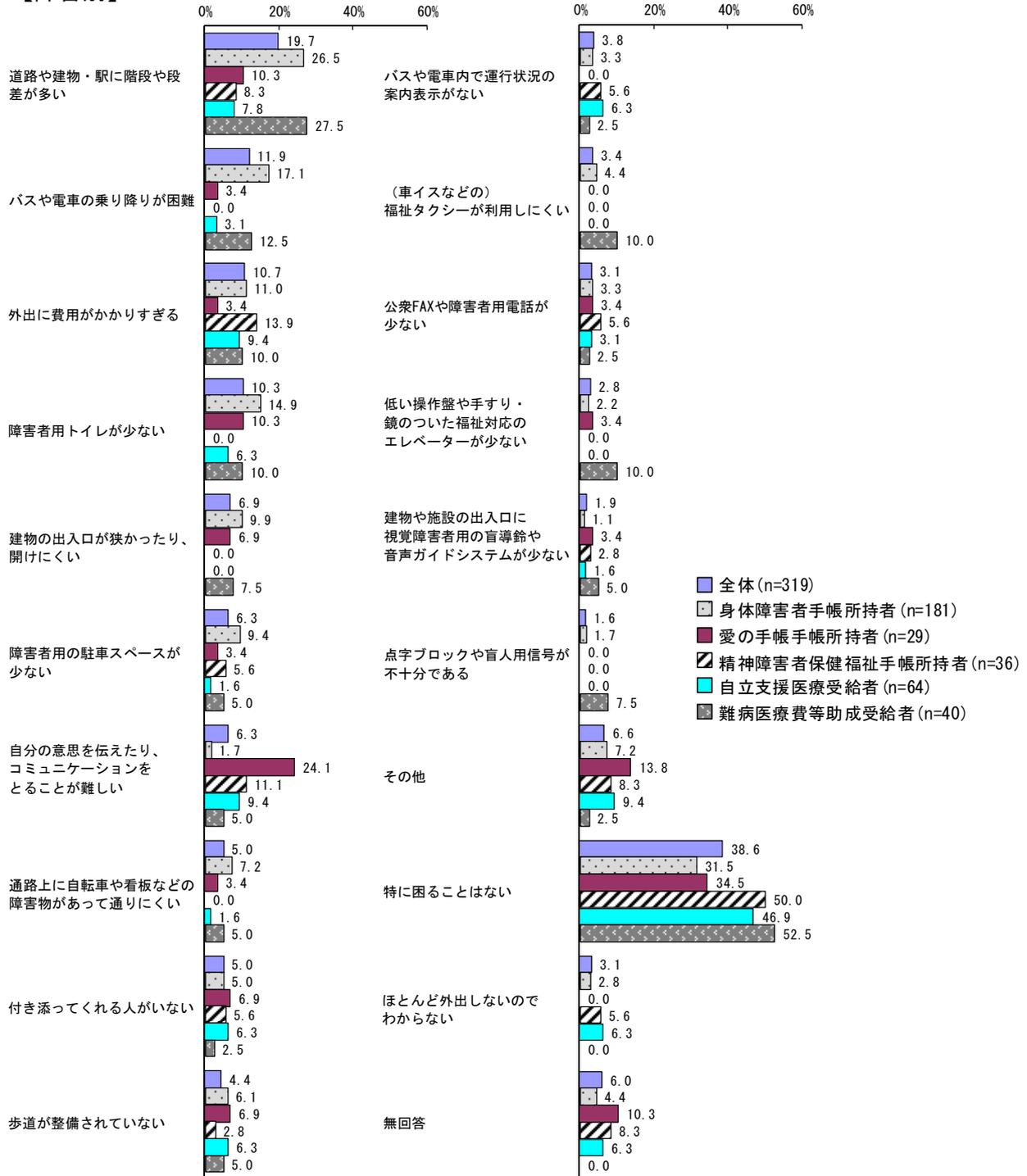


■ 全体 (n=319)
 ■ 10代～30代 (n=53)
 ■ 40代～64歳 (n=99)
 ■ 65歳以上 (n=164)

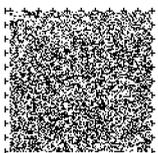
年代別に見ると、10代から30代まででは「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることが難しい」が13.2%、65歳以上では「バスや電車の乗り降りが困難」が16.5%と他の年代よりも高くなっています。



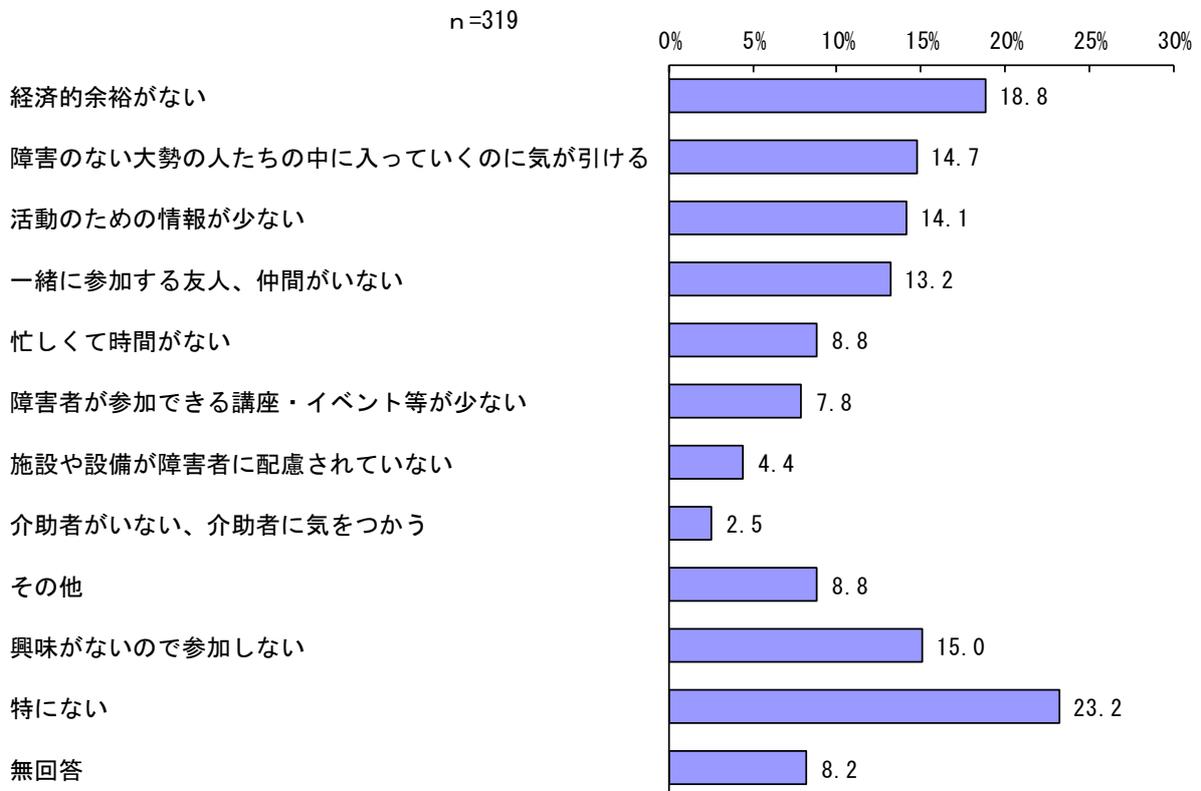
【障害別】



障害別に見ると、身体障害者手帳所持者と難病医療費等助成受給者では「障害者用トイレが少ない」、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」、「バスや電車の乗り降りが困難」といったバリアフリーでの困りごとが高い傾向にあります。また、愛の手帳所持者では「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることが難しい」が24.1%と他の障害よりも突出して高くなっています。



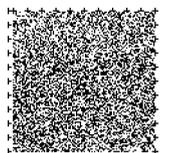
問 27 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)



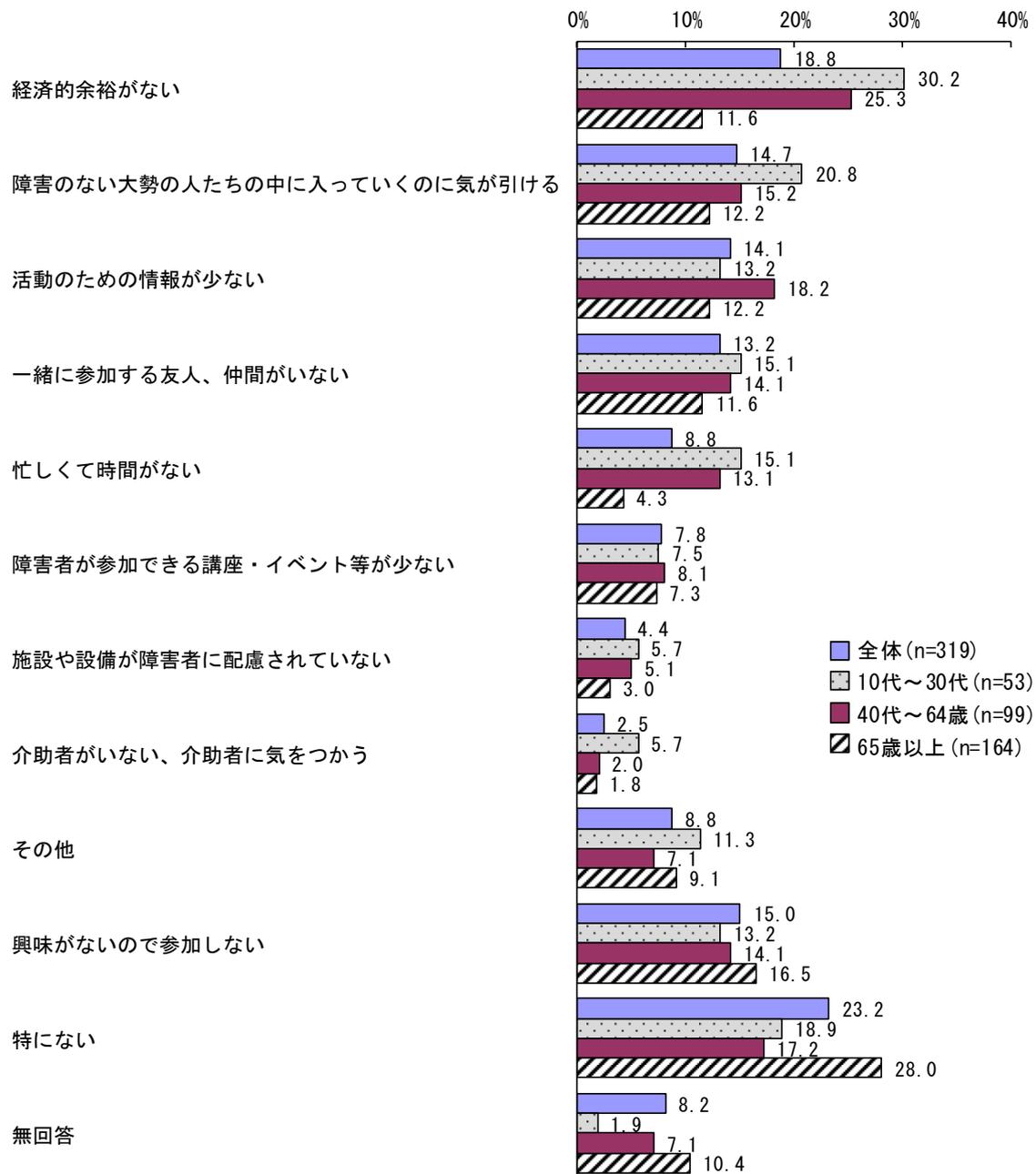
余暇活動での困りごとや活動していない理由では、「経済的余裕がない」が 18.8%と最も高く、次いで「障害のない大勢の人たちの中に入っていきの気が引ける」が 14.7%、「活動のための情報が少ない」が 14.1%、「一緒に参加する友人、仲間がいない」が 13.2%と続いています。

一方、「興味がないので参加しない」が 15.0%、「特になし」が 23.2%となっています。

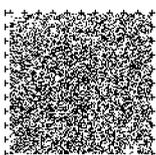
また、「その他」では、「体力的に自信がない」、「障害のため」、「高齢のため」といった回答がありました。



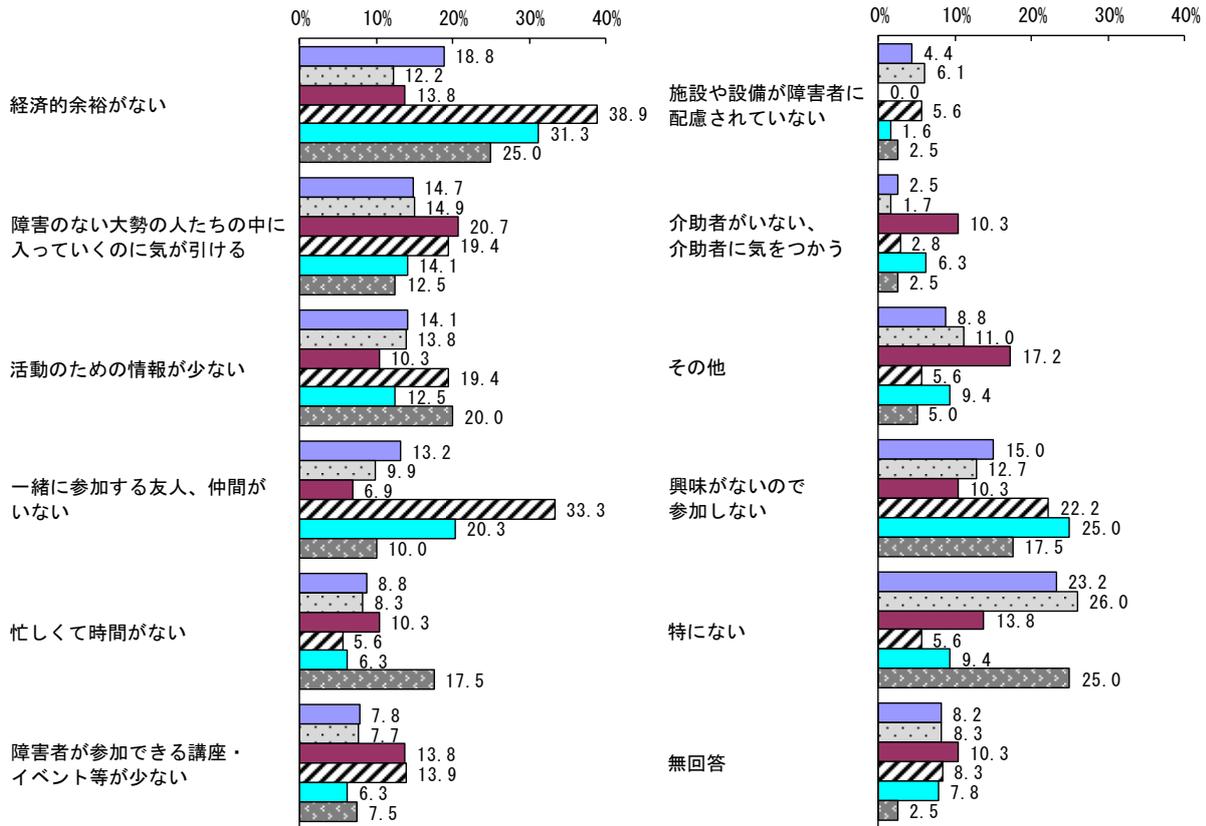
【年代別】



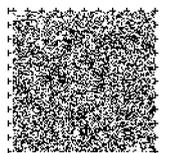
年代別に見ると、いずれの年代も「障害のない大勢の人たちの中に入っていきの気が引ける」、「経済的余裕がない」が高くなっています。また、「忙しくて時間がない」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあります。



【障害別】

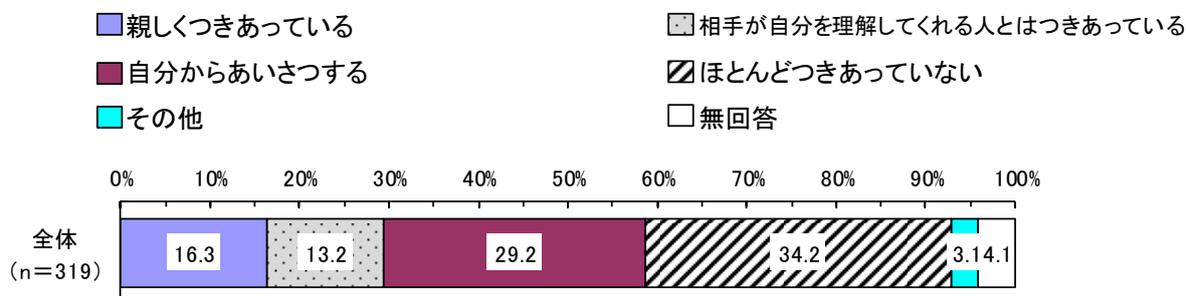


障害別に見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「一緒に参加する友人、仲間がない」が、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では「経済的余裕がない」が3割を超えて、他の障害よりも高くなっています。



8 コミュニティ（地域）について

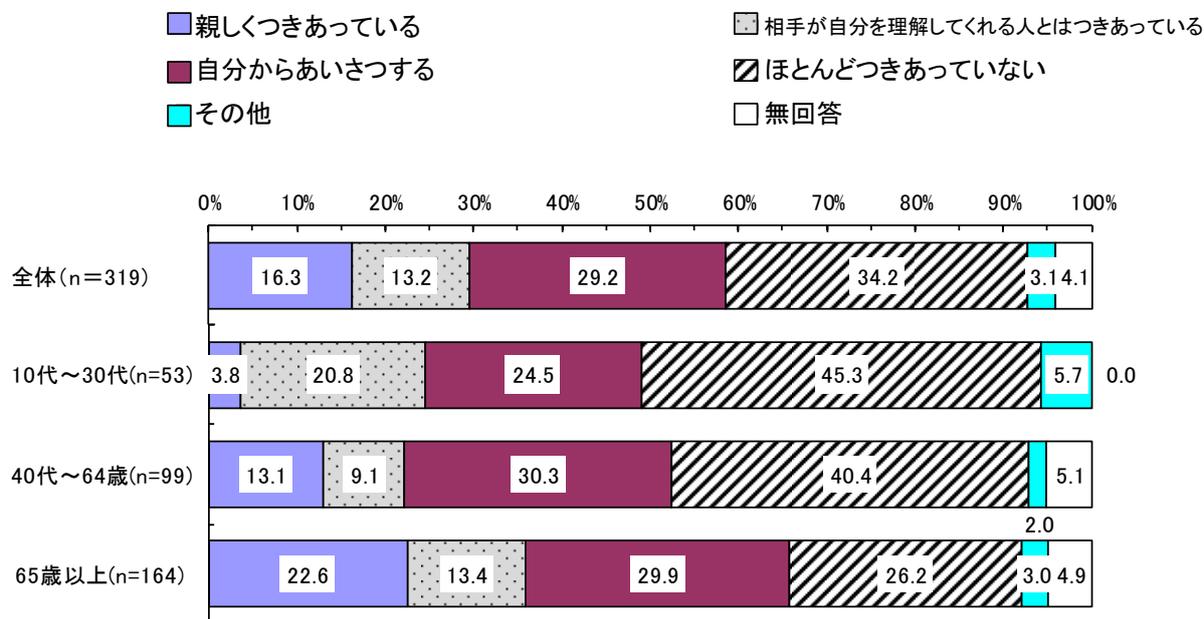
問 28 あなたは、近所や地域の人とどの程度のつきあい方をしていますか。（1つに○）



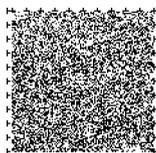
近所や地域の人とのつきあい方では、「ほとんどつきあっていない」が34.2%と最も高く、次いで「自分からあいさつする」が29.2%、「親しくつきあっている」が16.3%、「相手が自分を理解してくれる人とはつきあっている」が13.2%となっています。

また、「その他」では、「近所の人をほとんど知らない」、「交流は少ない」といった回答がありました。

【年代別】

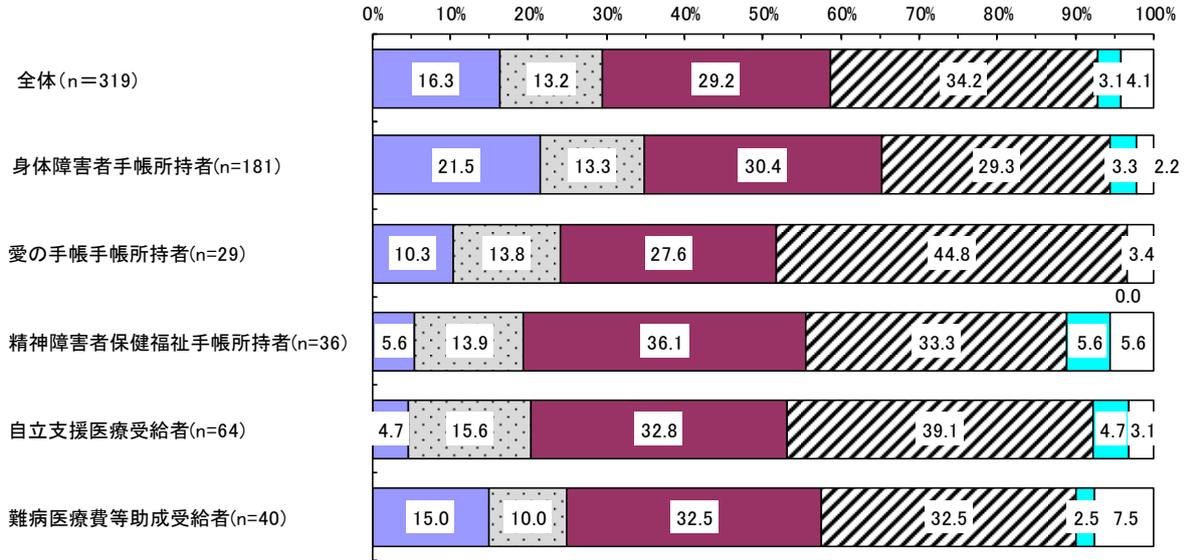


年代別に見ると、「親しくつきあっている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、65歳以上では22.6%となっています。

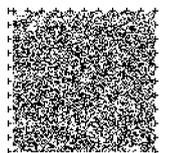


【障害別】

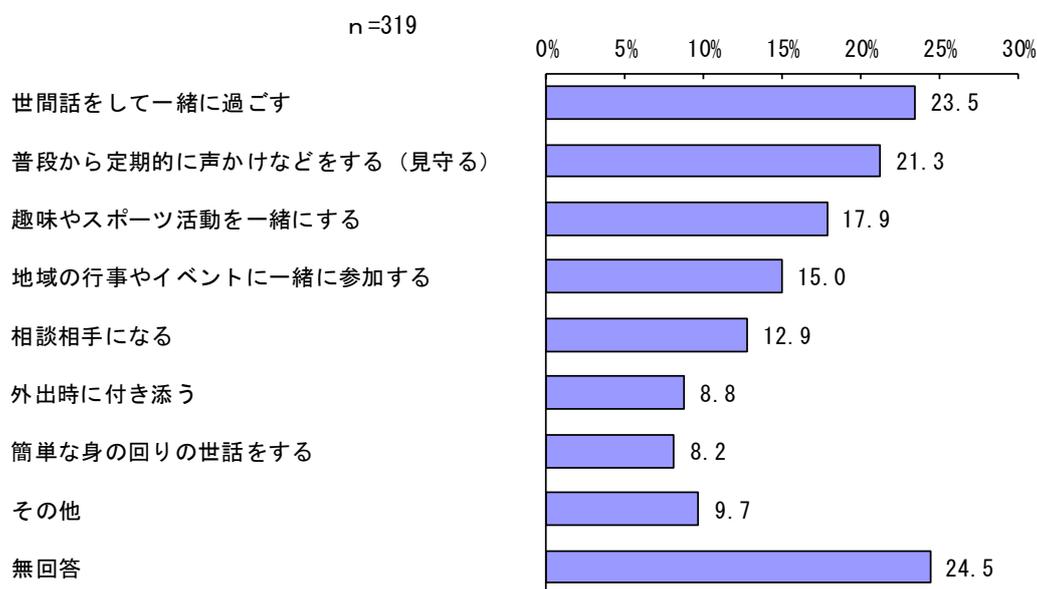
- 親しくつきあっている
- 相手が自分を理解してくれる人とはつきあっている
- 自分からあいさつする
- ほとんどつきあっていない
- その他
- 無回答



障害別に見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では「親しくつきあっている」が10%を切って他の障害よりも低くなっています。

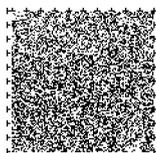


問 29 あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

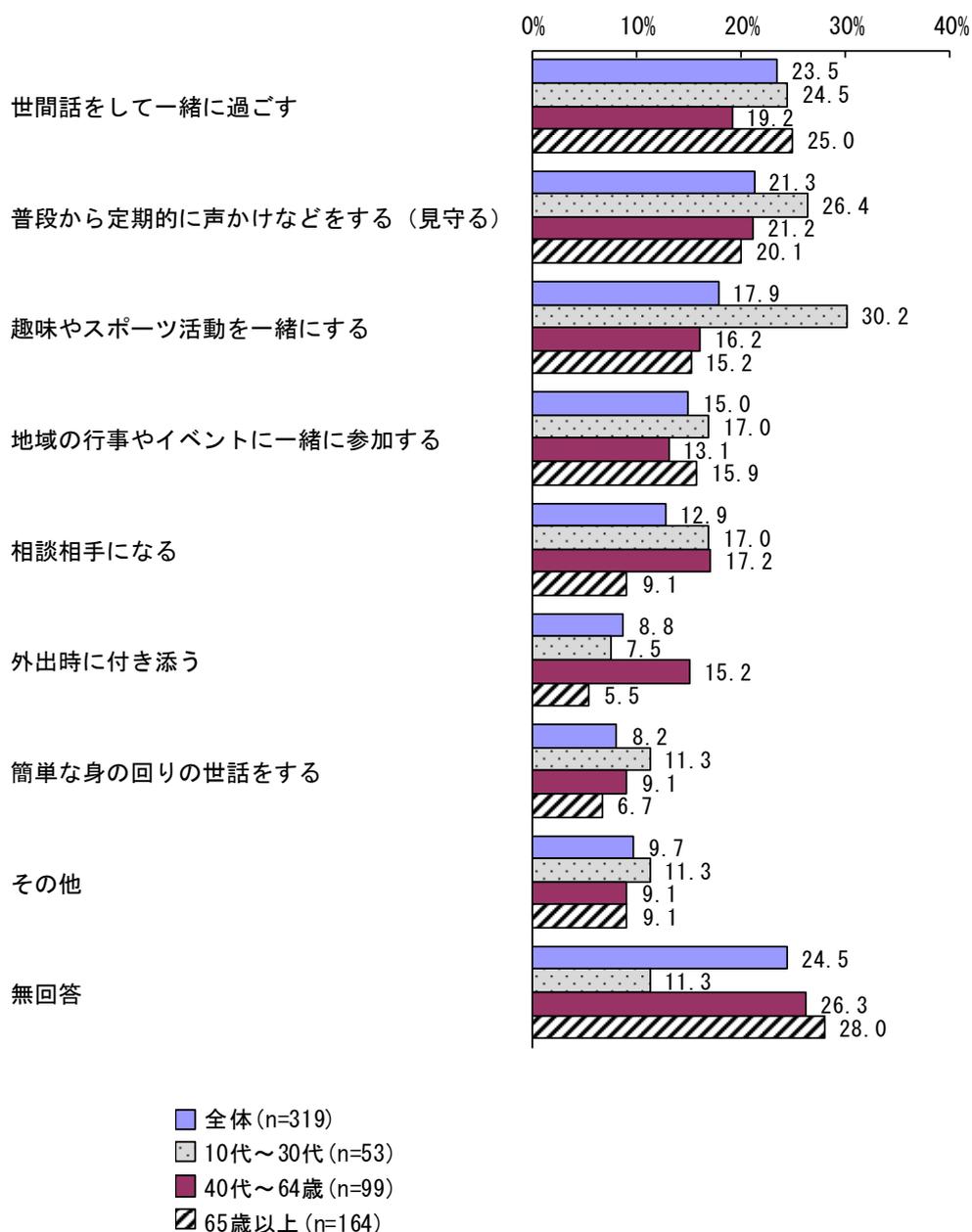


地域の方がボランティア活動をしたいと思った際にあつたらいい支援・交流では、「世間話をして一緒に過ごす」が23.5%と最も高く、次いで「普段から定期的に声かけなどをする (見守る)」が21.3%、「趣味やスポーツ活動を一緒にする」が17.9%と続いています。

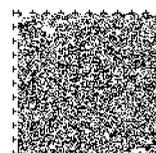
また、「その他」では、「どうしても辛い時、サポートしてくれる」、「あいさつ程度」、「つきあいがいいのでわからない」といった回答がありました。



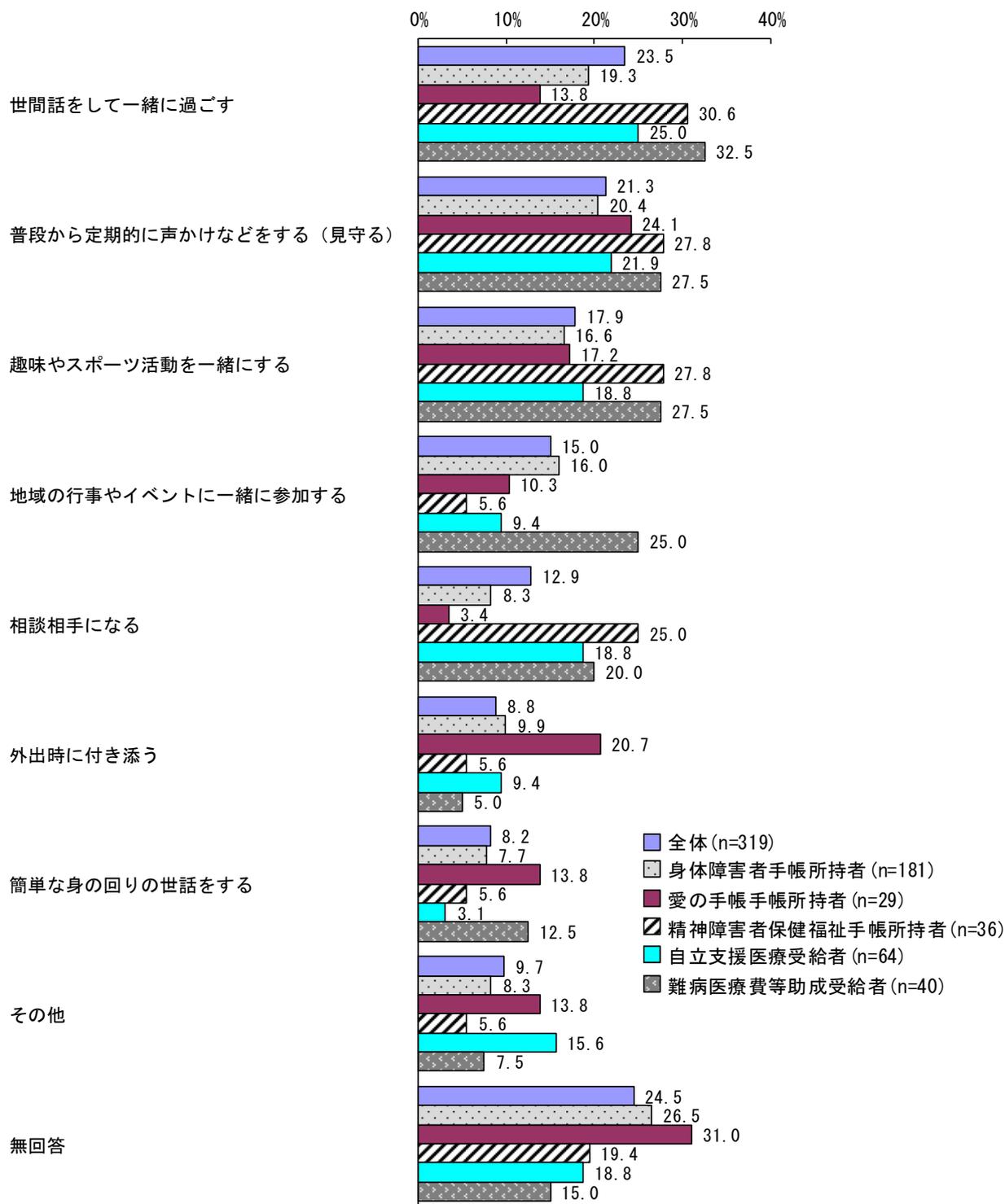
【年代別】



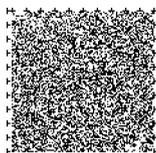
年代別に見ると、10代から30代まででは「趣味やスポーツ活動を一緒にする」が30.2%と他の年代よりも高くなっています。また、40代から64歳まででは「外出時に付き添う」が15.2%と他の年代よりも高くなっています。



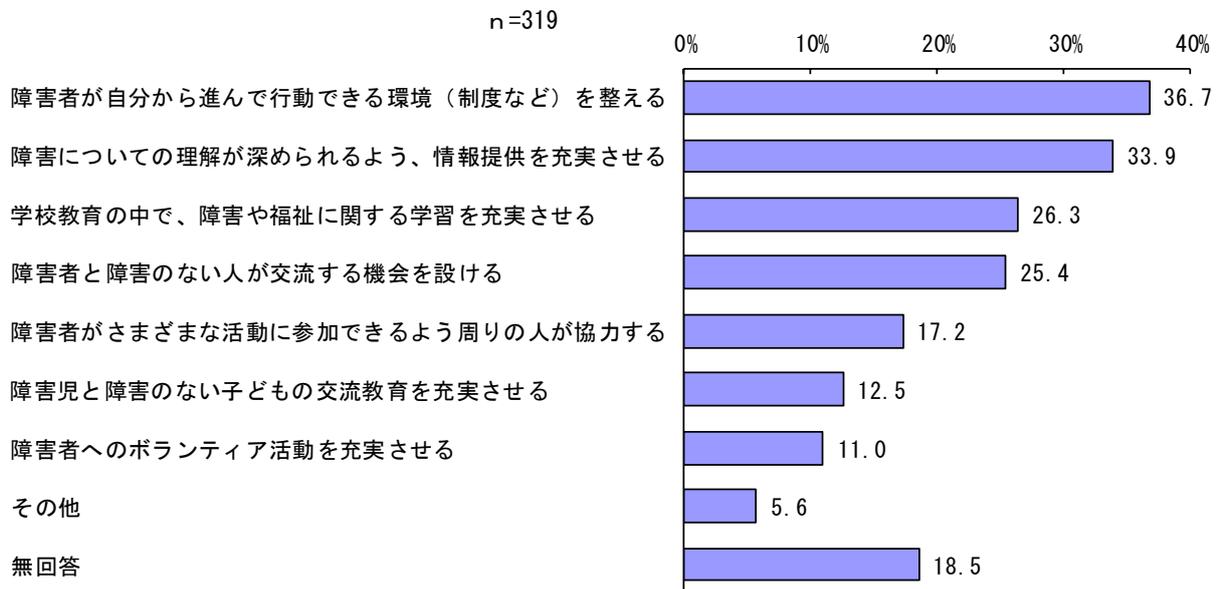
【障害別】



障害別に見ると、「普段から定期的に声かけなどをする (見守る)」、「世間話をして一緒に過ごす」はいずれの障害でも高くなっています。また、愛の手帳所持者では「外出時に付き添う」が20.7%と他の障害よりも突出して高くなっています。

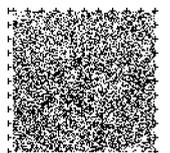


問 30 障害者と障害のない人がお互いに理解しあい、共に生きる社会をつくっていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

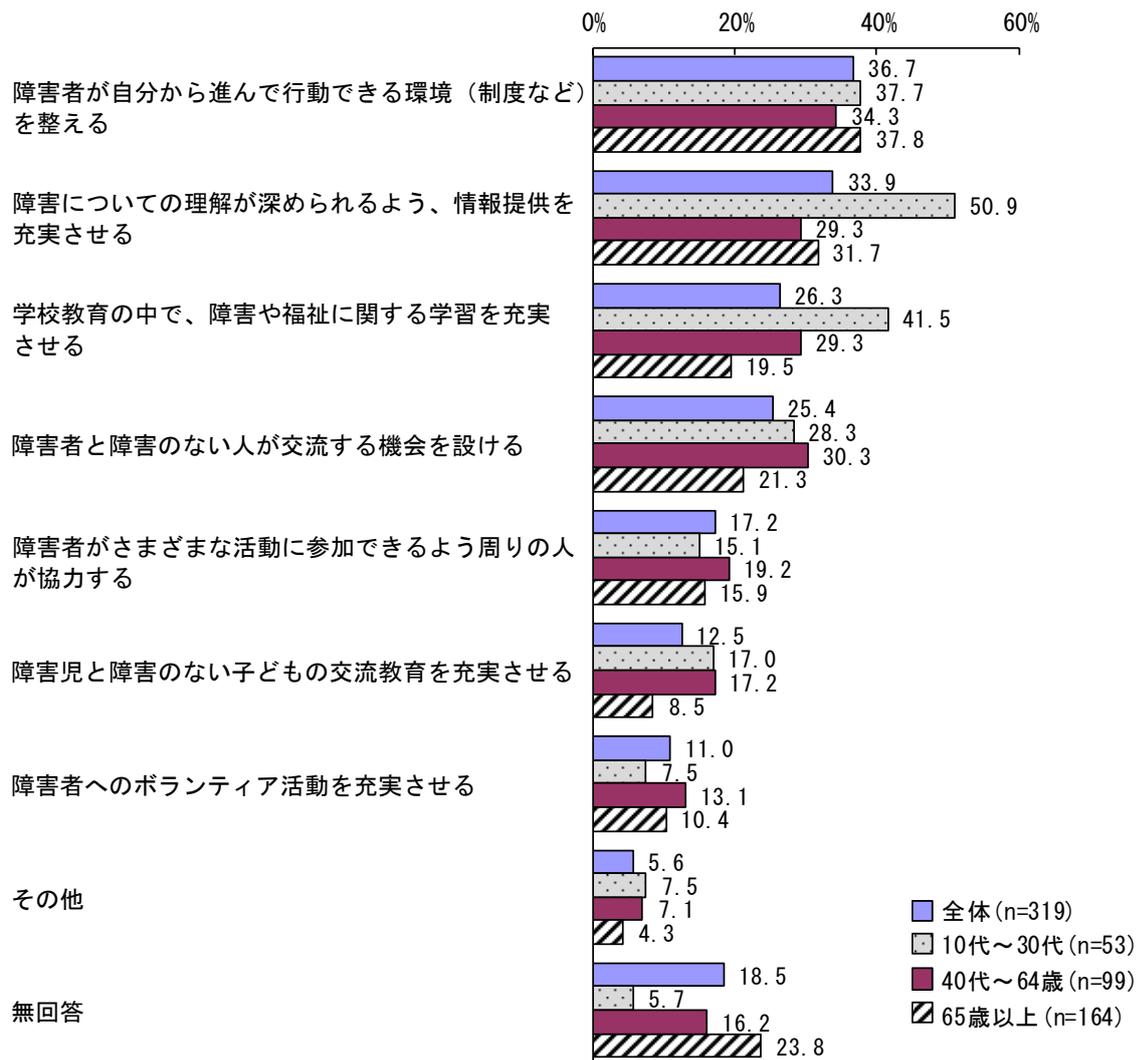


共生社会に必要なことでは、「障害者が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える」が 36.7%と最も高く、次いで「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」が 33.9%、「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」が 26.3%、「障害者と障害のない人が交流する機会を設ける」が 25.4%と続いています。

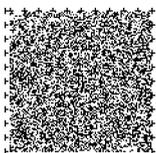
また、「その他」では、「障害者を隔離するのではなく、子どもの頃から一緒に教育を行う時間を作る」、「外見で障害の有無を判断するのは、グレーゾーンだからこそ苦しんでいる事を知って欲しい」といった回答がありました。



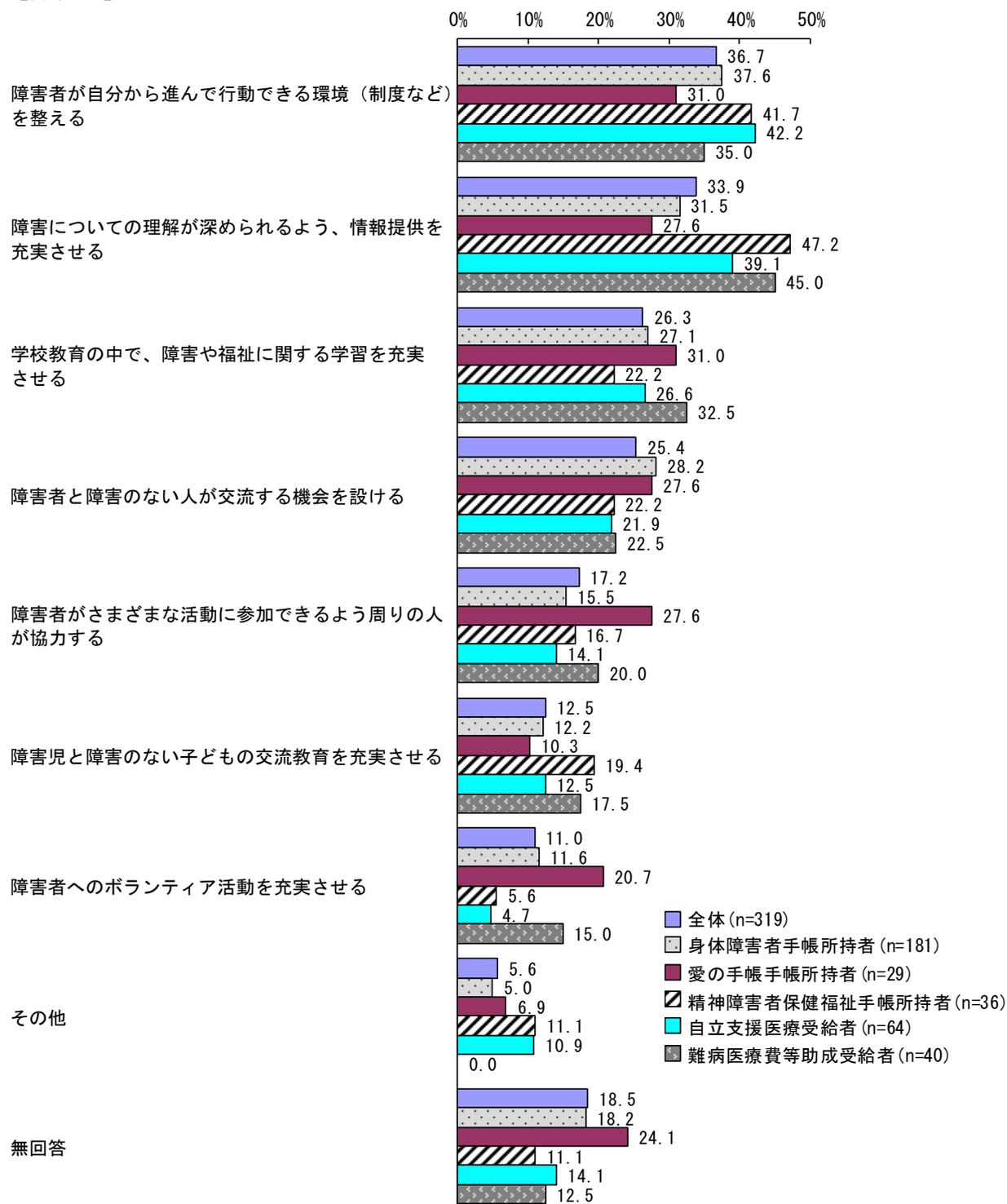
【年代別】



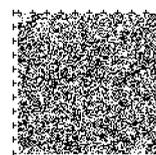
年代別に見ると、「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」は年齢が下がるにつれて高くなる傾向にあり、10代から30代まででは41.5%と他の年代よりも高くなっています。



【障害別】

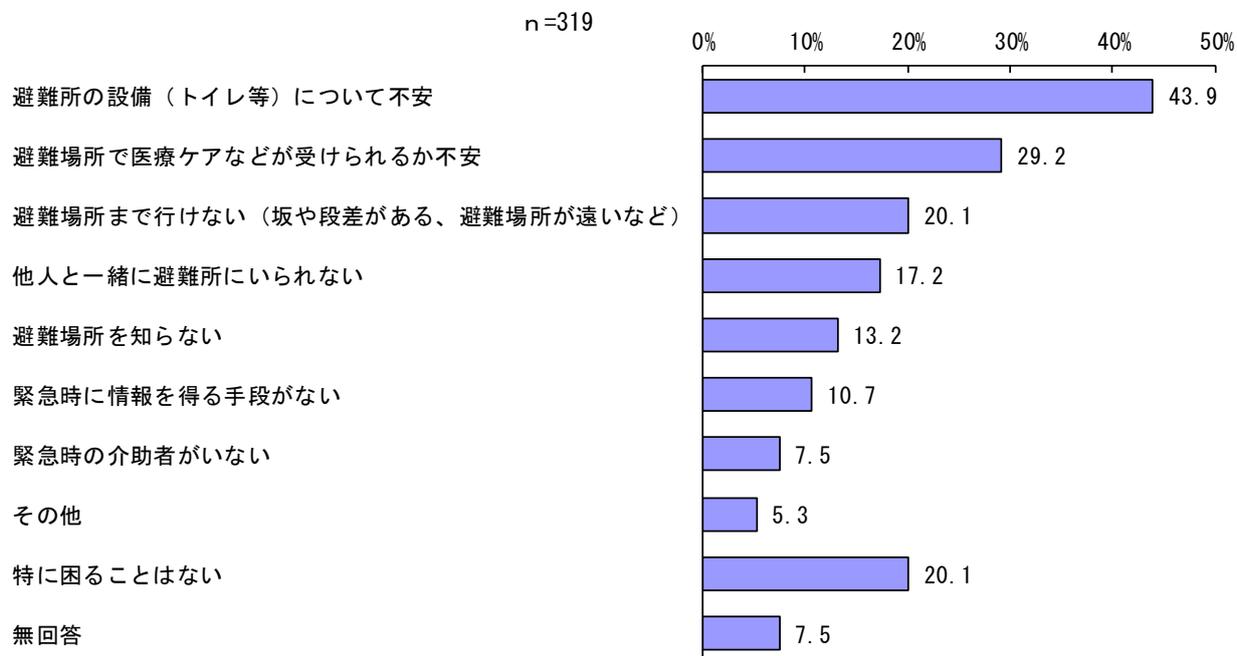


障害別に見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者と難病医療費等助成受給者では「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」が4割を超えて最も高く、それ以外の障害では「障害者が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える」が最も高くなっています。



9 防災対策について

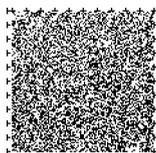
問 31 あなたが地震など災害時に困ることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)



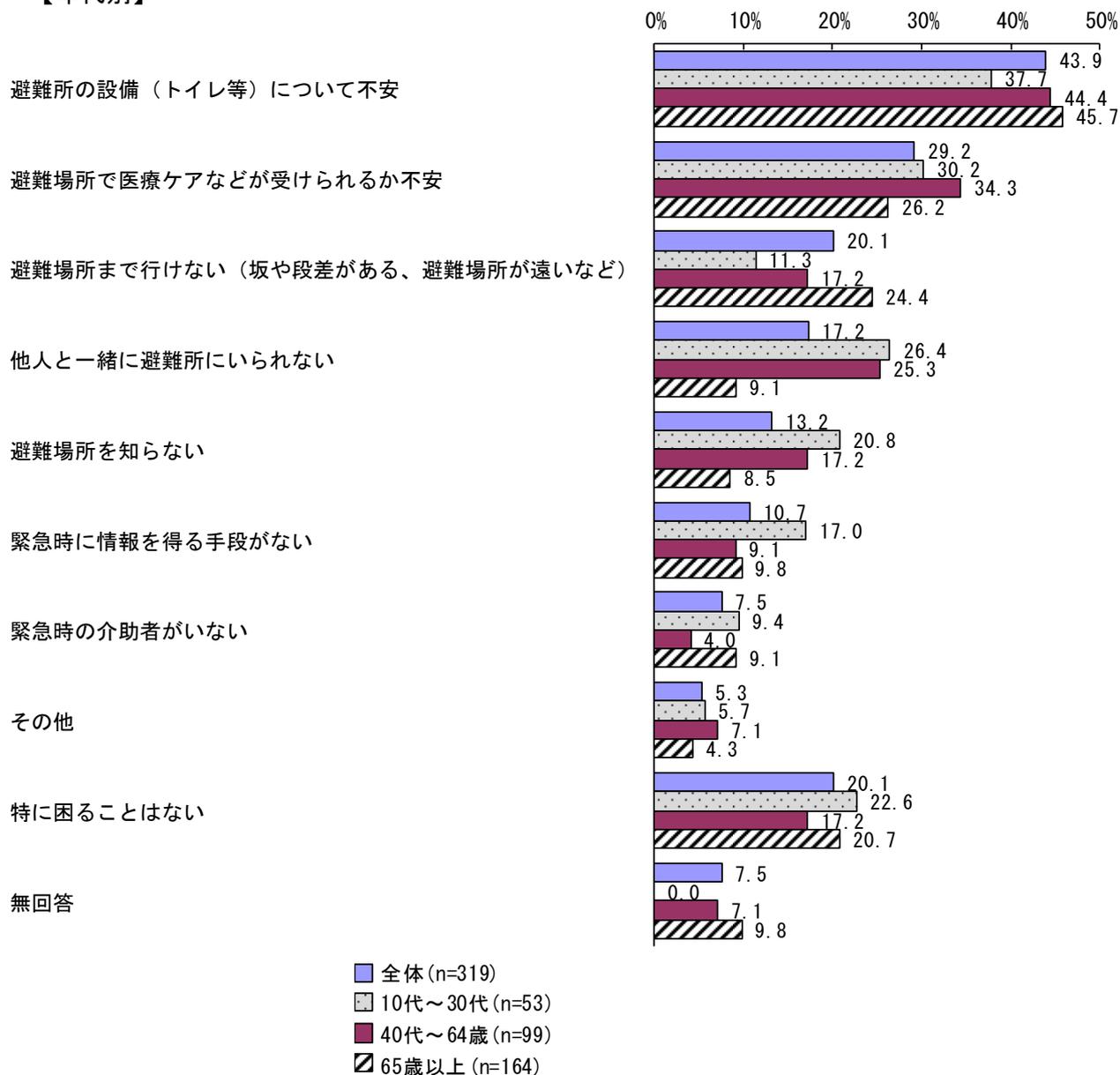
災害時の困りごとでは、「避難所の設備（トイレ等）について不安」が43.9%と最も高く、次いで「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が29.2%、「避難場所まで行けない」が20.1%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は20.1%となっています。

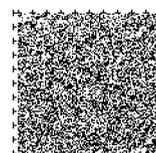
また、「その他」では、「1人では動けない」、「薬がたりなくなる事」、「ペットをつれていけない」、「避難が長期に及ぶ場合は、障害者に特化した避難所が必要」といった回答がありました。



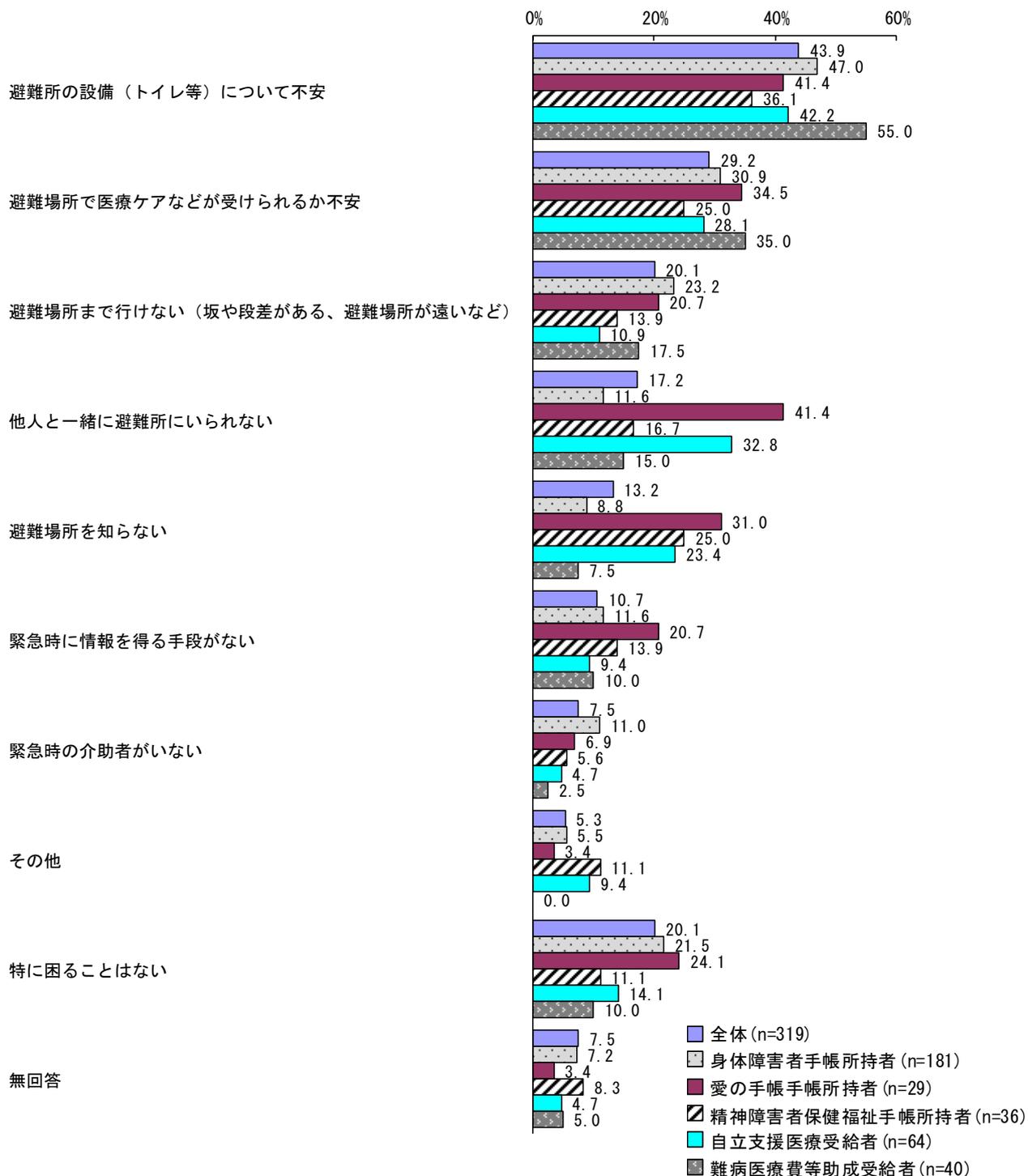
【年代別】



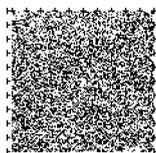
年代別に見ると、いずれの年代も「避難所の設備（トイレ等）について不安」、「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が高くなっています。また、10代から64歳まででは「他人と一緒に避難所にいられない」、「避難場所を知らない」が65歳以上に比べ高く、10代から30代まででは「緊急時に情報を得る手段がない」が17.0%と他の年代よりも高くなっています。



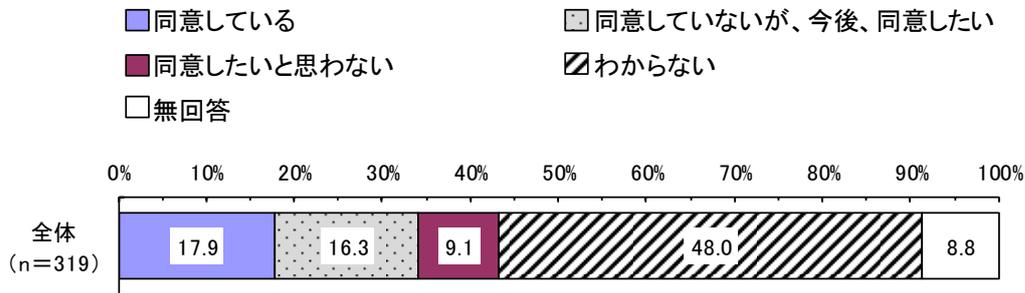
【障害別】



障害別に見ると、いずれの障害も「避難所の設備（トイレ等）について不安」、「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が高くなっています。また、身体障害者手帳所持者では「緊急時の介助者がいない」が11.0%であり、愛の手帳所持者では「他人と一緒に避難所にいられない」が41.4%と、それぞれ他の障害よりも高くなっています。

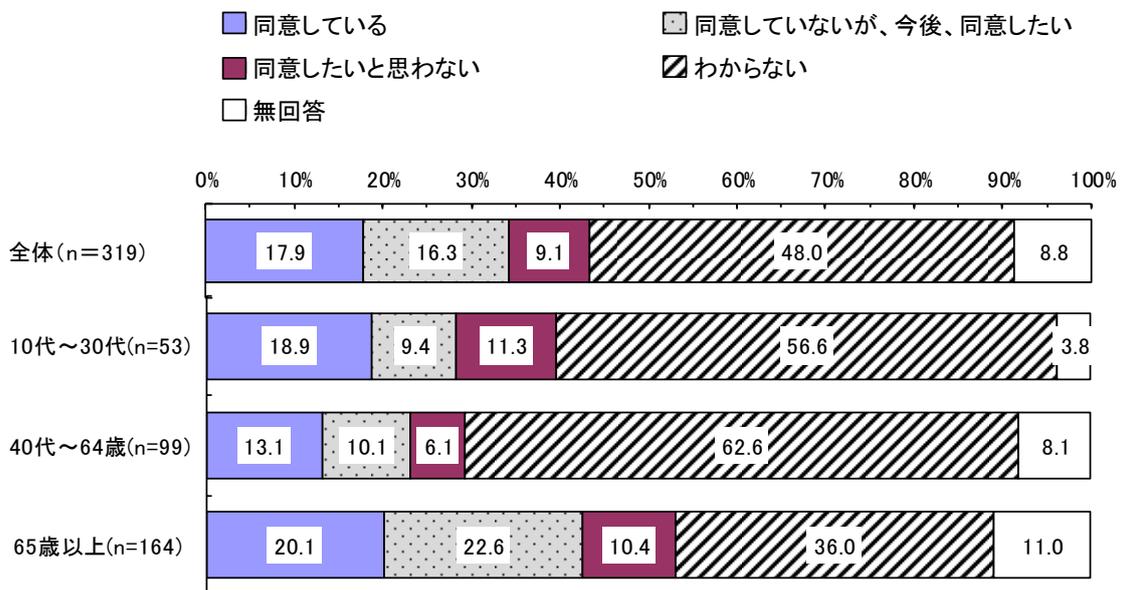


問 32 あなたは、避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供に同意をしていますか。(1つに○)

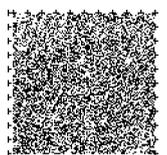


避難行動要支援者名簿の情報提供の同意有無では、「わからない」が 48.0%と最も高く、次いで「同意している」が 17.9%、「同意していないが、今後、同意したい」が 16.3%となっています。一方、「同意したいと思わない」は 9.1%となっています。

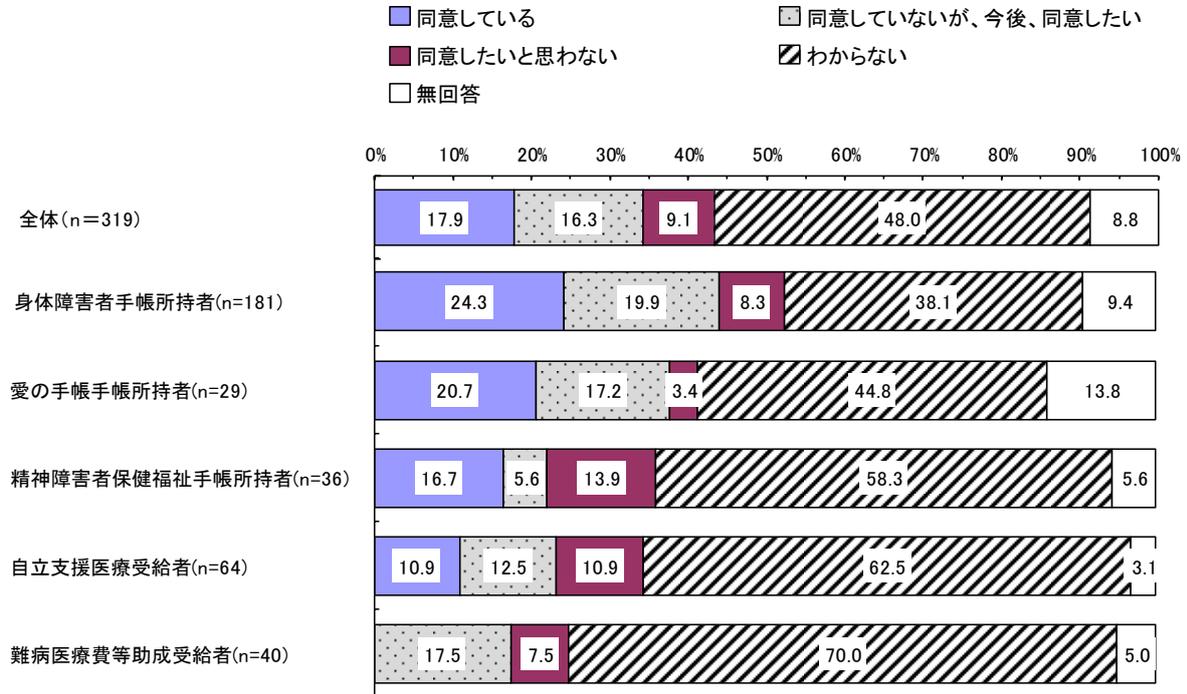
【年代別】



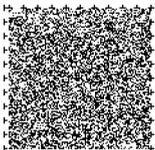
年代別に見ると、「同意している」が 40代から 64歳までで 13.1%と、他の年代よりも低くなっています。



【障害別】



障害別に見ると、「同意したいと思わない」は精神障害者保健福祉手帳所持者で 13.9%と、他の障害よりもやや高くなっています。



10 障害者の権利擁護について

問 33 成年後見制度について、どの程度知っていますか。(1つに○)

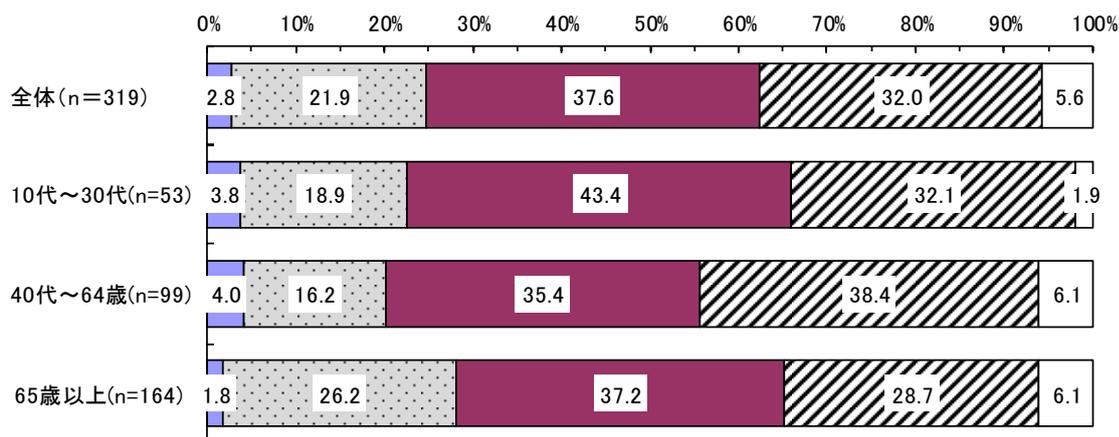
- 利用している(いた)ので、内容も知っている
- 聞いたことはあるが、あまりよく知らない
- 無回答
- 利用したことがないが、制度の内容は知っている
- 全く知らない



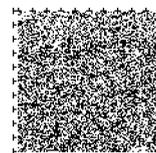
成年後見制度の認知度では、「聞いたことはあるが、あまりよく知らない」が37.6%、「全く知らない」が32.0%と、制度を『知らない』割合が約7割を占めています。「利用している(いた)ので、内容も知っている」は2.8%、「利用したことがないが、制度の内容は知っている」は21.9%となっています。

【年代別】

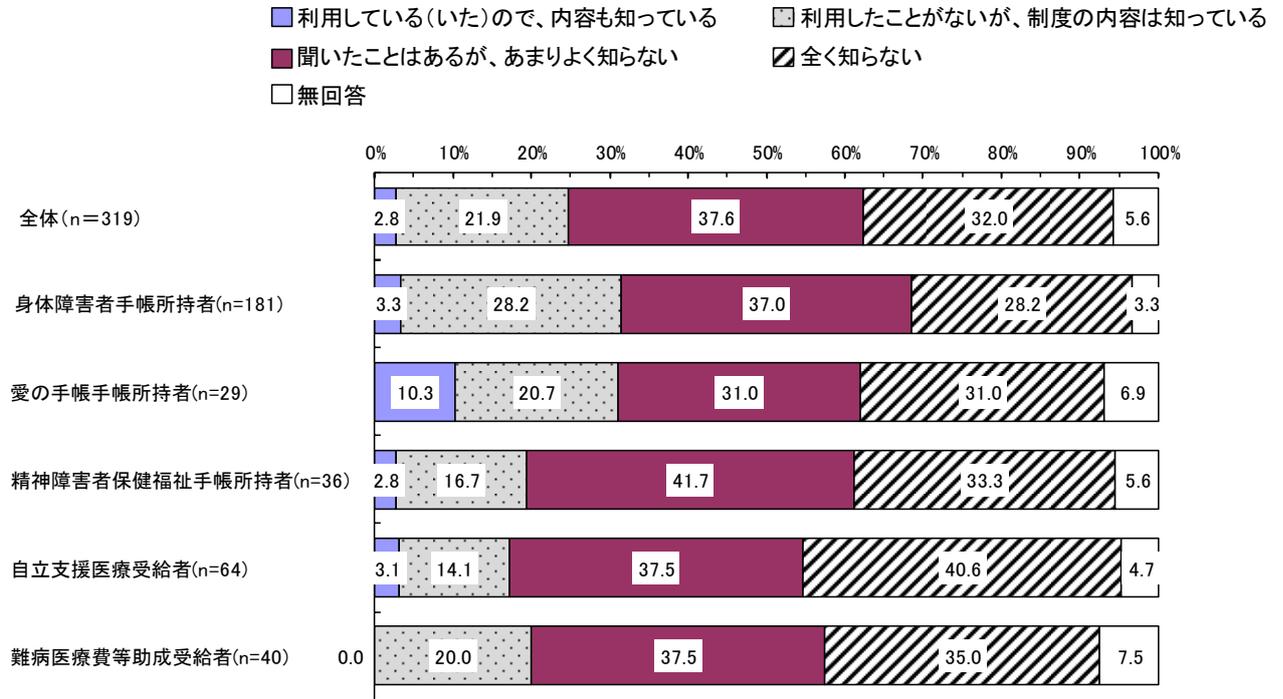
- 利用している(いた)ので、内容も知っている
- 聞いたことはあるが、あまりよく知らない
- 無回答
- 利用したことがないが、制度の内容は知っている
- 全く知らない



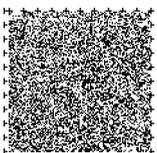
年代別に見ると、いずれの年代も成年後見制度を『知らない』割合が6割半ば以上を占めています。



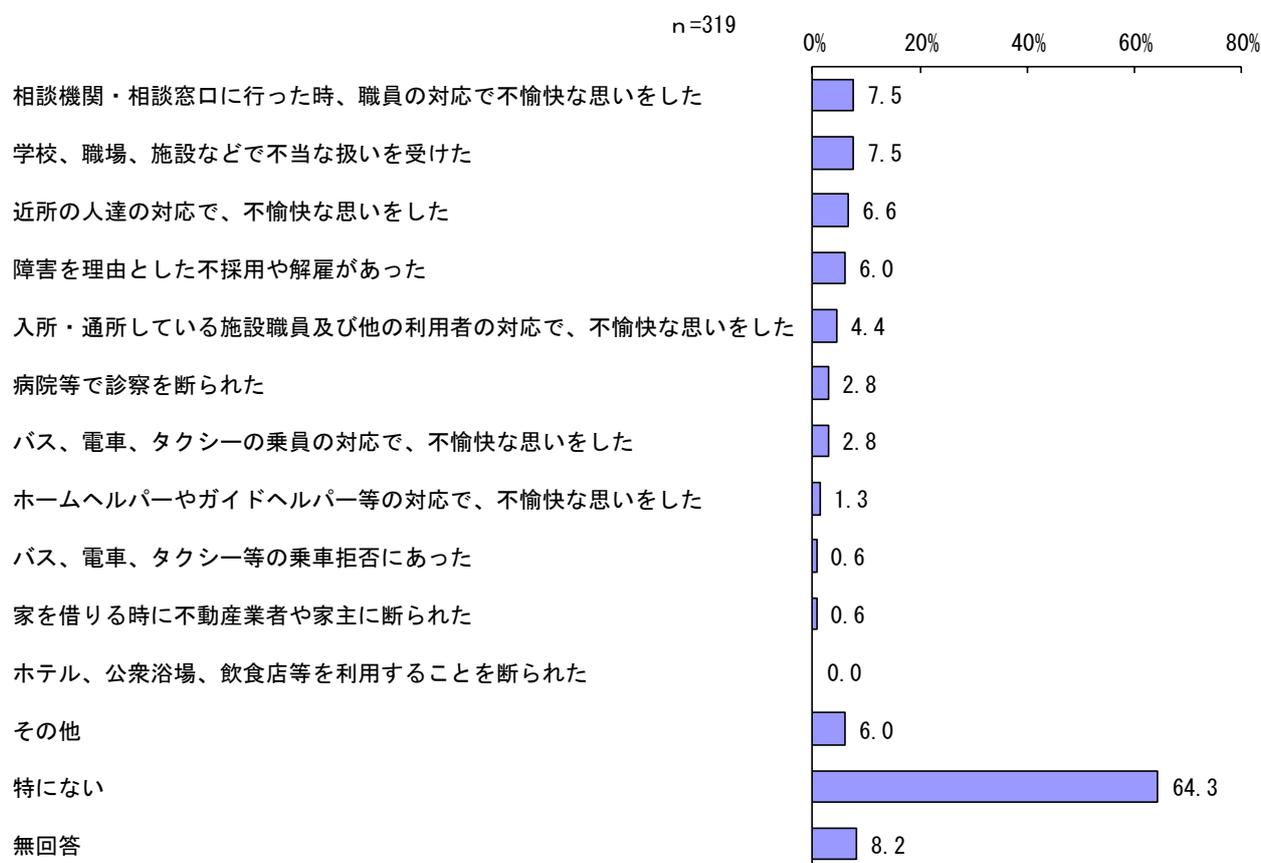
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者では「利用している（いた）ので、内容も知っている」が10.3%と他の障害よりも高くなっています。



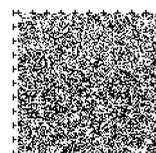
問 34 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



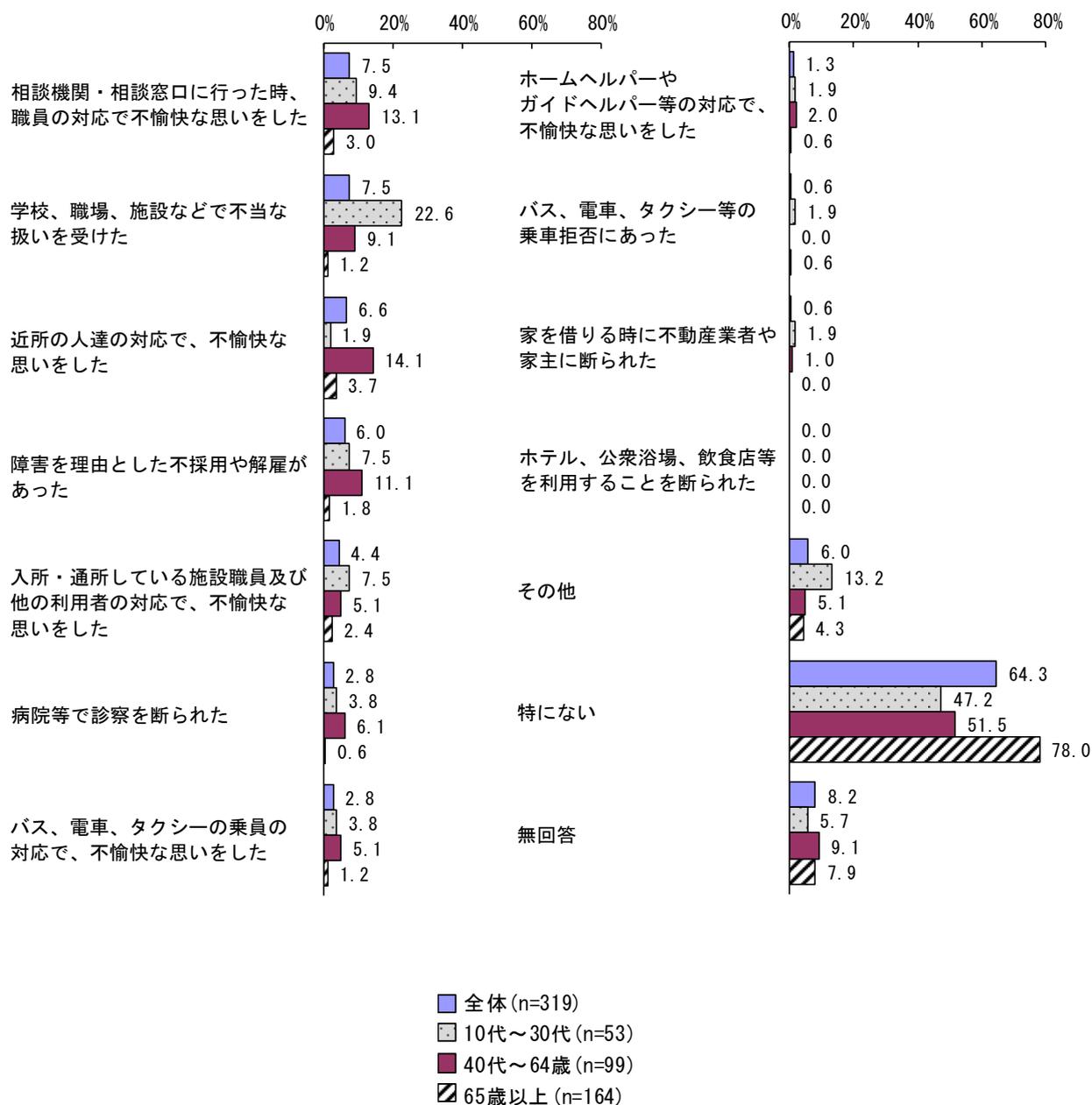
障害のため差別を受けた経験では、「相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした」と「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」がともに 7.5%と最も高く、次いで「近所の人達の対応で、不愉快な思いをした」が 6.6%、「障害を理由とした不採用や解雇があった」が 6.0%と続いています。

一方、「特にない」は 64.3%となっています。

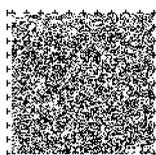
また、「その他」では、「自治体が障害を理解しない」、「見た目は障害者でない為にダメな人として扱われてきた」といった回答がありました。



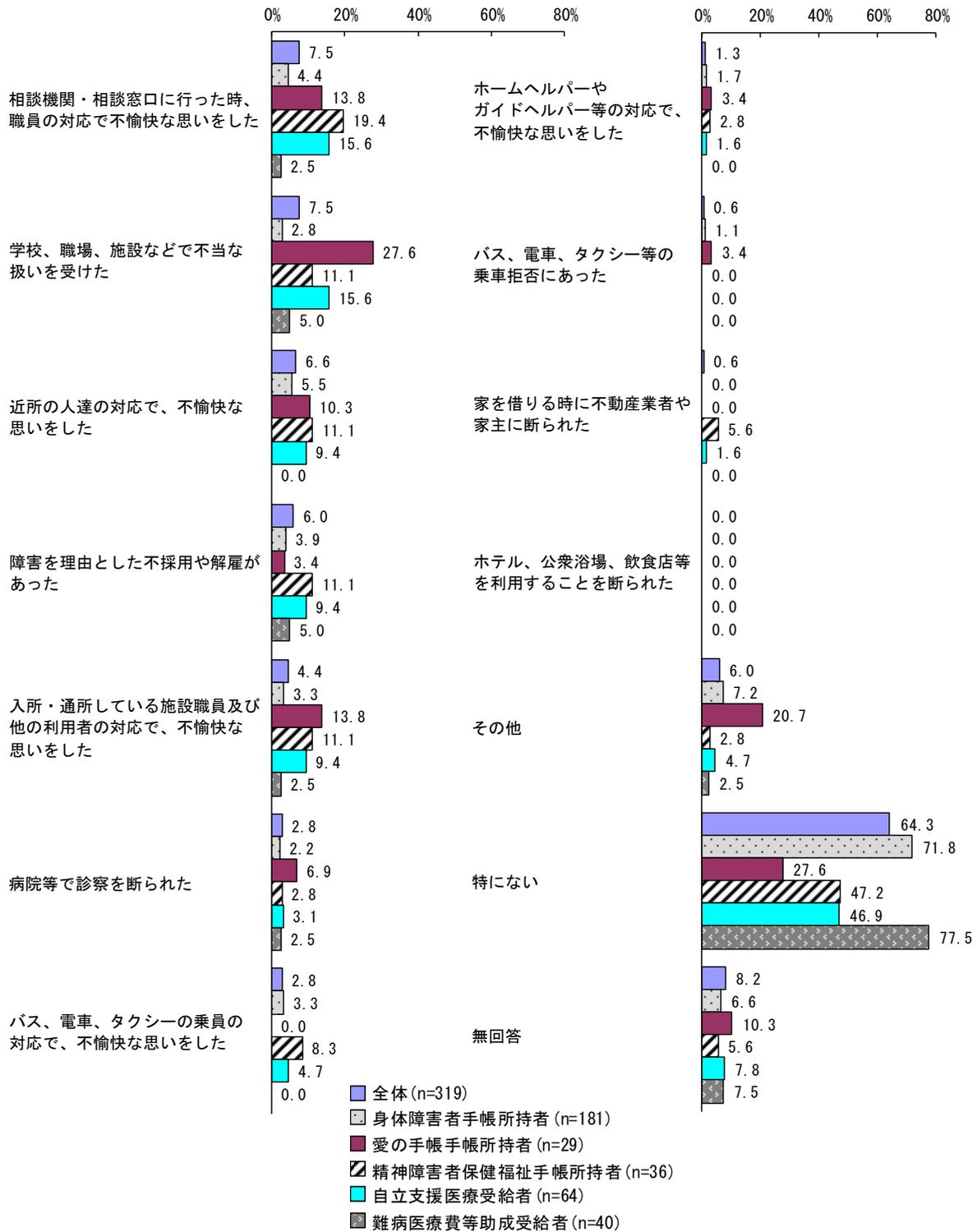
【年代別】



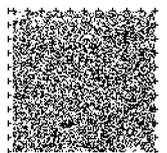
年代別に見ると、10代から30代まででは「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が22.6%、40代から64歳まででは「近所の人達の対応で、不愉快な思いをした」が14.1%と、他の年代よりも突出して高くなっています。



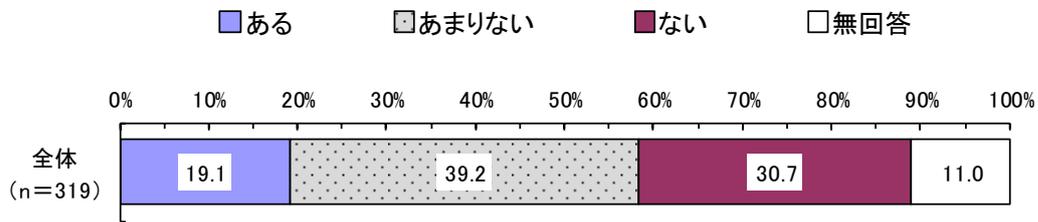
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者では「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が27.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした」が19.4%と、それぞれ他の障害よりも高くなっています。

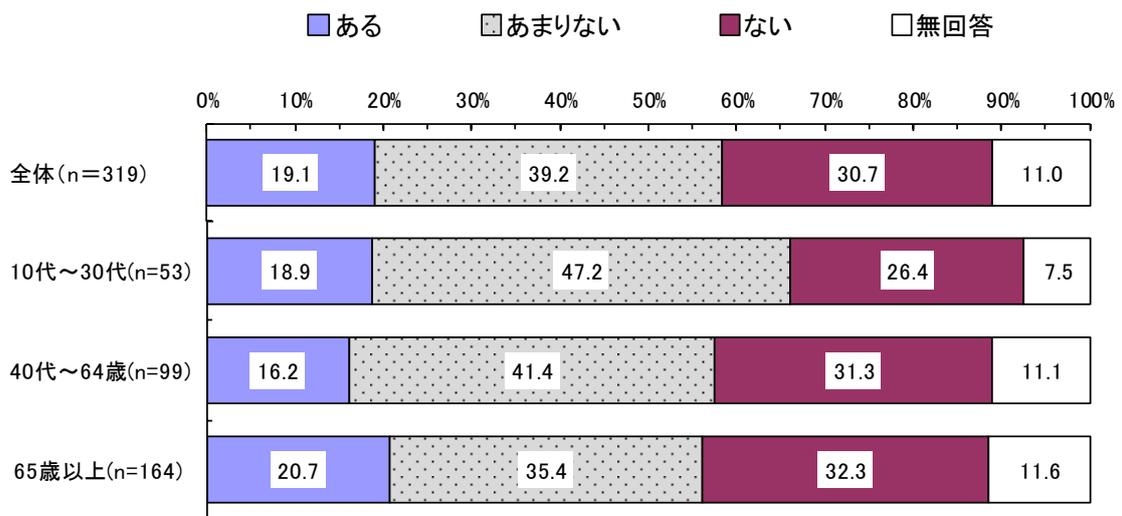


問 35 日常生活において、あなたの障害について理解や配慮があり、よかったと感じたことはありますか。(1つに○)

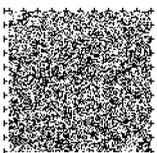


障害について理解や配慮があり、よかったと感じたことの有無では、「ある」が 19.1%と 2割近くを占めています。「あまりない」は 39.2%、「ない」は 30.7%となっています。

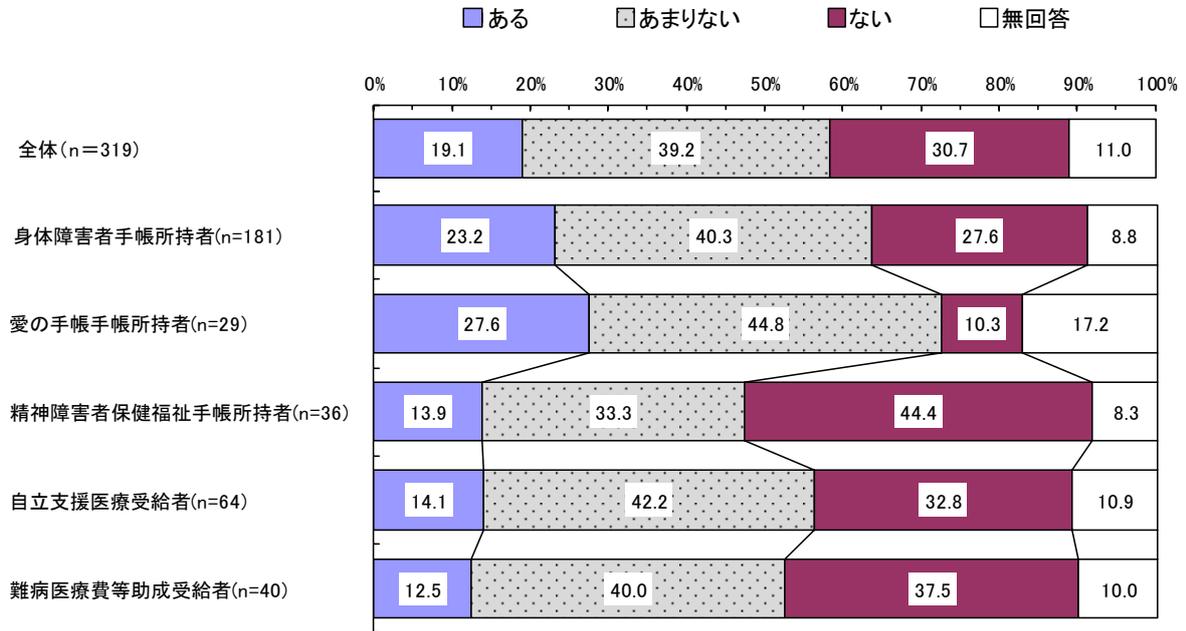
【年代別】



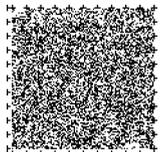
年代別に見ると、「ある」はいずれの年代も 1割後半から 2割となっています。



【障害別】

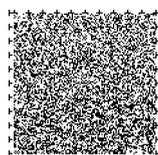


障害別に見ると、「あり」は、身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者で2割を超えており、他の障害よりも高くなっています。

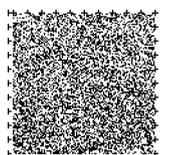


理解や配慮の具体的内容

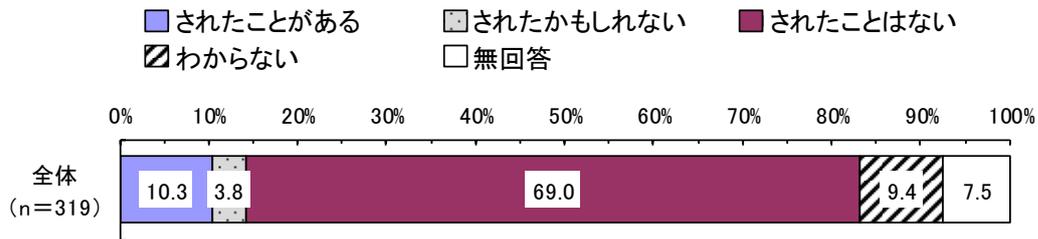
美術館めぐりが好きなのでアチコチ行くがおしなべて受付の方の対応は素晴らしい。
会社が全面的にバックアップしてくれている細かい指導をしてくれる。
杖歩行への気遣いをしてきている。
外出、通院時は付き添って行ってくれる人がいる。
目が見えにくいので、友人が配慮してくれる。
市内の病院で治療を受ける時医師看護師の面談二言三言するだけでメモ帳に書きましようと言って私の障害に対応してくれました。
父親が理解してくれているので何不自由なく生活できている。
スーパー等で袋詰をしてもらったり、支払い後の荷物を、サッカー台に運んでもらったりする。
ゴミを毎日すててくれている。声かけをよくしてくれる。安否を毎日とってくれる。
補聴器をつけているのでたすかっている。
たまに外出するとき大和のヘルパーさんにきてもらいますが大変楽しくさせて頂きます。
席をゆずって頂く。
立川バスの運転手さんが、ヘルプマークを見て気づかいの言葉をかけてくれた。
行政の対応に満足している。
声かけ
ゆっくりしゃべってくれる。感情が高ぶらない様な話し方をしてくれる。
仕事が休みやすい。
勤務がハードだったりは思いやりの言葉かけがあり嬉しい。
タクシー利用時に、わりと良い対応をしてくださる。
タクシー券を頂いたので通院がたすかります。
家族の理解
荷物を持ってくれる。
常に、いろいろな所で配慮してもらっていると思う。
手帳を提示し車の駐車場などで助かる。
母、妹、娘が、よく心配してくれて「大丈夫？」と声をかけてくれたり、相談にのってくれる。
友人が車に乗せてくれる。
不愉快な思いはないから。
友達が何かにつけていたわってくれます。
施設でぼくの希望でスポーツ新聞とる事ゆるしてくれた。
手をかしてくれる。
障害者とわかり特に無理なことはいってこない。少しですがいろいろと配慮がある。
職場の人が休みの日を教えてくれた。
“気をつけて”と声かけしてくれる。
家族がいつも心配してくれている。
心臓病のため、朝の超低血圧や貧血で出勤時間に間に合わない日があっても、配慮してもらえる。ただ、時差勤務や障害者雇用だから出勤時間を遅くしたり、できないのが悩み。
特にコンビニでの対応の気遣いが良く感謝しています。品物を取ってくれたり、ドアを開けたりしてくれて、うれしくなりました。
一人になれる時でも配慮がある。
私は一人じゃないし助けてくれる心配してくれる機関や施設等いっぱいあるのだとわかった。



車イスで自走中に、「何かお手伝いできる事はありますか」と言われ、押しもらった。
近所の人が食事を、作ってくれたり、犬の散歩をしてくれたり、現金をかしてくれたりよくしてくれました
夫が家事をやっている。
代金など紙に書いて下さったり、指をさして教えて下さったりで筆記で教えて下さったりでありがたいと思う。
自立訓練所、作業所のスタッフの方々が、いつも温かく接して（応対）下さいました。とても感謝しております。
電車・バスに乗る時席を空けてくれたり病院でも席を空けてくれる人々が多い。
ご近所に知らせてあるので顔を合わせるたびに声をかけてくれる。
障害者センター通所での対応の配慮がとてもありがたい。優しい声かけなど。
歩行時に道をあける。エレベーター乗降時（バス、電車）
最初のうちは目がしっかりしているのでうそだと云われていました。今はだいぶわかってくれる人が増えて来ました。よく協力してくれます。
こども家庭支援センターには、子供の相談で本当にお世話になっていて、母親の私が解決できない事などアドバイスを頂いている事が大変ありがたいです。
昭島からのバスで中原2丁目で降りる時に運転手さんに親切に声かけをしてくれて家迄気持ちよく帰れた。
就労支援によりアルバイト先が見つかった。
近所の方も体調を気づかってくれた。
しゃがんで、下に落ちた物を取る事ができない。
バス等で席をゆずられる。
通所先のスタッフの方の対応は良いと思います。相談もします。
就労支援、事業者職員の支援でほめられたこと
近所の方々の思いやりに、感謝している。
家族が、理解があり、たすかっている。
よくしてもらったと思う事の方が多い。
養護老人ホームは何にしても時間出来ればオムツの時間を考えて頂きたい。
飲食店やホテル等でクロックポジションを用いて声掛けをしてくれる。誘導に関しては航空会社が進んでいると感じる。

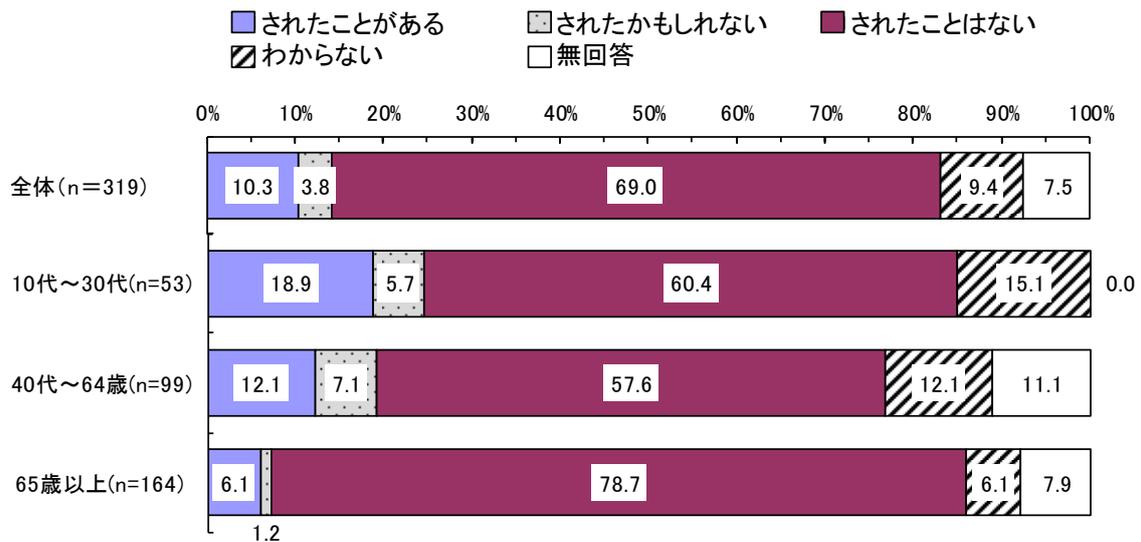


問 36 あなたは、これまでに虐待や不適切な行為をされたことがありますか。(1つに○)

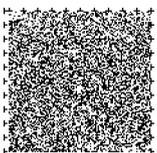


虐待や不適切な行為をされた経験の有無では、「されたことがある」が10.3%であり、「されたかもしれない」が3.8%となっています。一方、「されたことはない」は69.0%となっています。

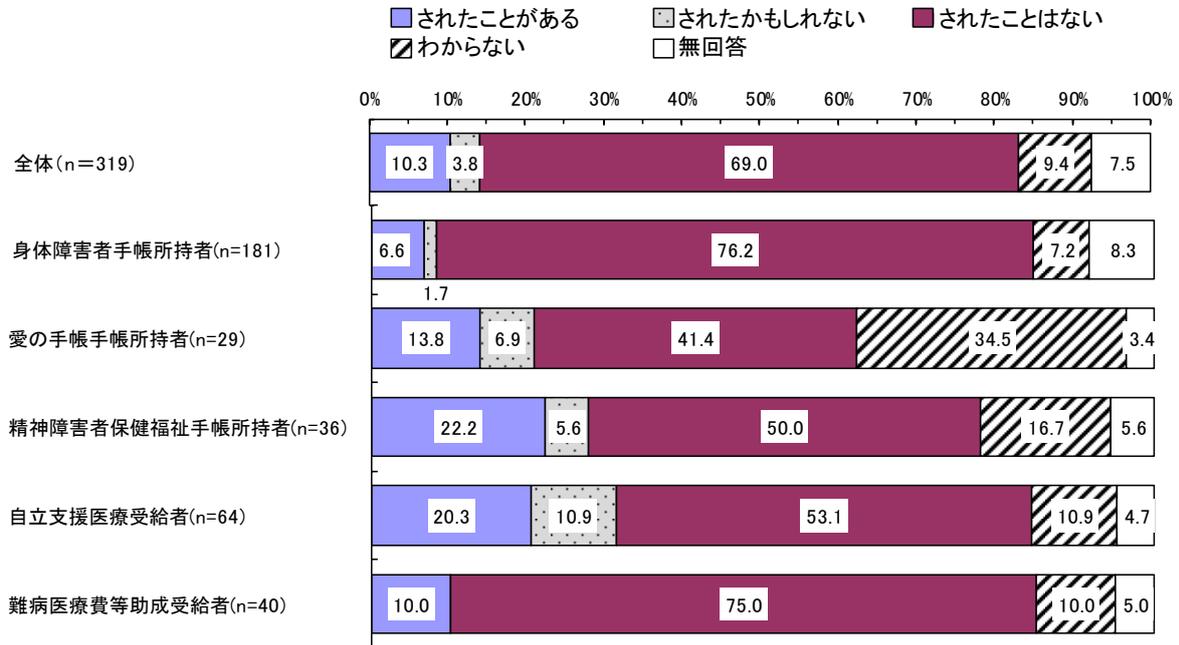
【年代別】



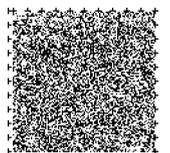
年代別に見ると、「されたことがある」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、10代から30代まででは18.9%、40代から64歳まででは12.1%となっています。



【障害別】

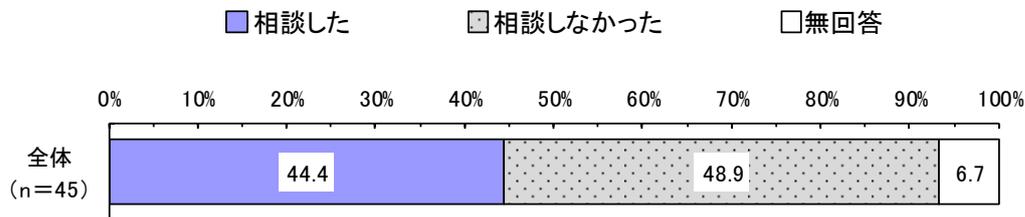


障害別に見ると、「されたことがある」は、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者で2割を超えており、他の障害よりも高くなっています。



問 36 で「されたことがある」「されたかもしれない」と答えた方におうかがいします。

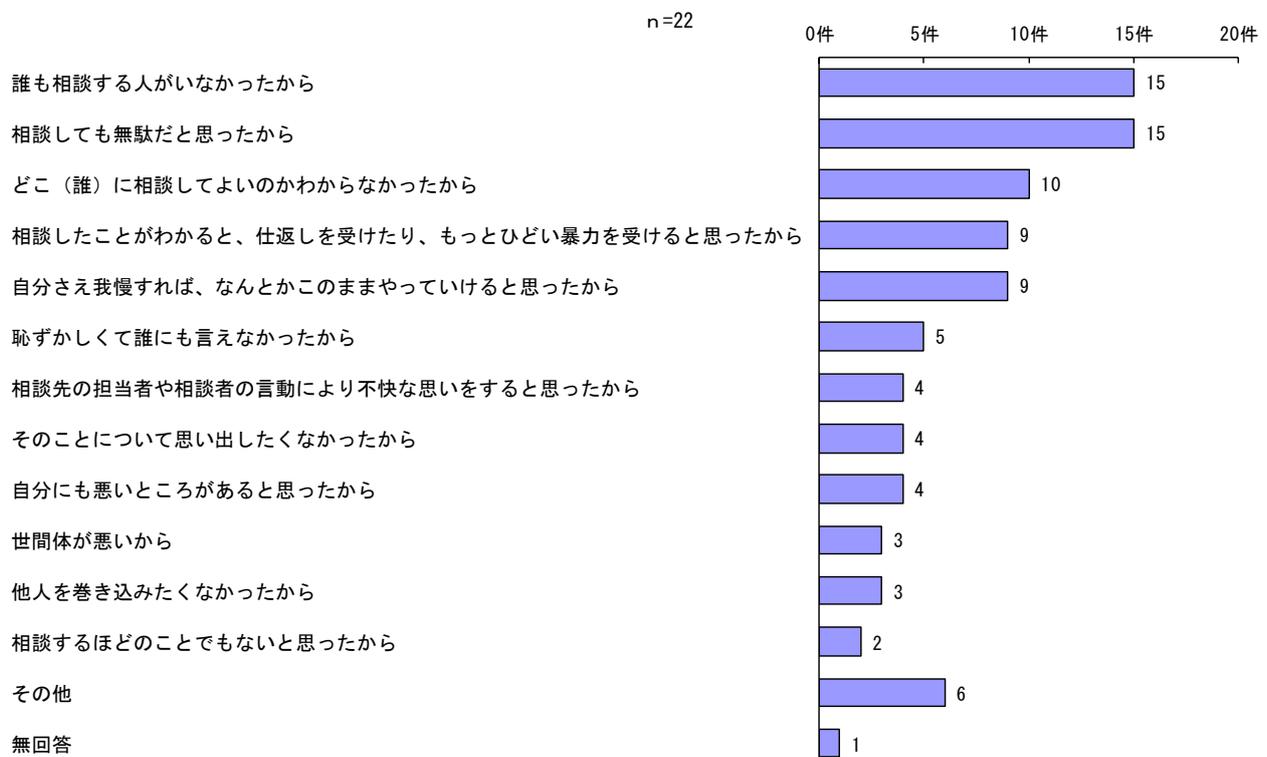
問 37 虐待や不適切な行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(どちらかに○)



虐待や不適切な行為をされた際の相談の有無では、「相談した」が 44.4%、「相談しなかった」が 48.9%となっています。

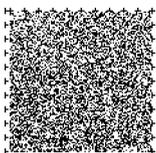
問 37 で「相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問 38 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)



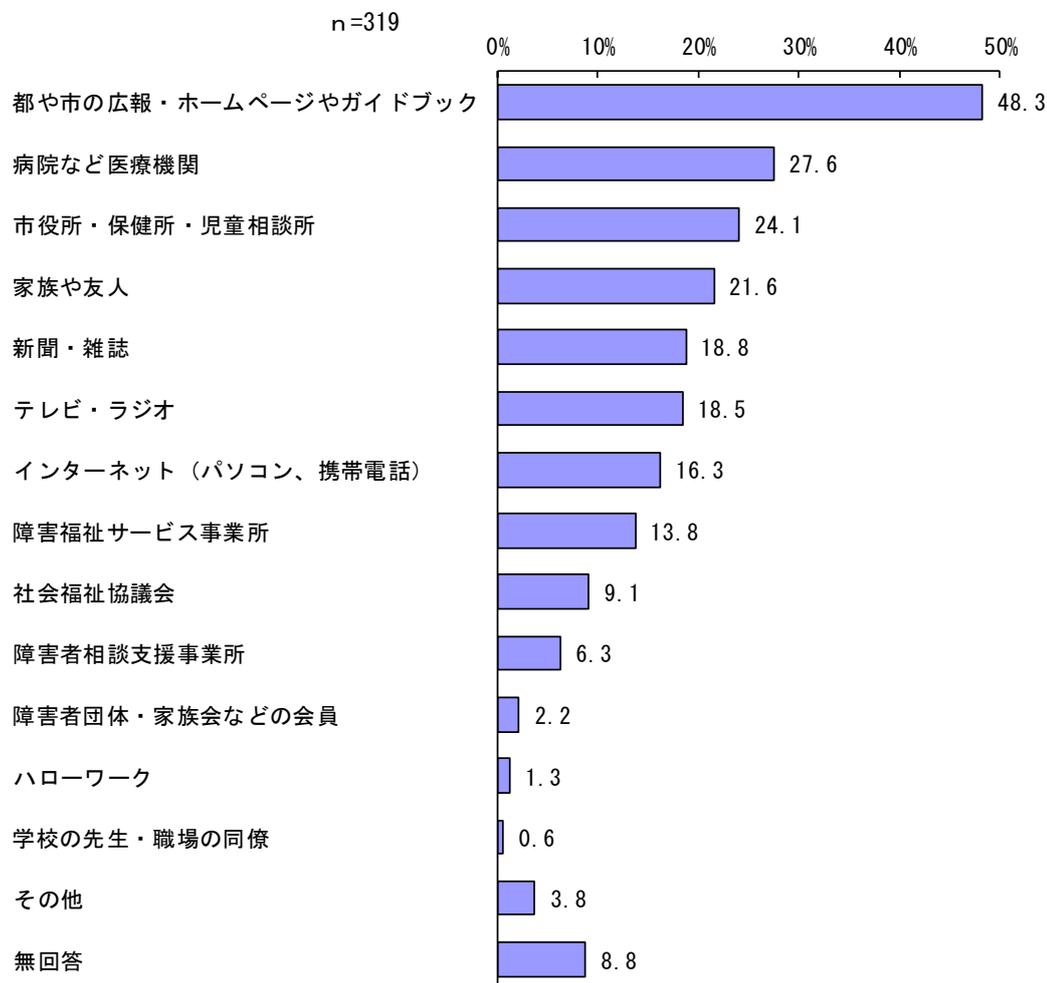
相談しなかった理由は、「誰も相談する人がいなかったから」と「相談しても無駄だと思ったから」がともに 22 人中 15 件と最も多く、次いで「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」が 10 件、「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」と「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」がともに 9 件で続いています。

また、「その他」では、「そのような行為があっても確認する事はできないので」、「相手が自治会だから」、「どうすることも出来ない」という回答がありました。



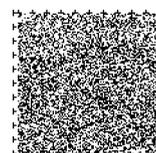
11 情報提供や普段の相談について

問 39 福祉に関する情報は、どこから得ますか。(あてはまるものすべてに○)

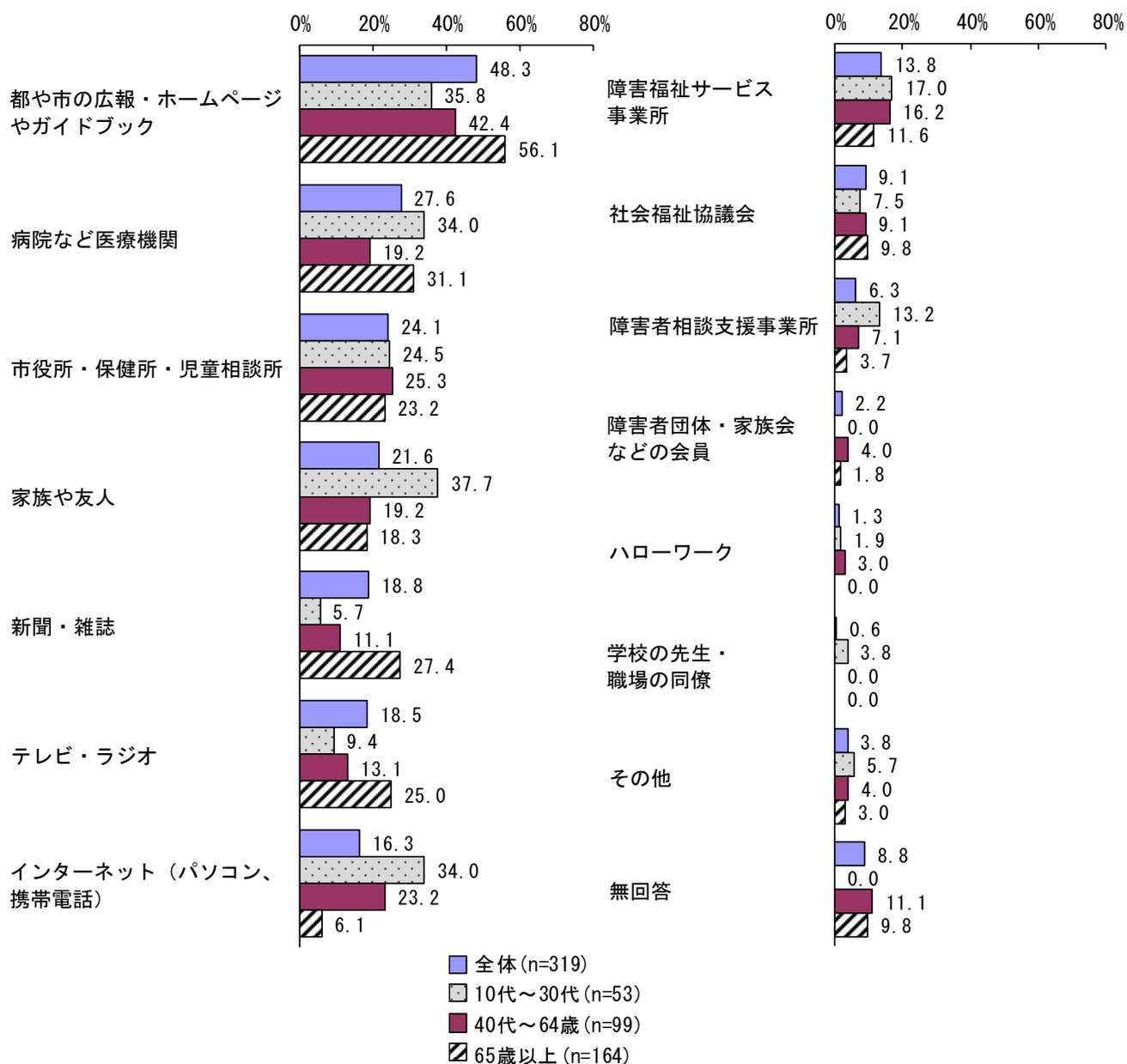


福祉に関する情報の入手先では、「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が48.3%と最も高く、次いで「病院など医療機関」が27.6%、「市役所・保健所・児童相談所」が24.1%、「家族や友人」が21.6%と続いています。

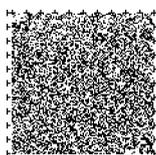
また、「その他」では、「補聴器店で」、「ケアマネジャーなど」、「警察」といった回答がありました。



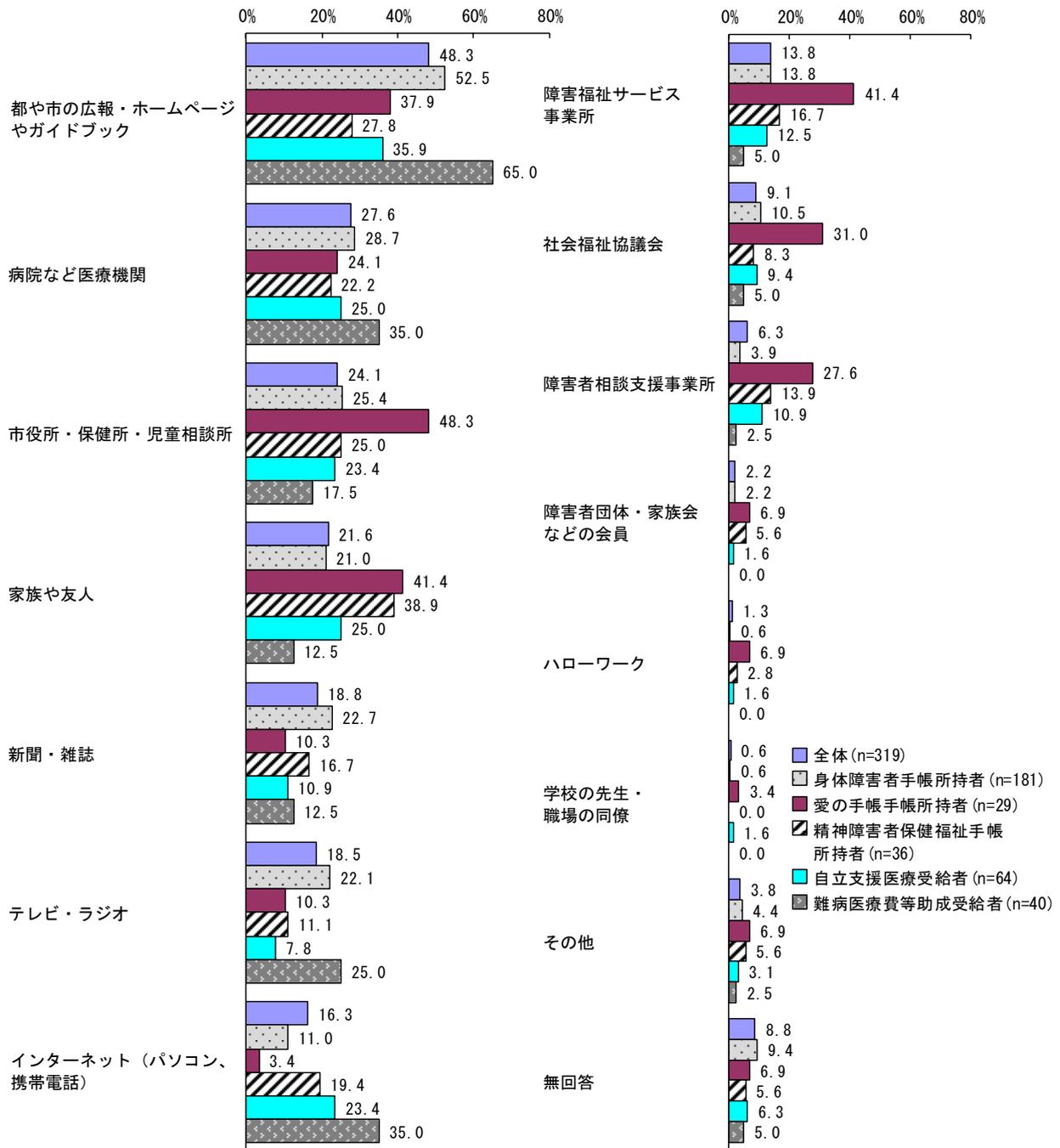
【年代別】



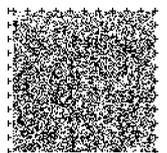
年代別に見ると、40代以上では「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が最も高く、10代から30代まででは「家族や友人」が37.7%と最も高くなっています。また、「インターネット (パソコン、携帯電話)」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、10代から30代まででは34.0%となっています。



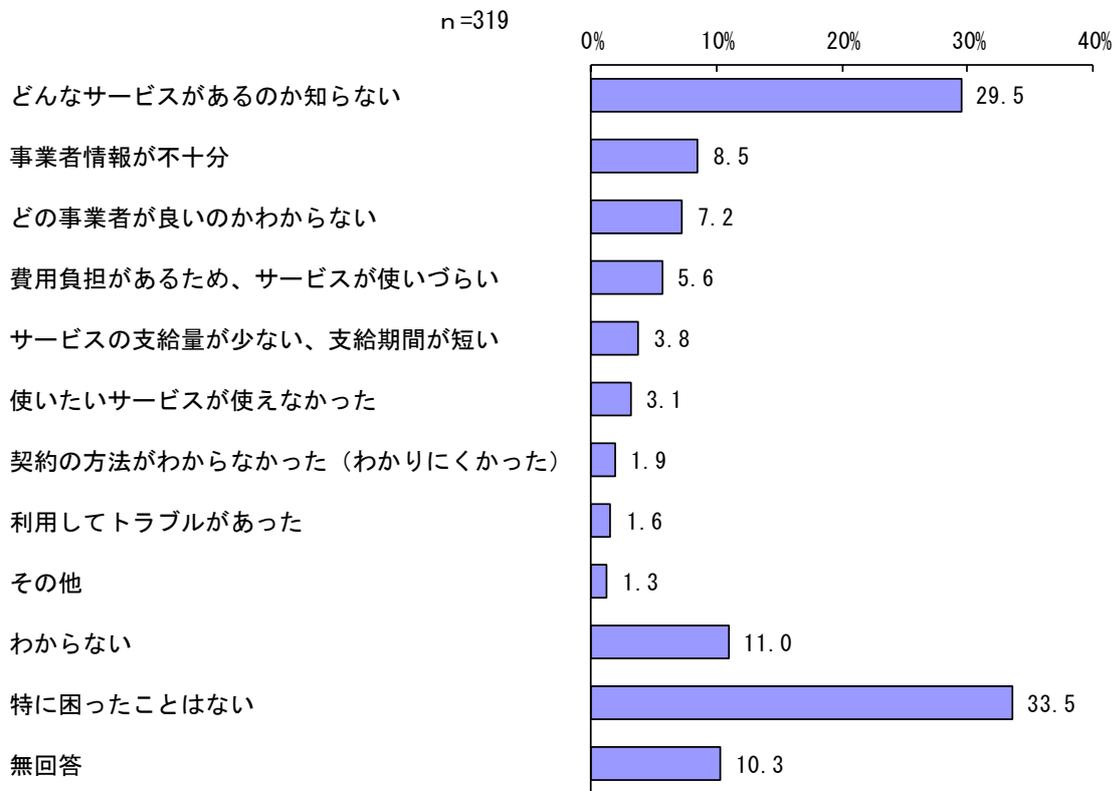
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者では「家族・友人」、「市役所・保健所・児童相談所」、「障害福祉サービス事業所」が4割を超えており、他の障害よりも高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「家族・友人」が38.9%と最も高く、身体障害者手帳所持者、自立支援医療受給者、難病医療費等助成受給者では「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が最も高くなっています。



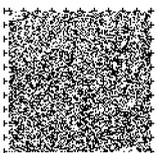
問 40 福祉サービスを利用するときには何か困ること（困ったこと）がありますか。（主なものを2つまで○）



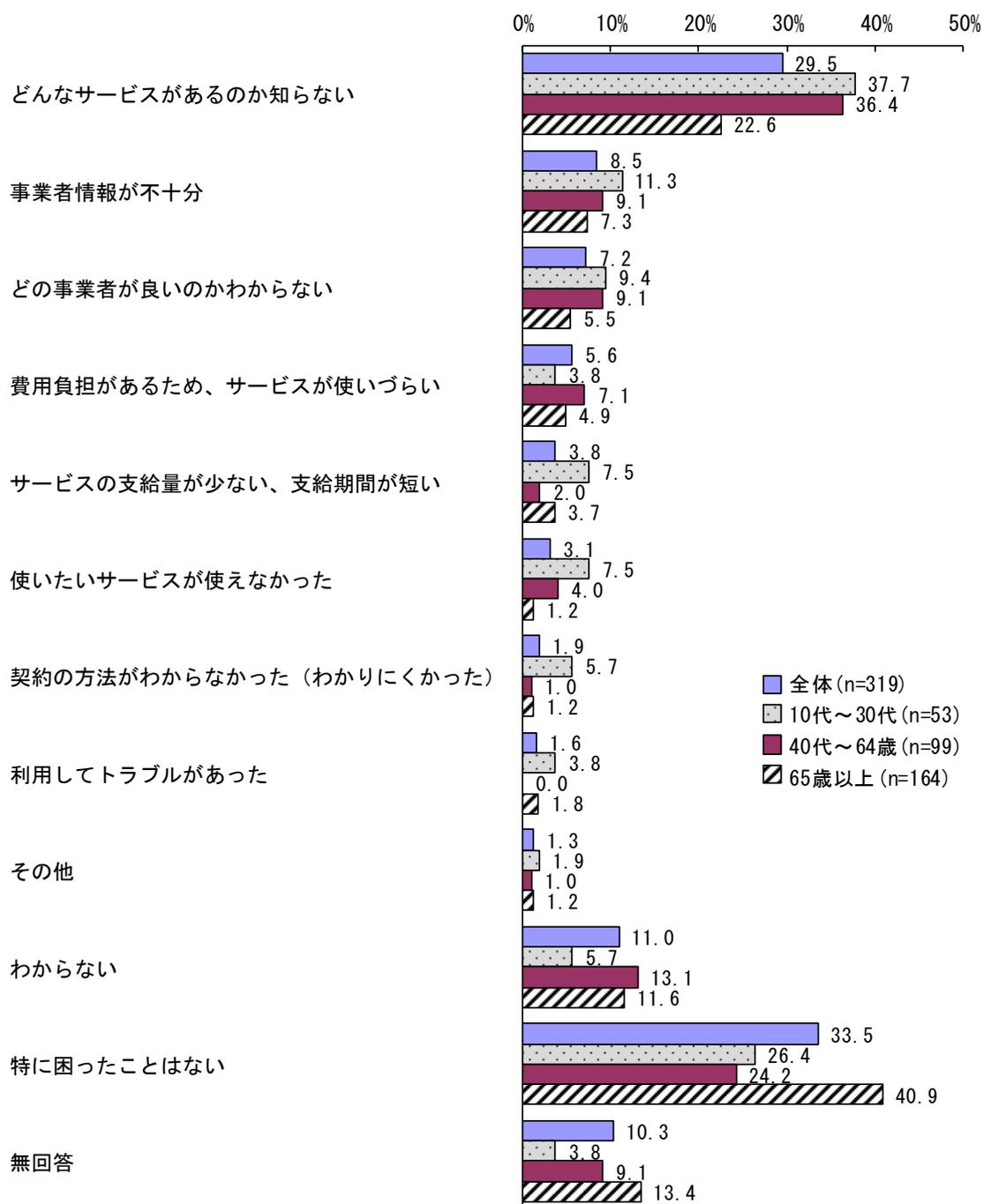
福祉サービス利用の際の困りごとでは、「どんなサービスがあるのか知らない」が 29.5%と約3割で最も高く、次いで「事業者情報が不十分」が 8.5%、「どの事業者が良いのかわからない」が 7.2%と続いています。

一方、「特に困ったことはない」は 33.5%となっています。

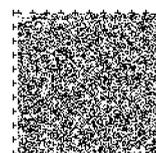
また、「その他」では、「市以外で使えるものがわからない」、「タクシー券が使えないタクシーがあった」、「事業所が少ない」といった回答がありました。



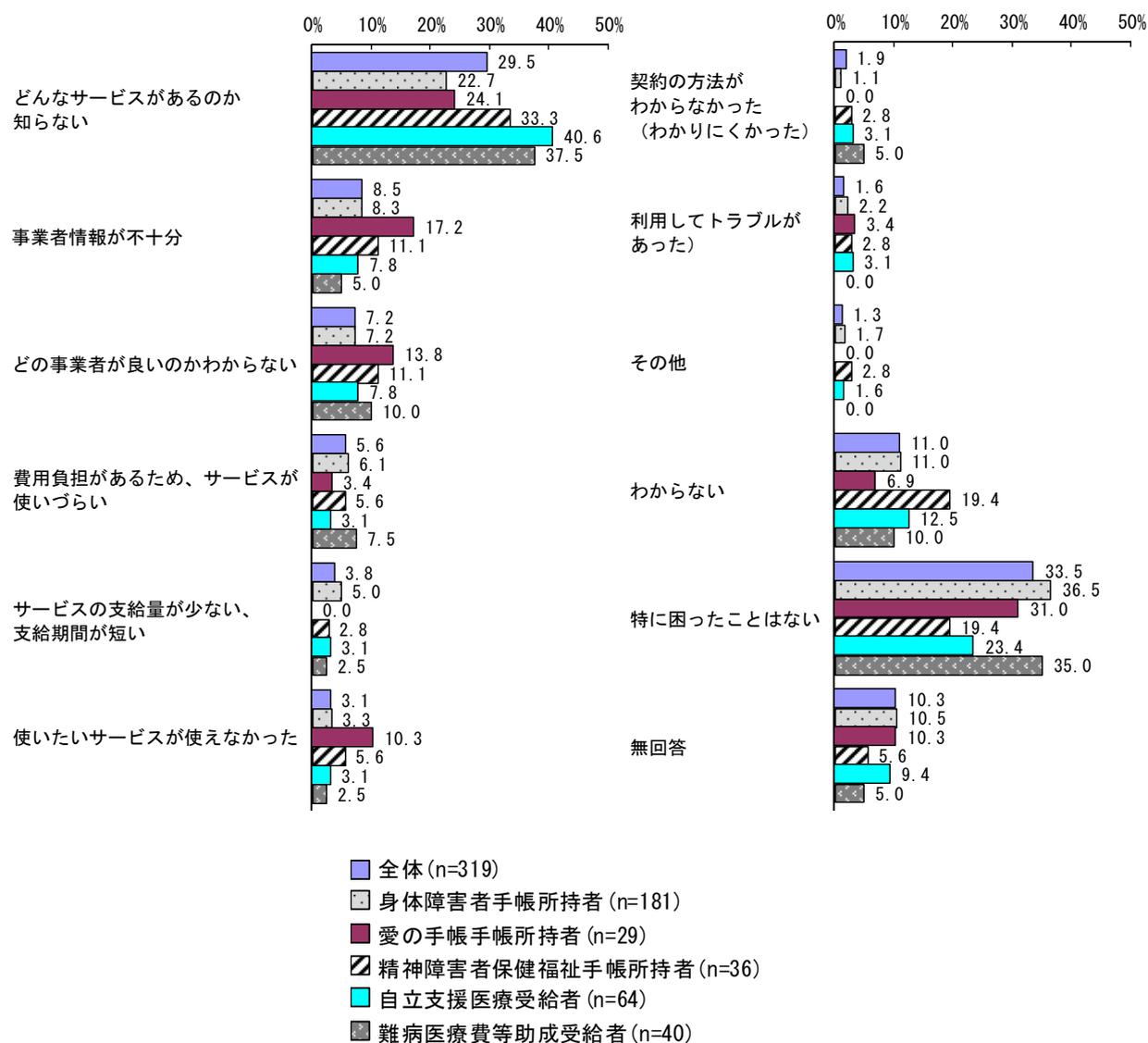
【年代別】



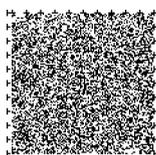
年代別に見ると、いずれの年代も「どんなサービスがあるのか知らない」が高くなっています。



【障害別】

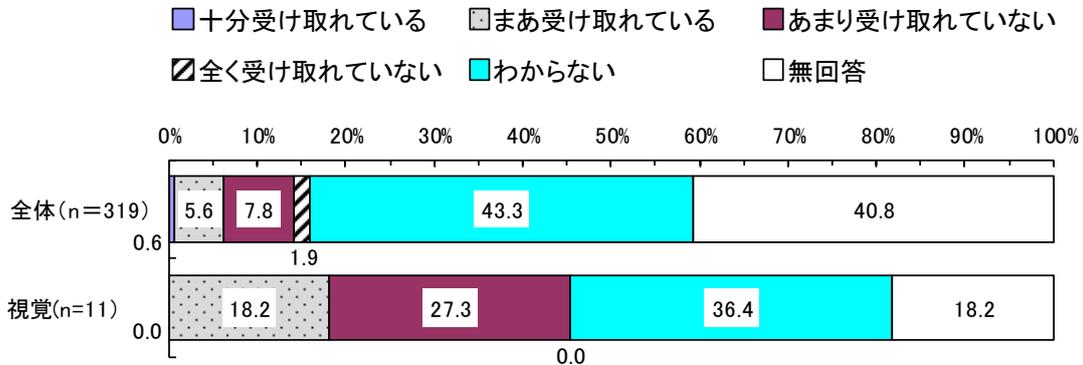


障害別に見ると、いずれの障害も「どんなサービスがあるのか知らない」が高くなっています。愛の手帳所持者では「事業者情報が不十分」や「どの事業者が良いのかわからない」が他の障害よりもやや高くなっています。



問 41 次のような立場の人たちが市からの情報を受け取ることについて、あなたはどのように感じますか。(それぞれ1つに○)

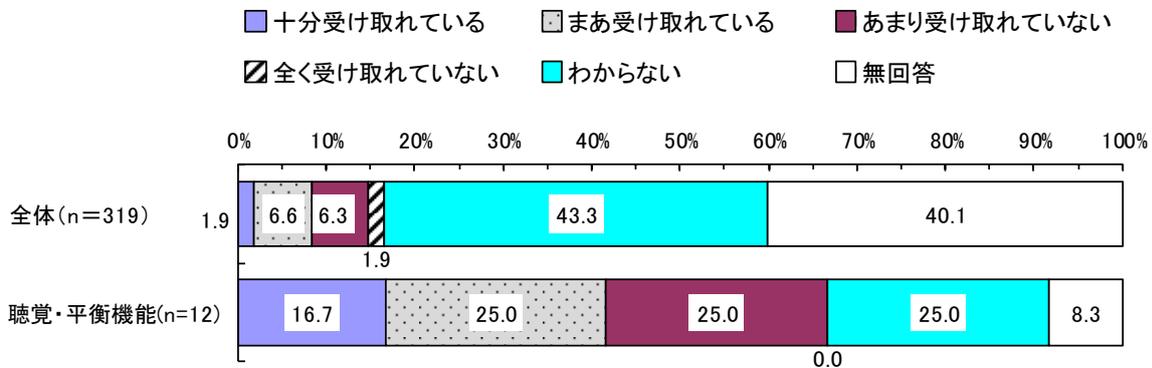
【①視覚障害者】



視覚障害者の情報の受取状況は、全体では「十分受け取れている」が0.6%、「まあ受け取れている」が5.6%となっています。反対に「あまり受け取れていない」が7.8%、「全く受け取れていない」が1.9%となっています。

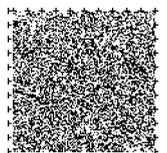
視覚障害者では、「まあ受け取れている」が18.2%、「あまり受け取れていない」が27.3%となっています。

【②聴覚障害者】

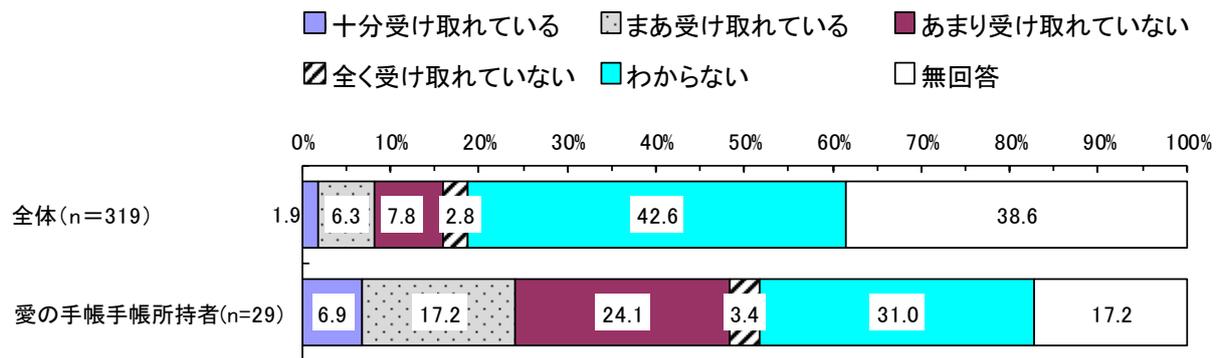


聴覚障害者の情報の受取状況は、全体では「十分受け取れている」が1.9%、「まあ受け取れている」が6.6%となっています。反対に「あまり受け取れていない」が6.3%、「全く受け取れていない」が1.9%となっており、『受け取れている』と『受け取れていない』はほぼ同じ割合となっています。

聴覚・平衡機能障害者では、「十分受け取れている」が16.7%、「まあ受け取れている」が25.0%、「あまり受け取れていない」が25.0%となっています。



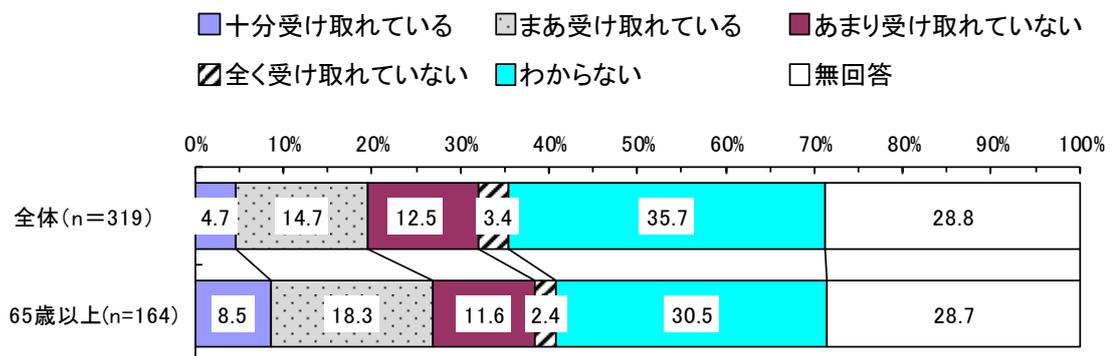
【③知的障害者】



知的障害者の情報の受取状況は、全体では「十分受け取れている」が1.9%、「まあ受け取れている」が6.3%となっています。反対に「あまり受け取れていない」が7.8%、「全く受け取れていない」が2.8%となっています。

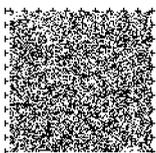
愛の手帳所持者では、「十分受け取れている」が6.9%、「まあ受け取れている」が17.2%、「あまり受け取れていない」が24.1%、「全く受け取れていない」が3.4%となっています。

【④高齢者】

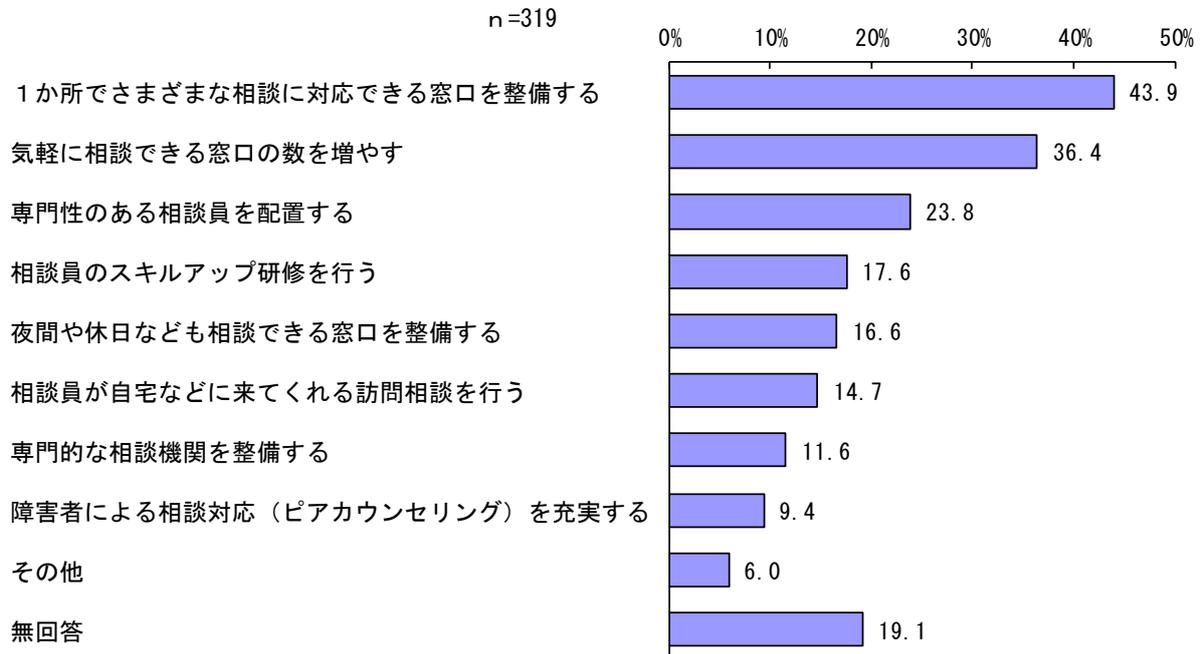


高齢者の情報の受取状況は、全体では「十分受け取れている」が4.7%、「まあ受け取れている」が14.7%となっています。反対に「あまり受け取れていない」が12.5%、「全く受け取れていない」が3.4%となっています。

65歳以上では、「十分受け取れている」が8.5%、「まあ受け取れている」が18.3%、「あまり受け取れていない」が11.6%、「全く受け取れていない」が2.4%となっています。

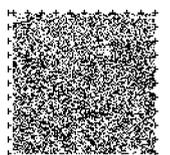


問 42 相談事業を充実するために（相談したときに満足できるように）特にどのようなことをすればいいと思いますか。（3つまで○）

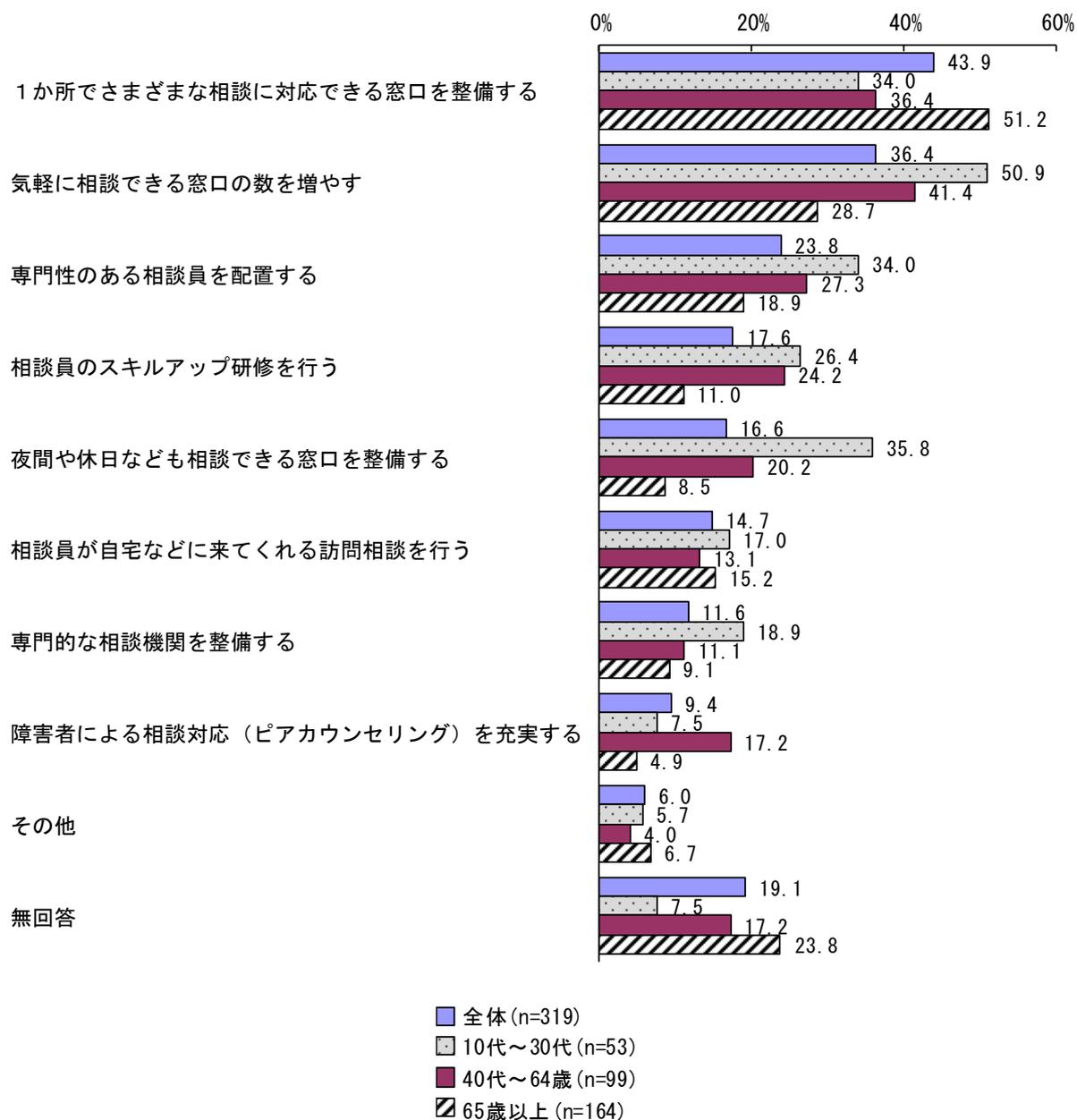


相談事業を充実のために必要なことでは、「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が43.9%と最も高く、次いで「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が36.4%、「専門性のある相談員を配置する」が23.8%と続いています。

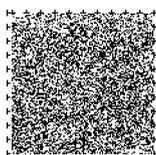
また、「その他」では、「市役所と同じ場所に設置してほしい」、「民間企業出身の方が相談して頂けると助かります」、「プライバシーの保護に配慮」といった回答がありました。



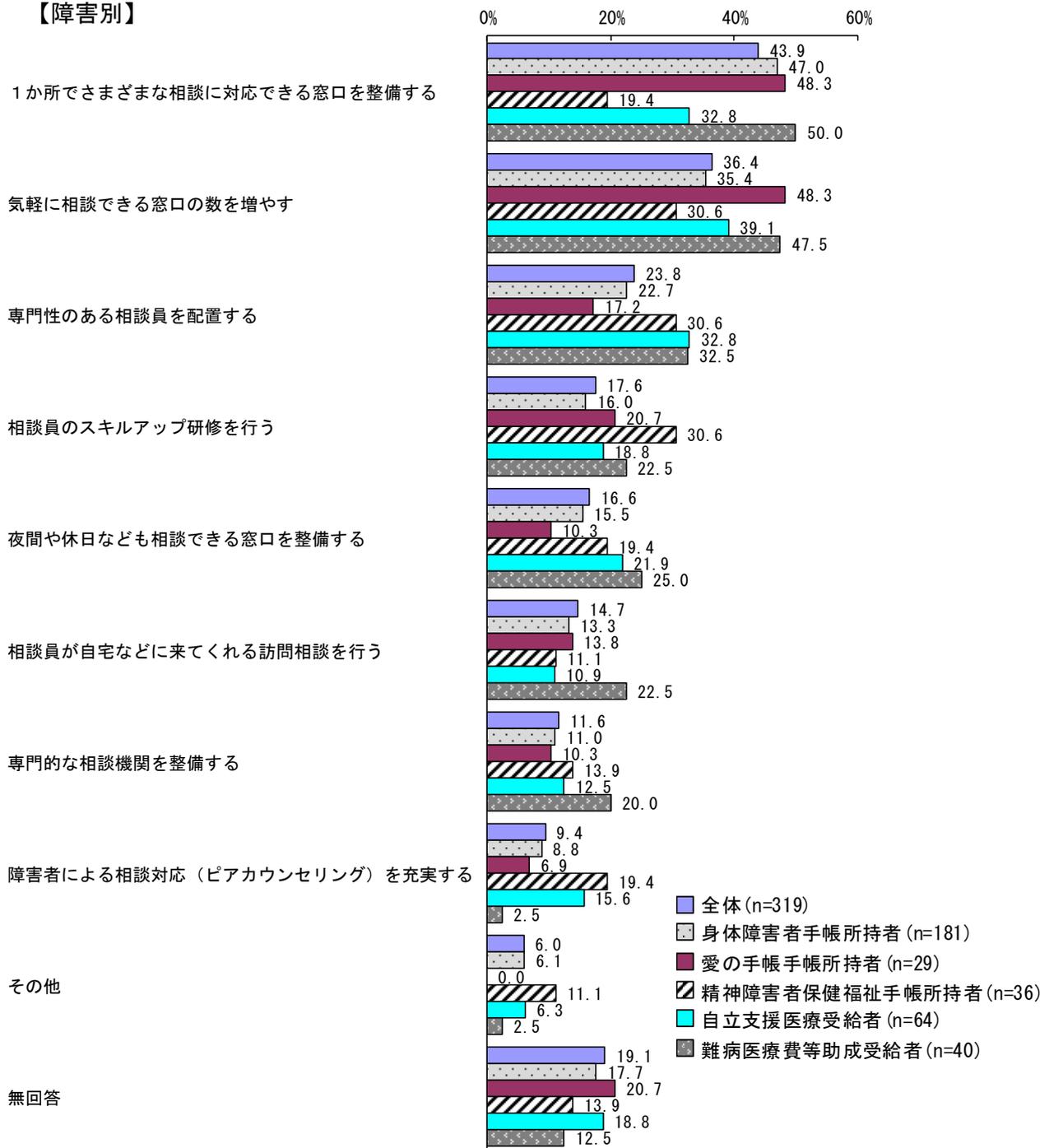
【年代別】



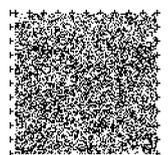
年代別に見ると、10代から64歳まででは「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が4割を超えて最も高く、65歳以上では「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が51.2%と最も高くなっています。



【障害別】

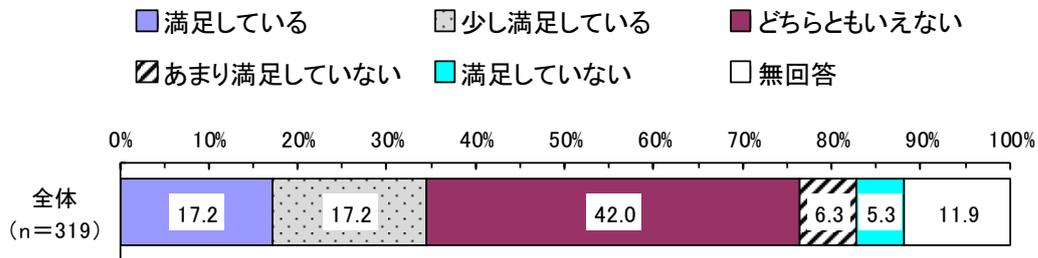


障害別に見ると、愛の手帳所持者は「気軽に相談できる窓口の数を増やす」と「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」がともに48.3%と最も高くなっています。精神障害者保健福祉手帳所持者では「相談員のスキルアップ研修を行う」、「専門性のある相談員を配置する」、「気軽に相談できる窓口の数を増やす」がそれぞれ30.6%と高く、専門的な相談員を求める傾向にあります。



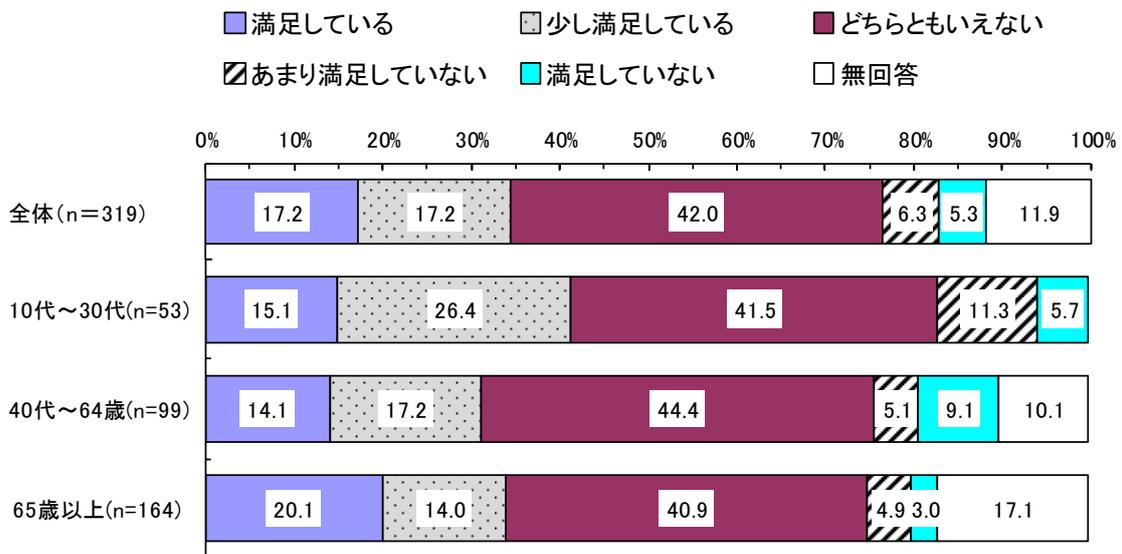
12 障害者施策全般について

問 43 武蔵村山市の福祉サービス全般について、満足していますか。(1つに○)

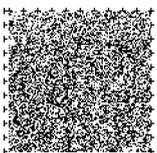


市の福祉サービス全般の満足度では、「満足している」と「少し満足している」がともに17.2%で、『満足』の割合は34.4%となっています。反対に「あまり満足していない」が6.3%、「満足していない」が5.3%と、『不満』の割合は11.6%となっています。

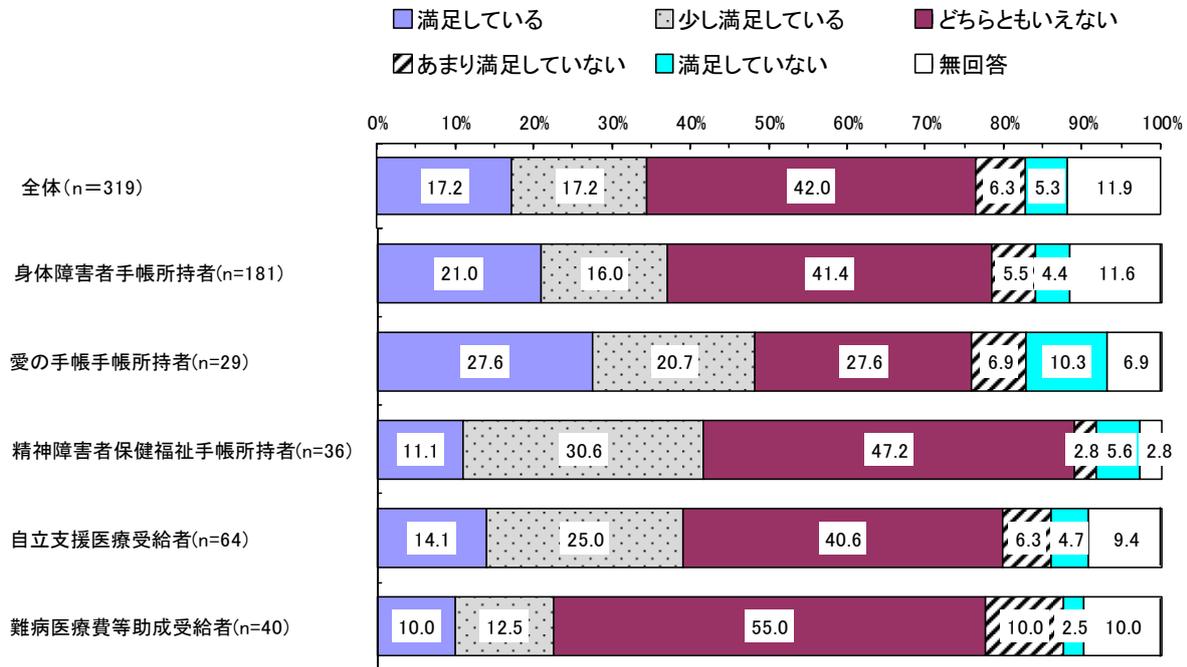
【年代別】



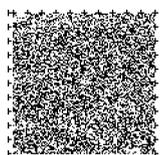
年代別に見ると、年代が下がるにつれて『不満』の割合が高くなる傾向にあります。



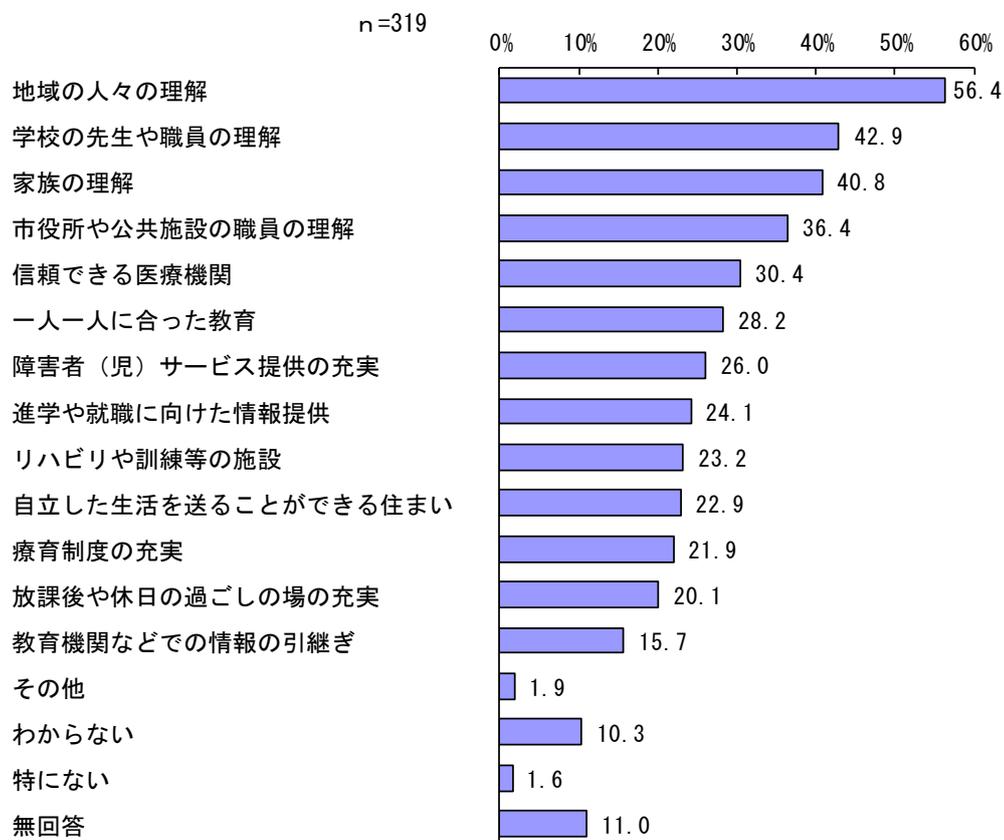
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者は『満足』、『不満』ともに他の障害よりも高くなっています。また、難病医療費等助成受給者は『満足』の割合が他の障害よりも低くなっています。

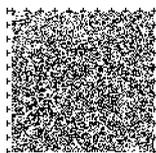


問 44 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

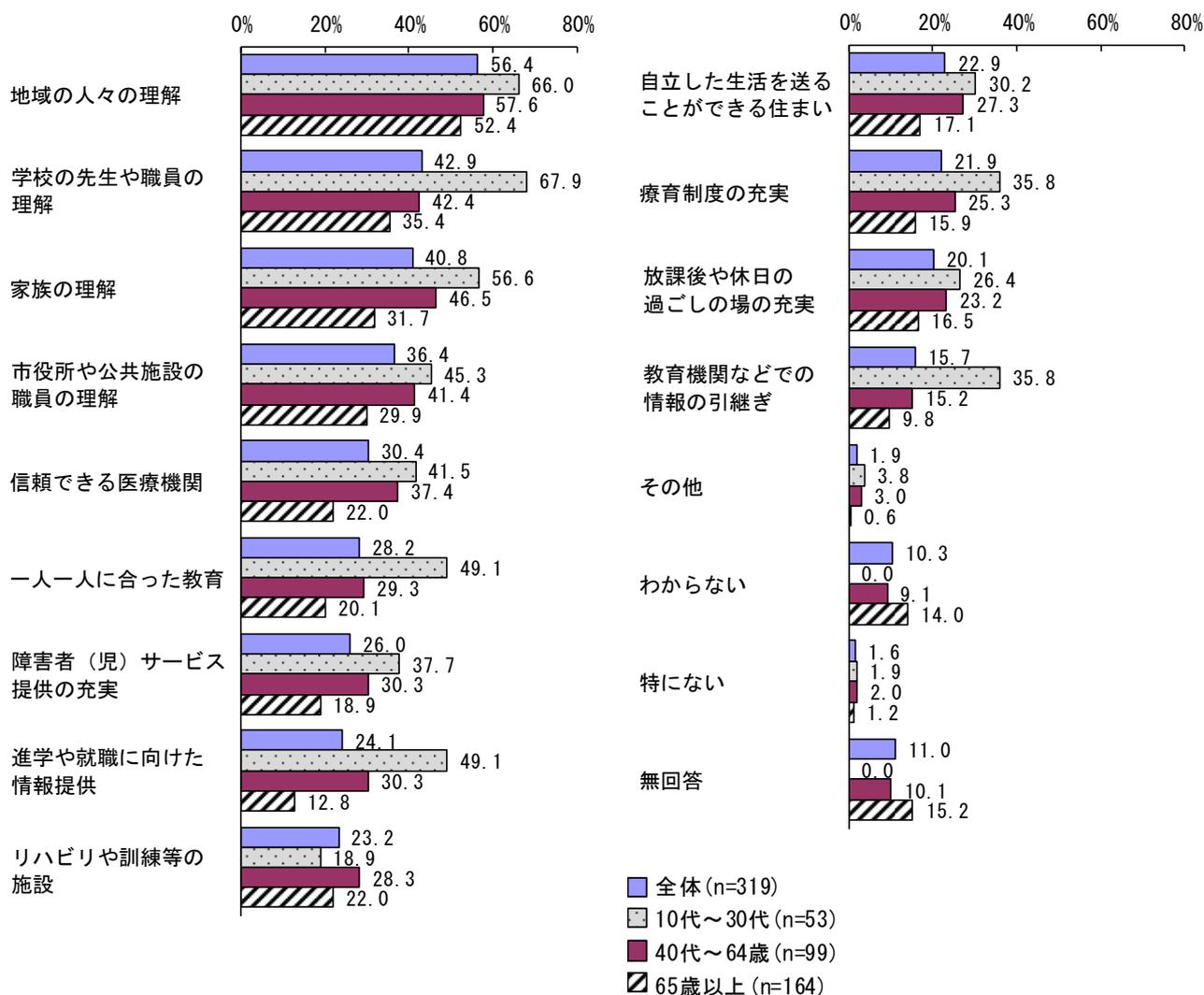


障害のある子どもの成長に重要なことでは、「地域の人々の理解」が 56.4%と最も高く、次いで「学校の先生や職員の理解」が 42.9%、「家族の理解」が 40.8%と続いています。

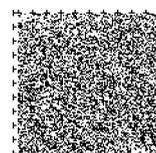
また、「その他」では、「一人にさせない場の提供」、「1人になった時のサポート」といった回答がありました。



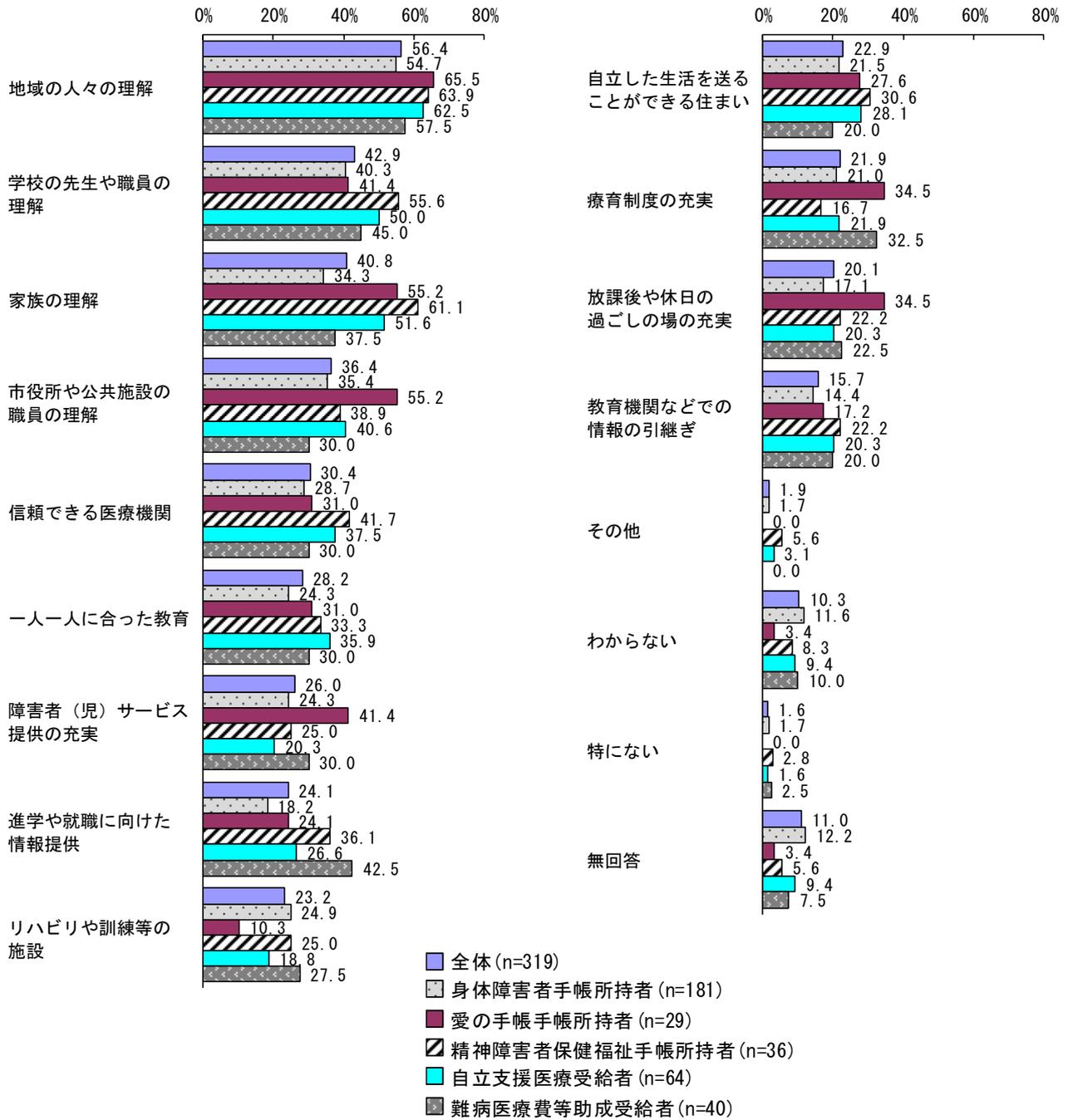
【年代別】



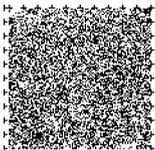
年代別に見ると、10代から30代まででは「学校の先生や職員の理解」が67.9%と最も高く、それ以外の年代では「地域の人々の理解」が50%を超えて最も高くなっています。また、10代から30代まででは「リハビリや訓練等の施設」以外のいずれの項目の割合でも他の年代よりも高くなっています。



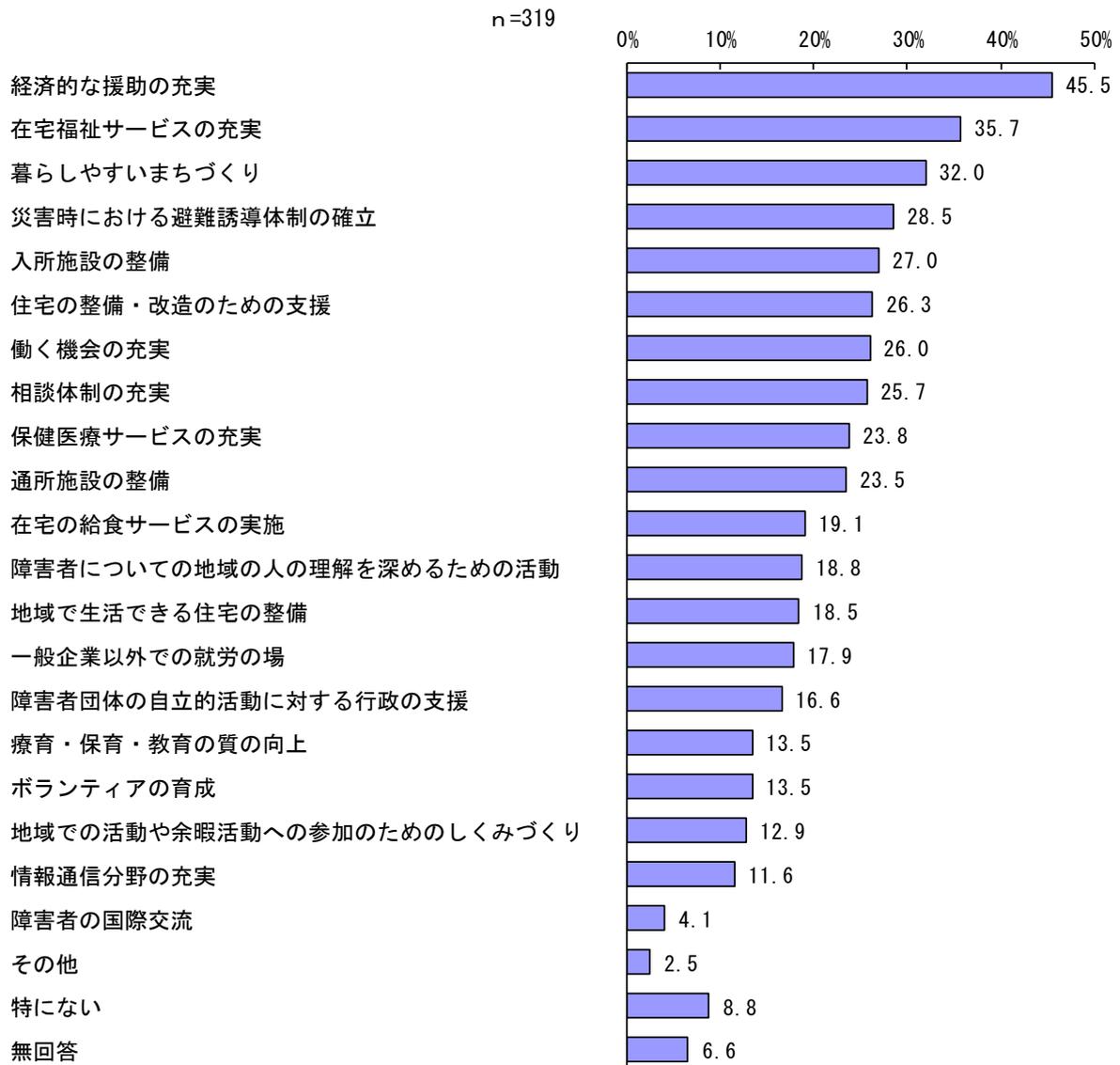
【障害別】



障害別に見ると、いずれの障害も「地域の人々の理解」が5割を超えて最も高くなっています。

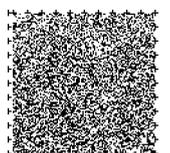


問 45 今後どのようなことを特にしていく必要があると思われますか。(あてはまるものすべてに○)

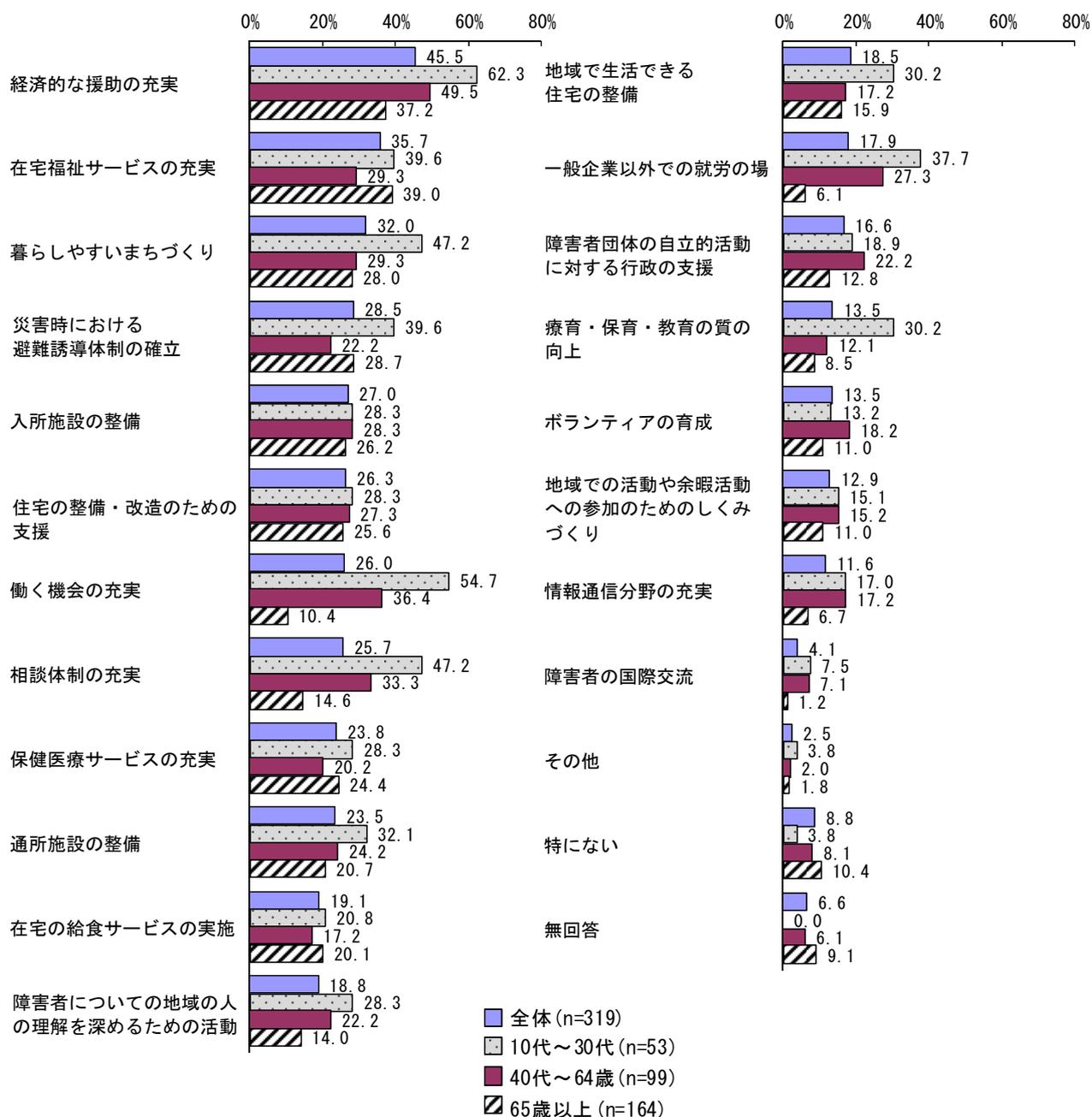


今後重要な市の施策では、「経済的な援助の充実」が 45.5%と最も高く、次いで「在宅福祉サービスの充実」が 35.7%、「暮らしやすいまちづくり」が 32.0%と続いています。

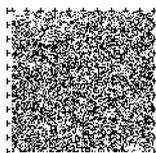
また、「その他」では、「職員の増員」、「どんなサービスがあるのかを記した一覧表などがあると良いと思う」、「一人の時間を必要とする障害者への職場における過干渉の防止とそれによるコミュニケーション不足を補う制度など」といった回答がありました。



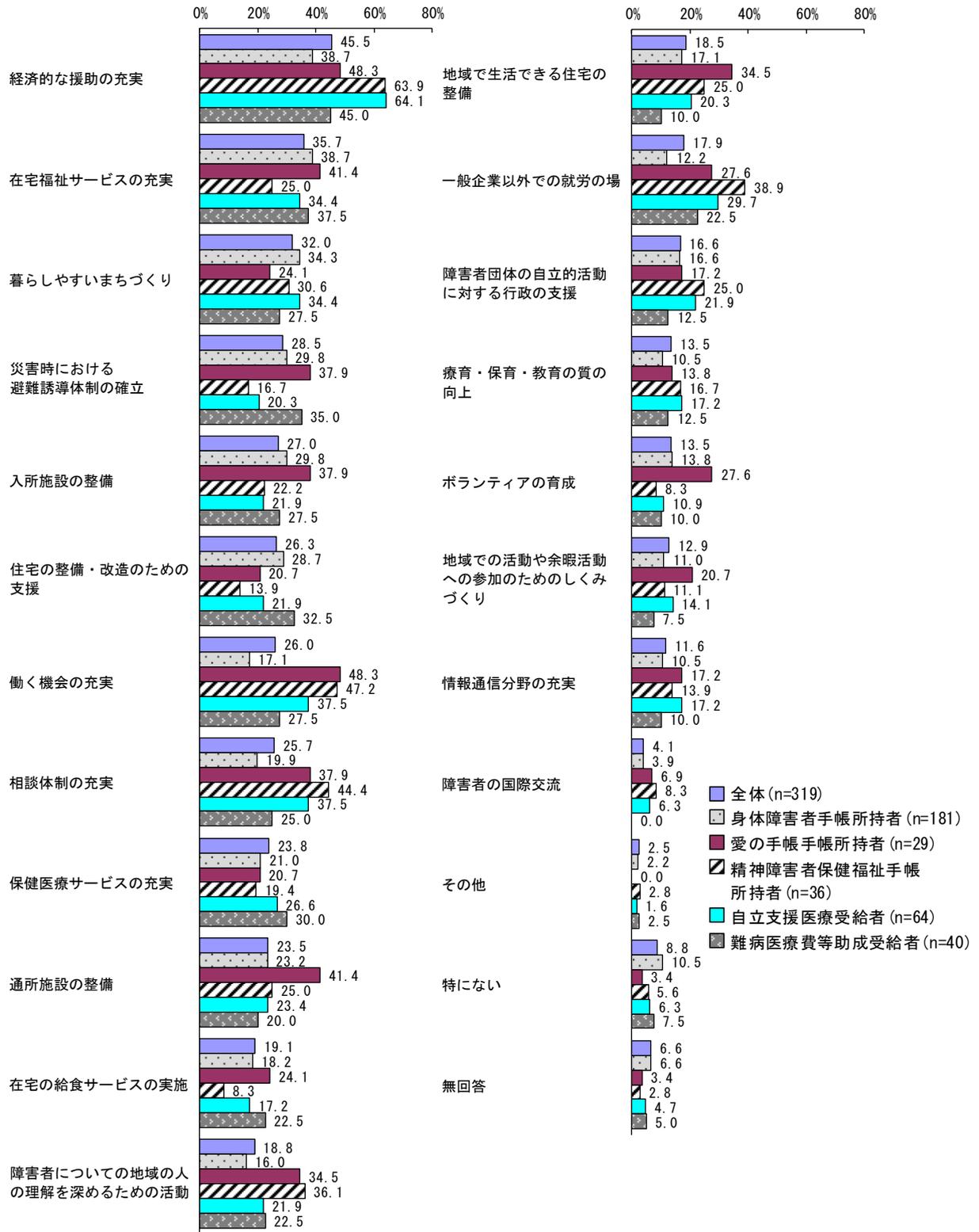
【年代別】



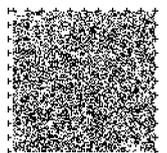
年代別に見ると、10代から64歳まででは「経済的な援助の充実」が最も高く、65歳以上では「在宅福祉サービスの充実」が39.0%と最も高くなっています。また、10代から30代まででは「働く機会の充実」が54.7%と高くなっています。



【障害別】



障害別に見ると、いずれの障害も「経済的な援助の充実」が最も高くなっています。また、身体障害者手帳所持者では「在宅福祉サービスの充実」が、愛の手帳所持者では「働く機会の充実」と「経済的な援助の充実」がそれぞれ48.3%と最も高くなっています。

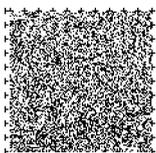


13 自由回答

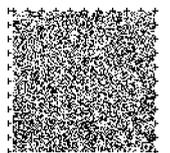
問 46 福祉の各種制度の問題点、障害者・児を取り巻く環境の改善等について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

御意見・ご要望（62件）

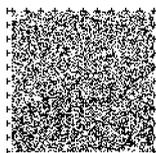
各種制度の費用負担を1割程度とし、サービス種類を明記して、契約方法等を列記してほしいです。
市の書類等の字を大きく見やすくしてほしい。市の各窓口に拡大鏡を置いてほしい。
市などで障害を持っている人が多くなるので乗り物をふやしてほしい。
知らないことが多く自分で調べないといけないのでとても大変。おしえてくれる方や同じ境遇の方にあわないのでどうしたらいいか分からない（家族も）
武蔵村山市は他の市と比べると、親身になってくれる方だとは思いますが都営住宅の人との連携がとれてないと思います。市長もいそがしいと思うが、もっと武蔵村山市民がこういう事で困っていると知ってほしい。精神科があってほしい。アルツハイマーの方のはいかいが多いので、そういった方への支援をかたくしてほしい。災害等あった時の放送が聞こえにくいので、聞こえやすくしてほしい。よろしくをお願いします。
偏見のない社会を作りたいので、なくなるよう、できるだけサポート・理解をお願いします。相談しやすい窓口は特に重要なんじゃないかと思います。（電話があれば、なおよい。）専門性。
障害者を支えている家族に向けた支援がほしいです。
私は右半身マヒです。階段は手すりがあれば昇降出来ます。例えば緑が丘の出張所等は、少しはしっこの所にもいいですので、手すりがあれば（現在あるのは隅すぎて使い勝手が悪い）左マヒでも、右マヒでも使用出来て、便利なので、その道の専門家にアドバイスをもらって設置してほしいです。この方法は他の施設でも使えると思います。真中にあると大きな荷物を出し入れする時に、じゃまだと思うので、◎スロープもいいですがやっとな歩いている人にとっては短い方が楽です。手すりがあれば昇る時は左マヒの人が、利用出来ます。右マヒの方は。逆の側を使用すれば、昇れます。降りる時は、昇った逆側を通れば、両方のマヒの方が使えば降りられます。
道路の事・シルバーカーを押して歩いていますアスファルトが平らでなく、車道の方に傾いていて歩くのに力がある（建物から車道へ出る為）・敷いてあるのが砂利だと押し辛い。また、どの様な障害福祉サービスが受けられるのか教えて欲しい。
消費税が10%になり、障害者年金生活の人たちが、食事もろくにたべれなくなり、生活がきびしくなりました。政府がもう少し、理解してくれたら世の中が少しよくなると思います。
自立支援は、医療費や薬代だけ、割引きで、交通費のサービスもしてほしい。モノレールなので、交通費が高い。
私の様に、基礎疾患が多数有り、それが起因して、うつ病（精神障害）になった人の場合、包括的な相談を受ける事が不可能で有り、就労も困難になる。精神障害者を一括りにしないでほしい。先天的に障害をお持ちの方もいれば、健常者と同じく、ある年齢迄企業で、きちんと働いていたが、様々な理由で障害者になった人もいる。10年程前に障害者就労の相談をした時に、対応した女性の方から「不景気になると、あなたの様に病気だから仕事を紹介しろと言う人が多くいて困る」と感じ悪く言われたり、別の所では、「いつ迄働きたいなどと言っているのか、体も精神も問題があるのに働ける訳無いでしょ。」と、吐き捨てる様に言われた事も有ります。一部の方でしょうが、このような思いをするなら、相談にも行きたくなくなります。
市が発行されている広報では、文字が小さすぎてお年寄りにはよみにくい。また、災害時の避難場所等も、災害の種類によって、避難する場所がことになっている事や、受け入れをしてくれる避難場所がどこなのかがわかりにくい。



市役所にはいつも助けてもらって感謝しています。これからもよろしくお願いします。
私は4年前から立川のクリニックに通院していましたが（行っても（うつで）夜ほとんど1時間、1時間半に起きてしまう）薬を変えると先生がしない。通院すればする程ひどくなる。11/15から通院をやめました。そして毎日7,000歩から8,000歩歩きました。結果ほとんどうなされる事がなくなりました。
やる気はあっても出来ない事が多すぎます。
介護者がいなくなった時の生活面等の相談
公の行事にはどこでも手話通訳が付き、その通訳者のレベルアップを望み、又個人的には依頼者が望む手話で通訳が出来ますように期待致します。
あまり、『障害者・児』を、『障害者・児』扱いしたり、特別な目で見たりしない方が良いと思います。ごく自然に、普通の人と同じように、対応していただければ良いと思います。あまり、本人が障害を持っていることを意識させない配慮が必要だと思います。
福祉施設で身に付ける技術だと一般社会では役に立たない。それより、礼儀、一般常識等を身に付けるべきと思う。自分の経験から間違いないと思う。知的障害精神障害身体障害の3施設は個別にわけるといいと思う。同一の施設での混同はよくない。自分の経験から思う。
日常生活において常に努力努力努力を忘れないよう前向きに生活する。
障害者支援において近くに住んでいる方で何かと個人情報を出されると手を差し出す事が出来なくなる事が多すぎると思いませんか？この対応やいかに。自分も障害者ですが出来るだけ世間に出て活動したいと思います。
障害者手帳を紛失→再発行不可と言われたとのこと…
下肢・体幹を集中リハビリすれば自分で歩けると思うのですが入院施設が無いのが残念です。
遠い病院へ行く時の、介助支援を利用したいが、あてはまる制度、事業所がわからない。
他の市とくらべて歩道が狭くまた無い所が多い。
情報が少ない。自分で勉強して調べて申請をしない限り、支援が受けられないので、支援制度等も積極的に教えて欲しい。
身体障害者手帳を手にして1年余り、意見や要望はまだありません。何か感じる様になりましたら意見したいと考えています。
私は良くわからないのでご意見並びにご要望はありません。
障害者でも自分でやれる事はなるべく自分でやる様努力する事も心がけなければいけないと思います。なんでも依存する事もない様にしたいものです。
行政も、ギブ、アンド、テイクだ。相談に行くとき親切に知らせて下さる。だが行政より、この様な手段もありますと言う情報はないと思う。自助努力のみ報われると思う。天災(地震)時の集合場所遠方の住民によっては差も生じ避難途中の二次もあると感じます。現下の避難所との間がある地域は舗設もと考えます。
私は視覚障害ですがまだまだ世の中がぼんやり見えます。まだまだ困っている方が沢山います。今自分のおかれている状態がまだまだ幸せなんだと自分にいい聞かせて頑張っていこうと思っています。もう先が短いので精一杯元気で楽しい毎日を送れる様努力します。
特に若い人達には自分に合った仕事を見つけて希望の持てる社会を
前に障害年金について相談したら、未納分を1年納めたら支給要件を満たすという話だったのに、払ったら今度は成人前に受診していないと無理と言われました。対応の仕方や支給要件など混乱しました。制度の拡充と統一した対応を望みます。
市役所の窓口対応者のスキルが全般的に低く十分な応答が得られない。また、態度が悪く威圧的な口調は改めて頂きたい。正社員として働き税金を多く納めている難病者は補助もなく使える制度もない。医療費は多額で健常者よりも生活水準は低く辛く厳しい状況を理解すべきと思う。



<p>老人が孤立しない仕組みを充実させて欲しい。介護が必要な家族が居るが孤立している人もいる。市の福祉でどうにか必要最低限、介入出来ないものか。</p>
<p>市民総合センターの障害福祉課さんは、カウンターを向いている人がおらず、声をかけにくい。整理券を引いて待つとかならないか。必然的に手前の人を呼ぶような形式となり、その方の状況(忙しさや対応中など)を考えると、申し訳ない事もあるし、対応にバラつきが出ていると思う。対応について、意見が他にあるならば、その方だけの責任ではないと思う。</p>
<p>障害等級によって受けられるサービスの格差を考えてほしい。寝たきりではなくても足の不自由な人もいるのに住宅設備で昇降機を付ける補助が受けられなかったりケース by ケースで考慮してもいいのでは？</p>
<p>高齢者は障害者以上に問題がある。身体全部が不自由となります！！</p>
<p>公務員は何もしてくれない。言ってもムダでしょ。</p>
<p>感謝している事を書きます。大南バス停の道幅を改善して下さい(真如苑グランド側) 大変ありがたく思っております。細い道幅でしたので広くなり、歩くのも安心して歩けます。ありがとうございます。</p>
<p>市によって、福祉の制度が若干違っているような感じを受けています。都は都で統一しても良いような気がします。</p>
<p>障害者手帳や自立支援医療証の更新時期が近づいたらおしえてくれる手紙があるとたすかる。そういうのを忘れる障害なので。</p>
<p>50, 60 年前とくらべればずっと良くなっている。</p>
<p>毎日生きる事が寒さに向かって厳しくなります。今は、杖をつかって歩いていますが、一年前とは大分変わりました。歩きづらくなりました。アンケートの中では解答欄で自分の答えが合っているか不安ですが宜敷くお願いします。</p>
<p>アンケートの項目が多く年寄には大変です。</p>
<p>自立体操の先生から「武蔵村山市の介護に関するカタログが、包括支援センターにあるので、ぜひ頂いておいて下さい」と言われセンターに行ったが「貴方のような元気な人には必要ない！」と、笑いながら言われ「カタログなら、総合センターにあるわよ！」との事。なんて冷たい対応なんだろう…人の身体は外見だけでは分かりません。もっと勉強して下さい。後日、相談員が、持参してくれました。</p>
<p>若い時はあまり働く場がなかった。年金も払えなくて無年金生活で生活保護受けるにも家があるからダメとか毎日ただ生きてるだけです。早く命が消えるのを待ってる状態です。こんなアンケートやっても何の役に立つのか分からない。</p>
<p>私は 91 才の老老の女性です。自分の事は自分で出来ますが難聴と足が不自由のため出かける事が中々出来ず友達もいないため 1 日中誰とする事がない日が多いです。障害福祉課さんのお力で話し相手がいいのですホームヘルパーさんのような方の訪問を受けられるようお力ぞえお願い致します。</p>
<p>障害者の子供の自立が難しいのでケアマネージャーに相談しても話が進まないの自分自身の負担が大きいので年々辛く体力面でも厳しい状況です。</p>
<p>どこに相談してよいか、どのような制度があるのかが、わからない。そのあたり知らせて頂きたい。</p>
<p>・障害は一人一人同じ様でも困り事はそれぞれだと思います。・一人一人に合った援助を相談者に提供できる事が目標だと思います。・窓口で断られる事が多い。障害福祉課、高齢福祉課にこだわり過ぎ、両方でどちらでも対応して欲しい！</p>



今回の調査は市民把握調査となっていますが実際は上できめた事と言って終わっていますよね！私は今回一つだけ気が付いた事を書きます(多くあるうちの一つです) 外出の時は全部と言っていいほど車イスを利用しています。歩行道より向側に行くのに車道を横切っていきます。その時歩道から車道に渡る時の段差が女性の介助の場合大変です。道路作る時車イスやその他の障害の持っている人がいると言うことを各業者の人達にも、課題にしてほしいです。自分でも試験をしてほしい。

入院の保証制度

書類が多すぎる

障害者手帳や自立支援受給のための診断書の取得に1回¥6600もかかるので、保険を適用できるようにして欲しいです。

去年の四月末頃に自身が障害者と知った為、制度自体を詳しく知る機会がなかった。他に関しては各設問で付記した通り。見た目は健常者でも受け答えができて、だからこそ苦しみ困窮し職場や身の周りで理解がすすまない。軽度でしょ？とか障害者である事すら否定されて重度のうつを長年かかえ続ける人への社会的認知や配慮を徹底して欲しい。

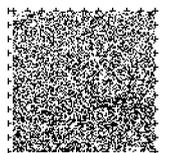
無抵抗な障害者に対しての恐ろしい様々な犯罪や中傷など、いろいろあります。どうか、このアンケートの内容が、様々な問題の改善につながりますよう宜しくお願いします。

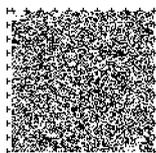
障がいのある人もない人も理解できるよう、特に小学生の頃から障がいのいろいろな事についてもっと学習してほしいと思います。(大人になっても受け入れない人が親になれば自然と子供も同様の扱いをするまたは、いじめにつながっていくため)

それぞれ障がいの状況によって要望は違って来ると思う。

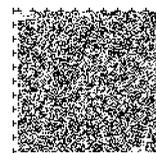
一を目指して教育を行うべき。その他、他市町との幅広い連携等も進めるべきと考えている。

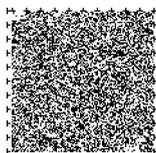
私は一応障害者ですけどあまり関係ないです。高齢の方で大変です。身体が動かないなり等





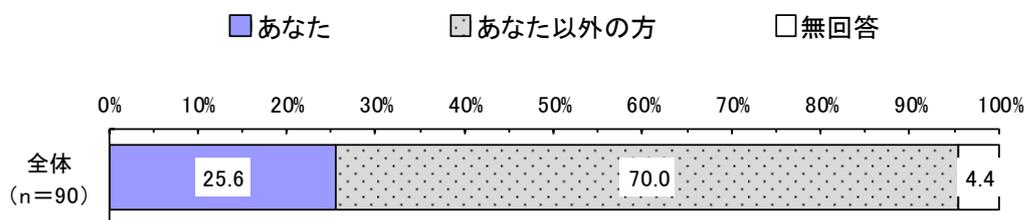
第3章 障害児（18歳未満）の調査結果





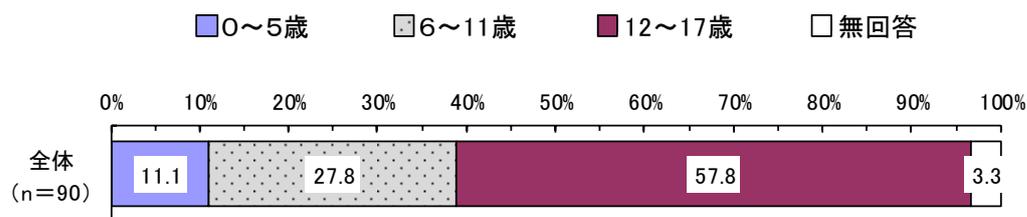
1 回答者の属性

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。(1つに○)

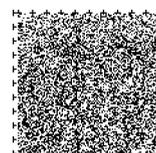


アンケートの回答者は、「あなた」が25.6%と全体の4分の1、「あなた以外の方」が70.0%を占めています。

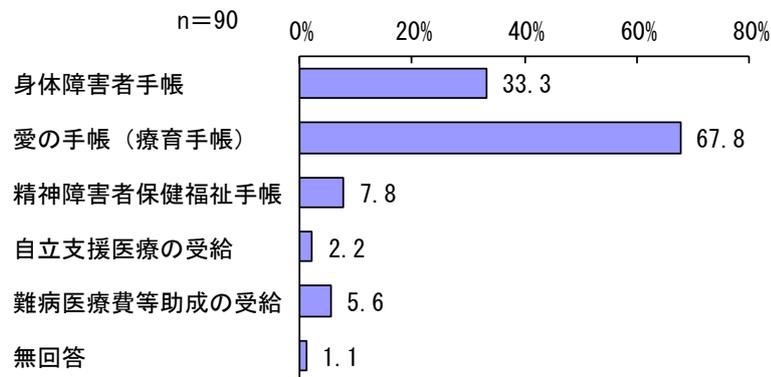
問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(1つに○)【令和元年12月1日現在】



回答者の年代では、「12~17歳」が57.8%と最も高く、次いで、「6~11歳」が27.8%、「0~5歳」が11.1%と続いています。

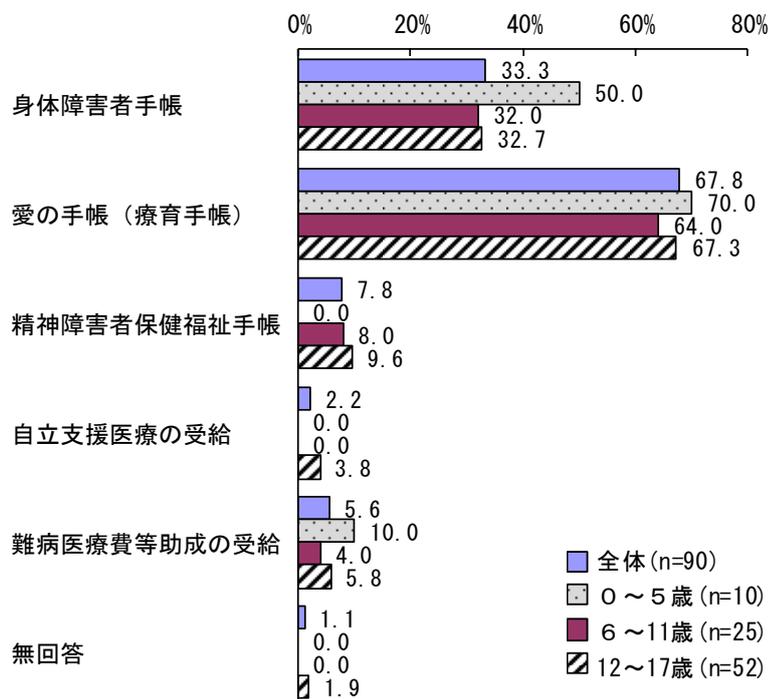


問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費等の助成を受けていたりしますか。
(あてはまるものすべてに○)

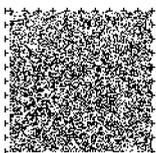


障害者手帳の所持状況や医療費等の助成状況では、「身体障害者手帳」が33.3%、「愛の手帳 (療育手帳)」が67.8%、「精神障害者保健福祉手帳」が7.8%、「自立支援医療の受給」が2.2%、「難病医療費等助成の受給」が5.6%となっています。

【年代別】

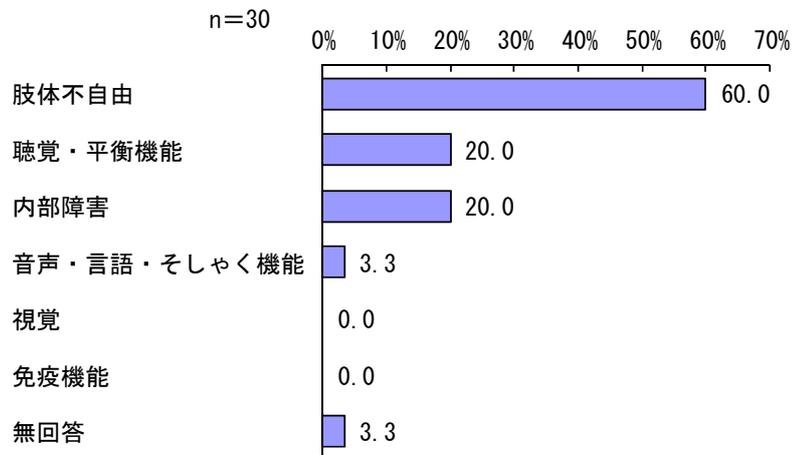


年代別に見ると、いずれの年代も「愛の手帳 (療育手帳)」が最も高く、次いで「身体障害者手帳」が続いています。

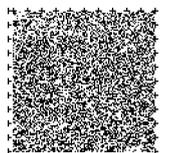


身体障害者手帳を所持している方にお伺いします。

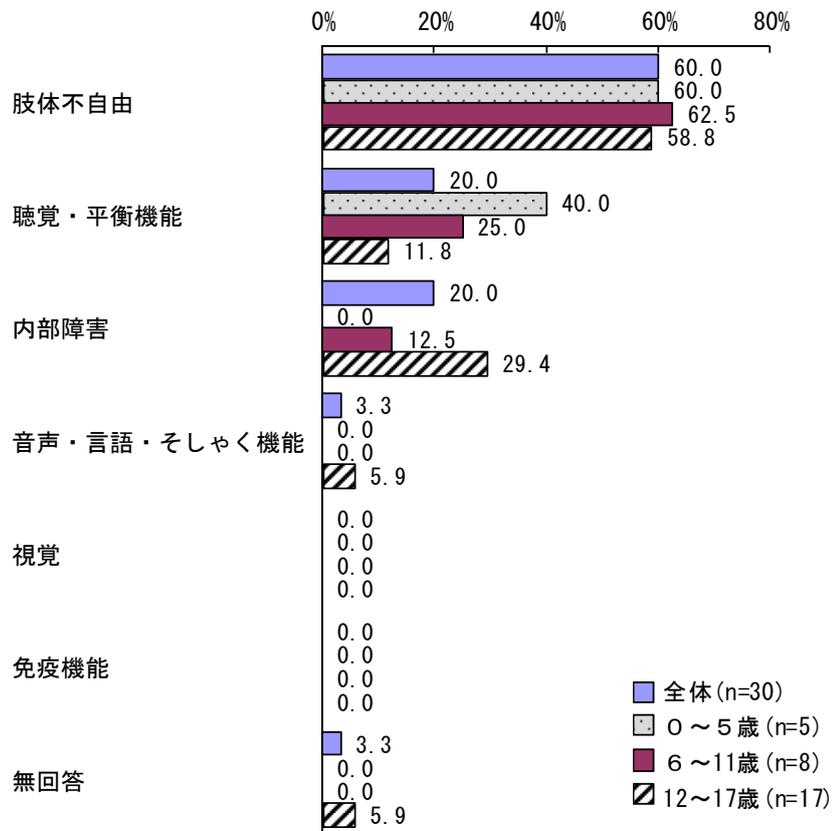
問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。(あてはまるものすべてに○)



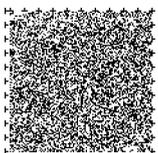
身体障害者手帳を取るきっかけとなった障害では、「肢体不自由」が 60.0%と最も高く、次いで「聴覚・平衡機能」と「内部障害」がともに 20.0%、「音声・言語・そしゃく機能」が 3.3%と続いています。



【年代別】

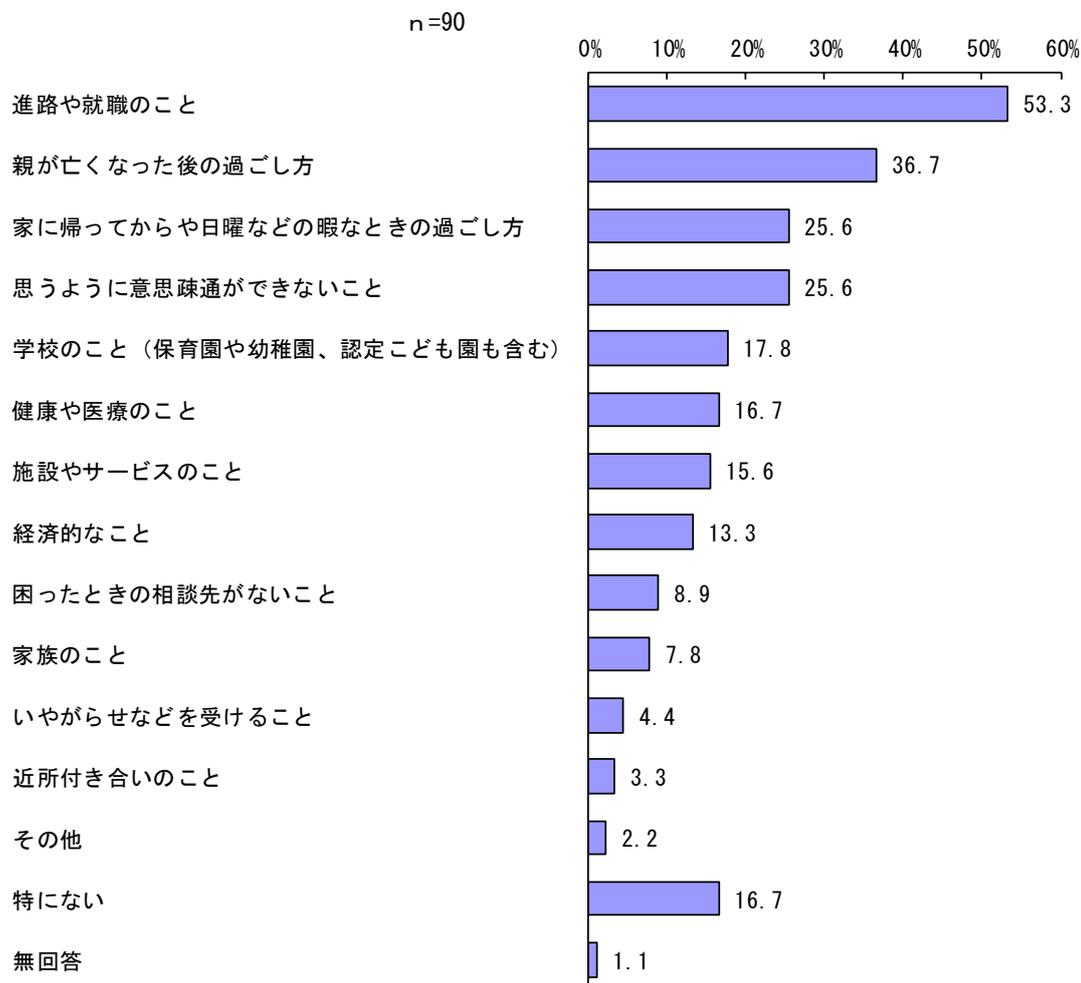


年代別に見ると、「肢体不自由」はいずれの年代も6割前後で最も高くなっています。「聴覚・平衡機能」は年代が下がるにつれて高くなり、反対に「内部障害」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあります。



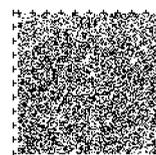
2 生活について

問5 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

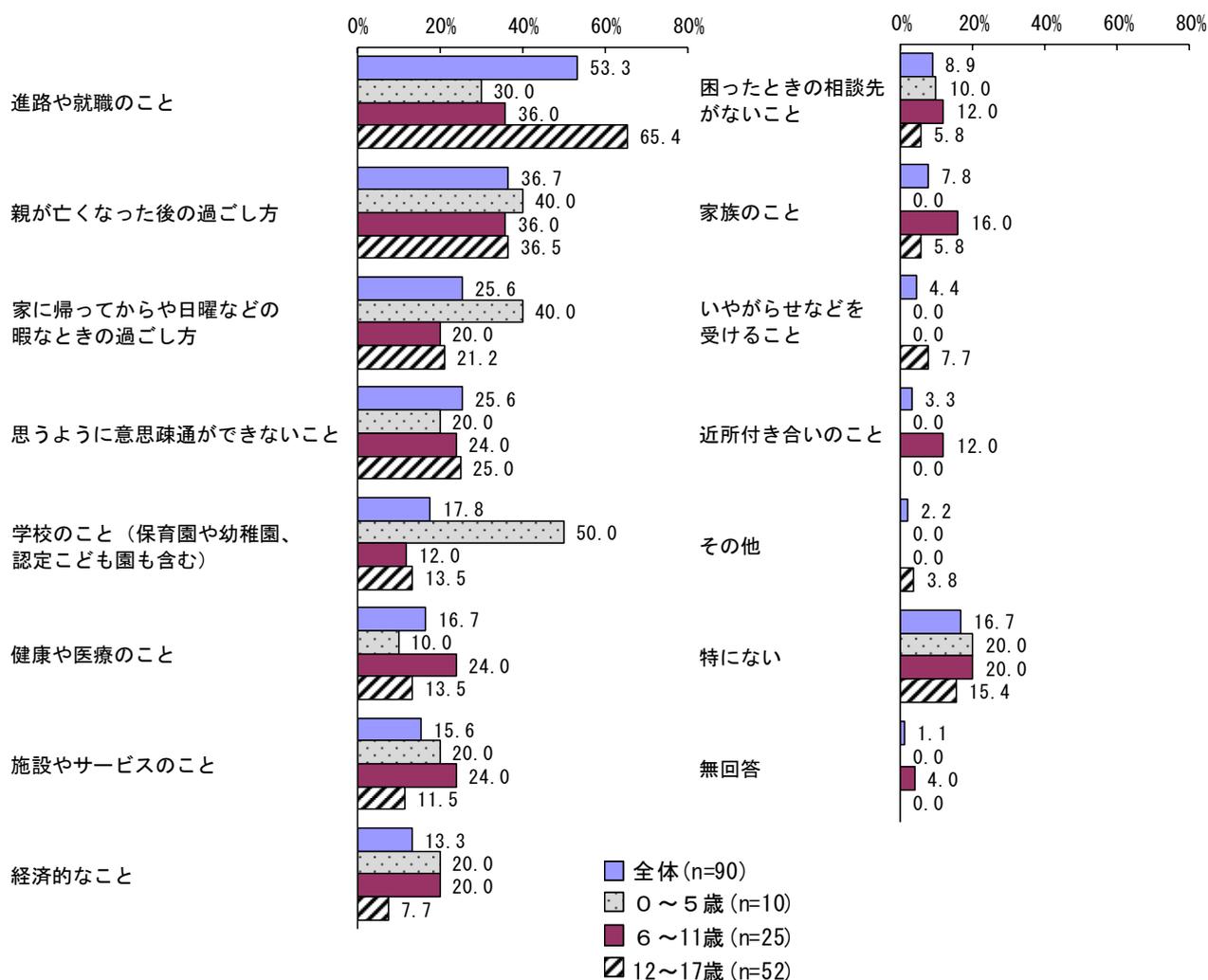


現在の生活での困りごとでは、「進路や就職のこと」が53.3%と最も高く、次いで、「親が亡くなった後の過ごし方」が36.7%と、将来についての項目が高くなっています。

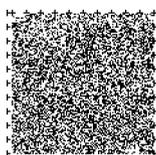
また、「その他」では、「部活動に行きたくない」、「この先就職するにあたり手帳を更新できるか」といった回答がありました。



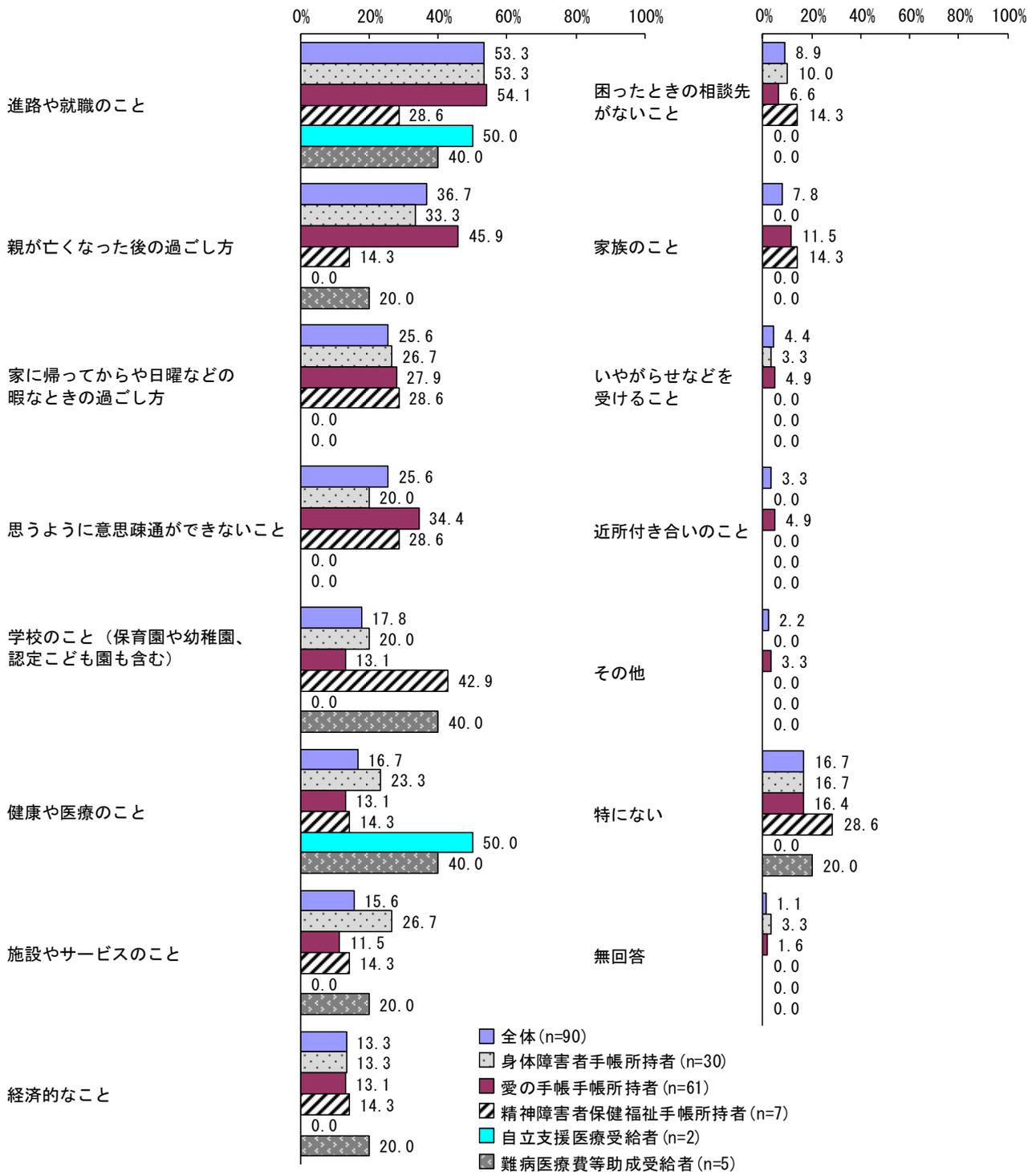
【年代別】



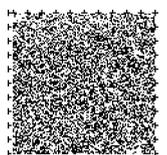
年代別に見ると、「進路や就職のこと」はいずれの年代も高く、特に12歳から17歳まででは65.4%となっています。0歳から5歳まででは、「学校のこと（保育園や幼稚園、認定こども園も含む）」が50.0%で最も高くなっています。



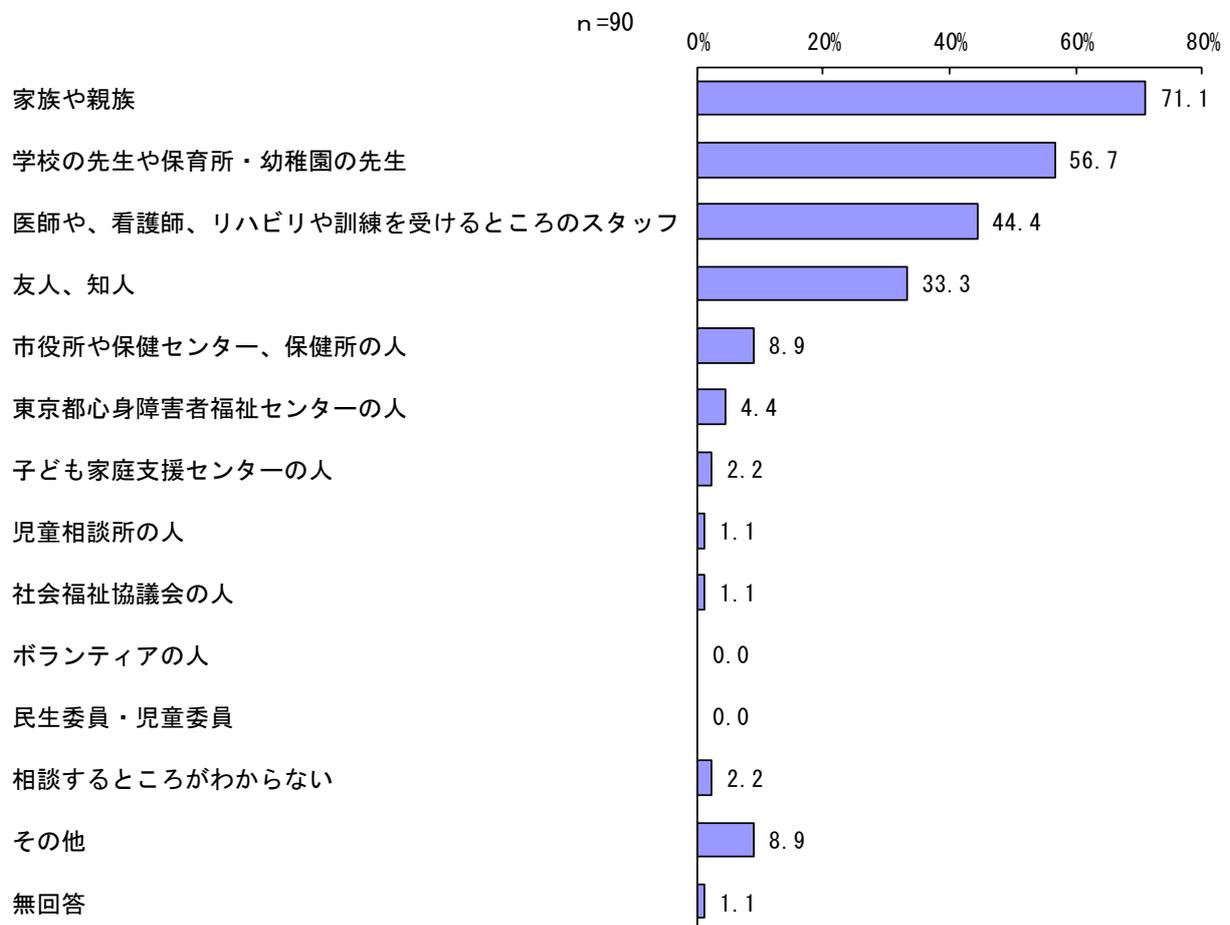
【障害別】



障害別に見ると、身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者では、「進路や就職のこと」が5割を超えて最も高くなっています。また、愛の手帳所持者では、「親が亡くなった後の過ごし方」が45.9%、「思うように意思疎通ができないこと」が34.4%と、他の障害よりも高くなっています。

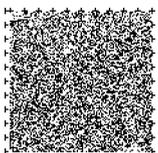


問6 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

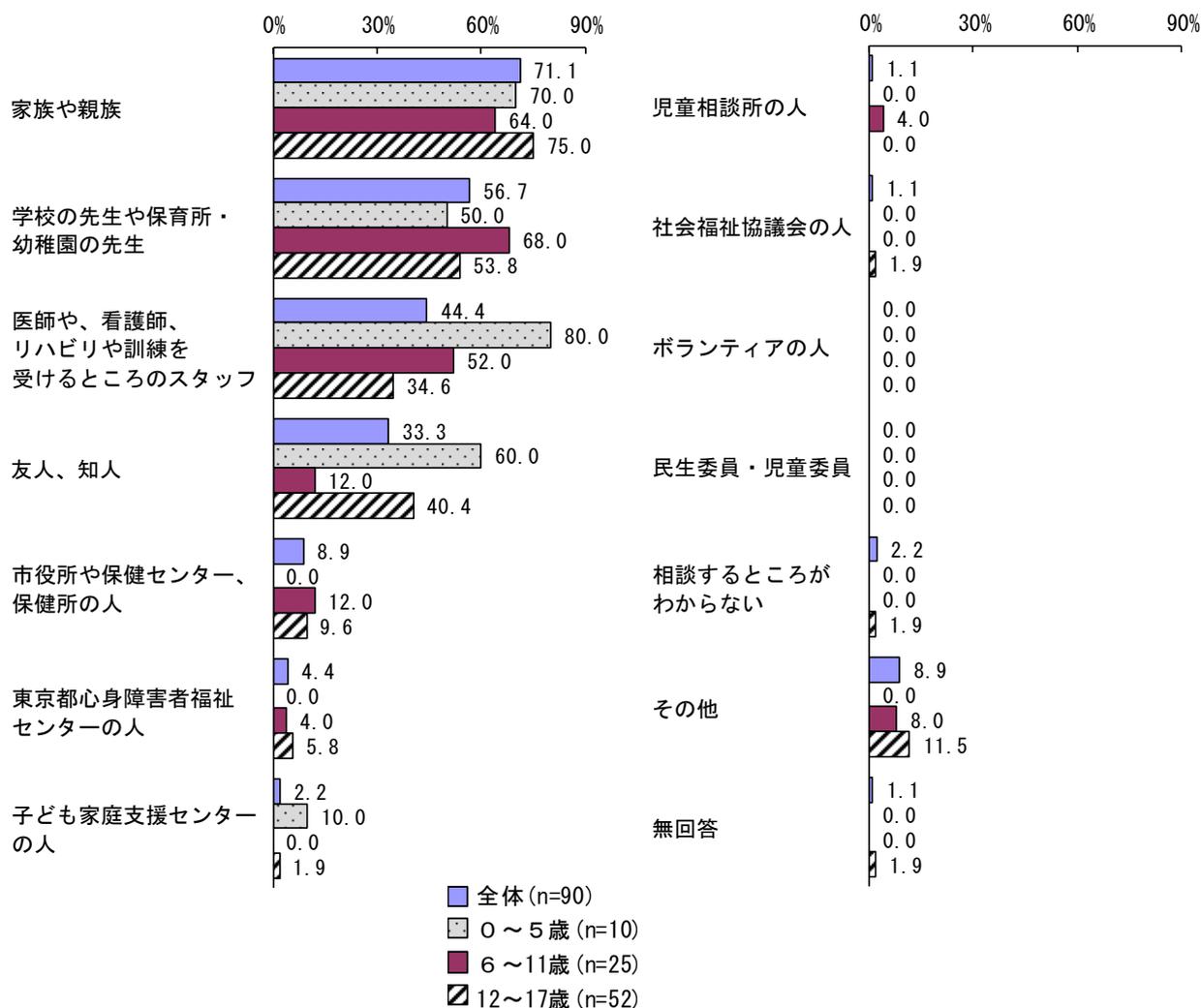


困りごとの際の相談相手では、「家族や親族」が71.1%と最も高く、次いで、「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」が56.7%、「医師や、看護師、リハビリや訓練を受ける場所のスタッフ」が44.4%、「友人、知人」が33.3%と続いています。

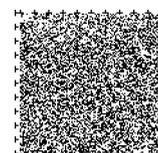
また、「その他」では、「学校に来ているソーシャルワーカー」、「放課後等デイサービスのスタッフ」、「インターネット」といった回答がありました。



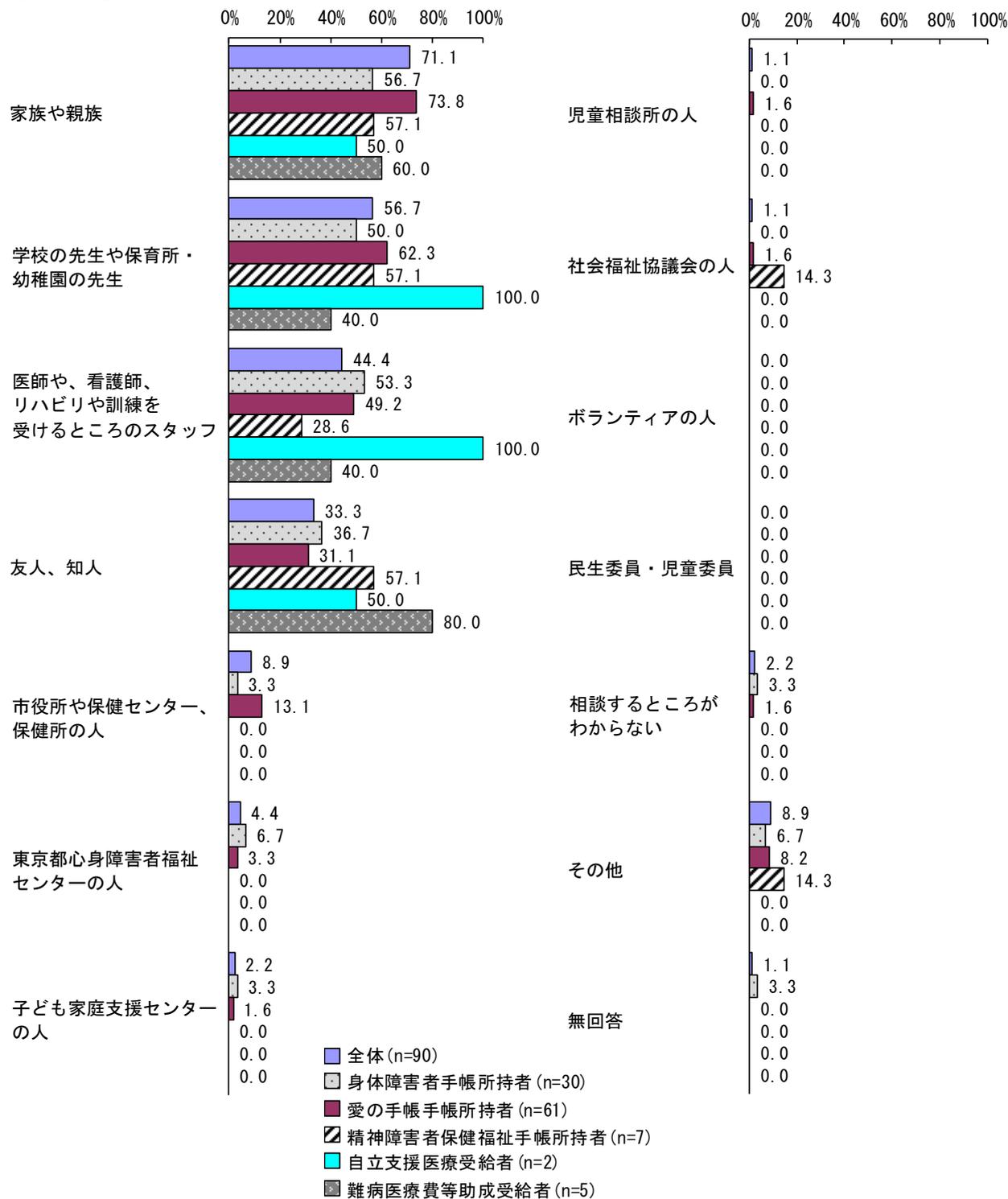
【年代別】



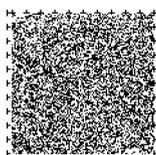
年代別に見ると、「家族や親族」、「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」、「医師や、看護師、リハビリや訓練を受けるところのスタッフ」は、いずれの年代も高く、特に0から5歳まででは、「医師や、看護師、リハビリや訓練を受けるところのスタッフ」が80.0%で他の年代よりも高くなっています。



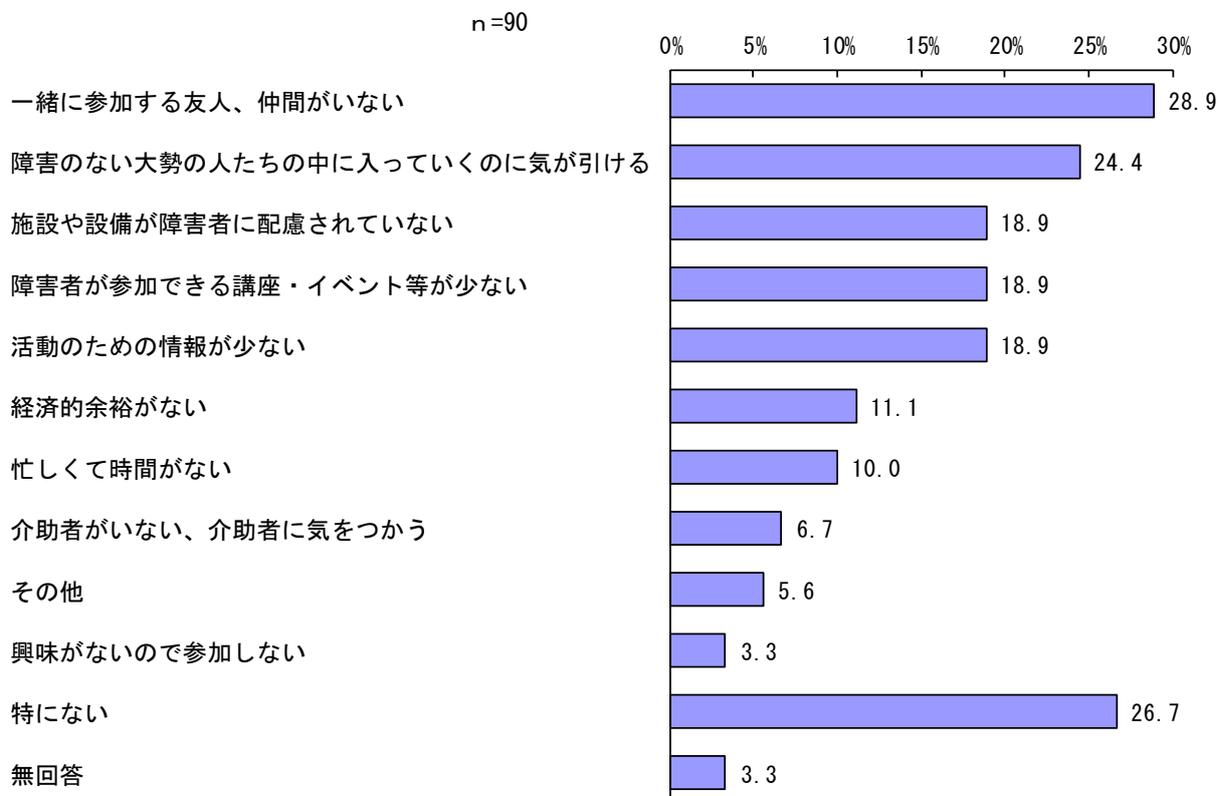
【障害別】



障害別に見ると、「家族や親族」、「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」、「医師や、看護師、リハビリや訓練を受けるところのスタッフ」は、いずれの障害も高くなっています。



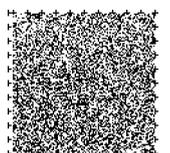
問7 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)



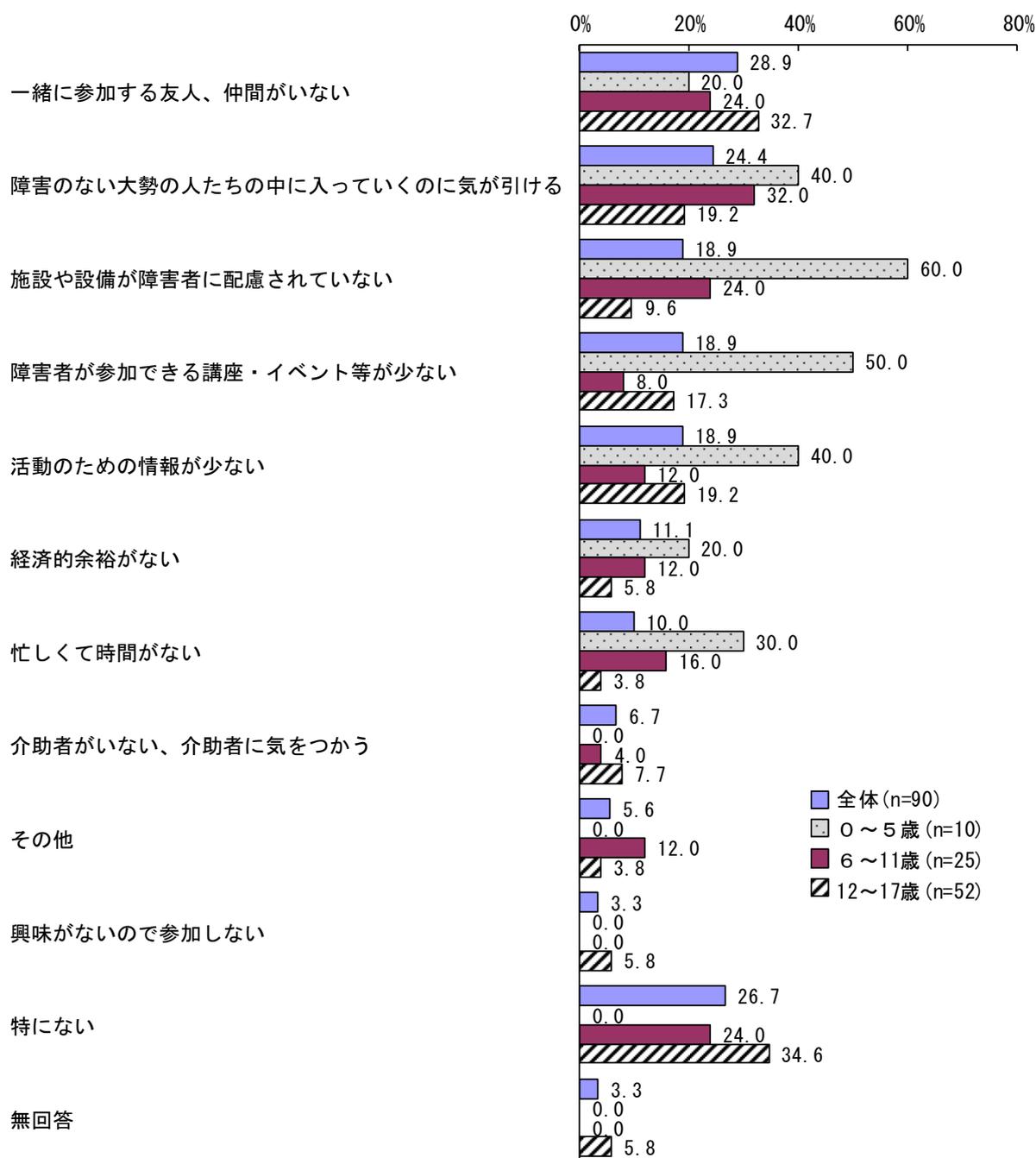
余暇活動での困りごとや活動していない理由では、「一緒に参加する友人、仲間がない」が28.9%と最も高く、次いで、「障害のない大勢の人たちの中に入っていきの気が引ける」が24.4%、「施設や設備が障害者に配慮されていない」、「障害者が参加できる講座・イベント等が少ない」、「活動のための情報が少ない」がそれぞれ18.9%と続いています。

一方、「特にない」は26.7%となっています。

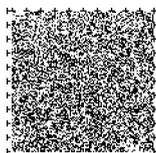
また、「その他」では、「本人の意思確認ができない」、「感染力の強い感染症が学校等に出してしまうこと」、「介助する側の腰痛のため」といった回答がありました。



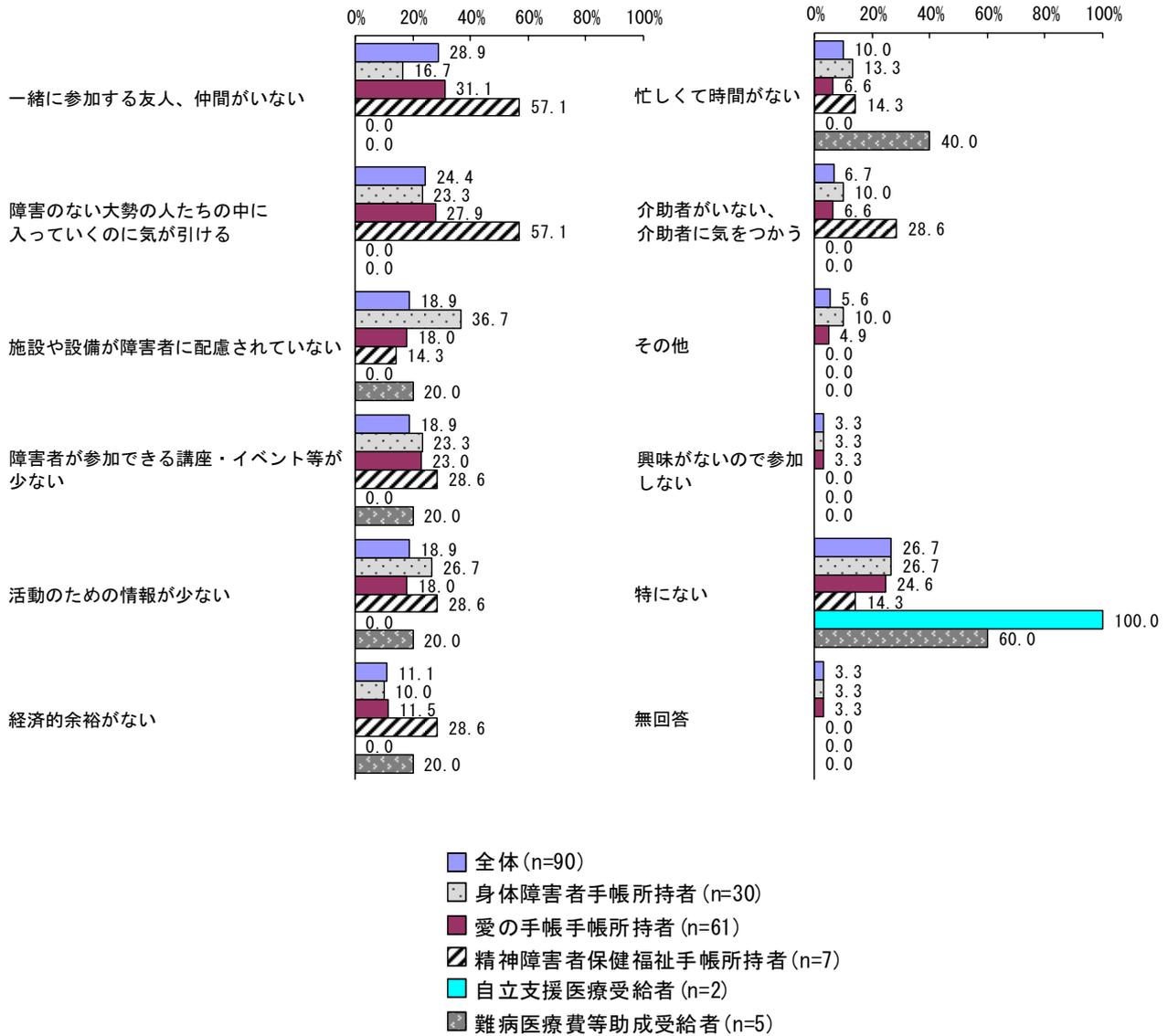
【年代別】



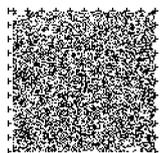
年代別に見ると、「施設や設備が障害者に配慮されていない」、「障害のない大勢の人たちの中に入っていきの気が引ける」、「忙しくて時間がない」、「経済的余裕がない」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向にあります。



【障害別】

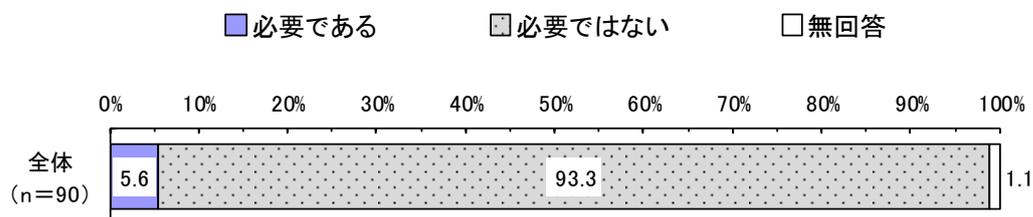


障害別に見ると、身体障害者手帳所持者では、「施設や設備が障害者に配慮されていない」が 36.7%、愛の手帳所持者では、「一緒に参加する友人、仲間がいない」が 31.1%と最も高くなっています。



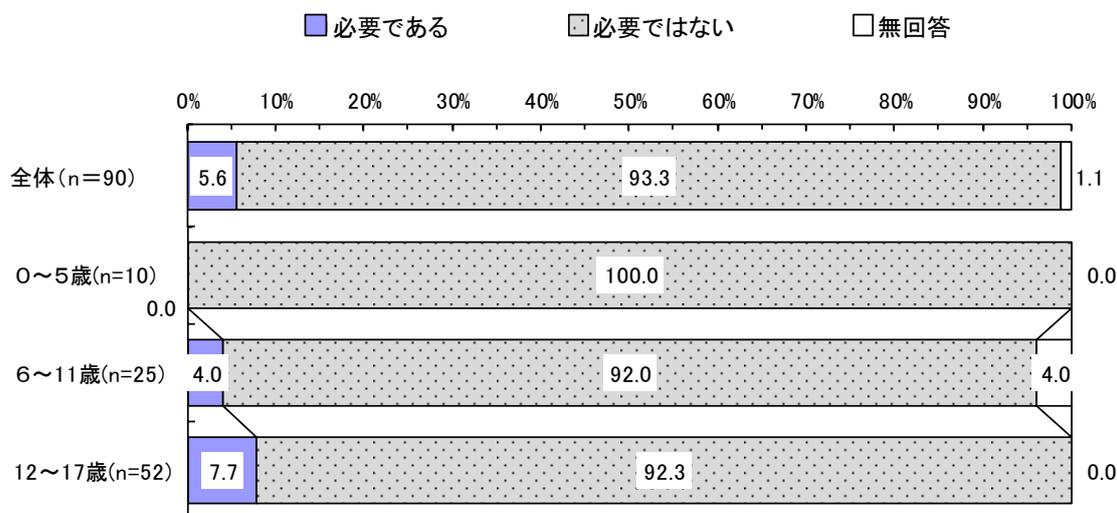
3 健康・医療・リハビリテーションについて

問8 あなたは、ふだんの生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器等の医療的ケアが必要ですか。(1つに○)

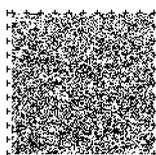


医療的ケアの必要の有無は、「必要である」が 5.6%、「必要ではない」が 93.3%となっています。

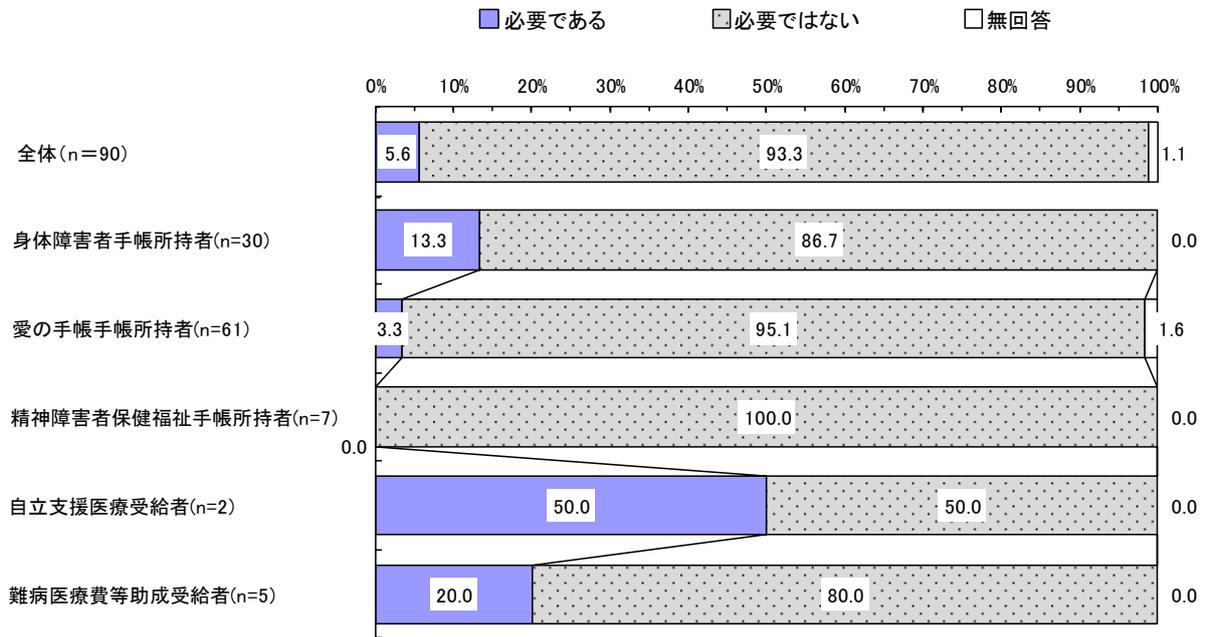
【年代別】



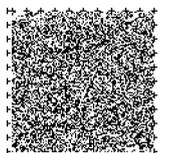
年代別に見ると、「必要である」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、6歳から11歳までで4.0%、12歳から17歳までで7.7%となっています。



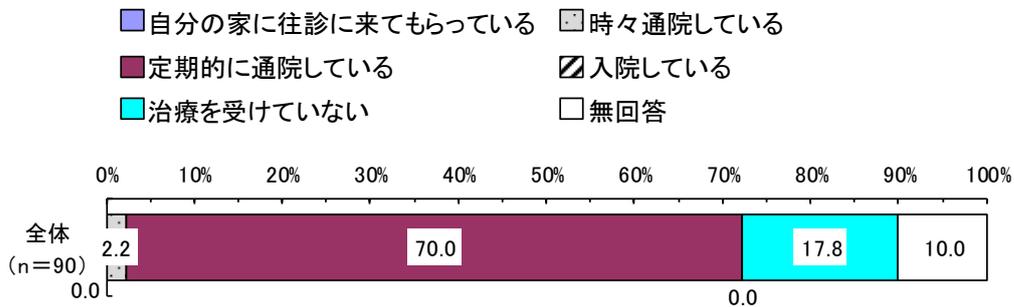
【障害別】



障害別に見ると、「必要である」は、身体障害者手帳所持者が 13.3%であり、愛の手帳所持者が 3.3%となっています。

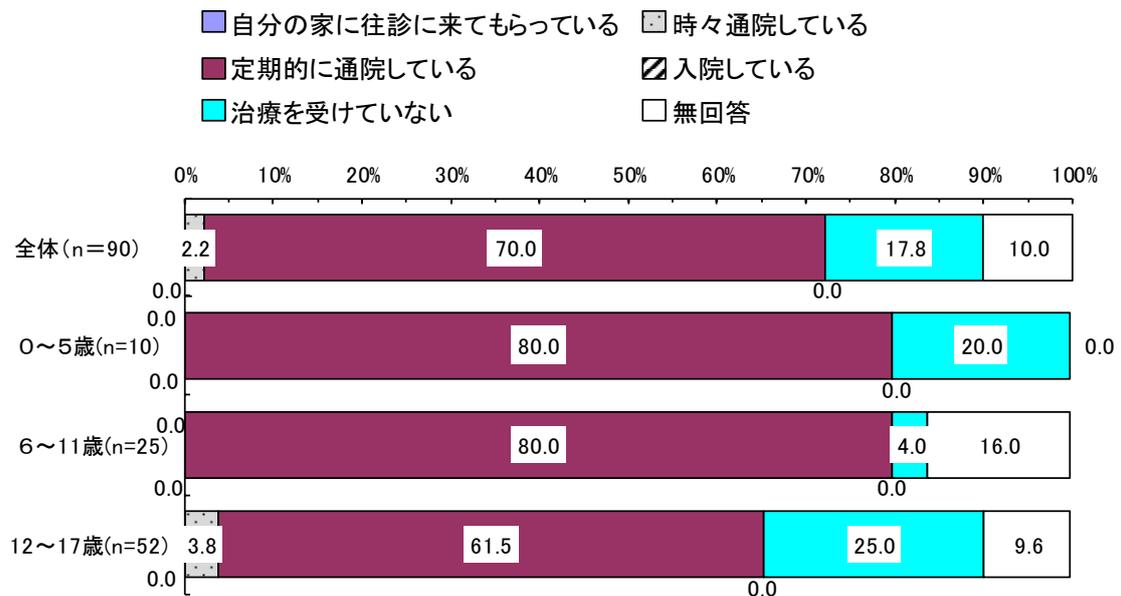


問9 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

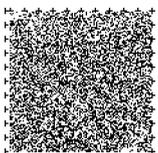


現在の医療状況は、「定期的に通院している」が70.0%と最も高く、次いで、「治療は受けていない」が17.8%、「時々通院している」が2.2%と続いています。

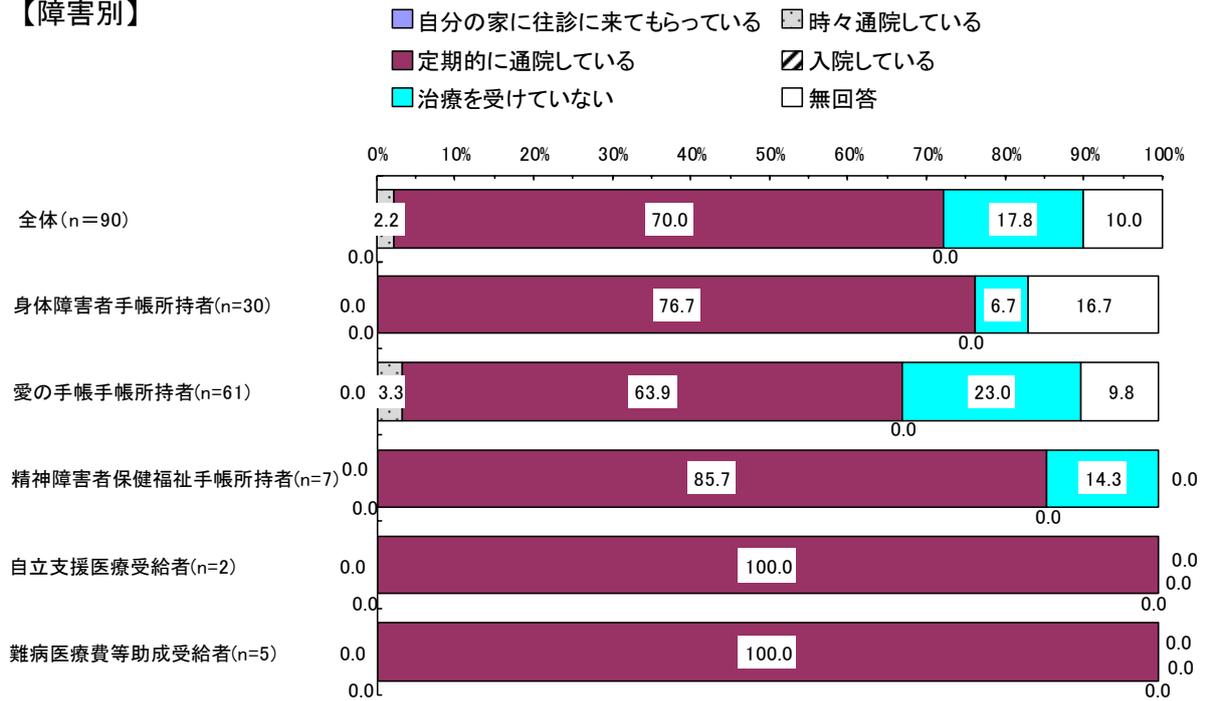
【年代別】



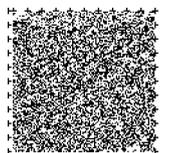
年代別に見ると、「定期的に通院している」は0歳から5歳までと6歳から11歳まででともに80.0%を占めています。



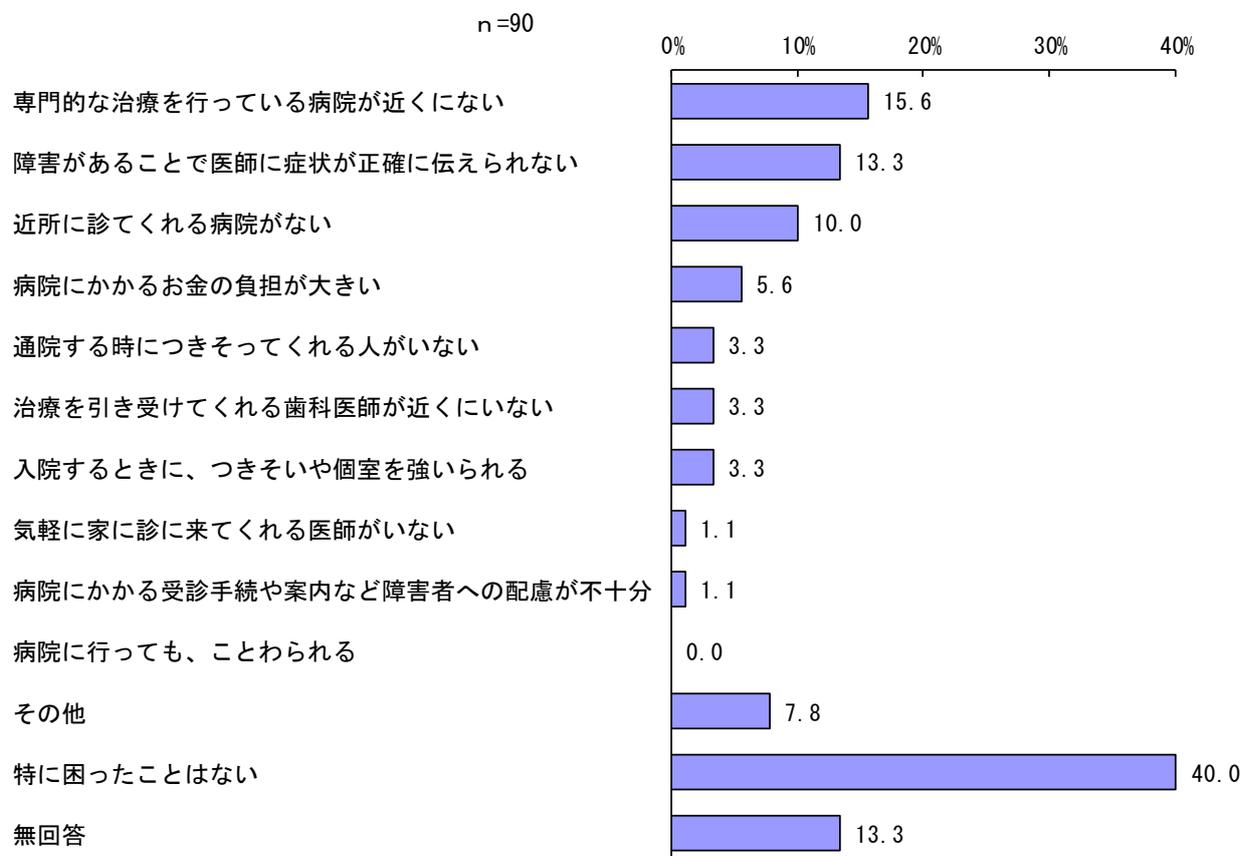
【障害別】



障害別に見ると、「定期的に通院している」は、身体障害者手帳所持者で 76.7%、愛の手帳所持者で 63.9%となっています。



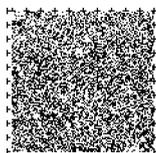
問 10 病院にかかるときに、困ったり不便に思ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



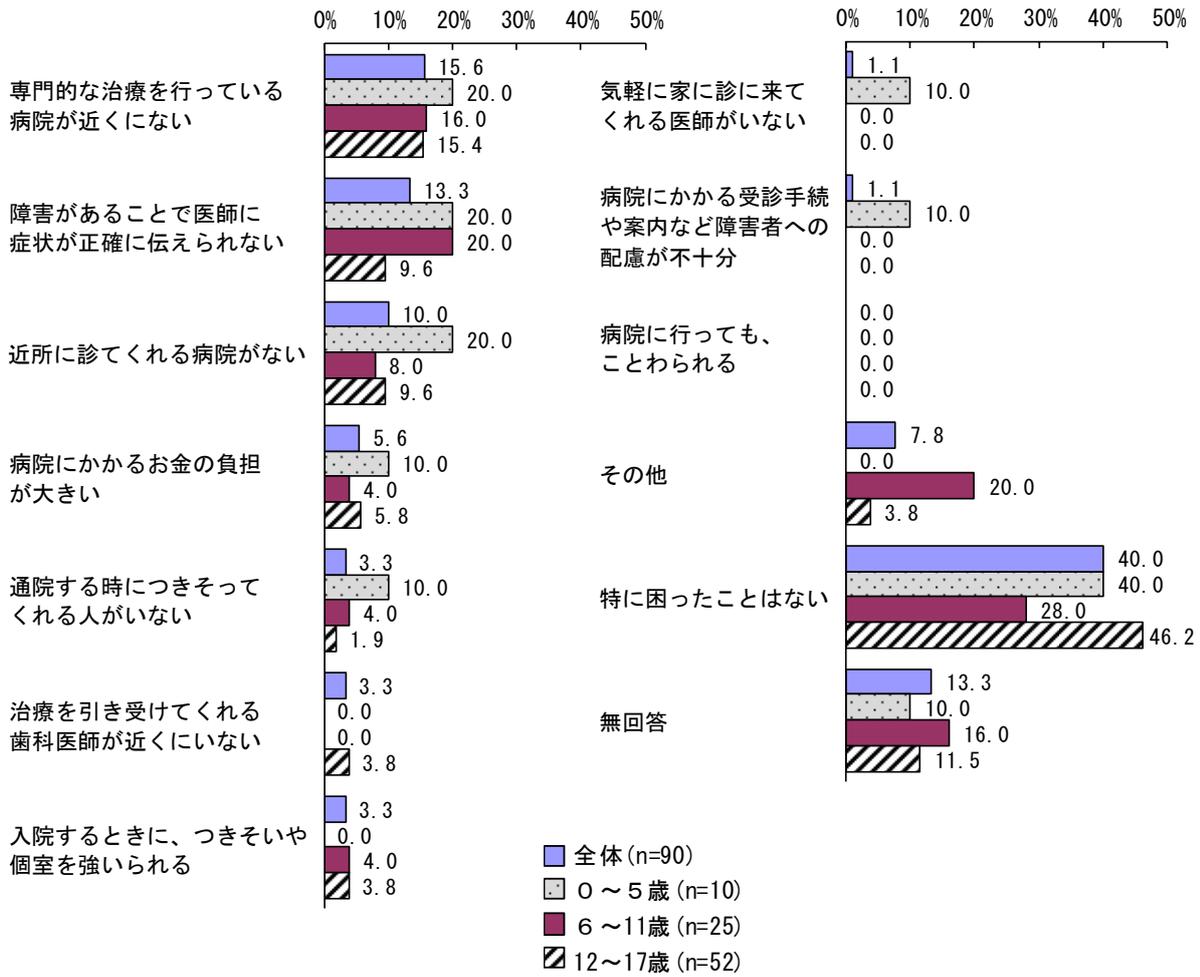
病院にかかる際の困りごとは、「専門的な治療を行っている病院が近くにない」が 15.6%と最も高く、次いで、「障害があることで医師に症状が正確に伝えられない」が 13.3%、「近所に診てくれる病院がない」が 10.0%となっています。

一方、「特に困ったことはない」は 40.0%を占めています。

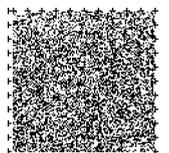
また、「その他」では、「バリアフリーの病院が少ない」、「医療行為への本人の抵抗」、「診察時間が短い」といった回答がありました。



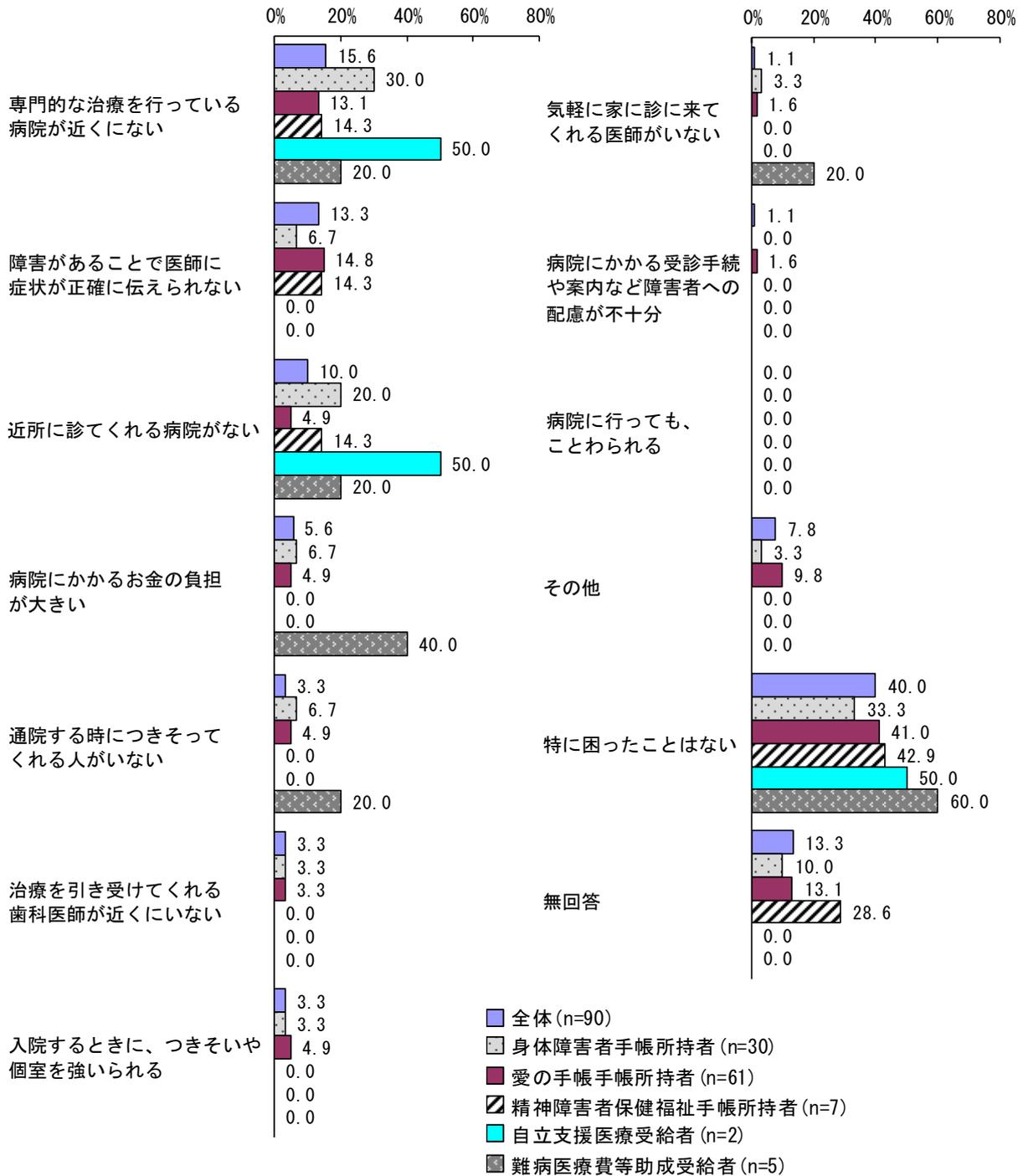
【年代別】



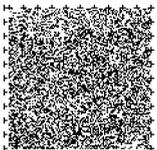
年代別に見ると、「治療を引き受けしてくれる歯科医師が近くにいない」と「入院するときに、つきそいや個室を強いられる」以外では、全体に年代が下がるにつれて病院にかかる際の困りごとの割合が高くなる傾向にあります。



【障害別】

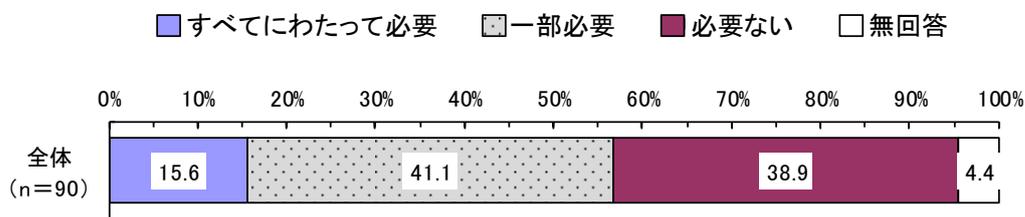


障害別に見ると、身体障害者手帳所持者では、「専門的な治療を行っている病院が近くにない」が30.0%、愛の手帳所持者では、「障害があることで医師に症状が正確に伝えられない」が14.8%で最も高くなっています。



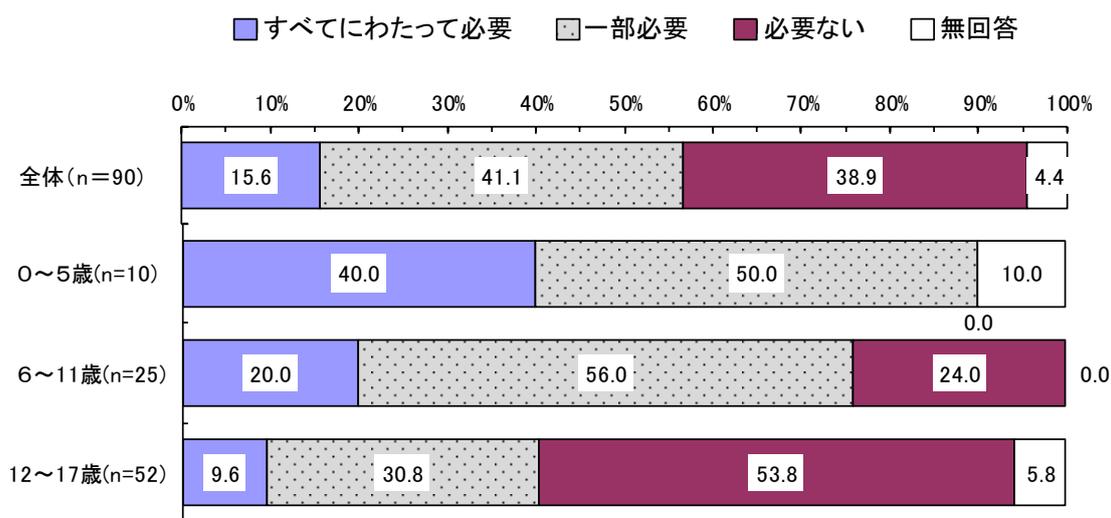
4 介助の状況について

問 11 現在、あなたは介助（支援）が必要ですか。（1つに○）

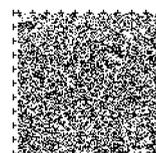


介助・支援の必要の有無では、「すべてにわたって必要」が15.6%、「一部必要」が41.1%、「必要ない」が38.9%となっています。

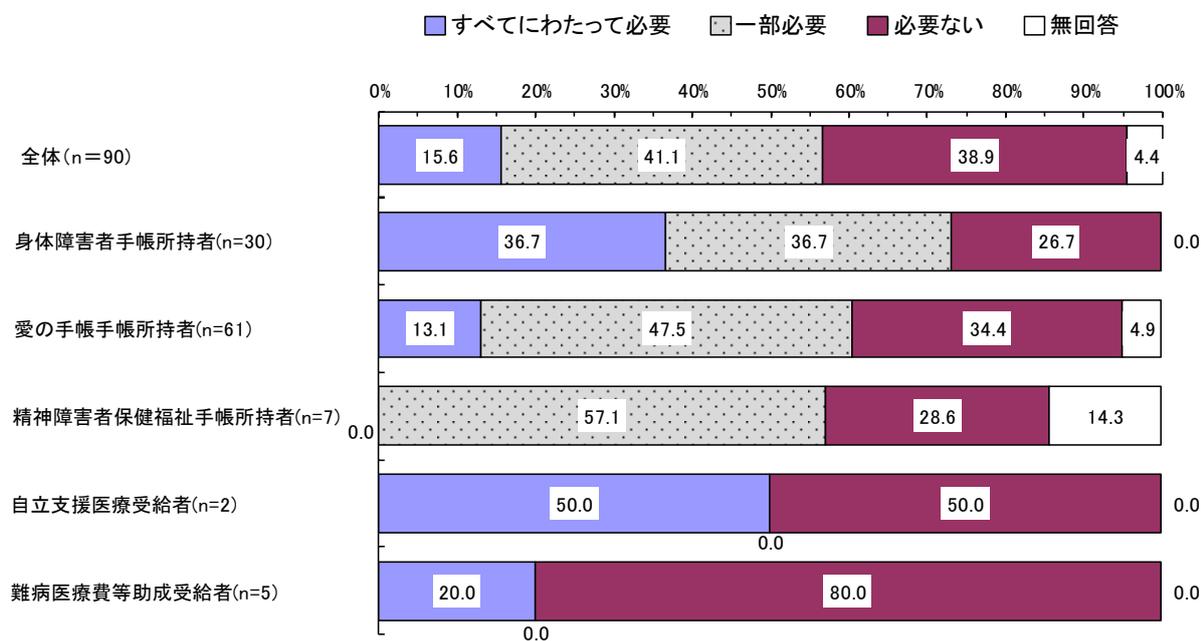
【年代別】



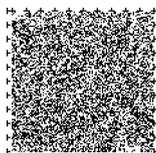
年代別に見ると、「すべてにわたって必要」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、0歳から5歳まででは、40.0%を占めています。



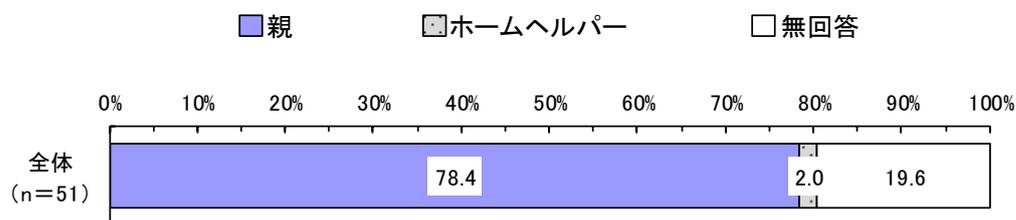
【障害別】



障害別に見ると「すべてにわたって必要」は、身体障害者手帳所持者が 36.7%、愛の手帳所持者が 13.1%となっています。



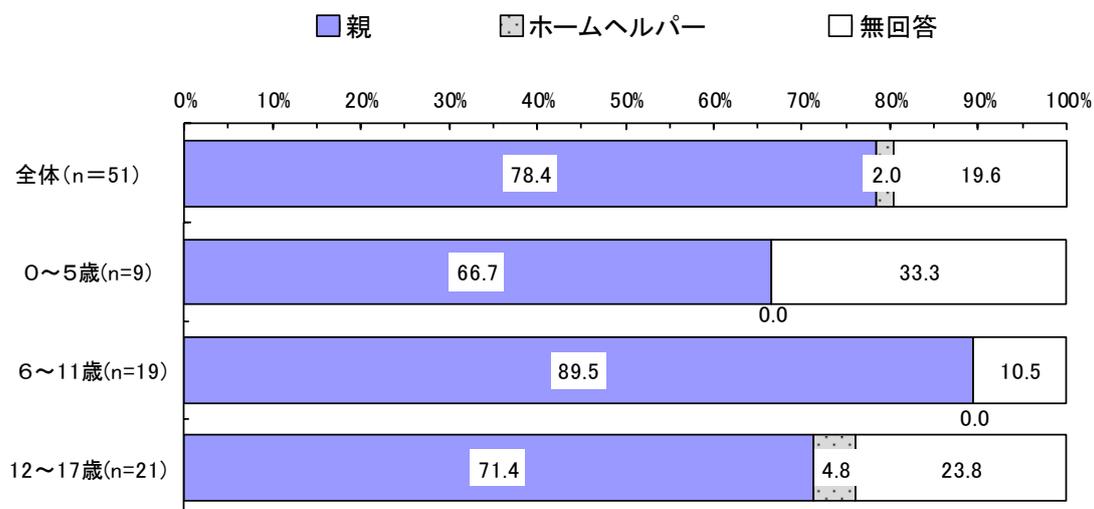
問11で「すべてにわたって必要」「一部必要」と答えた方におうかがいします。
 問12 あなたの介助（支援）をおもにしているのはどなたですか。（1つに○）



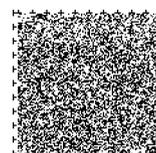
※「兄弟姉妹やその配偶者」、「祖父母」、「その他の親族」、「友人・知人・近所の人」、「施設・病院の職員」、「ボランティア」、「その他」の回答者はいませんでした。

主な介助・支援者では、「親」が78.4%と8割近くを占め、「ホームヘルパー」が2.0%となっています。

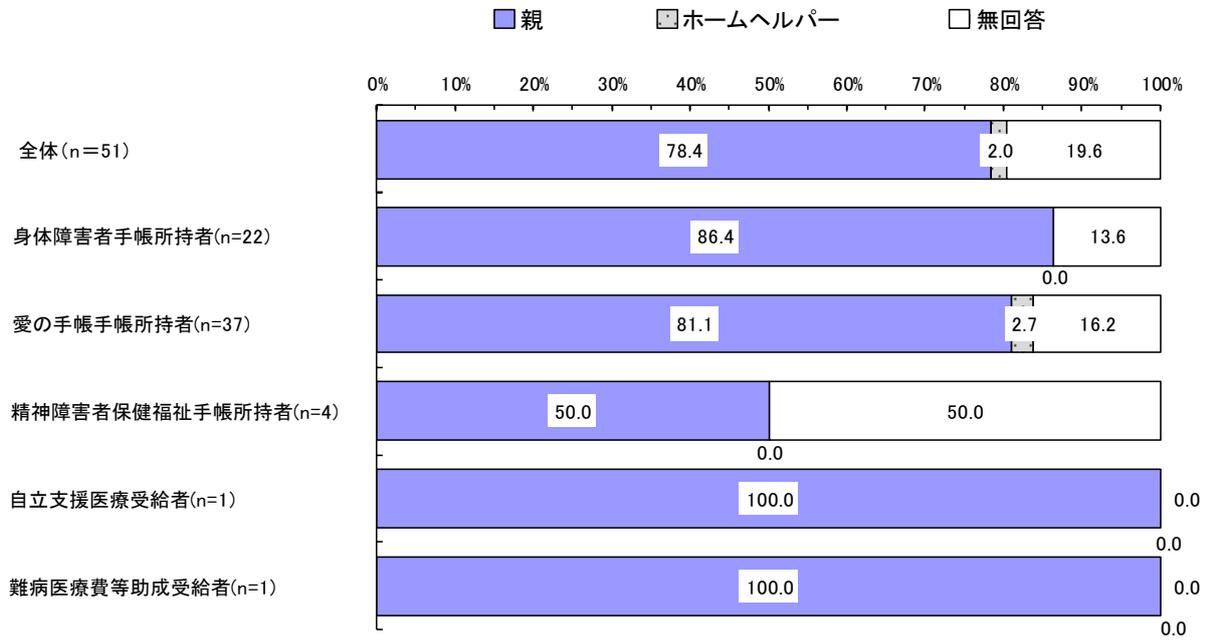
【年代別】



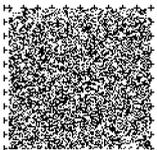
年代別に見ると、12歳から17歳までで「ホームヘルパー」が4.8%となっている以外は、すべて「親」という回答になっています。



【障害別】

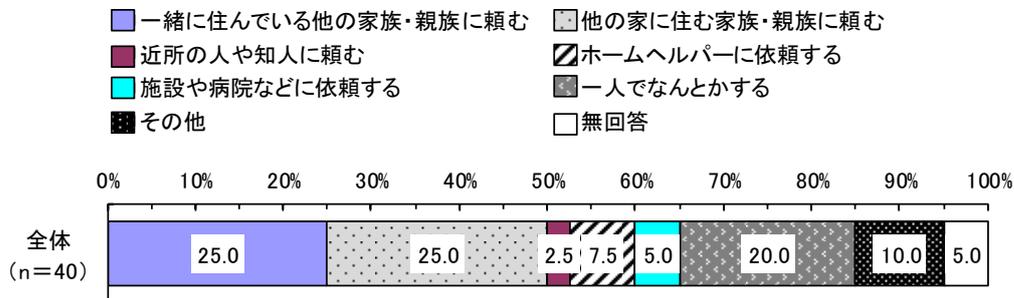


障害別に見ると、愛の手帳所持者で「ホームヘルパー」が2.7%となっている以外は、すべて「親」という回答になっています。



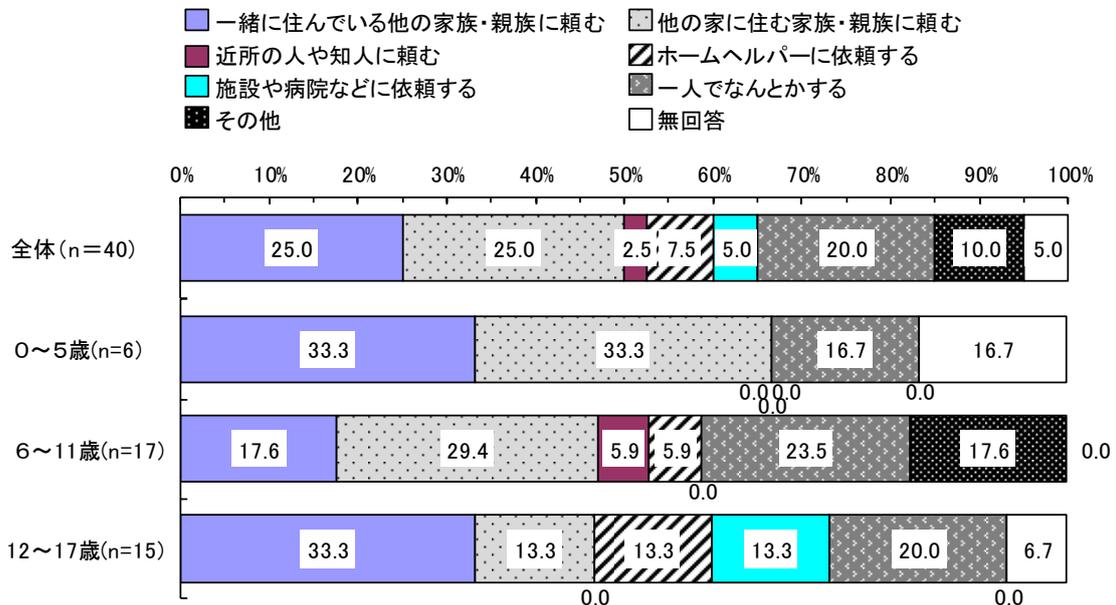
問 12 で家族・親族と答えた方におうかがいします。

問 13 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

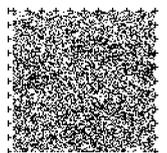


主な介助・支援者が介助・支援できないときの対応では、「一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む」と「他の家に住む家族・親族に頼む」がともに 25.0%と、家族・親族が 5 割を占めています。また「一人でなんとかする」が 20.0%となっています。

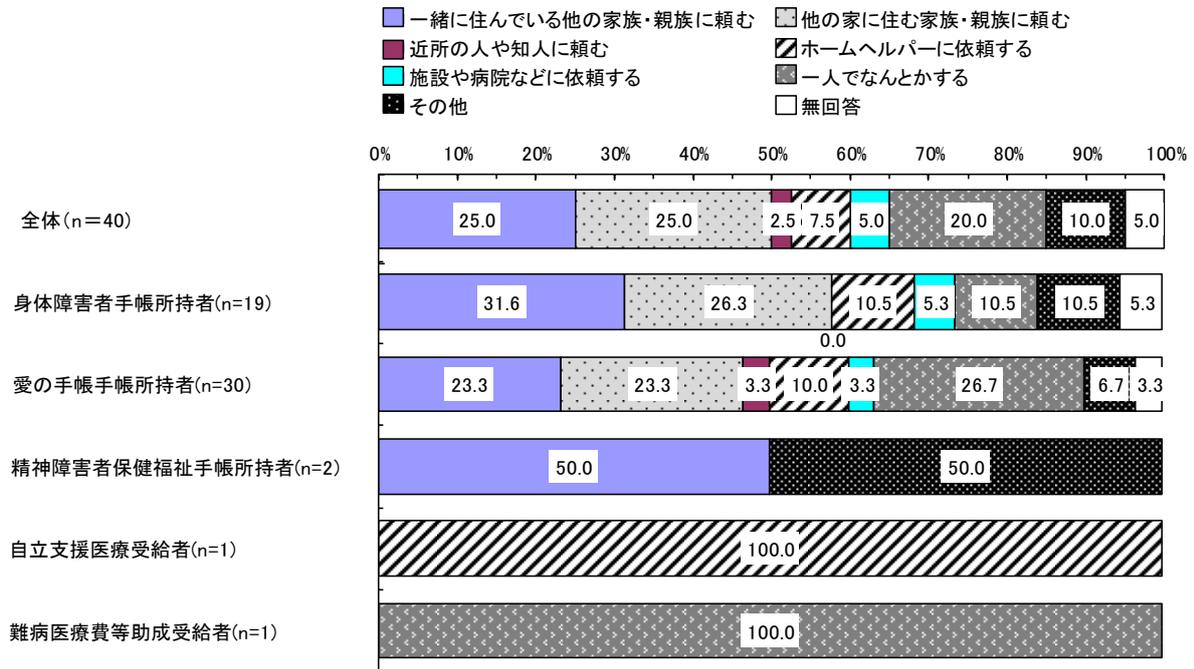
【年代別】



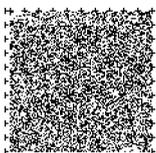
年代別に見ると、12歳から17歳までで「ホームヘルパーに依頼する」と「施設や病院などに依頼する」がともに 13.3%となっています。



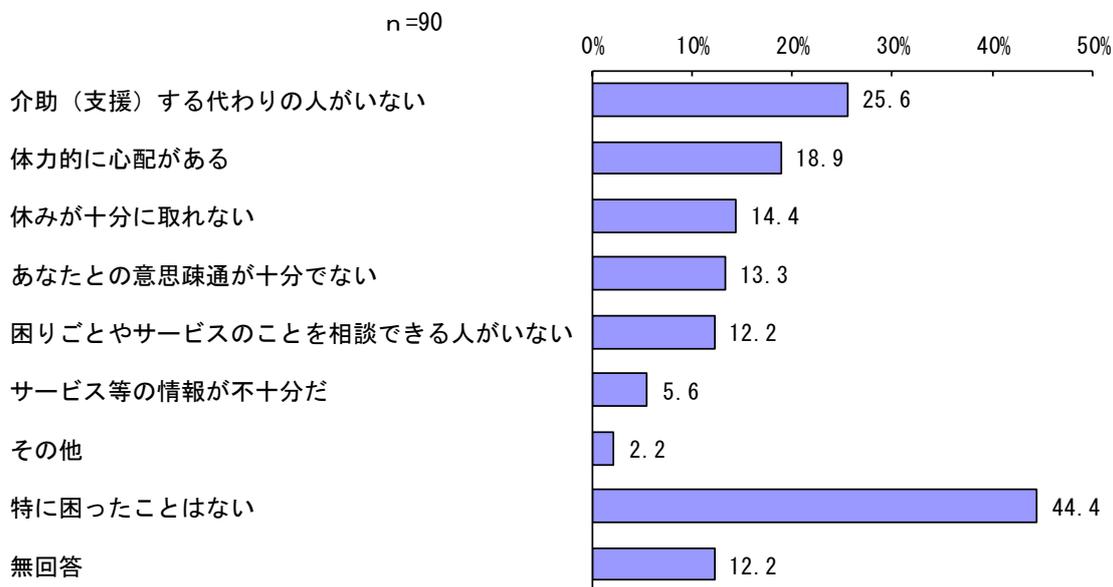
【障害別】



障害別に見ると、愛の手帳所持者では、「一人でなんとかする」が26.7%と最も高くなっています。



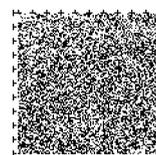
問 14 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）



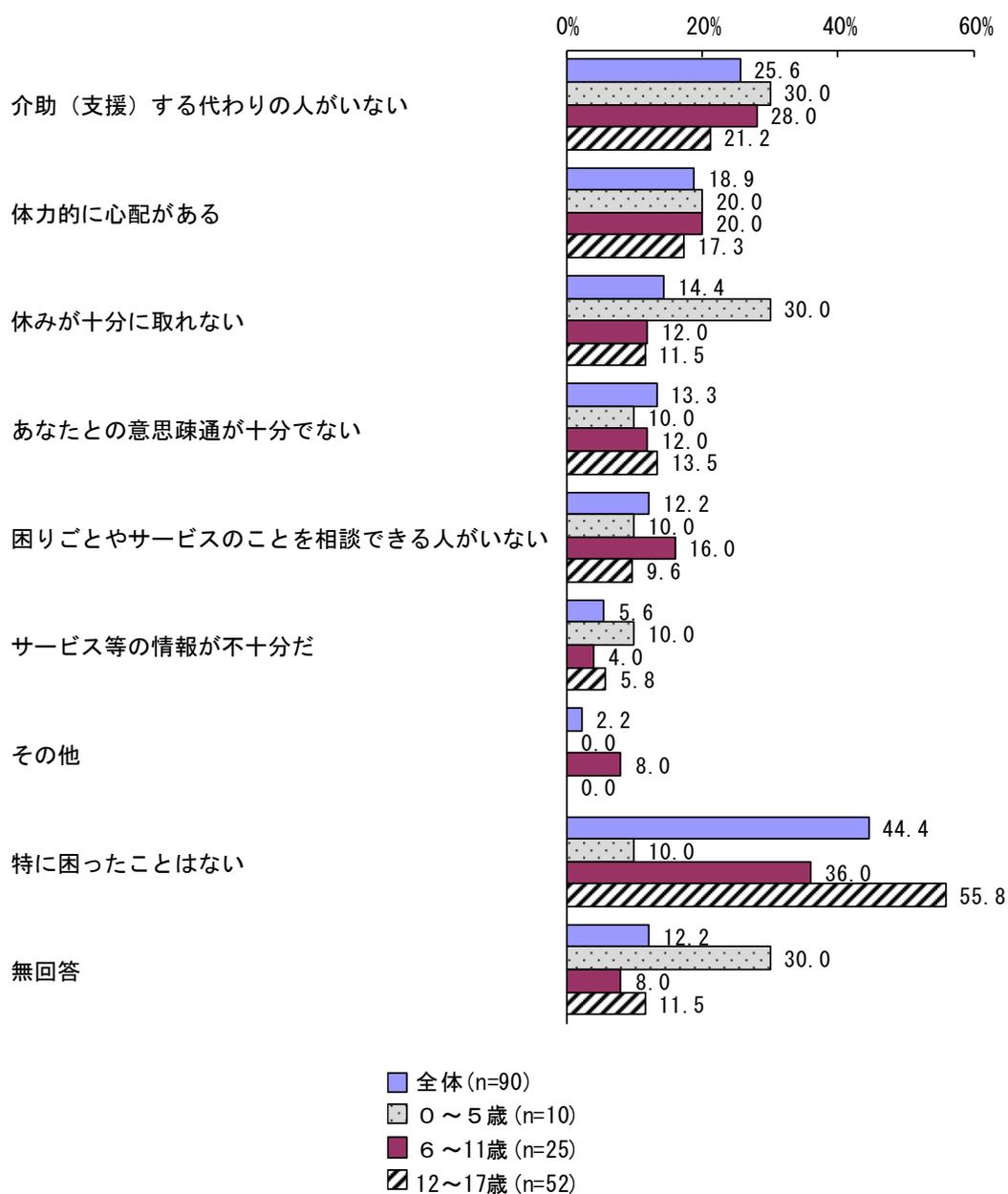
介助・支援者の困りごとでは、「介助（支援）する代わりに人がいない」が 25.6%と最も高く、次いで「体力的に心配がある」が 18.9%、「休みが十分に取れない」が 14.4%と続いています。

一方、「特に困ったことはない」は 44.4%となっています。

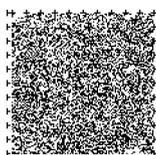
また、「その他」では、「介助者が入院してしまった場合」、「(介助者が) 休むと給料が減る」といった回答がありました。



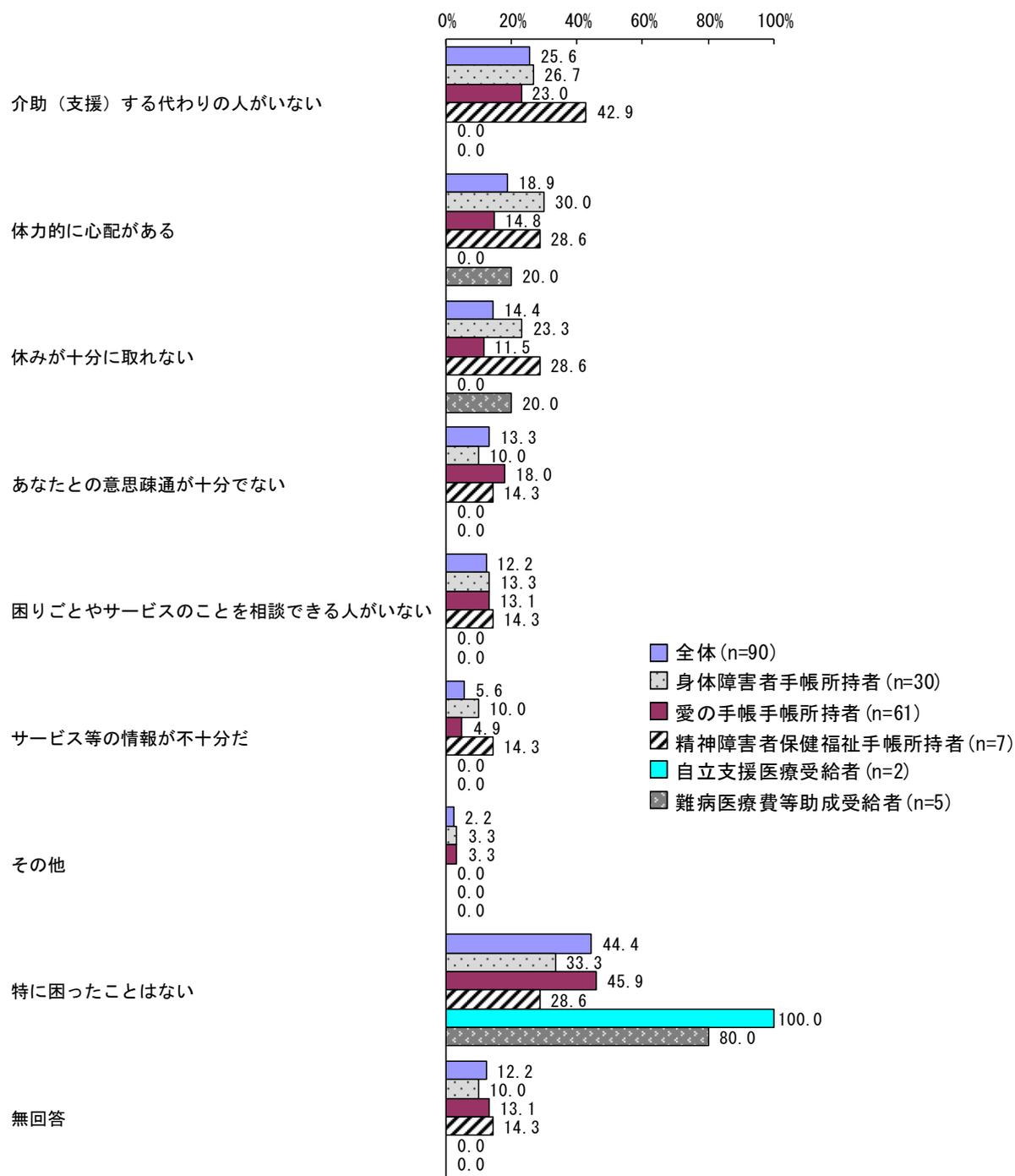
【年代別】



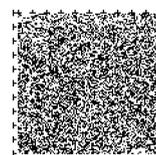
年代別に見ると、いずれの年代も「介助（支援）する代わりに人がいない」が最も高くなっています。



【障害別】

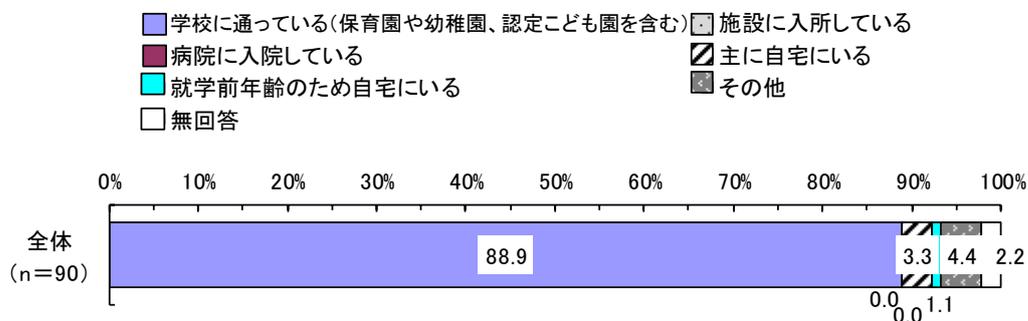


障害別に見ると、身体障害者手帳所持者では、「体力的に心配がある」30.0%、愛の手帳所持者では、「介助（支援）する代わりに人がいない」が23.0%と最も高くなっています。



5 日中の過ごし方について

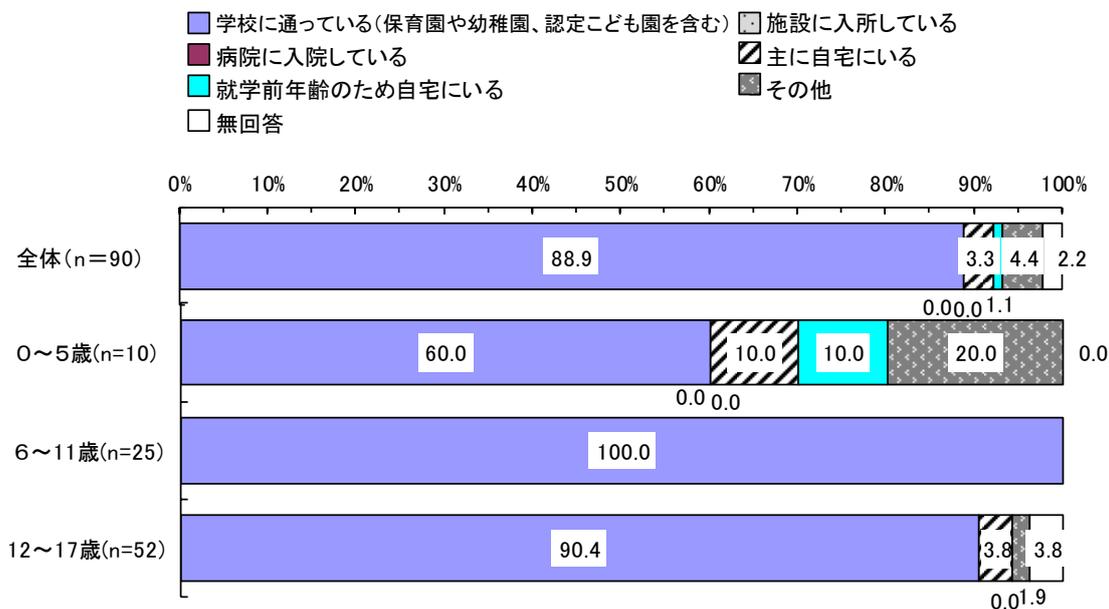
問 15 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（何をして）過ごしていますか。（1つに〇）



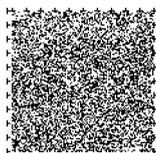
平日の日中の過ごし方では、「学校に通っている（保育園や幼稚園、認定こども園を含む）」が88.9%となっています。

また、「その他」では、「就労継続支援（B型）」といった回答がありました。

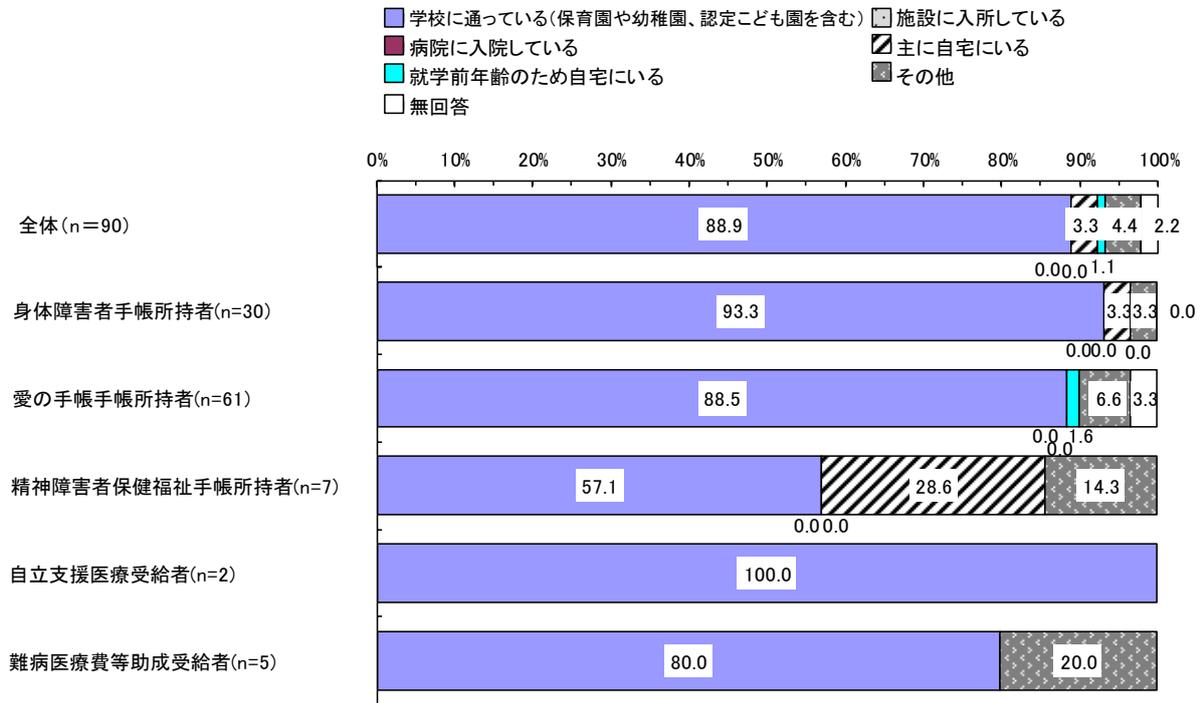
【年代別】



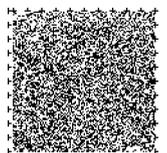
年代別に見ると、0歳から5歳まででは、「学校に通っている（保育園や幼稚園、認定こども園を含む）」が60.0%と他の年代よりも低くなっています。



【障害別】

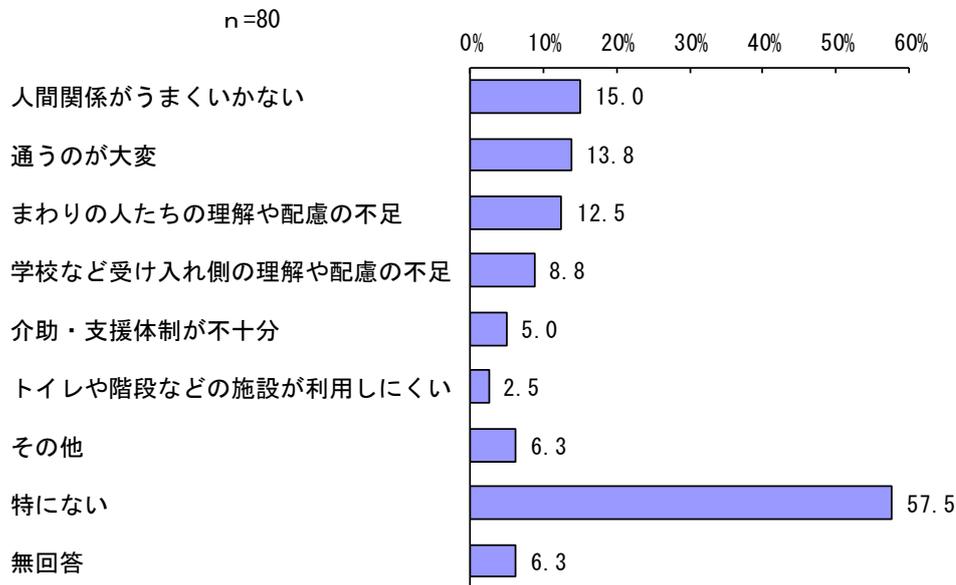


障害別に見ると、身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者では、ともに「学校に通っている（保育園や幼稚園、認定こども園を含む）」が9割前後と最も高くなっています。



問 15 で「学校に通っている（保育園や幼稚園、認定こども園を含む）」と答えた方におうかがいします。

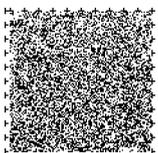
問 16 あなたは、通園や通学で困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）



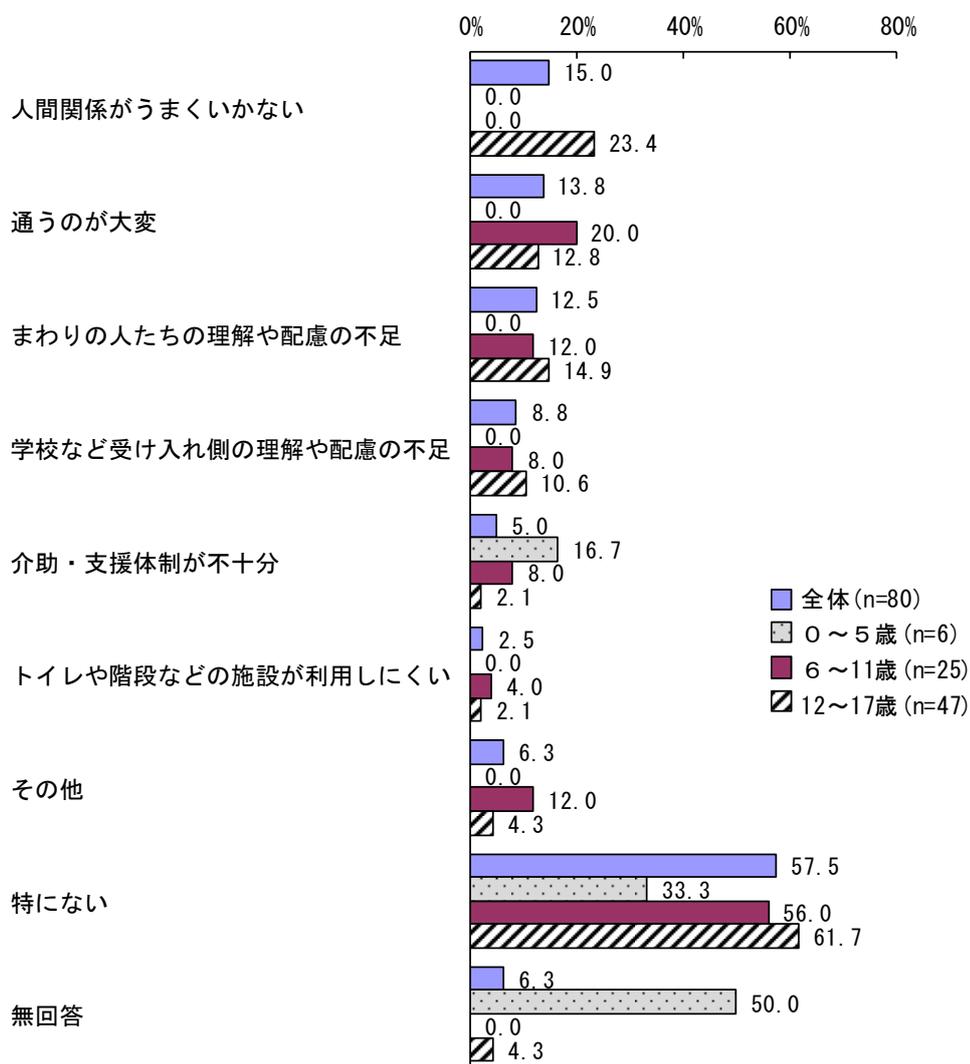
通園・通学をする上での困りごとでは、「人間関係がうまくいかない」が 15.0%と最も高く、次いで「通うのが大変」が 13.8%、「まわりの人たちの理解や配慮の不足」が 12.5%と続いています。

一方、「特にない」は 57.5%となっています。

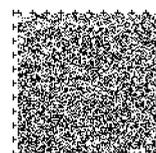
また、「その他」では、「学区外の配慮がほしい」、「今いる学校が楽しくない」、「通学用のバス停まで車イスで自走して行きたいが道が整備されていない」といった回答がありました。



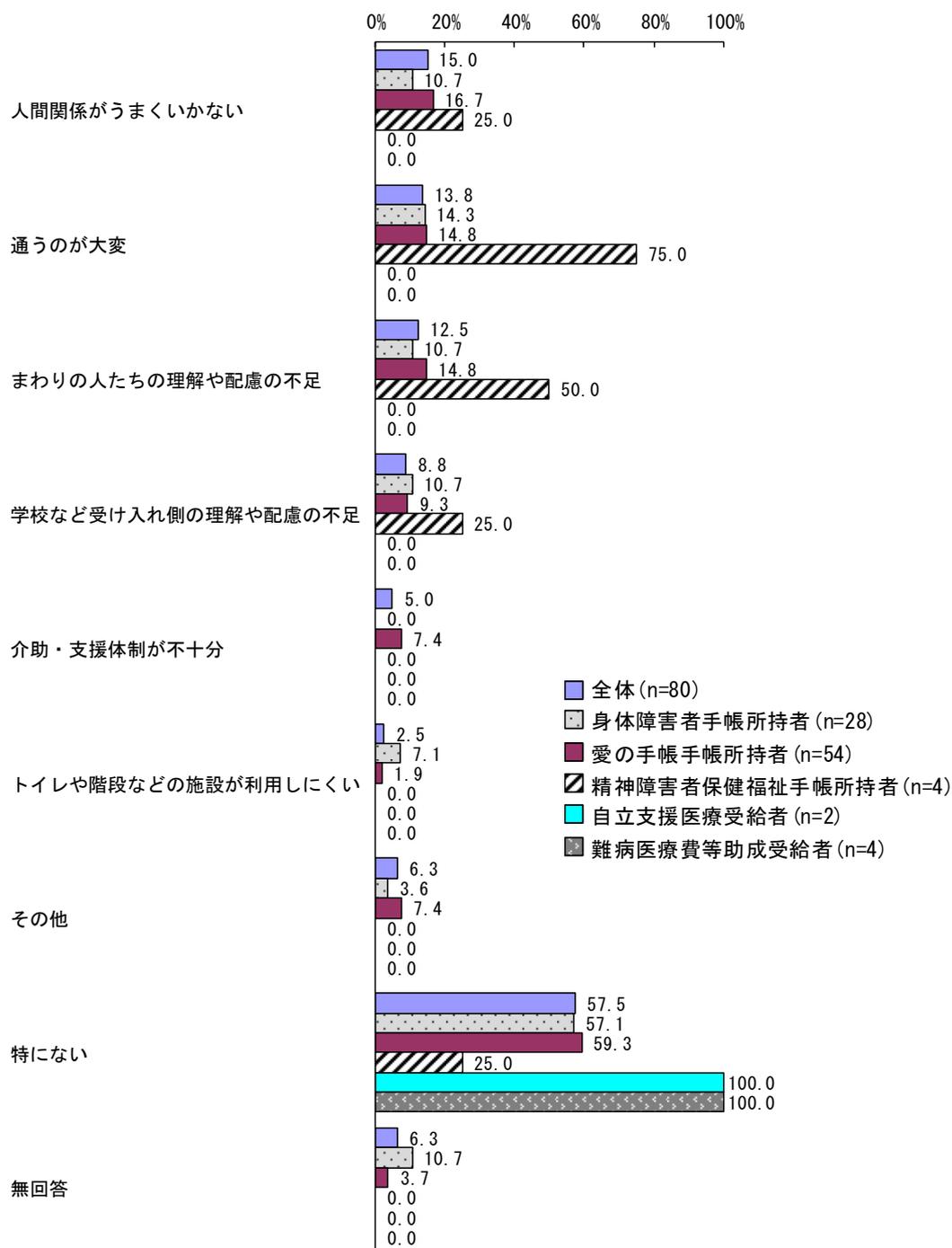
【年代別】



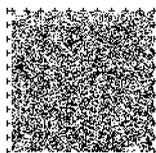
年代別に見ると、6歳から11歳まででは、「通うのが大変」が20.0%、12歳から17歳まででは、「人間関係がうまくいかない」が23.4%となっています。



【障害別】

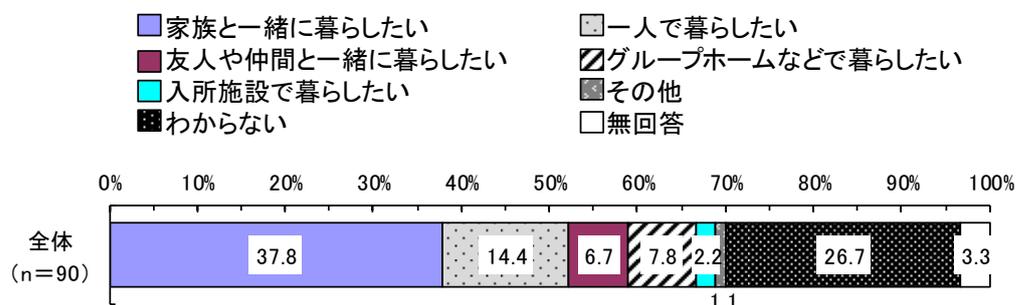


障害別に見ると、身体障害者手帳所持者では、「通うのが大変」が 14.3%、愛の手帳所持者では、「人間関係がうまくいかない」が 16.7%と最も高くなっています。



6 将来の過ごし方について

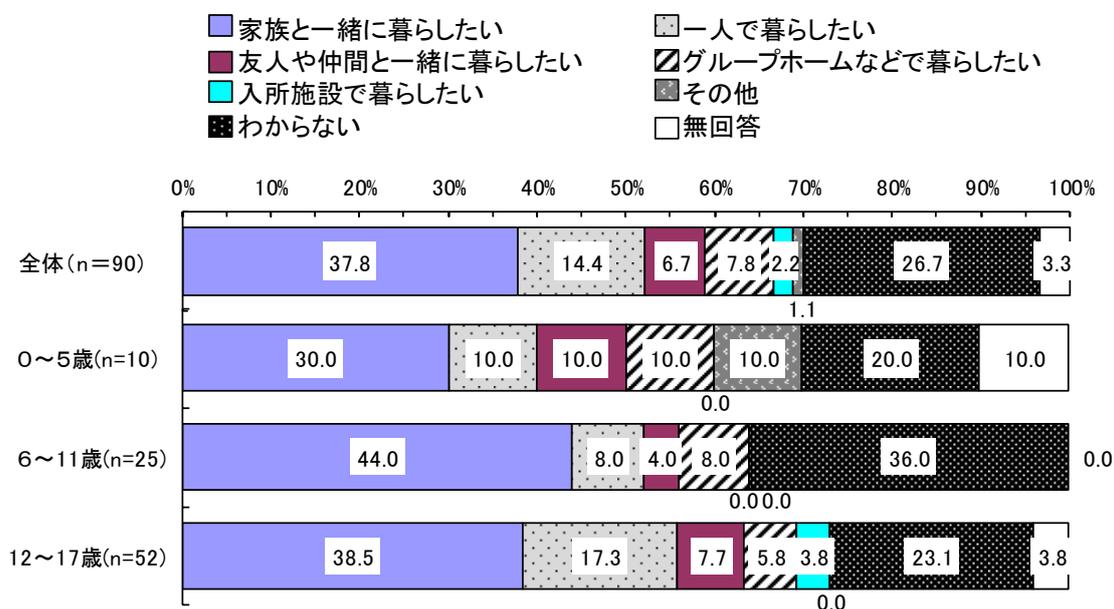
問 17 おとなになったらどのように暮らしたいですか。



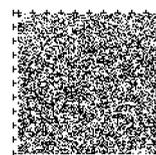
将来の過ごし方の希望では、「家族と一緒に暮らしたい」が37.8%と最も高く、次いで、「一人で暮らしたい」が14.4%、「グループホームなどで暮らしたい」が7.8%と続いています。一方、「わからない」は26.7%となっています。

また、「その他」では、「まだ年齢が小さいため考えられない」といった回答がありました。

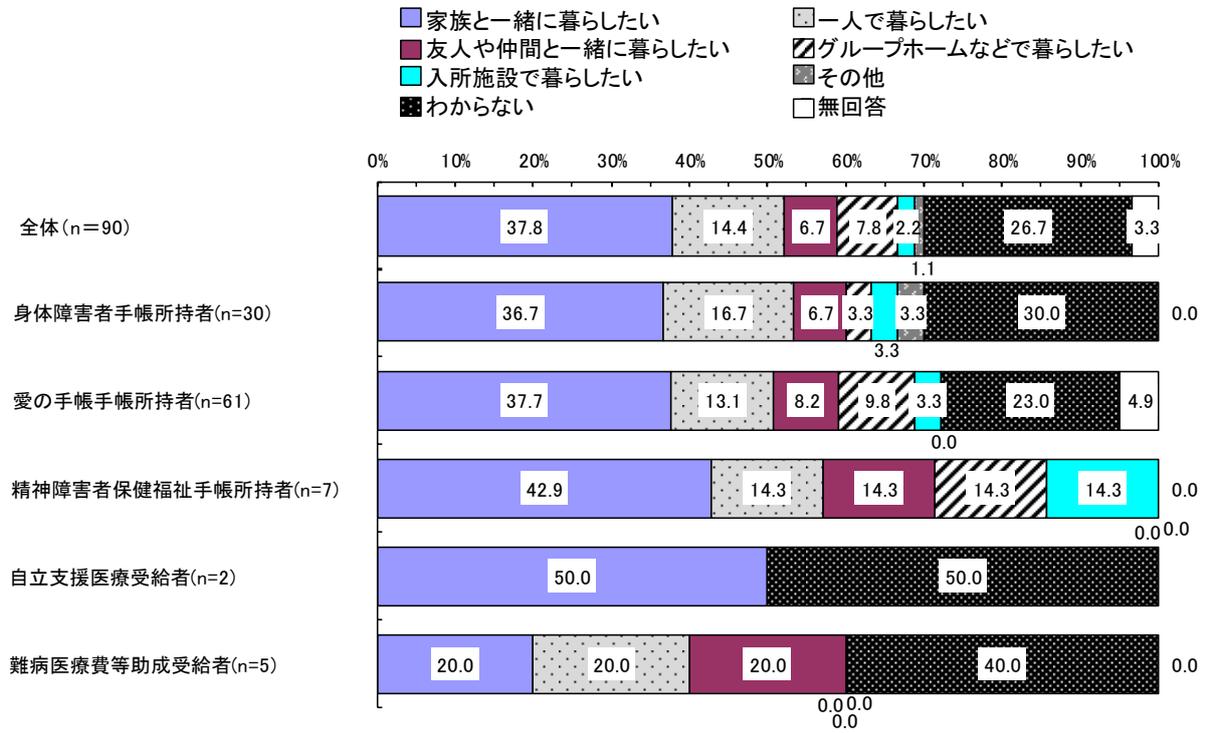
【年代別】



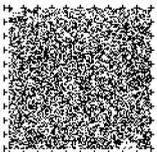
年代別に見ると、いずれの年代も「家族と一緒に暮らしたい」が最も高くなっています。また、12歳から17歳まででは、「一人で暮らしたい」が17.3%と他の年代よりも高くなっています。



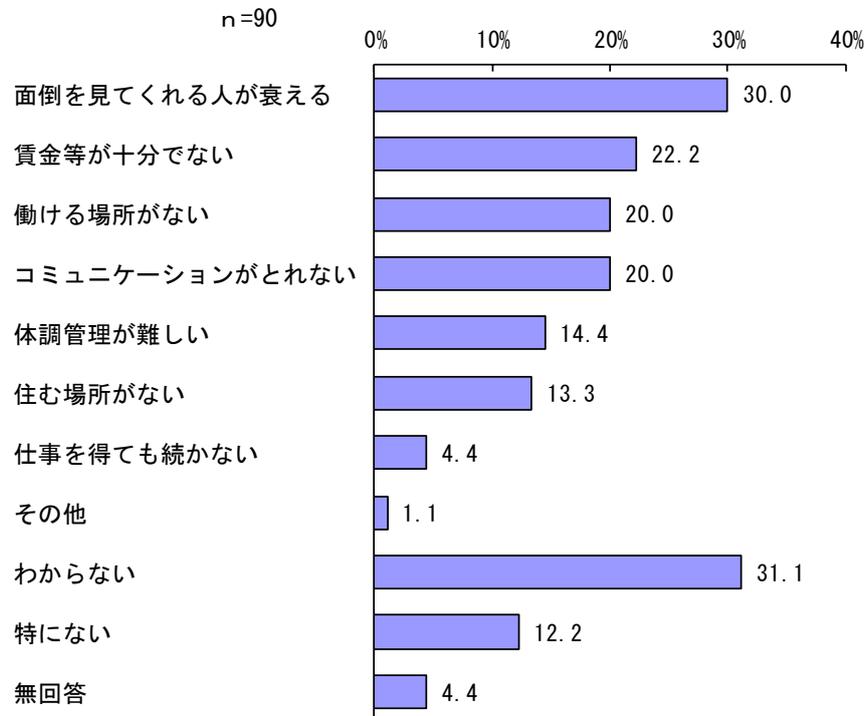
【障害別】



障害別に見ると、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者ともに「家族と一緒に暮らしたい」が3割半ばを超え、最も高くなっています。



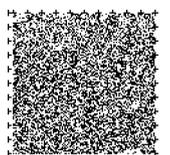
問 18 問 17 のように暮らすためにどのようなことが課題と感じますか。(あてはまるものすべてに○)



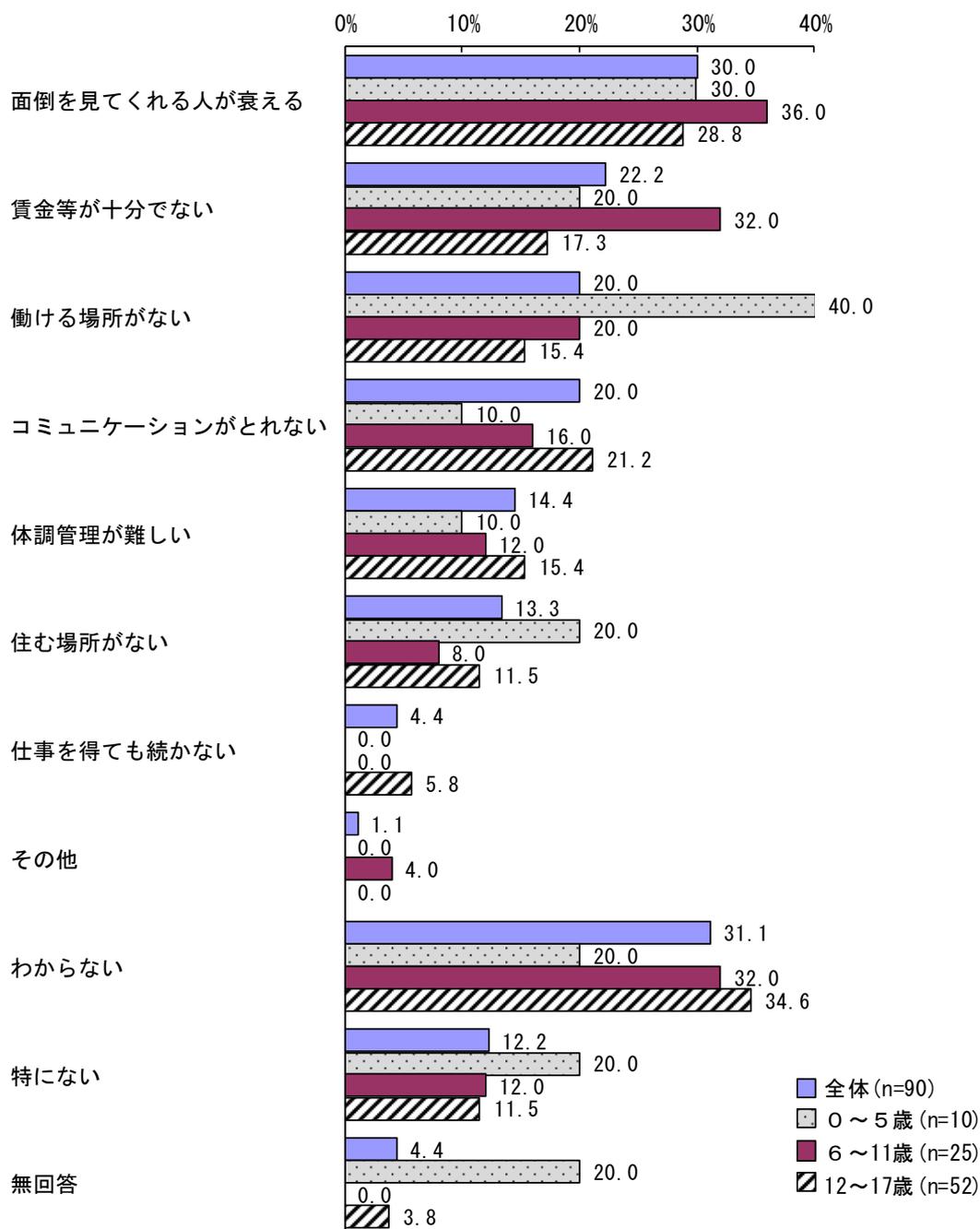
将来の過ごし方の希望に対する課題では、「面倒を見てくれる人が衰える」が 30.0%と最も高く、次いで、「賃金等が十分でない」が 22.2%、「働ける場所がない」と「コミュニケーションがとれない」がともに 20.0%と続いています。

一方、「わからない」が 31.1%、「特にない」が 12.2%となっています。

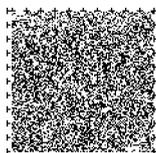
また、「その他」では、「日常生活の介助」といった回答がありました。



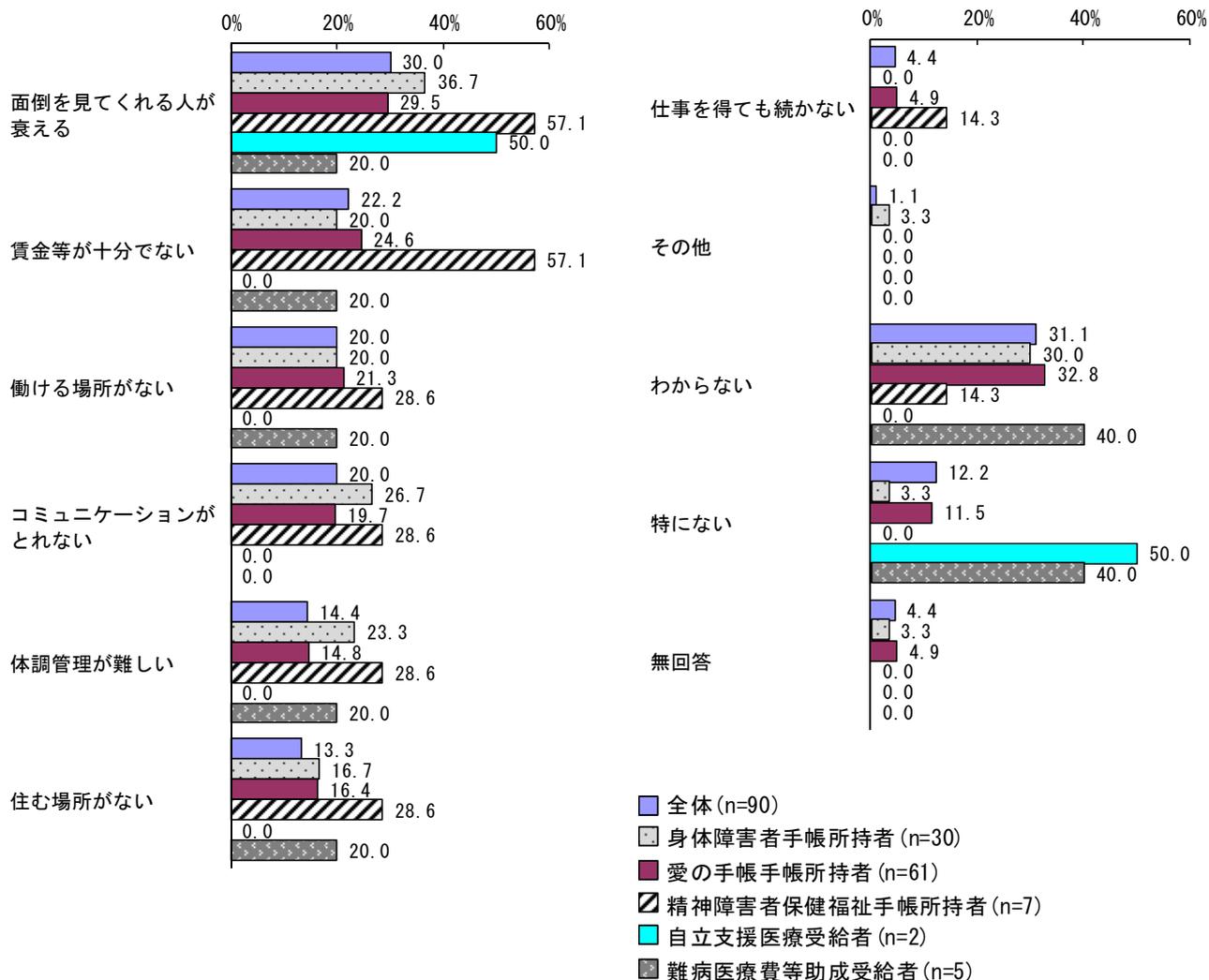
【年代別】



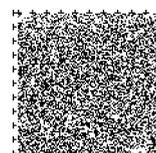
年代別に見ると、0歳から5歳まででは、「働ける場所がない」が40.0%と最も高く、6歳から11歳までと12歳から17歳まででは、「面倒を見てくれる人が衰える」が最も高くなっています。



【障害別】

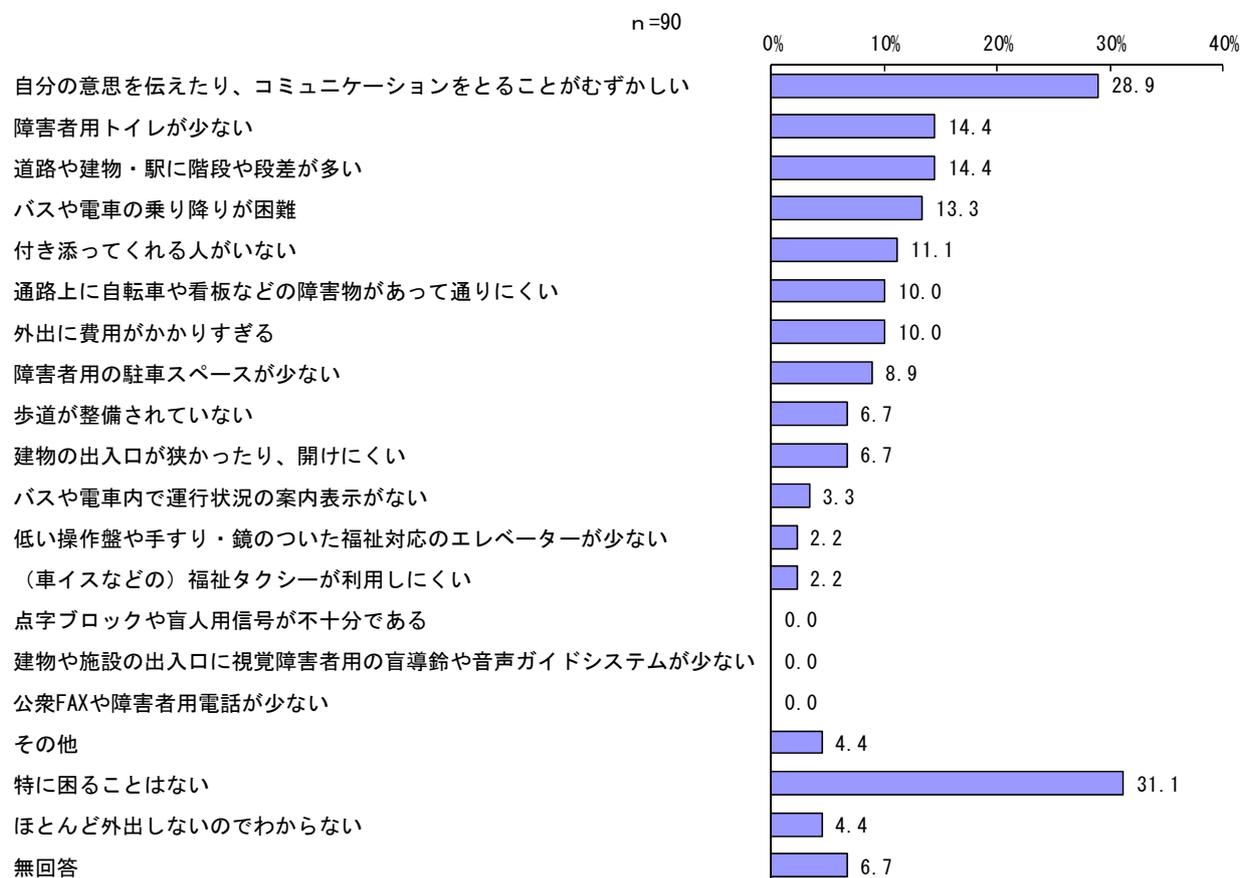


障害別に見ると、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者ともに「面倒を見てくれる人が衰える」が最も高くなっています。



7 外出や活動などについて

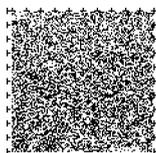
問 19 外出する時に、不便に感じることや困っていることはどれですか。(あてはまるものすべてに○)



外出の際の困りごとでは、「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」が 28.9%と最も高く、次いで、「障害者用トイレが少ない」と「道路や建物・駅に階段や段差が多い」がともに 14.4%、「バスや電車の乗り降りが困難」が 13.3%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は 31.1%となっています。

また、「その他」では、「障害者用トイレはあるが、汚い所も多く困ってしまう」、「プールに連れて行きたくても更衣室に介助者(母)は入れない」、「むらタク(乗合タクシー)が使えるようにしてほしい」といった回答がありました。

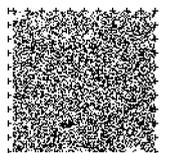


【歩道が整備されていない具体的な場所】

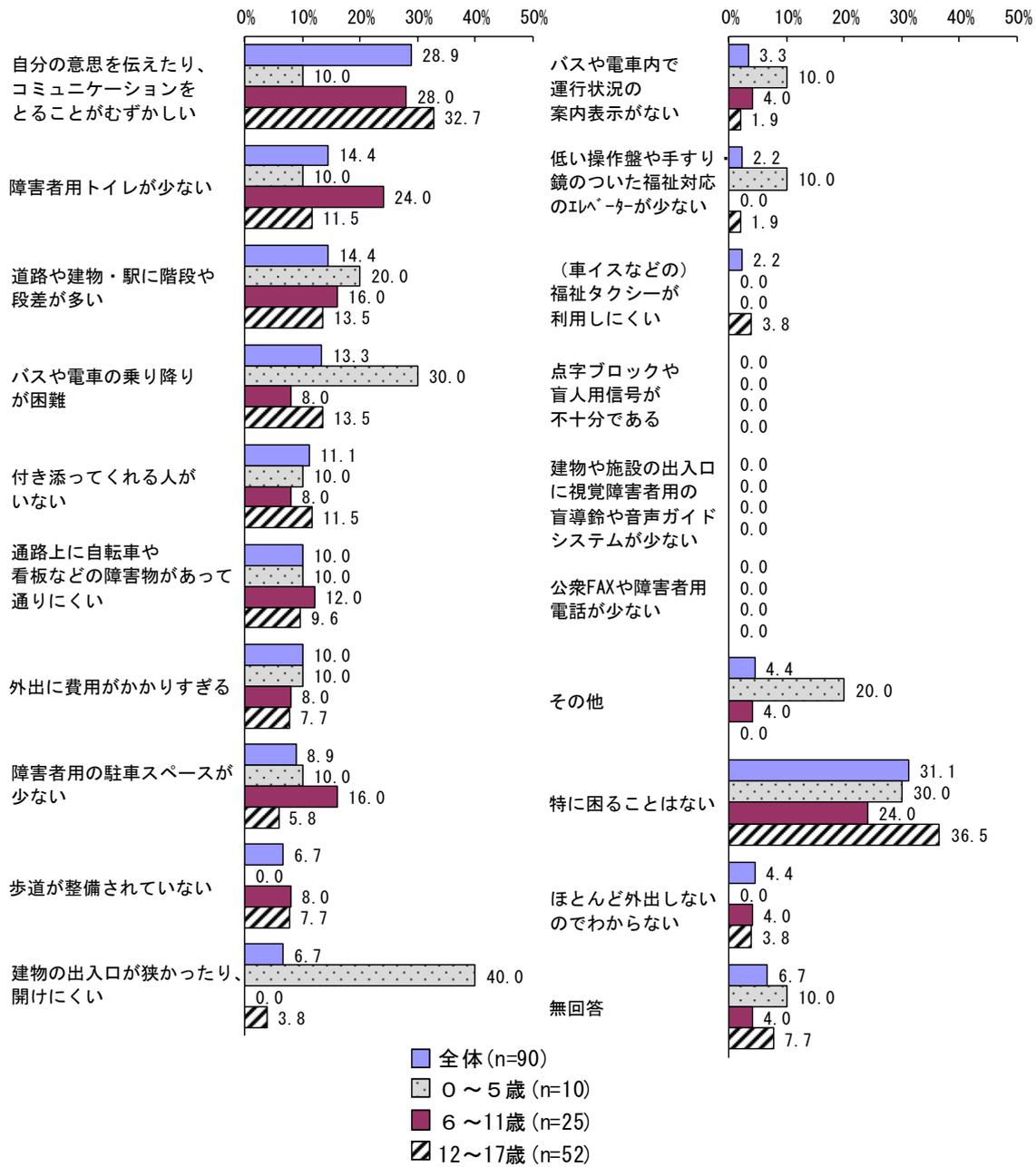
- ・ 中央1丁目の近所のほとんど。
- ・ 市内の歩道は狭いところが多くて車椅子で通ることが難しい。

【障害者用の駐車スペースが少ない具体的な場所】

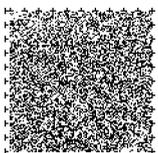
- ・ スペースはあるが、一般車が利用していることが多い。
- ・ 薬局、スーパー、量販店等商業施設。



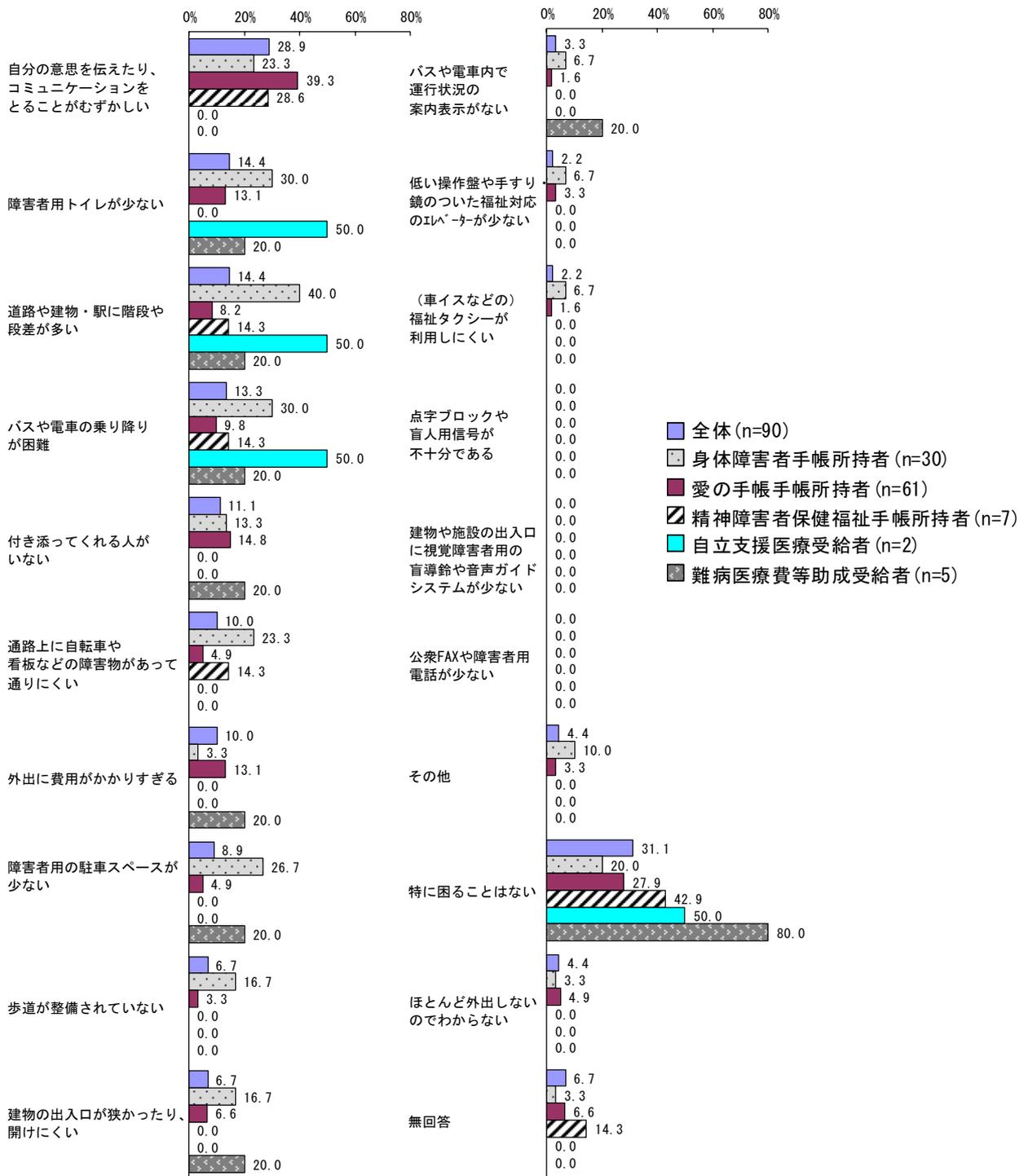
【年代別】



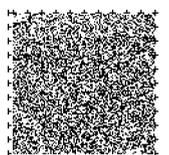
年代別に見ると、0歳から5歳まででは、「建物の出入口が狭かったり、開けにくい」が40.0%、「バスや電車の乗り降りが困難」が30.0%と高く、6歳から11歳までと12歳から17歳まででは、「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」が3割前後で最も高くなっています。



【障害別】

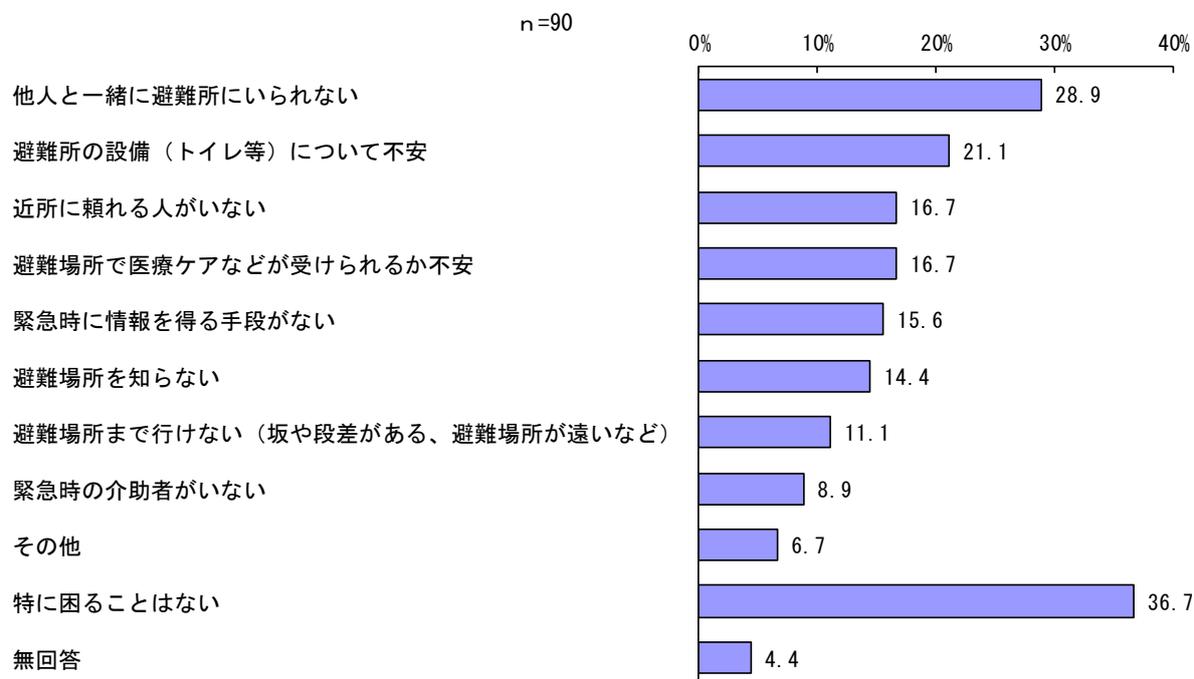


障害別に見ると、身体障害者手帳所持者では、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」や「バスや電車の乗り降りが困難」といったバリアフリーの項目が高く、愛の手帳所持者では、「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」といった意思疎通の項目が高くなっています。



8 防災対策について

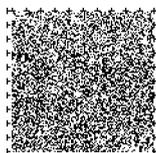
問 20 あなたが地震など災害時に困ることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)



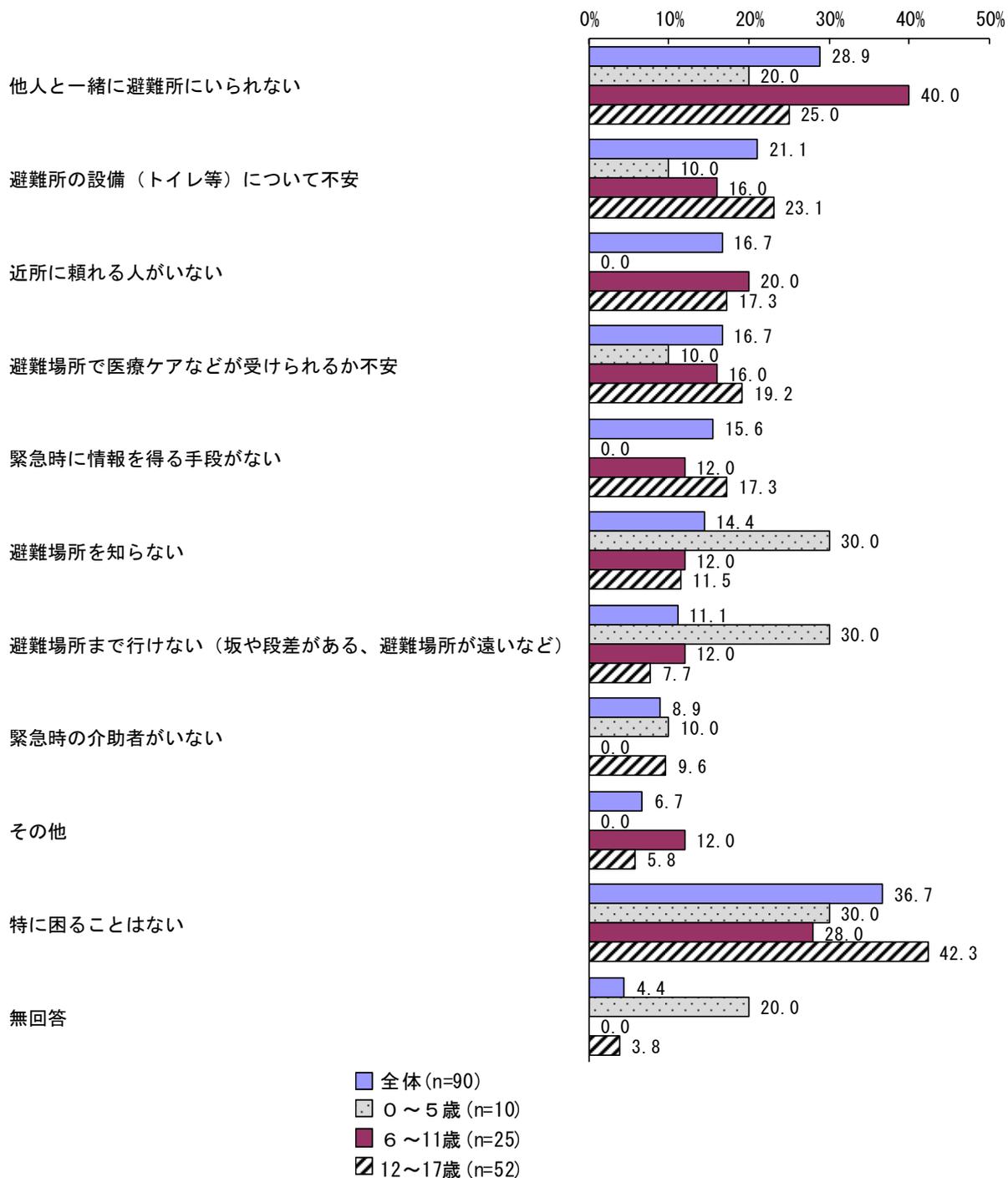
災害時の困りごとでは、「他人と一緒に避難所にいられない」が 28.9%と最も高く、次いで、「避難所の設備（トイレ等）について不安」が 21.1%、「近所に頼れる人がいない」と「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」がともに 16.7%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は 36.7%となっています。

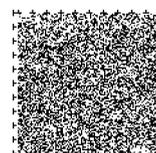
また、「その他」では、「常備薬の確保」、「生活の変化による不安」、「第一次避難所先として福祉避難所は、そこの利用者のみだったり、受け入れ人数が少ない」といった回答がありました。



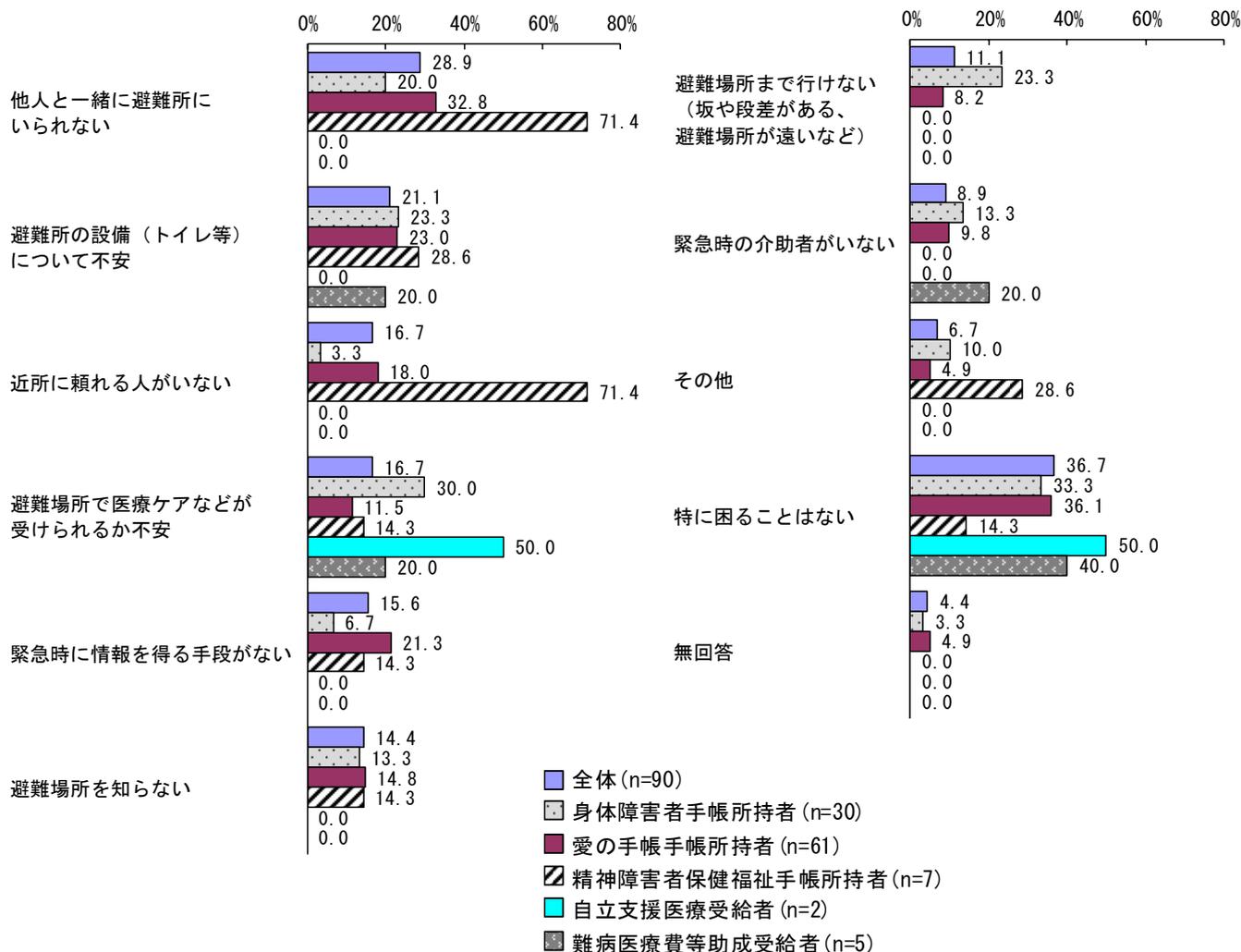
【年代別】



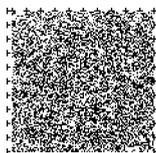
年代別に見ると、6歳以上では、「他人と一緒に避難所にいられない」が最も高く、特に6歳から11歳まででは40.0%となっています。0歳から5歳まででは、「避難場所を知らない」と「避難場所まで行けない」がともに30.0%で最も高くなっています。



【障害別】

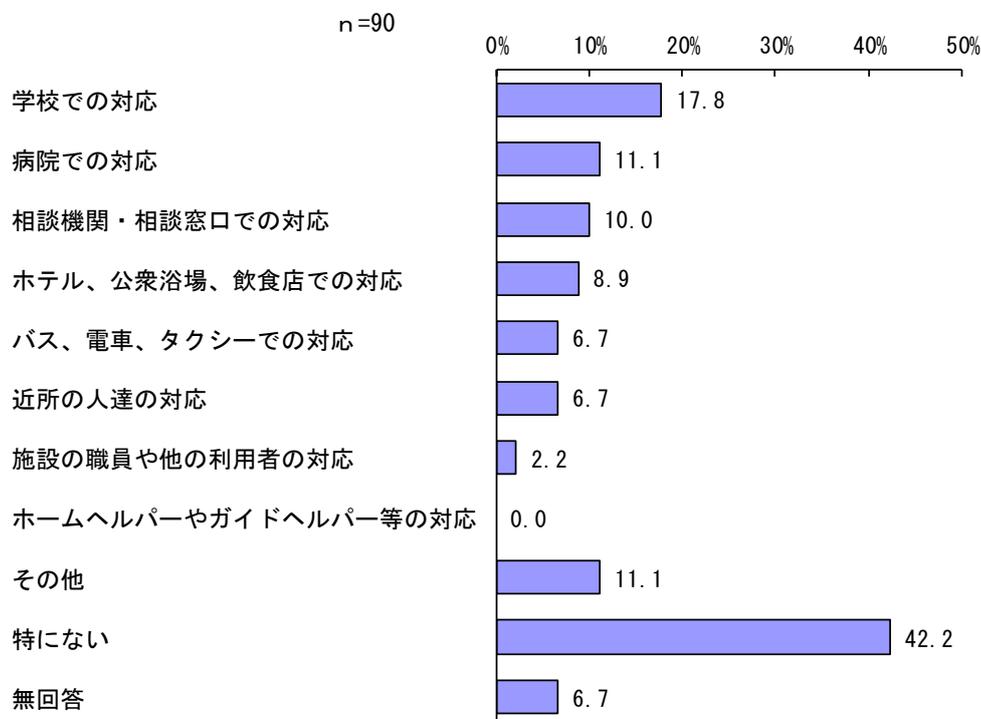


障害別に見ると、身体障害者手帳所持者では、「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が30.0%、愛の手帳所持者では、「他人と一緒に避難所にいられない」が32.8%と最も高くなっています。



9 障害者の権利擁護について

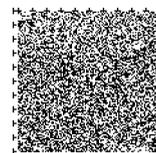
問 21 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



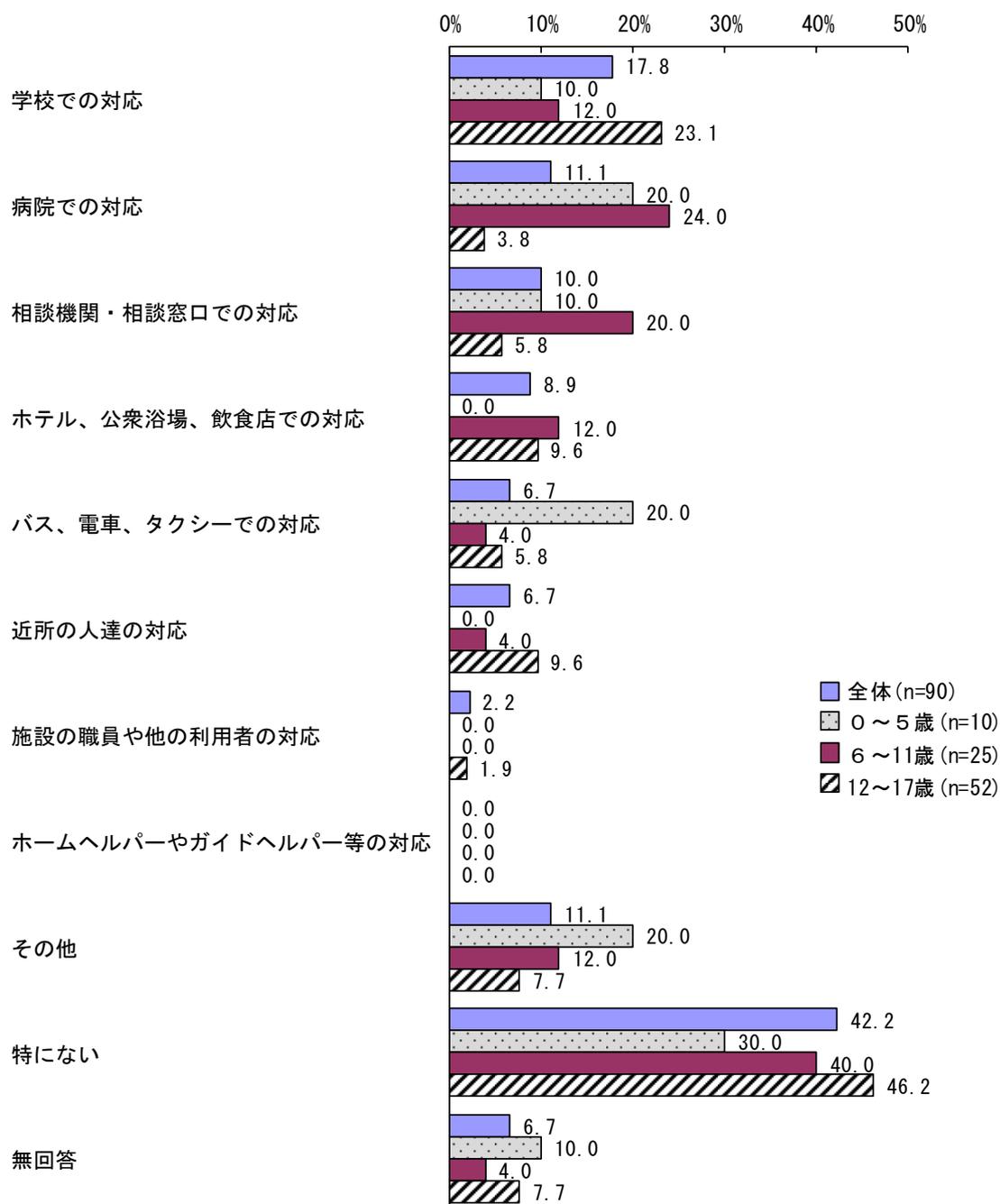
障害のため差別を受けた経験では、「学校での対応」が17.8%と最も高く、次いで、「病院での対応」が11.1%、「相談機関・相談窓口での対応」が10.0%と続いています。

一方、「特にない」は42.2%となっています。

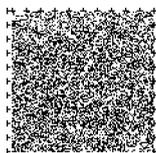
また、「その他」では、「外出場所で嫌な思い」、「バスに乗った時の周囲の方の反応」、「飲食店で他の人に文句言われる」、「一見、障害があるようには見えないため、理解されるまで不思議に思われる」といった回答がありました。



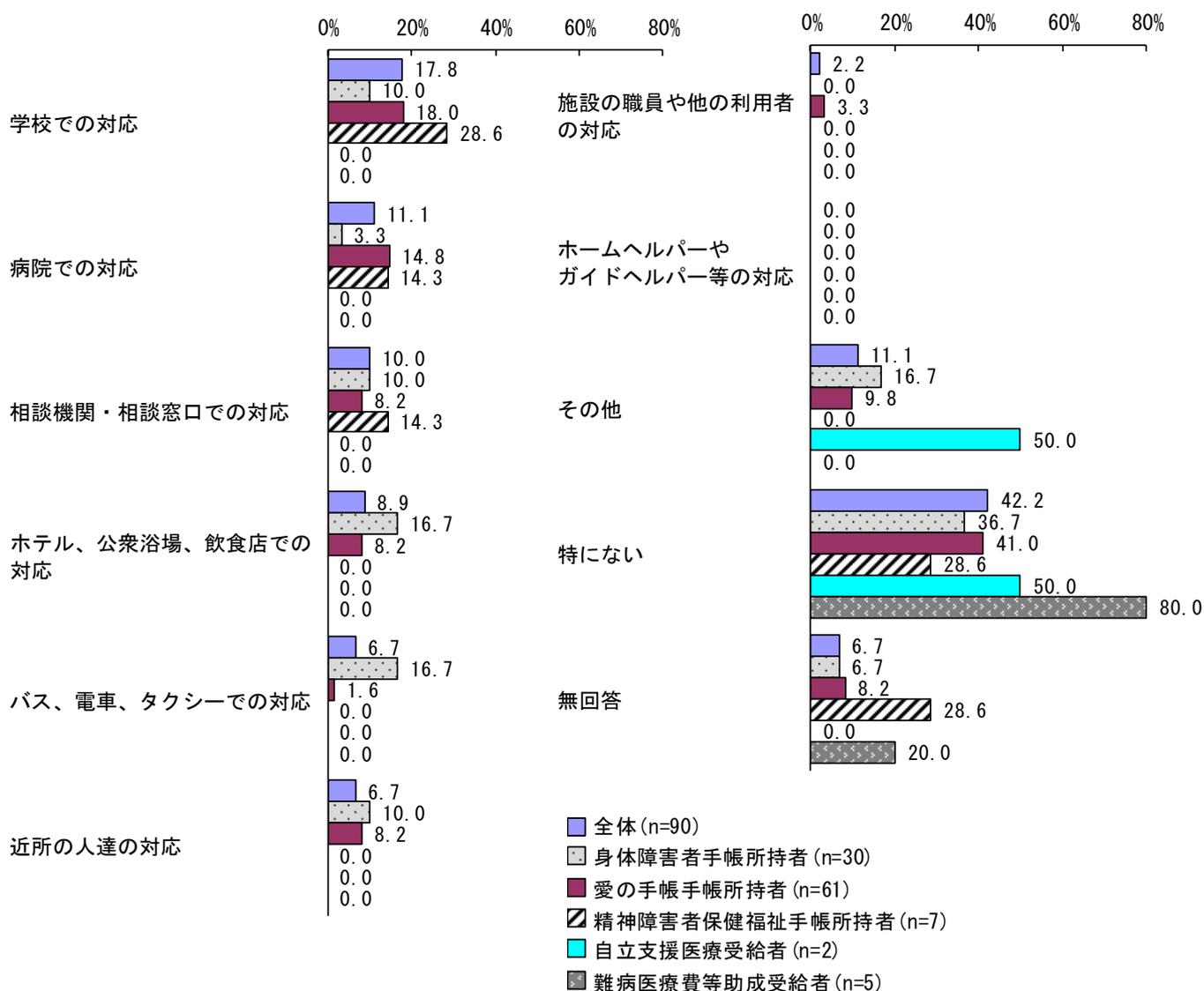
【年代別】



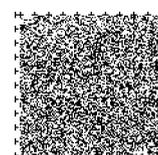
年代別に見ると、0歳から5歳まででは、「病院での対応」と「バス、電車、タクシーでの対応」が20.0%と最も高くなっています。6歳から11歳まででは、「病院での対応」と「相談機関・相談窓口での対応」が2割台で高くなっています。また、12歳から17歳まででは、「学校での対応」が23.1%と最も高くなっています。



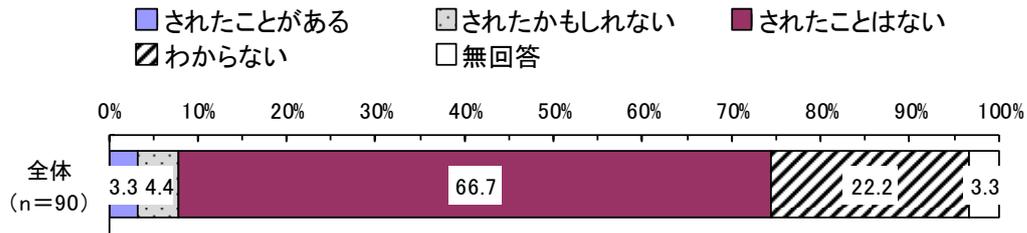
【障害別】



障害別に見ると、身体障害者手帳所持者では、「バス、電車、タクシーでの対応」や「ホテル、公衆浴場、飲食店での対応」といった公共の場での割合が高く、愛の手帳所持者では、「学校での対応」が18.0%と最も高くなっています。

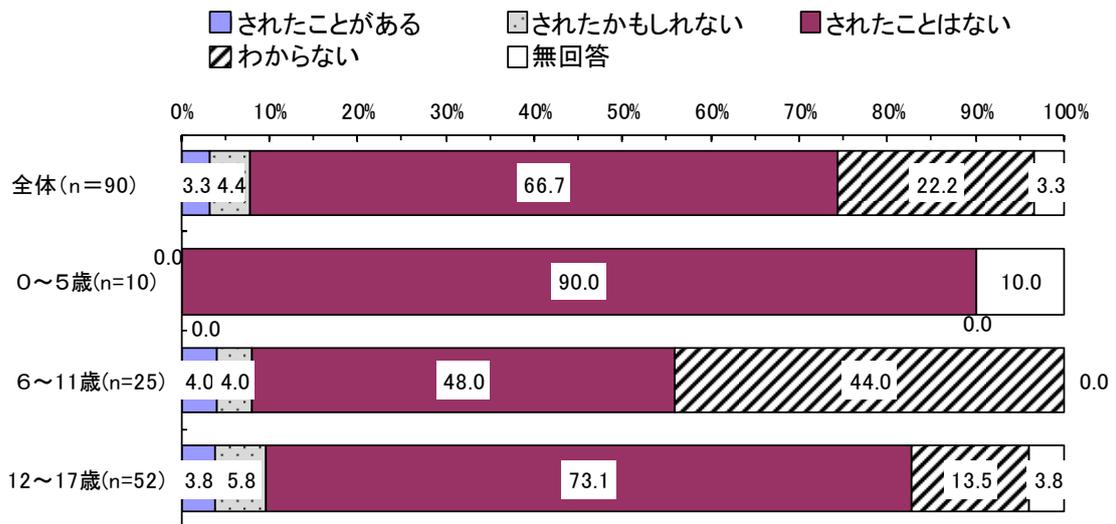


問 22 あなたは、これまでに虐待や不適切な行為をされたことがありますか。(1つに○)

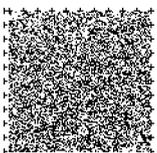


虐待や不適切な行為をされた経験の有無では、「されたことがある」が 3.3%、「されたかもしれない」が 4.4%となっています。一方、「されたことはない」は 66.7%となっています。

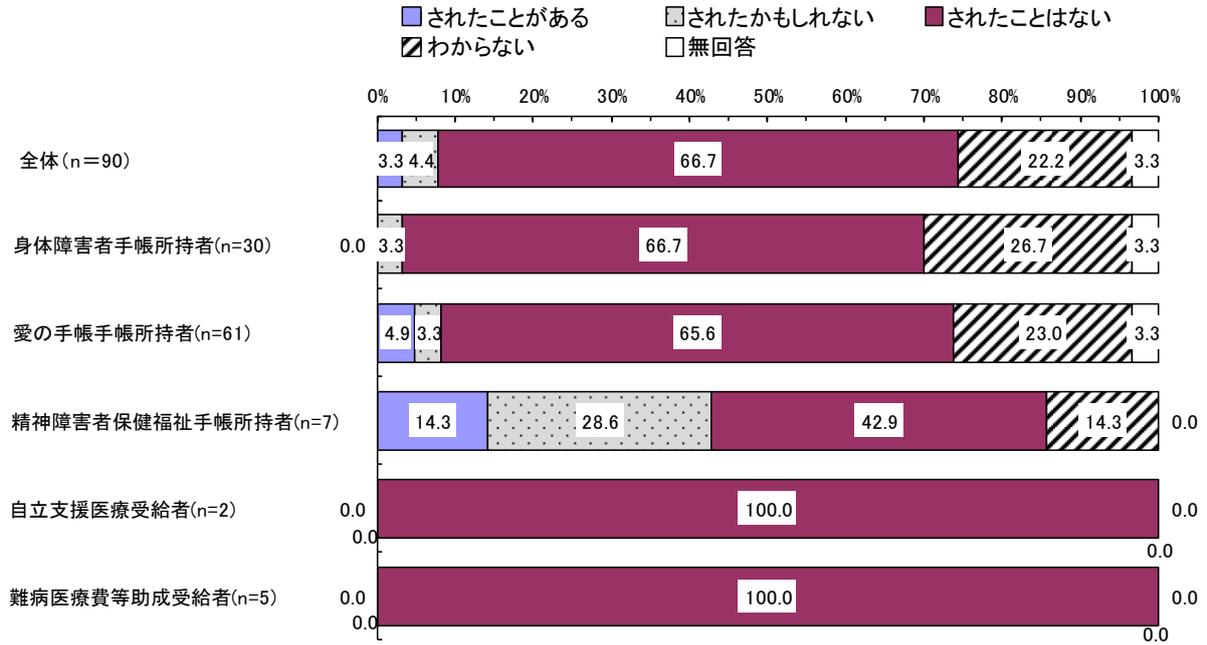
【年代別】



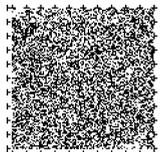
年代別に見ると、「されたことがある」は6歳から11歳まででは4%となっています。



【障害別】

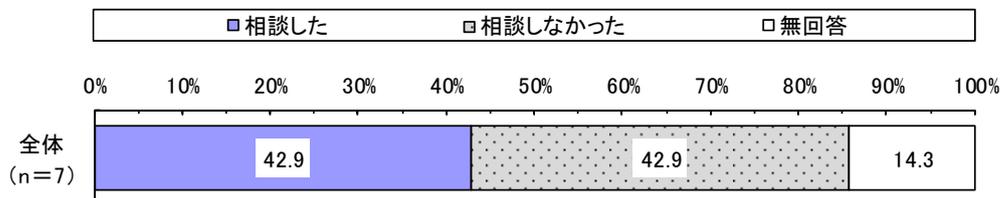


障害別に見ると、愛の手帳所持者では「されたことがある」が4.9%となっています。



問 22 で「されたことがある」「されたかもしれない」と答えた方におうかがいします。

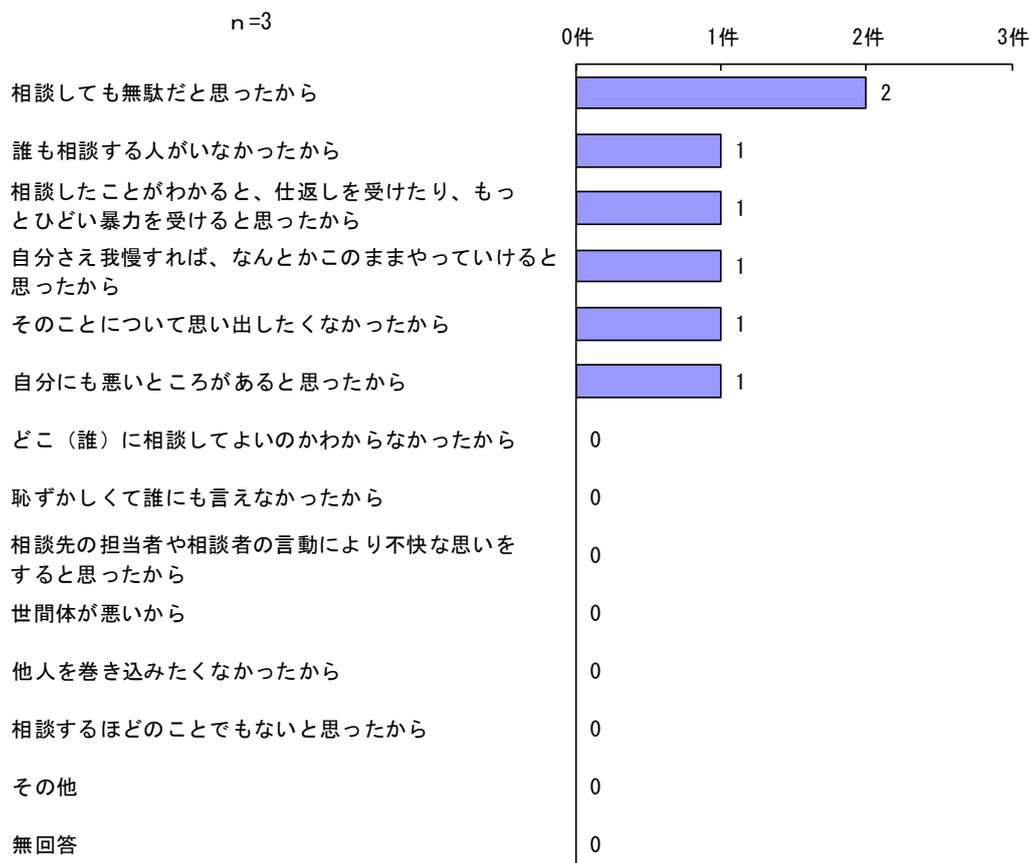
問 23 虐待や不適切な行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(どちらかに○)



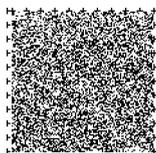
虐待や不適切な行為をされた際の相談の有無では、「相談した」と「相談しなかった」がともに 42.9%と、相談の有無が同じ割合になっています。

問 23 で「相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問 24 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

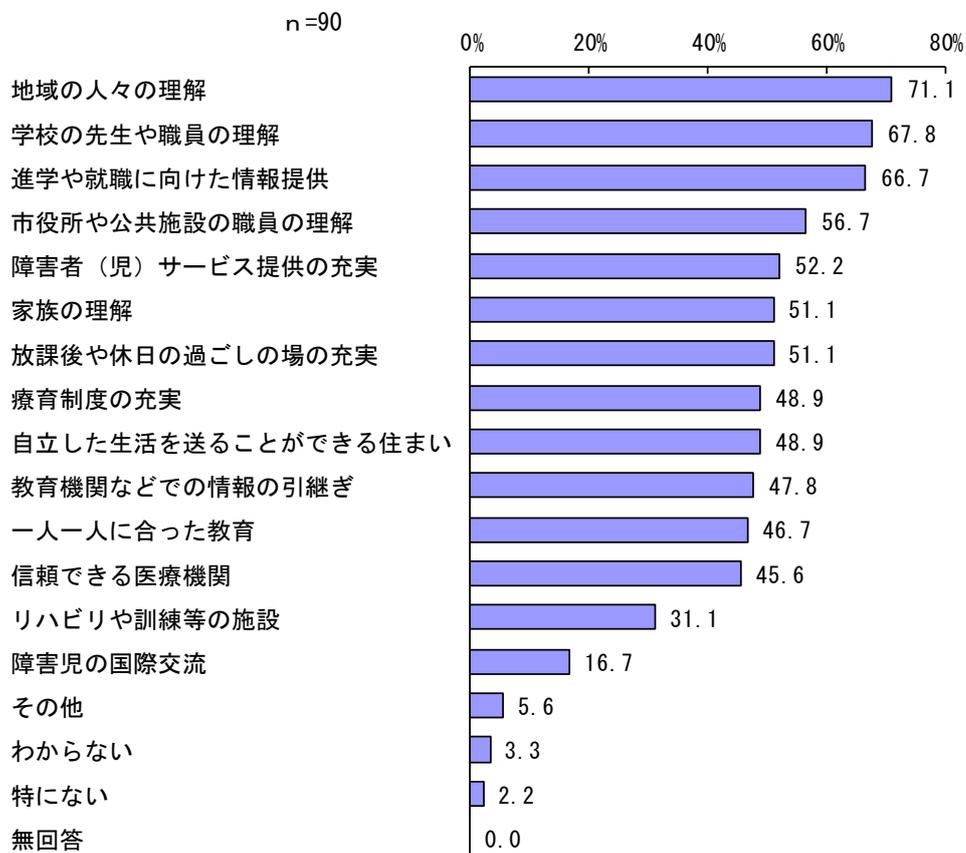


相談しなかった理由は、「相談しても無駄だと思ったから」が 3 人中 2 件となっています。



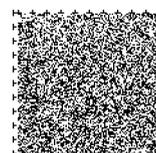
10 障害者施策全般について

問 25 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要と
 思いますか。(あてはまるものすべてに○)

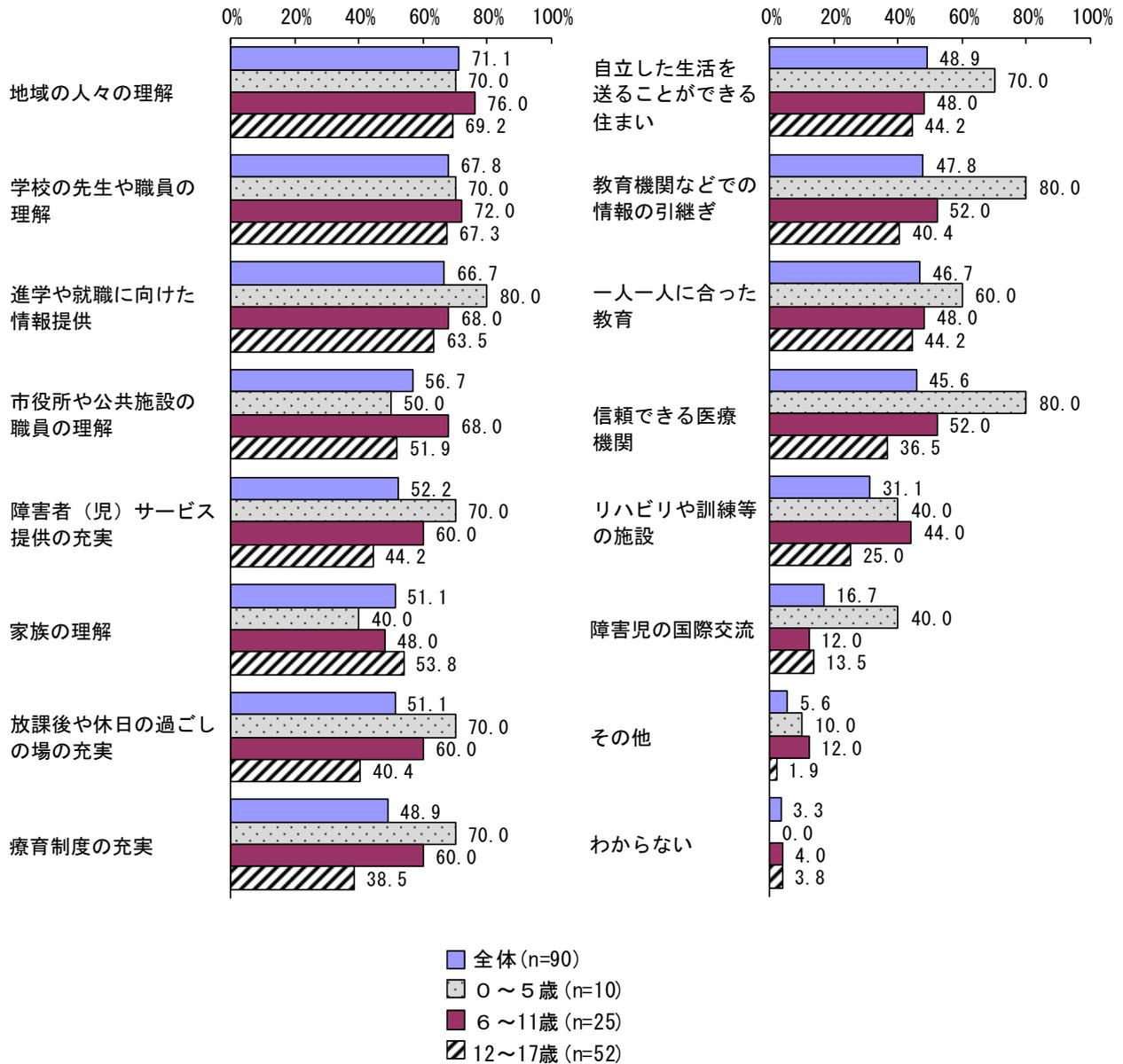


障害のある子どもの成長に重要なことでは、「地域の人々の理解」が 71.1%と最も高く、次いで、「学校の先生や職員の理解」が 67.8%、「進学や就職に向けた情報提供」が 66.7%と続いています。

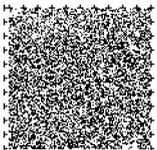
また、「その他」では、「障害のある子の母親への社会復帰（仕事）支援が必要」、「未来のこと」、「得意分野をみつけられるような体験」、「障害福祉課職員の知識の向上」といった回答がありました。



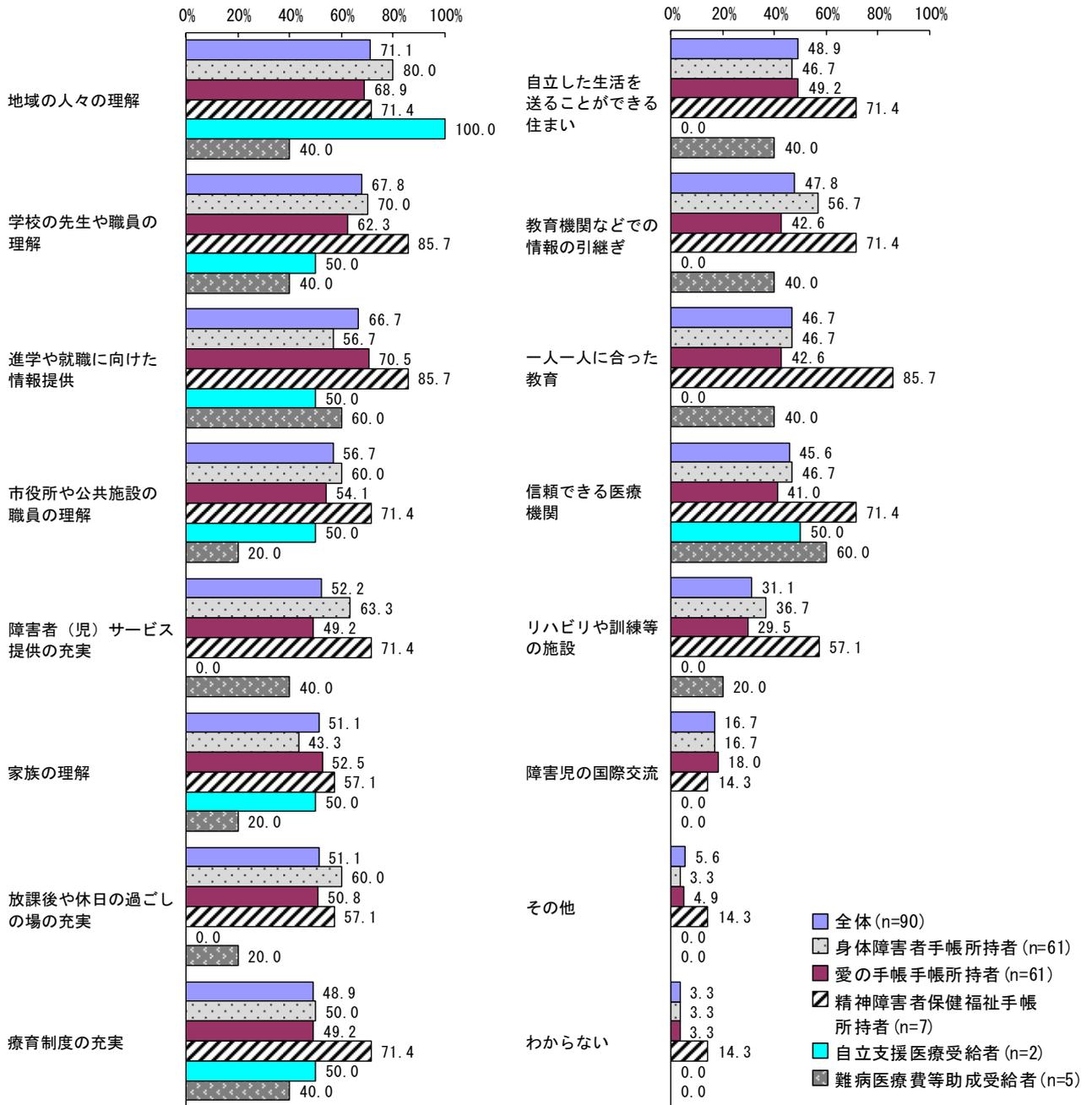
【年代別】



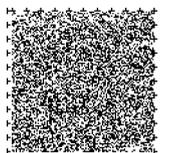
年代別に見ると、0歳から5歳まででは、「教育機関などでの情報の引継ぎ」、「進学や就職に向けた情報提供」、「信頼できる医療機関」が80.0%と最も高くなっています。6歳から11歳までと12歳から17歳まででは、「地域の人々の理解」が最も高くなっています。



【障害別】



障害別に見ると、身体障害者手帳所持者では、「地域の人々の理解」が 80.0%、愛の手帳所持者では、「進学や就職に向けた情報提供」が 70.5%と最も高くなっています。



11 自由回答

問 26 福祉の各種制度の問題点、障害者・児を取り巻く環境の改善等について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

御意見・ご要望（38件）

福祉課の職員ですら、制度の内容やできることの理解がきちんとできておらず、一つの手続きにも長時間が必要であることが多い。きちんと職員への理解を徹底してもらいたい。利用者が教えているようでは、受けられていないサービスが多いと思う、また、義務教育が終わった途端、放置状態なのはどうかしてもらいたい。

安心安全な生活が出来ること

武蔵村山に駅がなかったりバスの本数が少なかったりと交通に不便を感じるので通院する時に不便福祉サービス（放課後デイ等）免除によるサービス等は家族などが動いて、調べたり、聞いたりしない情報が入ってこない為その対象者に合った内容が事前に市から提供されると介助者も対象者も広く選べお互いにいい環境作りになると思う。

放課後等デイサービスが利用したくても、定員がいっぱいで他の市の利用を考えざるをえない。施設の充実を希望します。社会人障害者が余暇活動する場がとても少ないと聞きます。大人になっても毎日を楽しく過ごせるような場所が欲しいです。

だいぶ理解は進んできていると思います。今後は就職先やグループホームなど自立ができるような部分を充実させて欲しいです。

障害のある人の保護者が集まっていろいろ話しをしたりするつどいが、市であったりするのかもしれませんが、私は知る事ができていないのですが、知っている人はどこで知ることができているのでしょうか。大きく知らせたいはないのでしょうか。

武蔵村山市にも是非将来働く場所を作って下さい。障害者にも仕事が出来ようよろしくお願ひします。

人とうまく話すことができない事があるので、親がいなくなったときどうすればいいかわからない。

もっともっと障害児のための、そして障害児も一緒に参加できる習い事や施設があればいい。

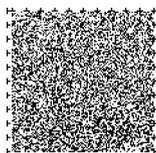
できれば幼少期から成人したあとまで長い期間で親、本人が相談できる専門員のような方がいると安心です。（幼少期からずっとが無理ならば成人したあとからでも）現在もいるのかもしれませんが利用できていないため。

いじめに対する学校の考え方・対応。親が亡くなった後の手続き・不安の気持ち、これからの生活。

関わって下さる方々に恵まれて、日々楽しくすごすことはできていますが、そのような場から外へ出ると、特に年配者の方から舌打ちされたり（バス等の乗降りで）することがまだまだあります。私達の方からも地域にもっとでていき、知ってもらうことが子供たちの将来のために必要なと考えますが、そのような場がもっとあるとよいなと思います。

道路、歩道の整備、車イスどころか人が歩くのも危険な所が多い。学校、卒後の進路についての情報が少ない。親が積極的に情報収集するだけでなく、市などから自立に向けての前例や事前準備等アドバイスがいただけるといいと思います。多くの障がい者、家族が将来に対して不安を抱えています。

障害者が将来自立できるように訓練を重ねて仕事が出来て生きいけるように職場を考えて下さい。よろしくお願ひします。



ダウン症候群を理由に、武蔵村山市の全ての幼稚園で入園を断られました。他の障害がある子供は幼稚園に入園できているのに、ダウン症候群だけで入園を断られる意味が分かりません。結局障害児に選べる選択肢は少ないのだと実感しました。幼稚園の受入れの整備、教職員の意識改革を要望します。

障害者手帳を得るかどうかが、発達に遅れがみられボーダーラインにいて悩んでいる親子がいたら、療育関係者や経験者、プロアマ混ぜて気楽に相談に応じるサロンのようなものがあつたら心強い。高齢者福祉のお互いさまサロンが障害福祉にもあれば良いと思う。障害者がイオンでインクル映画上映会（主催：NPO法人Lino）に月一度参加できるようになったが、同じようなことを、インクル音楽会と表してプロの演奏家によりさくらホールで開催されたら、ふつうの音楽会には気兼ねして行けない障害者（特に、急に騒ぐ自閉症児・者や車椅子の重度心身障害児・者）や健常の赤ちゃん連れの親子が参加できれば親も安心して音楽を楽しみ、外出するきっかけや知り合いを増やす良い機会になるのではないのでしょうか。

まずサービスの開示や案内が少ない。意見を言える環境が少ない。

支援級では、合理的配慮が受けられず、支援校へ行くように言われ、行事に参加させてもらえず学校をお休みにされるが、自己の理由によるお休みと書かれる。教育委員会に相談したが「そんな事もあるんじゃないですか？」と流される。

学校について、市内に自閉、情緒学級の中学がない事に疑問を感じます。専門の先生もいない様です。中学で（支援学級に在るのに）配慮に欠けた、対応にもあつたため。

武蔵村山市に（軽度知的障害の）特別支援学校を作してほしい。遠くまで通学が困難な人は遠くに行けないので困っています。市内に中学校の通級や支援学級を増やした方が良いと思います。1人1人の学習に合わせた学習をもっと、細かく指導してほしい。松陰の指導力を上げるようにしてほしい。

高校生になった時の医療費助成の充実（障害を持っていることで体調を崩してしまうことが多いのにあまり対応できるものがない気がする）元々持っている病気だけの助成ではまかなえないこともある。（風邪や歯医者などは無理）

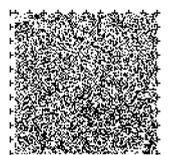
18才の手帳の更新をすんなりできるようにしていただきたい。ボーダーラインの子供はなかなかきびしいと聞きました。自立、障害者枠で就職するには手帳がないと困ります。この先の道がひらけません。手帳4度でも自立する為の年金、手帳の更新のあり方を、更新しやすく考えて頂きたいと思えます。

デイサービスや障害児が遊べる場所を増やしてほしい。

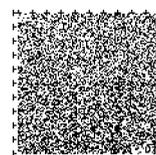
将来の生活の基盤の確立に不安を感じる。

市で開催されたペアレントトレーニングの講座に参加させて頂きました。親が勉強できる機会を作って下さり、本当に感謝しています。これから子供が成長するにつれ、新たな疑問や心配が出てくるかと思えます。又、そういったことを学べる、知ることができる講座がありましたら、有難いです。

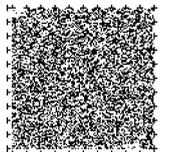
障害者・障害児という区切り自体が世間全体の課題だと思います。健常者が普通なのか、正しいのかという疑問でいっぱいです。私自身も子供に障害があることでこういった気持ちに気付かされましたが、人間である以上、生きていく上では皆、平等であるべきで、区切りを付ける制度や体制そのものが、差別等を生み出している根本だと思います。一人一人、個性があるのが当然であり、それを理解し、受け入れる教育と偏見を無くす事が大切ではないのでしょうか。親としても、本人としても「障害」とは思わないし、思いたくもないです。

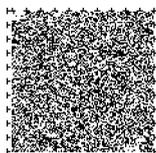


<p><母が記入します。>娘が「障害者」というくくりになってから4年ほど経ちます。最初、原因となった小学校の教員、並びに校長先生等の管理職の方々も、驚くほど他人事のような対応でした。私共が間違っただけを言っているのかと思うほどでした。問題等が発生した際、その場にとどめず、きちんと教育委員会等への対応をしていただきたいと思います。未来ある子供が、自分たちの不適切な対応により障害者となった事実をもっと重大なこととしてお認めになることからかと思えます。☆市民といたしましては、武蔵村山市は、障害者問題についてはとても理解ある市だと感じております。</p>
<p>知的障害児が通う高校がうちの場合羽村しかないので困っています。通える高校が遠すぎるし、通学方法を教えるのも一苦労だし心配です。通学の選択肢がない事もどうなんだろうと思えます。</p>
<p>植松被告のような思考は極論かもしれませんが世論として少なからずあるものと思われまます。</p>
<p>小学校難聴児童のための「きこえとことばの教室（第九小学校）」があるのに、中学校における支援（難聴学級）が市にありません。唯一、市外の生徒を受け入れは東久留米市のみです。中学生の為の「きこえとことばの教室」を設置していただけるようお願いいたします。</p>
<p>支援学級小・中市内で2校と少ない。支援学級、障がい児に対しての知識の少ない方が教師担任になり、援助が不十分と感ずることが多い。支援学級同士の連携、教育の仕方、関わり方がつながっていない。障がい者雇用・賃金の保障（将来一人で自立できる為）</p>
<p>特別支援学校卒業後の進路先が市内に少ないと思えます。医療ケア有りの場合、受け入れてくれる生活介護がなく、他の市の施設に通うこととなります。親は年々年を重ね送迎など難しくなります。市内に安心して暮らし続けていけるように卒業後の進路先の充実をお願いします。</p>
<p>中学へ進級しますが、普段は市内の中学へ難聴支援を受けるため週一回程、市外の東久留米市の中学校まで通うことになりました。とにかく、市内中学校で難聴学級を設立していただきたく願います。</p>
<p>手帳は取得出来ないが、健常児（者）より、支援が必要な子への対応。手帳を持っていれば、それなりの支援が受けられるが、健常児と障害児のあいだの子は親子共に頼る所もなく相談する所もなく、苦しい思いをしている。</p>
<p>介助しているのは私（母）だけなので、私が倒れたり、入院するような事があつたら、子供はどうなるのか心配です。預かってくれる人がいません。ショートステイも、予約制だと聞きました。</p>
<p>親が亡くなった時に、のこった子供が心配です。</p>
<p>医療ケアが必要の為の機械や物品の助成をもっとしてほしい。生きていく為に必要な事なのに、何かと聞かれたり出来ませんと言われる。もっと、身近かに感じて理解してほしい。</p>



◆ 調査票





しみんせいかつ はあく ちょうさひょう 市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票

ひごろ しせい うんえい りかい きょうりょく あつ れいもう
日頃から市政の運営にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

むさしむらやまし ほんし しょうがい ひと くらしをよりよいものとするをめざし、
「障害者計画」「障害福祉計画」「障害児福祉計画」を策定し、各種障害福祉施策を推進して
おります。

このたび、「武蔵村山市第四次障害者計画・第五期障害福祉計画・第一期障害児福祉計画」
を見直し、「武蔵村山市第五次障害者計画・第六期障害福祉計画・第二期障害児福祉計画」を策定
するための基礎となる資料として、福祉サービス等を利用している方を対象に1,000名を
無作為に抽出し、調査を実施いたします。

ご回答の内容につきましては、調査の目的にのみ活用し、個人のプライバシーが公表される
ことはありません。お手数をおかけいたしますが、この調査の趣旨をご理解いただきまして、ご
協力くださいますよう、お願い申し上げます。

れいわがんねん がつ
令和元年12月

むさしむらやましちょう ふうじの まさる
武蔵村山市長 藤野 勝

【ご記入に当たってのお願い】

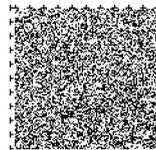
- この調査票には、お名前・ご住所の記入は必要ありません。
- お答えは、あてはまるものに○をつけてください。また、記述欄には、具体的にその内容をご記入ください。
- 設問にはできる限り宛名のご本人がお答えください。ご本人の記入が困難な場合は、ご家族などがご本人のお考えをお聴きのうえ、代理でご記入ください。
- 調査票は、黒ボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れて、1月10日（金）までにポストに投函してください。

◇調査についてのご質問などは、下記までお問い合わせください。

むさしむらやまし けんこうふくしぶ しょうがいふくしか
武蔵村山市 健康福祉部 障害福祉課

でん わ
電話：042-590-1185

FAX：042-562-3966



1 あなた（あて名の方ご本人）のことについて、おうかがいします。

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。（1つに〇）

1. ご本人が記入
2. 本人の意思を「代筆」で記入
3. 家族や介助者等が本人の意向を汲み取って代わりに記入

問2 あなたは、何歳ですか。（1つに〇）【令和元年12月1日現在】

- | | | | |
|--------|--------|-----------|-----------|
| 1. 10代 | 3. 30代 | 5. 50代 | 7. 65～69歳 |
| 2. 20代 | 4. 40代 | 6. 60～64歳 | 8. 70代以上 |

問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費等の助成を受けていたりしますか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|----------------|--------|
| 1. 身体障害者手帳 | } →問4へ |
| 2. 愛の手帳（療育手帳） | |
| 3. 精神障害者保健福祉手帳 | |
| 4. 自立支援医療の受給 | |
| 5. 難病医療費等助成の受給 | |

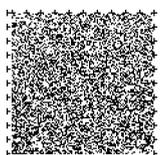
問4 は身体障害者手帳を所持している方にお伺いします。

問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1. 視覚 | 5. 内部障害（心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、 |
| 2. 聴覚・平衡機能 | ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能） |
| 3. 音声・言語・そしゃく機能 | 6. 免疫機能 |
| 4. 肢体不自由（上肢・下肢・体幹） | |

問5 障害者手帳や医療費等の助成を受けるまでにどのような問題がありましたか。（あてはまるものすべてに〇）

1. 制度を知らなかった
2. どこに相談していいかが分からなかった
3. 不便さは感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった
4. リハビリや療育を十分に受ける場や機会がなかった、または、知らなかった
5. 障害との関わり方を相談する機関がなかった
6. 障害を受容するまでに長い時間が必要だった
7. 特に問題はなかった
8. その他（ ）



問6 あなたは、介護保険制度の要支援・要介護認定を受けていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 要支援・要介護認定を受けている | 3. 要支援・要介護認定は受けていない |
| 2. 申請したが認定されなかった | |

2 あなたの生活についておうかがいします。

問7 あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|--------|---------|--------------|
| 1. 配偶者 | 3. 子ども | 5. 一人で暮らしている |
| 2. 両親 | 4. 兄弟姉妹 | 6. その他 () |

問8 あなたの世帯の主な収入源はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|----------|---------|---------|------------|
| 1. 給与・賃金 | 3. 財産収入 | 5. 福祉手当 | 7. 生活保護 |
| 2. 事業収入 | 4. 年金 | 6. 仕送り | 8. その他 () |

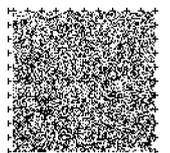
問9 あなたの現在のお住まい(生活の場)はどこですか。(1つに○)

病院に入院中の方は、入院する前のお住まいについてお答えください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 自分・家族の持ち家(一戸建て) |
| 2. 自分・家族の持ち家(マンションなどの集合住宅) |
| 3. 公営住宅(市営・都営・UR賃貸住宅など) |
| 4. グループホームなど |
| 5. 民間賃貸住宅(アパートやマンション、一戸建てなど) |
| 6. 社宅・公務員住宅・会社の寮 |
| 7. その他 () |

問10 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 教育や学習のこと | 10. 交通機関のこと |
| 2. リハビリのこと | 11. 住宅のこと |
| 3. 経済的なこと | 12. 必要な情報を得ること |
| 4. 家庭生活のこと | 13. 友だちや相談相手を持つこと |
| 5. 現在の援助(介助・支援)のこと | 14. 地域の理解を得ること |
| 6. 将来の援助(介助・支援)のこと | 15. 結婚のこと |
| 7. 就労のこと | 16. 子どものこと |
| 8. 趣味や生きがいを持つこと | 17. 社会参加のこと |
| 9. かかりつけの病院や歯科診療所がないこと | 18. その他 () |



問11 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---|
| 1. 家族や親族 | 9. 公的機関の職員(市、保健センター、保健所など) |
| 2. 友人、知人 | 10. 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど) |
| 3. 会社の人、学校の先生 | 11. 相談支援事業所(障害のある人の相談受付、障害福祉サービスの利用計画作成等を行う事業所) |
| 4. 同じ病気や障害のある仲間 | 12. 相談するところがない |
| 5. ボランティア・NPOの職員 | 13. 相談するところがない |
| 6. 福祉施設や作業所の職員 | 14. その他() |
| 7. 民生委員・児童委員 | |
| 8. 社会福祉協議会 | |

3 健康・医療・リハビリテーションについておうかがいします。

問12 あなたは、普段の生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器等の医療的ケアが必要ですか。(1つに○)

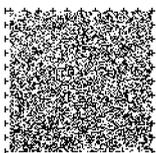
- | | |
|----------|-----------|
| 1. 必要である | 2. 必要ではない |
|----------|-----------|

問13 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 自宅で往診や訪問看護を受けている | 4. 入院している |
| 2. 時々通院している | 5. 治療は受けていない |
| 3. 定期的に通院している | |

問14 健康管理や医療について困ったり不便に思ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1. 近所に診てくれる医師がない | 8. 障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない |
| 2. 専門的な治療を行っている医療機関が身近にない | 9. 受診手続や案内など障害者への配慮が不十分 |
| 3. 通院する時に付添いをしてくれる人がいない | 10. 医療費の負担が大きい |
| 4. 診療をことわられる | 11. 入院のとき付添いや個室を強いられる |
| 5. 気軽に往診を頼める医師がない | 12. その他() |
| 6. 歯科診療を受けられない | 13. 特に困ったことはない |
| 7. 定期的に健康診断を受けられない | |



4 介助の状況についておうかがいします。

問15 くだん、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 同居している家族・親族 | 4. その他 () |
| 2. 同居していない家族・親族 | 5. 介助や支援は受けていない |
| 3. 施設の職員 | |

問16 主な介助者(支援者)が介助(支援)できないときはどうしますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 同居している他の家族・親族に頼む | 5. 施設や病院などに依頼する |
| 2. 別居している他の家族・親族に頼む | 6. 一人でなんとかする |
| 3. 近所の人や知人に頼む | 7. その他 () |
| 4. ホームヘルパーに依頼する | |

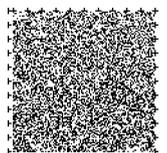
問17 あなたを介助(支援)している人が、あなたを介助(支援)する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 体力的に心配がある | 5. サービス等の情報が不十分だ |
| 2. 休みが十分に取れない | 6. 介助(支援)する代わりの人がいない |
| 3. あなたとの意思疎通が十分でない | 7. その他 () |
| 4. 困りごとやサービスのことを相談できる人がいない | 8. 特に困ったことはない |

5 日中の過ごし方についておうかがいします。

問18 あなたは、平日の昼間は、主にどこで(何を)して過ごしていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| 1. 学校に通っている(大学や専門学校等) | →問22へ |
| 2. 働いている(福祉的就労の場も含む) | →問19～問20へ |
| 3. 施設等で、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている | →問21へ |
| 4. 日中一時支援・地域活動支援センターを利用している | →問21へ |
| 5. 施設に入所している | } →問22へ |
| 6. 病院に入院している | |
| 7. 主に自宅にいる(働いていない) | |
| 8. その他 () | |



問18で「2. 働いている（福祉的就労の場も含む）」と答えた方におうかがいします。

問19 あなたは、どのような働き方をしていますか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|---------------------|-----------|
| 1. 正社員等 | 4. 家業（自営業）の手伝い | 7. その他（ ） |
| 2. 自営業 | 5. 内職 | |
| 3. パート・アルバイト | 6. 就労移行・就労継続・授産施設など | |

問18で「2. 働いている（福祉的就労の場も含む）」と答えた方におうかがいします。

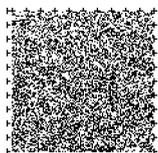
問20 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 通勤が大変 | 6. 職場の中の環境が整っていない |
| 2. 収入が少ない | 7. 職場の中で介助者を見つけにくい |
| 3. 仕事がつい | 8. コミュニケーションがとれない |
| 4. 仕事が合わない | 9. 体調管理が難しい |
| 5. 職場の人間関係 | 10. その他（ ） |

問18で「3. 施設等で、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている」「4. 日中一時支援・地域活動支援センターを利用している」と答えた方におうかがいします。

問21 支援を受ける上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 通うのが大変 | 6. 訓練する環境が整っていない |
| 2. 収入が少ない | 7. 訓練先での介助者を見つけにくい |
| 3. 訓練がつい | 8. コミュニケーションがとれない |
| 4. 訓練の内容が合わない | 9. 体調管理が難しい |
| 5. 訓練先の人間関係 | 10. その他（ ） |



6 将来の過ごし方についておうかがいします。

問22 あなたは、将来（おおよそ5年後）どこで暮らしたいですか。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 家族と一緒に暮らしたい | 5. 入所施設で暮らしたい |
| 2. 一人で暮らしたい | 6. その他（ ） |
| 3. 友人や仲間と一緒に暮らしたい | 7. わからない |
| 4. グループホームなどで暮らしたい | |

問23 問22を実現させるためにどのようなことが課題と感じますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 住む場所がない | 6. コミュニケーションがとれない |
| 2. 働ける場所がない | 7. 体調管理が難しい |
| 3. 仕事を得ても続かない | 8. その他（ ） |
| 4. 賃金等が十分でない | 9. わからない |
| 5. 面倒を見てくれる人が衰える | 10. 特にない |

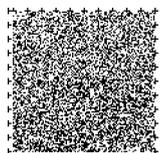
問24 障害者の就業を促進するために、どのようなことが必要と思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|--------------|----------------|--------------|
| 1. 経営者の理解 | 5. 福祉的就労の場の増設 | 9. ジョブコーチの充実 |
| 2. 従業員の理解 | 6. 職業あっせん窓口の充実 | 10. その他（ ） |
| 3. 行政の民間企業指導 | 7. 職業相談窓口の充実 | 11. 特にない |
| 4. 職業訓練施設の増設 | 8. 民間企業の雇用努力 | |

7 外出や活動などについておうかがいします。

問25 あなたの外出する回数は、およそどのくらいですか。職場や学校への通勤・通学、病院への通院も回数に数えてください。（1つに○）

- | | | |
|----------|----------|---------------|
| 1. ほぼ毎日 | 3. 週1～2回 | 5. 年に数回 |
| 2. 週3～5回 | 4. 月1～3回 | 6. 外出しない・できない |

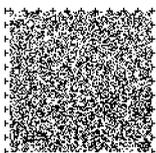


問26 外出する時に、不便に感じることや困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害者用トイレが少ない
2. 道路や建物・駅に階段や段差が多い
3. バスや電車の乗り降りが困難
4. 歩道が整備されていない(具体的な場所:)
5. 障害者用の駐車スペースが少ない(具体的な場所:)
6. バスや電車内で運行状況の案内表示がない
7. 通路上に自転車や看板などの障害物があって通りにくい
8. 点字ブロックや盲人用信号が不十分である
9. 建物や施設の出入口に視覚障害者用の盲導鈴や音声ガイドシステムが少ない
10. 低い操作盤や手すり・鏡のついた福祉対応のエレベーターが少ない
11. 建物の出入口が狭かったり、開けにくい
12. 公衆FAXや障害者用電話が少ない
13. 外出に費用がかかりすぎる
14. 付き添ってくれる人がいない
15. 自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることが難しい
16. (車イスなどの)福祉タクシーが利用しにくい
17. その他()
18. 特に困ることはない
19. ほとんど外出しないのでわからない

問27 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 施設や設備が障害者に配慮されていない
2. 障害者が参加できる講座・イベント等が少ない
3. 障害のない大勢の人たちの中に入っていきの気が引ける
4. 介助者がいない、介助者に気をつかう
5. 一緒に参加する友人、仲間がいない
6. 活動のための情報が少ない
7. 忙しくて時間がない
8. 経済的余裕がない
9. その他()
10. 興味がないので参加しない
11. 特にない



8 コミュニティ（地域）についておうかがいします。

問28 あなたは、近所や地域のひととの程度のつきあい方をしていますか。（1つに○）

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 親しくつきあっている | 4. ほとんどつきあっていない |
| 2. 相手が自分を理解してくれる人とはつきあっている | 5. その他（ ） |
| 3. 自分からあいさつする | |

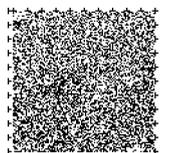
問29 あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流が

あったらいいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 簡単な身の回りの世話をする | 5. 世間話をして一緒に過ごす |
| 2. 外出時に付き添う | 6. 地域の行事やイベントと一緒に参加する |
| 3. 普段から定期的に声かけなどをする（見守る） | 7. 趣味やスポーツ活動を一緒にする |
| 4. 相談相手になる | 8. その他（ ） |

問30 障害者と障害のない人がお互いに理解しあい、共に生きる社会をつくっていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

- | |
|----------------------------------|
| 1. 障害者と障害のない人が交流する機会を設ける |
| 2. 障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる |
| 3. 学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる |
| 4. 障害児と障害のない子どもの交流教育を充実させる |
| 5. 障害者へのボランティア活動を充実させる |
| 6. 障害者がさまざまな活動に参加できるように周りの人が協力する |
| 7. 障害者が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える |
| 8. その他（ ） |



9 ぼうさいたいさく
防災対策についておうかがいします

問31 あなたが地震など災害時に困ることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1. 避難場所を知らない | 5. 避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安 |
| 2. 避難場所まで行けない(坂や段差がある、避難場所が遠いなど) | 6. 他人と一緒に避難所にいられない |
| 3. 緊急時の介助者がいない | 7. 避難所の設備(トイレ等)について不安 |
| 4. 緊急時に情報を得る手段がない | 8. その他() |
| | 9. 特に困ることはない |

問32 あなたは、避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供に同意をしていますか。(1つに○)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 同意している | 3. 同意したいと思わない |
| 2. 同意していないが、今後、同意したい | 4. わからない |

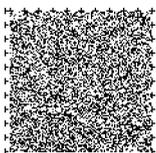
10 しょうがいしゃ けんりようご
障害者の権利擁護についておうかがいします。

問33 成年後見制度について、どの程度知っていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 利用している(いた)ので、内容も知っている | 3. 聞いたことはあるが、あまりよく知らない |
| 2. 利用したことがないが、制度の内容は知っている | 4. 全く知らない |

問34 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 病院等で診察を断られた |
| 2. バス、電車、タクシー等の乗車拒否にあった |
| 3. 家を借りる時に不動産業者や家主に断られた |
| 4. ホテル、公衆浴場、飲食店等を利用することを断られた |
| 5. 障害を理由とした不採用や解雇があった |
| 6. 相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした |
| 7. 学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた |
| 8. ホームヘルパーやガイドヘルパー等の対応で、不愉快な思いをした |
| 9. 入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で、不愉快な思いをした |
| 10. バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした |
| 11. 近所の人達の対応で、不愉快な思いをした |
| 12. その他() |
| 13. 特にない |



問35 日常生活において、あなたの障害について理解や配慮があり、よかったと感じたことはありますか。

1. ある

2. あまりない

具体的に

3. ない

問36 あなたは、これまでに虐待や不適切な行為をされたことがありますか。(1つに○)

1. されたことがある

} →問37へ

3. されたことはない

} →問39へ

2. されたかもしれない

4. わからない

問36で「1. されたことがある」「2. されたかもしれない」と答えた方におうかがいします。

問37 虐待や不適切な行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(どちらかに○)

1. 相談した →問39へ

2. 相談しなかった →問38へ

問37で「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問38 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 誰も相談する人がいなかったから

2. どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから

3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから

4. 相談しても無駄だと思ったから

5. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから

6. 相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすと思ったから

7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから

8. 世間体が悪いから

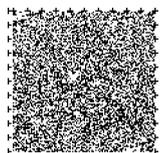
9. 他人を巻き込みたくなかったから

10. そのことについて思い出したくなかったから

11. 自分にも悪いところがあると思ったから

12. 相談するほどのことでもないと思ったから

13. その他(具体的に:)



11 情報提供や普段の相談についておうかがいします。

問39 福祉に関する情報は、どこから得ますか。(あてはまるものすべてに○)

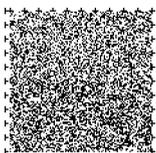
- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 都や市の広報・ホームページやガイドブック | 8. 障害福祉サービス事業所 |
| 2. 新聞・雑誌 | 9. 学校の先生・職場の同僚 |
| 3. テレビ・ラジオ | 10. 病院など医療機関 |
| 4. インターネット(パソコン、携帯電話) | 11. 障害者団体・家族会などの会員 |
| 5. 家族や友人 | 12. 障害者相談支援事業所 |
| 6. 市役所・保健所・児童相談所 | 13. ハローワーク |
| 7. 社会福祉協議会 | 14. その他() |

問40 福祉サービスを利用するときに何か困ること(困ったこと)がありますか。(主なもの2つまで○)

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1. 使いたいサービスが使えなかった | 7. どんなサービスがあるのか知らない |
| 2. サービスの支給量が少ない、支給期間が短い | 8. 事業者情報が不十分 |
| 3. どの事業者が良いかわからない | 9. その他() |
| 4. 契約の方法がわからなかった(わかりにくかった) | 10. わからない |
| 5. 利用してトラブルがあった | 11. 特に困ったことはない |
| 6. 費用負担があるため、サービスが使いづらい | |

問41 次のような立場の人たちが市からの情報を受け取ることに、あなたはどのように感じますか。(それぞれ1つに○)

	十分受け取れている	まあ受け取れている	あまり受け取れていない	全く受け取れていない	わからない
① 視覚障害者 (点字や音声テープなど)	1	2	3	4	5
② 聴覚障害者 (手話や要約筆記など)	1	2	3	4	5
③ 知的障害者 (大きな文字やルビなど)	1	2	3	4	5
④ 高齢者 (大きな文字など)	1	2	3	4	5



問42 相談事業を充実するために（相談したときに満足できるよう）特にどのようなことをすればいいと思いますか。（3つまで○）

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1. 相談員のスキルアップ研修を行う | 6. 夜間や休日なども相談できる窓口を整備する |
| 2. 専門性のある相談員を配置する | 7. 相談員が自宅などに来てくれる訪問相談を行う |
| 3. 気軽に相談できる窓口の数を増やす | 8. 障害者による相談対応（ピアカウンセリング）を充実する |
| 4. 専門的な相談機関を整備する | 9. その他（ ） |
| 5. 1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する | |

12 障害者施策全般についておうかがいします。

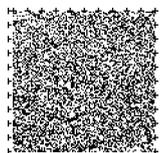
問43 武蔵村山市の福祉サービス全般について、満足していますか。（1つに○）

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1. 満足している | 3. どちらともいえない | 5. 満足していない |
| 2. 少し満足している | 4. あまり満足していない | |

問44 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 家族の理解 | 9. 放課後や休日の過ごしの際の充実 |
| 2. 地域の人々の理解 | 10. 進学や就職に向けた情報提供 |
| 3. 市役所や公共施設の職員の理解 | 11. 信頼できる医療機関 |
| 4. 学校の先生や職員の理解 | 12. リハビリや訓練等の施設 |
| 5. 療育制度の充実 | 13. 自立した生活を送ることができる住まい |
| 6. 一人一人に合った教育 | 14. その他（ ） |
| 7. 教育機関などでの情報の引継ぎ | 15. わからない |
| 8. 障害者（児）サービス提供の充実 | 16. 特にない |

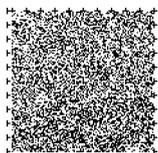


問45 今後どのようなことを特にしていく必要があると思われるか。(あてはまるものすべてに○)

1. 在宅福祉サービスの充実(ホームヘルプ、入浴、外出支援等)
2. 在宅の給食サービスの実施(食事を家庭まで届ける)
3. 入所施設の整備
4. 通所施設の整備
5. 保健医療サービスの充実(健診、専門的な機能回復訓練、訪問指導等)
6. 住宅の整備・改造のための支援
7. 地域で生活できる住宅の整備(グループホーム等)
8. 暮らしやすいまちづくり(道路の段差解消、点字ブロックの整備、案内表示等)
9. 療育・保育・教育の質の向上
10. 働く機会の充実(職業訓練の実施、働く場の確保等)
11. 一般企業以外での就労の場(就労継続支援事業所等)
12. 地域での活動や余暇活動への参加のためのしくみづくり
13. 相談体制の充実(生活相談、療育相談、職業相談等)
14. 経済的な援助の充実(医療費の補助、手当・年金の拡充等)
15. 情報通信分野の充実(情報ネットワークの構築、公衆FAX等)
16. 障害者についての地域の人の理解を深めるための活動(福祉教育等)
17. ボランティアの育成
18. 災害時における避難誘導體制の確立
19. 障害者の国際交流
20. 障害者団体の自立的活動に対する行政の支援
21. その他()
22. 特にない

問46 福祉の各種制度の問題点、障害者・児を取り巻く環境の改善等について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

以上で、調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。



しみんせいかつ はあく ちょうさひょう
市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票
さいみまん かた
(18歳未満の方)

ひごろ しせい うんえい りかい きょうりょく あつ れいもう
日頃から市政の運営にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。
むさしむらやまし しょうがい ひと く よ けいかく
武蔵村山市では、障害のある人の暮らしをより良いものとするをめざした計画をつくり、
さまざまなしょうがい ひとむ じぎょう すず
さまざまな障害のある人向けの事業などを進めています。

このたび、市の計画である「武蔵村山市第四次障害者計画・第五期障害福祉計画・第一期
しょうがいふくしゅうけいかく みなお あたら けいかく だいきしょうがいふくしゅうけいかく だいいき
障害児福祉計画」を見直し、新しい計画をつくることになりました。市内で暮らしているしょうがい
のある人のご意見をたくさんいただき、それを計画に生かすため、市内で障害者手帳をお持ち
の18さいみまん かた おこな
の18歳未満の方などにアンケートを行うことになりました。

お答えいただいた内容は、アンケートの目的にのみ使い、個人のプライバシーが公表される
ことはありません。お手数をおかけいたしますが、このアンケートにご協力くださいますよう、
ねが もら
お願い申しあげます。

れいわがねん がつ
令和元年12月

むさしむらやましちょう ふじの まさる
武蔵村山市長 藤野 勝

【ご記入に当たってのお願い】

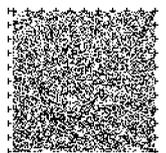
- このアンケート用紙には、お名前・ご住所を書く必要はありません。
- お答えは、あてはまるものに○をつけてください。また、大きな口（しかく）で
かこ しろ ぐたいてき ないよう きにゆう
囲われた白いところには、具体的にその内容をご記入ください。
- 質問にはできる限り郵便のあて名になっているご本人がお答えください。ただ
し、ご本人のねんれい ちい か ほんにん ほんにん こと
し、ご本人の年齢が小さいなどにより、書くことがむずかしい場合は、ご家族な
どがご本人のお考えをお聴きのうえ、代理でご記入ください。
- アンケート用紙には、黒ボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- お書きいただきましたアンケート用紙は、お送りした封筒と一緒に入っていた
へんしんよう ふうとう い がつ にち とうかん
返信用の封筒に入れて、1月10日（金）までにポストに投函してく
ださい。切手はいりません。

◇このアンケートについてのご質問などは、次のところまでお問い合わせください。

むさしむらやまし けんこうふくしゅう しょうがいふくしゅう
武蔵村山市 健康福祉部 障害福祉課

でん わ
電話：042-590-1185

FAX：042-562-3966



1 あなた（あて名の方ご本人）のことに、おうかがいします。

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。（1つに○）

1. あなた（あて名の方） 2. あなた（あて名の方）以外の方

問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。（1つに○）【令和元年12月1日現在】

1. 小学校に通う前（0～5歳） 3. 中学生以上（12～17歳）
2. 小学生（6～11歳）

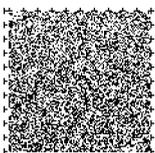
問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費等の助成を受けていたりしますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 身体障害者手帳 →問4へ
2. 愛の手帳（療育手帳）
3. 精神障害者保健福祉手帳
4. 自立支援医療の受給
5. 難病医療費等助成の受給 →問5へ

問4 は身体障害者手帳を所持している方にお伺いします。

問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 視覚 5. 内部障害（心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、
2. 聴覚・平衡機能 ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能）
3. 音声・言語・そしゃく機能 6. 免疫機能
4. 肢体不自由（上肢・下肢・体幹）



2 あなたの生活についておうかがいします。

問5 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

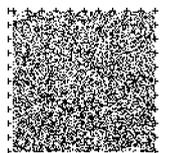
- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1. 学校のこと(保育園や幼稚園、
認定こども園も含む) | 8. 進路や就職のこと |
| 2. 経済的なこと | 9. 家に帰ってからや日曜などの暇なときの過ごし方 |
| 3. 健康や医療のこと | 10. 親が亡くなった後の過ごし方 |
| 4. 家族のこと | 11. 思うように意思疎通ができないこと |
| 5. 困ったときの相談先がないこと | 12. いやがらせなどを受けること |
| 6. 近所付き合いのこと | 13. その他() |
| 7. 施設やサービスのこと | 14. 特にない |

問6 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------------------------------|
| 1. 家族や親族 | 8. 民生委員・児童委員 |
| 2. 友人、知人 | 9. 社会福祉協議会の人 |
| 3. 学校の先生や保育所・幼稚園の先生 | 10. 医師や、看護師、リハビリや訓練を受けるところ
のスタッフ |
| 4. ボランティアの人 | 11. 東京都心身障害者福祉センターの人 |
| 5. 市役所や保健センター、保健所の人 | 12. 相談するところがわからない |
| 6. 子ども家庭支援センターの人 | 13. その他() |
| 7. 児童相談所の人 | |

問7 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 施設や設備が障害者に配慮されていない
2. 障害者が参加できる講座・イベント等が少ない
3. 障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける
4. 介助者がいない、介助者に気をつかう
5. 一緒に参加する友人、仲間がいない
6. 活動のための情報が少ない
7. 忙しくて時間がない
8. 経済的余裕がない
9. その他()
10. 興味がないので参加しない
11. 特にない



3 健康・医療・リハビリテーションについておうかがいします。

問8 あなたは、ふだんの生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器等の医療的ケアが必要ですか。(1つに○)

1. 必要である 2. 必要ではない

問9 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

1. 自分の家に往診に来てもらっている 4. 入院している
2. 時々通院している 5. 治療を受けていない
3. 定期的に通院している

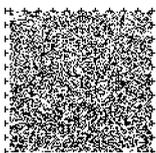
問10 病院にかかるときに、困ったり不便に思ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 近所に診てくれる病院がない
2. 専門的な治療を行っている病院が近くにない
3. 通院する時につきそってくれる人がいない
4. 病院に行っても、ことわられる
5. 気軽に家に診に来てくれる医師がいない
6. 治療を引き受けてくれる歯科医師が近くにいない
7. 障害があることで医師に症状が正確に伝えられない
8. 病院にかかる受診手続や案内など障害者への配慮が不十分
9. 病院にかかるお金の負担が大きい
10. 入院するときに、つきそいや個室を強いられる
11. その他()
12. 特に困ったことはない

4 介助の状況についておうかがいします。

問11 現在、あなたは介助(支援)が必要ですか。(1つに○)

1. すべてにわたって必要 →問12へ 2. 一部必要 →問12へ 3. 必要ない →問14へ



問11で「1. すべてにわたって必要」「2. 一部必要」と答えた方におうかがいします。

問12 あなたの介助（支援）をおもにしているのはどなたですか。（1つに○）

1. 親	→問13へ	5. ホームヘルパー	→問14へ
2. 兄弟姉妹やその配偶者		6. 友人・知人・近所の人	
3. 祖父母		7. 施設・病院の職員	
4. その他の親族		8. ボランティア	
		9. その他（ ）	

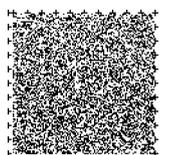
問12で「1」～「4」と答えた方におうかがいします。

問13 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

1. 一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む	5. 施設や病院などに依頼する
2. 他の家に住む家族・親族に頼む	6. 一人でなんとかする
3. 近所の人や知人に頼む	7. その他（ ）
4. ホームヘルパーに依頼する	

問14 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. 体力的に心配がある	5. サービス等の情報が不十分だ
2. 休みが十分に取れない	6. 介助（支援）する代わりの人がいない
3. あなたとの意思疎通が十分でない	7. その他（ ）
4. 困りごとやサービスのことを相談できる人がいない	8. 特に困ったことはない



5 日中の過ごし方についておうかがいします。

問15 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（何を）過ごしていますか。（1つに○）

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. 学校に通っている（保育園や幼稚園、認定こども園を含む） | } →問16へ
→問17へ |
| 2. 施設に入所している | |
| 3. 病院に入院している | |
| 4. 主に自宅にいる | |
| 5. 就学前年齢のため自宅にいる | |
| 6. その他（) | |

問15で「1. 学校に通っている」と答えた方におうかがいします。

問16 あなたは、通園や通学で困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 通うのが大変 | 5. まわりの人たちの理解や配慮の不足 |
| 2. トイレや階段などの施設が利用しにくい | 6. 人間関係がうまくいかない |
| 3. 介助・支援体制が不十分 | 7. その他（) |
| 4. 学校など受け入れ側の理解や配慮の不足 | 8. 特にない |

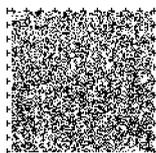
6 将来の過ごし方についておうかがいします。

問17 おとなになったらどのように暮らしたいですか。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 家族と一緒に暮らしたい | 5. 入所施設で暮らしたい |
| 2. 一人で暮らしたい | 6. その他（) |
| 3. 友人や仲間と一緒に暮らしたい | 7. わからない |
| 4. グループホームなどで暮らしたい | |

問18 問17のように暮らすためにどのようなことが課題と感じますか。（あてはまるものすべてに○）

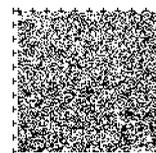
- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 住む場所がない | 6. コミュニケーションがとれない |
| 2. 働ける場所がない | 7. 体調管理が難しい |
| 3. 仕事を得ても続かない | 8. その他（) |
| 4. 賃金等が十分でない | 9. わからない |
| 5. 面倒を見てくれる人が衰える | 10. 特にない |



7 外出や活動などについておうかがいします。

問19 外出する時に、不便に感じることや困っていることはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害者用トイレが少ない
2. 道路や建物・駅に階段や段差が多い
3. バスや電車の乗り降りが困難
4. 歩道が整備されていない(具体的な場所:)
5. 障害者用の駐車スペースが少ない(具体的な場所:)
6. バスや電車内で運行状況の案内表示がない
7. 通路上に自転車や看板などの障害物があって通りにくい
8. 点字ブロックや盲人用信号が不十分である
9. 建物や施設の出入口に視覚障害者用の盲導鈴や音声ガイドシステムが少ない
10. 低い操作盤や手すり・鏡のついた福祉対応のエレベーターが少ない
11. 建物の出入口が狭かったり、開けにくい
12. 公衆FAXや障害者用電話が少ない
13. 外出に費用がかかりすぎる
14. 付き添ってくれる人がいない
15. 自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい
16. (車イスなどの)福祉タクシーが利用しにくい
17. その他()
18. 特に困ることはない
19. ほとんど外出しないのでわからない



8 ぼうさいたいさく
8 防災対策についておうかがいします

問20 あなたが地震など災害時に困ることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 避難場所を知らない
2. 避難場所まで行けない(坂や段差がある、避難場所が遠いなど)
3. 緊急時の介助者がいない
4. 近所に頼れる人がいない
5. 緊急時に情報を得る手段がない
6. 避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安
7. 他人と一緒に避難所にいられない
8. 避難所の設備(トイレ等)について不安
9. その他()
10. 特に困ることはない

9 しょうがいしゃ けんりようご
9 障害者の権利擁護についておうかがいします。

問21 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 病院での対応 | 6. ホームヘルパーやガイドヘルパー等の対応 |
| 2. バス、電車、タクシーでの対応 | 7. 施設の職員や他の利用者の対応 |
| 3. ホテル、公衆浴場、飲食店での対応 | 8. 近所の人達の対応 |
| 4. 相談機関・相談窓口での対応 | 9. その他() |
| 5. 学校での対応 | 10. 特にない |

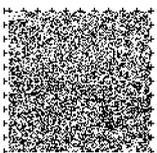
問22 あなたは、これまでに虐待や不適切な行為をされたことがありますか。(1つに○)

- | | | | |
|--------------|----------|-------------|----------|
| 1. されたことがある | } →問23 へ | 3. されたことはない | } →問25 へ |
| 2. されたかもしれない | | 4. わからない | |

問22 で「1. されたことがある」「2. されたかもしれない」と答えた方におうかがいします。

問23 虐待や不適切な行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(どちらかに○)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 相談した →問25 へ | 2. 相談しなかった →問24 へ |
|----------------|-------------------|



問23 で「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問24 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

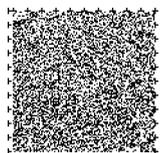
1. 誰も相談する人がいなかったから
2. どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから
3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
4. 相談しても無駄だと思ったから
5. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
6. 相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすと思うたから
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. そのことについて思い出さなくなかったから
11. 自分にも悪いところがあると思ったから
12. 相談するほどのことでもないと思ったから
13. その他(具体的に：)

10 障害者施策全般についておうかがいします。

問25 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要と思いますか。

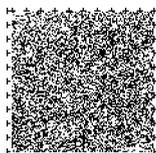
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 家族の理解 | 10. 進学や就職に向けた情報提供 |
| 2. 地域の人の理解 | 11. 信頼できる医療機関 |
| 3. 市役所や公共施設の職員の理解 | 12. リハビリや訓練等の施設 |
| 4. 学校の先生や職員の理解 | 13. 自立した生活を送ることができる住まい |
| 5. 療育制度の充実 | 14. 障害児の国際交流 |
| 6. 一人一人に合った教育 | 15. その他() |
| 7. 教育機関などでの情報の引継ぎ | 16. わからない |
| 8. 障害者(児)サービス提供の充実 | 17. 特にない |
| 9. 放課後や休日の過ごし場の充実 | |



とい
問26 福祉の各種制度の問題点、障害者・児を取り巻く環境の改善等について、ご意見・ご要望が
ありましたら、自由にお書きください。

いじょう、ちょうさ お
以上で、調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。



**武蔵村山市第五次障害者計画・第六期障害福祉計画
・第二期障害児福祉計画策定のための
市民意識調査報告書**

令和2年3月

発行：武蔵村山市
編集：健康福祉部障害福祉課

〒208-8502 武蔵村山市学園四丁目5番地の1
武蔵村山市民総合センター内
TEL：042(590)1185 FAX：042(562)3966

